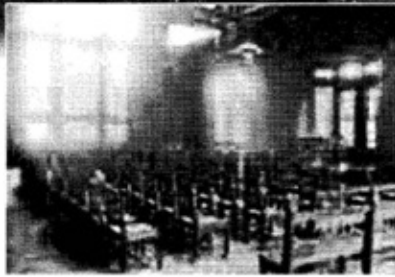


HAIL OUR GLEE CLUB

同志社グリークラブ創立二〇〇周年記念誌

GleeClub

*Byron Stone Clarke
Memorial Hall*



Doshisha College Song

One purpose, Doshisha, thy name
Doth signify one lofty aim
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide !

Still broader than our land of birth,
We've learned the oneness of our Earth;
Still higher than self-love we find
The love and service of mankind.
Dear Alma Mater, sons of thine
would strive to live the life divine;
That we may with increasing years have stood
For God, for Doshisha, and Brotherhood !

クラーク記念館(明治27(1894)年1月開館)

明治26年末、キャンパス西端の影栄館に向き合うかたちでエキゾチックな景観を現出した「クラーク記念館」。

新島襄の永眠を悼む「同志社アルムニ会」は、新島の葬儀の翌日、明治23年1月28日に「校友会綱領」を制定、組織を整えて名称を「校友会」と改め、記念講堂を建てようと、ただちに募金活動に着手した。

しかし、当時の校友会は、まだ150名にも満たず、みな若年でもあり、はかばかしい成果をあげられなかった。そうした校友会の挙を知ったニューヨーク州のB・W・クラーク夫妻が、天逝した子息Byron Stone Clarkeの記念館を建ててほしいと、明治24年夏、寄付を申し出られ、悲願のひとつが実現することになった。

設計は、東京の官庁街の設計に携わっていたドイツ人設計技師リヒャルト・ゼール。施工は京都の棟梁小嶋佐兵衛。26年4月に上棟式が挙げられ翌27年1月30日に開館式が行われた。

建坪120坪、延床面積242坪のドイツ風ネオ・ゴシックを基調とするこの建物は、重厚感に満ち、まとまりのよいプロポーションを見せている。特に、蒼穹を突いてそそりたつ尖塔は極めて印象的である。昭和54年には、重要文化財の指定を受けている。

この“Byron Stone Clarke Memorial Hall”は、現神学館が昭和38年に竣工するまで、「クラーク神学館」と称され、神学教育・研究の中心施設となっていた。

写真は明治30年頃に撮影されたもの。

「同志社グリークラブ創部100周年を記念して」

同志社グリークラブが、創部100周年をお迎えになりましたことを心からお慶び申し上げます。ご案内のとおり、宗教音楽による人格形成を目指して結成された同志社グリークラブは、輝かしい歴史と伝統を有する同志社大学屈指の名門クラブであり、今や日本を代表する男声合唱団として、演奏会や東西四大学ジョイントコンサートを定期的に開催し、さらには、アメリカをはじめ、ヨーロッパ、アジアなど精力的に世界各国に赴く演奏旅行を実施するなどの活発な演奏活動を行っています。また、日本合唱コンクールで何度も優勝を果たすなど、その活動と業績は賞賛に値するものであり、まさに、同志社大学の誇りであると敬服し、あらためて、敬意を表する次第であります。

同志社グリークラブは、その100年の歴史の中で、唱歌「椰子の実」の作曲者として著名な故大中寅二氏をはじめ、1000人を超える多くの有意なOBを輩出してこられました。そして故片桐哲先生の米寿の祝を機に組織されたグリークラブOB会が、グリークラブと現役学生に対して深い愛情を注ぎ、学生諸君を物心両面にわたって支えるという良き伝統が受け継がれ、さらには、OBと現役学生の共演もしばしば行われることで、グリーンメンの絆を深めておられます。

この精神は脈々と受け継がれ、学内の様々な式典や催して献身的にその歌声を聞かせてくれます。もはや彼らが存在しない入学式や卒業式は考えられないほど重要なものとなっています。

私が最も印象深く記憶していることは、総長に就任いたしました2001年の9月に実施されたアメリカ北東部への演奏旅行であります。この演奏旅行は同志社の創立者新島襄の大恩人であるハーディー夫妻を讃えるとともに、アーモスト大学やグレース教会などの新島ゆかりの地を訪ねることを目的として企画されたものであり、同志社にとって誠に意義深いものでありましたし、さらに、あの忌まわしき同時多発テロの最中に行われたものであったために鮮明に記憶しているのでしょう。彼らは安全確保を最優先しつつも、演奏旅行を予定通り行う決断をいたしました。彼らの勇気に満ちた選択と祈りを込めた歌声は、深い悲しみにつつまれたアメリカの友人たちの心に深く刻まれたことでしょう。危険な状況にもかかわらず、多くの人々のご理解とご協力を得て、この事業を完遂された彼らに心からの感動と敬意の気持ちで満たされたことを昨日のように思い出します。

1875年に創立者新島襄によって設立された同志社は、来年130周年の記念の年を迎えようとしています。同志社は今まさに躍進を続け、さらなる高みに飛躍しようとしています。同志社のキャンパスにいつもグリーの歌声があったように、これからも、変わる事のない友愛に満ちたGleeful moodをかもし出し、同志社の将来を、グリーの歌声が彩り続けてくれることを心からお願い申し上げます。



同志社総長

大谷 實

新島精神の継承



同志社大学長
八田 英二

この度、同志社グリークラブが、創部100周年を迎えられますことを心からお慶び申し上げます。

同志社グリークラブは、宗教音楽による人格形成を目指して1904年に結成されて以来、長い歴史と輝かしい伝統を保持し続けています。戦時中は、学徒出陣などの影響で活動が途絶えてしまったこともありましたが、戦後は、全日本合唱コンクールで一位を獲得するなど、同志社大学を代表するクラブとして、全国的にも男声合唱の中心的存在として活躍し、多数の音楽家を輩出してこられました。

また、1974年には第4回世界大学合唱祭に参加。1983、86、89、92、95年には、スイス、ハンガリー、オーストリア、ドイツ、ギリシャ、フランス等のヨーロッパ各地への演奏旅行。98年、2001年のアメリカ演奏旅行においては、アーモスト大学、エール大学、スミス大学等と交歓演奏会を実施するなど、日本国内ばかりでなく、海外にもその活動範囲を広げてこられました。

近年では、創立者新島襄の学んだアーモスト大学グリークラブ・女声コーラスとのジョイントコンサートや国内外での演奏旅行、毎年12月に行われる定期演奏会、チャペルでの奉仕など、様々な活動を展開されています。そして、毎年の入学式・卒業式においては、新入生や卒業生、ご父母に感動を与える歌声を聞かせていただいています。

これらこれまでの部員・OBの皆様の情熱あふれる活動に対し、同志社大学長として、深く敬意を表したいと思います。

創立者新島襄は、「智識あり品行あり、自ら立ち自ら治るの人民、いわゆる一国の良心とも謂う可き人々」の育成を目指して、明治8年に私学同志社英学校を設立しました。この教育理念は、新島が江戸末期から明治初期にかけて、約10年間のアメリカ生活で自ら体得した自由の精神、国際人としての感覚を通して形成されたものです。キリスト教主義精神に立脚した自治自立の人物、自治自立の精神に満ちた、自由を尊び、良心を手腕に運用する人物の輩出が、同志社教育の目的です。

同志社グリークラブが、新島の願いをクラブの活動の中においても実践され、部員相互が切磋琢磨しながら、さらに発展していけることを心からお祈りいたします。

最後になりましたが、常日頃から部員の活動を支えていただいている諸先輩ならびに関係各位に厚く御礼申し上げますとともに、同志社グリークラブの今後益々のご発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

同志社グリークラブの伝統

同志社129年の歴史の中で、グリークラブの歴史も100年となりました。欧州の大学やその合唱団の数百年の歴史には較ぶべくもありませんが、しかし明治・大正・昭和・平成の各時代の風雪波瀾に耐えつつ、男声合唱音楽の精髓を把握し、重量感のある躍動美を歌いあげ、一つの風格を日本の合唱界にうち樹てた些かの自負は許されてよいでしょう。

また、その風格を支えるものは伝統であります。そして伝統とは何よりも精神の一貫性をいうのであって、技術やスタイルはそこから生まれ出るものであります。それゆえ我々グリークラブの精神は、聖なるものや美なるものへの常に変わることのない傾倒と讃仰に支えられて育まれるべきものであります。合唱音楽そのものの源泉もまた、そのような至高者との心の行き交いにあったのですから、我々の伝統とその発展も、この源流にしかと棹さすものでなければならないでしょう。

同志社の歴史は、礼拝をもって始められ、礼拝では讃美歌が歌われました。創造者なる神をあがめ、与えられた賜物のすべてを捧げて讃美する精神が、同志社の歴史の根幹を形づくっています。

「新しき歌もて讃えまつれ主のみわざ」を歌いついできたグリークラブは、それゆえ、同志社の精神の重要な担い手でありました。入学式と卒業式での大切な役割が常にグリークラブに委ねられてきたのは、この理由によります。

私学にとって大事なことは、建学の精神が常に高く掲げられ、それによって教育、研究、管理運営のすべてが特色づけられているかどうか、そして、学生がそのような、精神的な賜物を身につけて世に出て行くかどうか、であります。

今迎える第2世紀においても、最も同志社的なグリークラブの活動を通して、グリーメンがこのような豊かな人間形成を経験し、それによって社会の各領域で真に創造的な活動を展開し続けることを願っています。また創設28年のOB会は、それをサポートし続ける伝統を今、築き上げねばなりません。OB諸氏の一層の努力を切にお願いするところです。



同志社グリークラブ
OB会会長

遠藤 彰

同志社文化の旗手



同志社グリークラブ 顧問

岸 基史

同志社グリークラブは創立100周年を迎えました。とは言うものの渋谷昭彦前グリークラブ顧問の言葉を借りるならば、今年は同志社グリークラブ「創部129周年」であります。それはグリークラブのルーツが、1875年11月29日の同志社開校礼拝で賛美歌を歌った聖歌隊にあるからです。すなわち、同志社グリークラブは同志社とともに生まれ、同志社と共に歩んできた同志社を代表する学生組織なのです。

さて、本年は同志社のルーツであるアメリカ北東部ニューイングランド地方への演奏旅行を実施することとなりました。グリークラブの100周年をこのような形で祝う事ができる事に大きな意義と喜びを感じています。9月6日より2週間の限られた期間ではありますが、アーモスト大学をはじめグレース教会やフィリップスアカデミーなど、同志社ゆかりの地での演奏会を予定しています。この演奏旅行で同志社精神の源流ともいえるニューイングランド・スピリットを少しでも感じ取り、それが同志社グリークラブの次なる100年への糧となることを願っております。

想えば3年前に、同じくアメリカ北東部で演奏旅行をしている最中の9月11日に同時多発テロが発生したのですが、その際グリーメン達は演奏旅行の継続を決断し見事にその目的を完遂しました。アメリカの聴衆と共に平和を祈り、人々が普通の生活に戻るための一助となり得たことに大きな誇りを感じています。同時に、我々以上に強い衝撃を受け、深い悲しみに打ちひしがれていた聴衆の方々から激励され、我々もまた勇気づけられたことも忘れ得ません。

同志社においてもそうであったように、グリークラブにおいてもその長い歴史の中では多くの危機的状況を経験してきました。グリーメン達はその度に英知を結集してそれらをくぐり抜け、今日の100周年を迎えています。

今ひとたび学園に目を向ければ、この国の将来を担うべき学生達の間にも、自分のことにしか関心を持たず、目先だけを見て現状に満足したり物事を諦めたりする者が増えてきたように思われます。そうであるだけに、大いなる自由精神を育み、チャレンジ精神を駆りたて、同志社の建学の精神を具現化する学生組織である同志社グリークラブに対する期待はさらに高まります。時代がどのように変わろうとも、権威や権力をおそれず良心を手腕に活動する人物、真の市民社会を形成する人物を生み出す組織であり続けることを念じてやみません。

同志社グリークラブがこの記念すべき時を迎えることができましたのも、学生時代をグリークラブで過ごした卒業生諸氏の今も変わらぬ情熱と学園内外のみなさまのご支援の賜であります。今スタートする次の100年に向け、OB諸氏をはじめ学園内外のみなさまのご指導とご厚情を引き続き賜りますよう、この場をお借りしてお願い申し上げる次第であります。

感謝をこめて

若き青春のエネルギーをグリークラブに打ち込んだ成果は、卒業後それぞれの人生において大きな礎となっていることは言うまでもありません。

時代の変遷はあれど、あれほど輝き情熱を傾注してグリーライフを過ごしたOBは、引き続き変わらぬ情熱をもって後輩たちを見守ってきました。そういった努力が伝統として培われ、今日ここに「同志社グリークラブ創立100周年」を迎えることができました。

これらは大学をはじめ、技術指導の諸先生、また家族、友人、グリー仲間、そしてOB諸氏の支援に因るものと考えたとき、熱くこみあげるものを感じます。

この度の同志社グリークラブ創立100周年記念実行委員会は、2002年4月に結成され、以下の3つのプロジェクトとプロジェクトの資金および運営を管理する部門とに振り分けて活動を進めてきました。

1. 現役支援プロジェクト

「現役サポートのあり方を現役とともに考える」

2. イベントプロジェクト

「記念行事の企画実行」

3. 資料プロジェクト

「100年間のグリー史、楽譜、音源等をアナログとデジタルで編集」

4. プロジェクト推進管理室・事務局

「資金および運営管理とOB会窓口」

OB諸氏からたくさんの方の100周年記念に対する熱き思いやイベント企画のアイデア等を伺い、幾度となく会合を持ち検討を重ねてきました。そしてOB諸氏から頂戴した感動的な“グリー愛”のメッセージが、ときに重圧ともなりましたが、現役グリーンメンとOBとの絆をより一層深めたことは大きな収穫となりました。

今回の記念事業の成果が、現役グリーンメンの誇りとなって150年、200年と歌い、語り続けていくためのバイブルとなり、また日本のみならず世界合唱界の推進役を担って行くエネルギー源となることを祈念します。

新しいスタートに立った同志社グリークラブの今後の活躍を大いに期待するとともに、皆様方の更なるご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

また、この記念事業の推進にあたり各学年理事およびプロジェクトスタッフのご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



同志社グリークラブOB会
理事長

同志社グリークラブ創立
100周年記念実行委員長

木下 利彦

CONTENTS

1

グリークラブ創設者 故片桐 哲 先生

- 1 全寮制の学園(遺稿).....片桐 哲
3 ■故片桐 哲 略歴
4 故片桐哲先生に捧ぐ.....遠藤 彰

5

同志社グリークラブの名のもとに歌われた最初の曲 讃美歌「はなよりもめでにし」

- 5 はなよりもめでにし その1.....森本 潔
6 はなよりもめでにし その2.....森本 潔

7

同志社グリークラブ名称の変遷

8

グリー基金について

- 8 想い.....片桐 哲
9 永遠の事業に参画～一步一步着実な歩みを～.....片桐 哲
10 先生・ロマン.....楠本英雄

11

OB会設立の経緯について

- 11 OB会に想う.....松本寛二
グリークラブOB会の展望.....小田泰弘
12 「OB会設立」のころ.....田村康浩
OB会組織変更について
13 会則について……会則作成にあたって.....楠本英雄
14 同志社グリークラブOB会会則

17

30年会の経緯について

- 17 「グリークラブ卒業30・40・50周年記念の集い」について.....都木直文
18 30年会のこと.....田村康浩
30年会の軌跡
19 卒業40周年記念の集い.....藤戸 武
20 卒業50周年記念の集いを終えて.....都木直文

21

烏丸会館(グリークラブ部室)

- 22 部屋の窓から.....矢是榮士

グリークラブ 創立81年～100年のあゆみ

- 23 ●創立81年／1985年(昭和60年).....尾池智治
- 24 ●創立82年／1986年(昭和61年).....高梨 純
- 25 今出川と田辺「二つの練習場を持つグリークラブの課題」——藤谷 真、元吉圭太
- 27 ●創立83年／1987年(昭和62年).....竹内和朋
- 29 ●創立84年／1988年(昭和63年).....栗田陽一
- 30 ●創立85年／1989年(昭和64年・平成元年).....伊東恵司
- 31 ●創立86年／1990年(平成2年).....竹内 正
- 32 Y.F(福永陽一郎先生)のこと～.....伊東恵司
- 35 ■福永陽一郎 略歴
- 36 ●創立87年／1991年(平成3年).....松本亮介
- 37 ●創立88年／1992年(平成4年).....鐵見太郎
- 39 ●創立89年／1993年(平成5年).....谷本 啓
- 41 ●創立90年／1994年(平成6年).....荒川 剛
- 42 ●創立91年／1995年(平成7年).....上野大介
- 43 ●創立92年／1996年(平成8年).....山元 進
- 44 ●創立93年／1997年(平成9年).....小林香太
- 45 ●創立94年／1998年(平成10年).....山口隆介
- 46 ●創立95年／1999年(平成11年).....板倉伸久
- 47 ●創立96年／2000年(平成12年).....赤澤昌樹
- 48 ●創立97年／2001年(平成13年).....島本英年
- 49 ●創立98年／2002年(平成14年).....坊向敏和
- 50 ●創立99年／2003年(平成15年).....山田倫大
- 51 ●創立100年／2004年(平成16年).....東 留以
- 52 最近のフェアウェルコンサート.....藤谷 真、元吉圭太
- 53 同志社グリークラブと「太子山」.....「祇園祭」太子山保存会 会長 中野晴男
- 55 100周年記念イベント「合唱フォーラム」
- 55 「歴史と伝統を生かしてその時代に関わる合唱を未来に!」.....高橋 博
- 57 「100周年記念式典」について
- 59 「レインボーコネクションフェスティバル(RCF)」開催
- 61 「記念レセプション」
- 62 記念誌・合唱の記録のCD化
- 63 ■同志社グリークラブ合唱の記録/DISC1・2(内容リスト)
- 64 同志社グリークラブよ、永遠に.....藤谷 真

CONTENTS

65

東西四大学合唱演奏会 この20年

- 65 第34回・第35回・第36回 東西四大学合唱演奏会
66 第37回・第38回・第39回 東西四大学合唱演奏会
67 第40回・第41回・第42回 東西四大学合唱演奏会
68 第43回・第44回・第45回 東西四大学合唱演奏会
69 第46回・第47回・第48回 東西四大学合唱演奏会
70 第49回・第50回・第51回 東西四大学合唱演奏会
71 第52回・第53回 東西四大学合唱演奏会

72

関西六大学合唱演奏会 長谷川亮太

- 73 第1回・第2回・第3回・第4回・第5回・第6回 関西六大学合唱演奏会
74 第7回・第8回・第9回・第10回・第11回・第12回 関西六大学合唱演奏会
75 第13回・第14回・第15回・第16回・第17回・第18回 関西六大学合唱演奏会
76 第19回・第20回・第21回・第22回・第23回・第24回 関西六大学合唱演奏会
77 第25回・第26回・第27回・第28回・第29回 関西六大学合唱演奏会

78

同志社・立教大学グリークラブ交歓演奏会

- 79 同志社・立教交歓演奏会年表

81

クローバークラブの活動記録

- 81 創立81周年/1985年(昭和60年)～創立87周年/1991年(平成3年)
82 創立88周年/1992年(平成4年)～創立93周年/1997年(平成9年)
83 創立94周年/1998年(平成10年)～創立97周年/2001年(平成13年)
84 創立98周年/2002年(平成14年)～創立100周年/2004年(平成16年)

85

東西四大学OB合唱連盟演奏会の記録

- 85 東西四大学OB合唱連盟演奏会のクローバークラブ
86 第5回/1985年7月7日～第14回/2003年7月21日の記録

87

メサイアの歩み

- 87 第21回～30回メサイア
88 第31回～40回メサイア

89

Concert Tour (コンサート・ツアー)

- 89 ■第2回/ヨーロッパ演奏旅行(1986年2月20日～3月13日)
- 91 ■第3回/ヨーロッパ演奏旅行(1989年2月20日～3月13日)
- 95 ■第4回/ヨーロッパ演奏旅行(1992年2月19日～3月10日)
- 99 ■新島襄生誕150周年記念 新島メモリアルツアー(1993年9月15日～9月22日)
- 103 ■第5回/ヨーロッパ演奏旅行(1995年2月14日～3月7日)
- 105 ■アメリカ演奏旅行(1998年2月16日～3月9日)
- 107 ■アメリカ演奏旅行(2001年9月7日～9月21日)
- 109 ■アメリカ演奏旅行(2004年9月6日～9月18日)

113

本邦初演曲……同志社グリークラブ・クローバークラブ

- 113 同志社グリークラブ初演／組曲「雪と花火」……………多田雅彦
- クローバークラブ初演／委嘱初演のエピソード……………日下部吉彦
- 115 同志社グリークラブ初演曲リスト
- クローバークラブ初演曲リスト

117

同志社グリークラブのあゆみ

- 117 1985年(昭和60年)⇒1987年(昭和62年)
- 119 1987年(昭和62年)⇒1989年(昭和64年・平成元年)
- 121 1989年(昭和64年・平成元年)⇒1993年(平成5年)
- 123 1993年(平成5年)⇒1995年(平成7年)
- 125 1995年(平成7年)⇒1998年(平成10年)
- 127 1998年(平成10年)⇒2000年(平成12年)
- 129 2000年(平成12年)⇒2003年(平成15年)
- 131 2003年(平成15年)⇒2004年(平成16年)

132

各種リスト

- 132 歴代学生指揮者リスト・現役メンバーリスト
- 133 100周年協賛者リスト
- 135 永眠者リスト

136

創立100周年記念実行委員会組織図

- 137 編集後記

グリークラブ創設者 故片桐哲先生



グリークラブの名付親である片桐哲先生は、旧約聖書、ヘブライ文学の研究者であり、わが国におけるヘブライ語の最高権威でした。神学部を卒業後、アメリカへの留学、パレスチナおよび欧州諸国での在外研究で足かけ8年余りに及ぶ海外生活もされました。また、同志社大学文学部長を2回務められ、同志社女子専門学校校長ならびに高等女学部長を務められた後、同志社女子大学長に就任され、現在の同志社女子教育の基礎を築かれるとともに女子大学に音楽科を創設されました。

さらにカレッジソング誕生を導き、まさに全同志社の日常に音楽をしみわたらせるために生涯をささげられました。

全寮制の学園(遺稿)..... 片桐 哲

私が郷党の先輩山崎為徳氏や親父の学んだ同志社に憧れて、普通学校に転学して来たのは、日露戦争の始まった年で、今から六十一年前の昔になります。当時の同志社は衰微の極みで、男子と女子部とを合わせても、学生数三百名を少々越すくらいのもので、丸太町が京都市の北の端で、御所をへだてた同志社は、少数の自宅からの通学生以外は全寮制で、同志社村を形成していたと言ってもよく、チャペルの鐘の音で起床から就寝まで規定せられていました。日曜の礼拝式も、金曜夜の祈祷会も、全校の卒業式も皆一所に守っていたものであり、今日の二万に余る同志社人には到底想像も出来ない家族的な同志社でした。入学して一番強く印象された事は、校祖に対する思慕の念が充満していた事です。卒業記念撮影などには必ずチャペルから新島先生の肖像画をはずして来て、それを中心に写真をとったものです。創立記念日や御命日の日の御墓前での早天祈祷会のごとき、また創立記念式で朗読さるる大学創立趣意書は遺言として拝聴したものです。志中途にして逝かれた校祖の遺業を、何とかして成就しなければならないという熱意と祈願が漲っていました。明治四十一年四月に、当時既に予科二年、本科三年の大学組織になっていた同志社神学校に進学しましたが、日清日露の戦争で世界の二大強国に勝利を博した日本が躍進の一途を辿る国運に伴って、同志社も原田助社長を迎えて衰微から復興への歩を始めるとなり、明治四十三年頃ともなれば、同志社大学実現の氣運がとみに漲って来たように感じられました。大学設立

の趣意書を天下に公表されて病軀を押して募金運動に出掛けられる際、新島先生がチャペルに立たれて、在校の少年たちにその事業の完成を委託された事に深く感銘させられた、古谷久綱、三宅驥一、水崎基一、近藤賢二氏らの一団は今や社会人として働き盛りの人物になっていた。そういう校友たちが恰も火の玉のようになって燃え上がり、校祖の遺志達成の運動に奮起されたのである。大先輩の国民新聞社長の徳富蘇峯氏を先頭に戴いて、三十万円、当時としては巨額の募金に立ちあがられたのである。それからそうした方々が同志社本部との連絡のために頻繁に来校され、その都度チャペルの朝拝時や放課後などに大学設立に関する非常な熱意と懸命な奮闘振りに深く心を動かされたものであった。明治

四十三年の五月のある夜、われら在校生の者が女子部のある一室で催された徳富先生を中心の大学基金募集の訴えの会合に出席を許されたのであるが、先生のあの「二人同心其利断金、矧んや我同志社校友一千五百余名の熱誠なる一致戮協に於いてをや」の句で始まり「新島先生永眠以来二十年……単に先生の遺業をして萎靡不振に帰せしめるは是豈痛恨の



ハートフォード神学校卒業記念



昭和29年8月西郷氏渡米留学記念

至りならずや云々」の切々たる募金の訴に痛く動かされて、当時一ヶ月の食費四円五十銭也のわれら貧学生が、大枚金五円也の寄付を決意して署名したその夜の感激は今も脳裡に深く印せられている。その後、募金運動を天下に展開するに当り、その重要な奉加帳に金五円也という目録りの小額では困るという事で五の字の下に小さな拾の字を挿入して金五拾円也と訂正した時に、どうしてこの大金を完納出来るだろうかと内心少からず不安に思った事も今に楽しい思い出である。その署名した連中は上級の相馬祐次、長谷川直吉、同級の佐竹直重、年齢は上ではあったが下級の及川八楼、沖田節治（大塚前総長）の六名であった。生存者は大塚氏と小生のみとなった、洵に遠い思い出である。明治四十四年の十一月の理事会はいよいよ明治四十五年度を期して遂に大学開校に踏み切った。在校生一同は異常な興奮と光明とに満たされた。その勢は創立記念の当日頂点に達した。若王子山頂の早天祈祷会の司会者は神学生の前述の沖田節治君であり、集り来りし教師学生の捧げる熱烈なる祈祷感話は引も切らず非常な靈感に打たれたのであるが、特に原田社長が校祖の墓前に進み出て、



ドーバー海峡横断

厳肅な語調で理事会において決議した大学設立の次第を奉告せられ、校祖の念願したるキリスト教主義による教育報国の理想達成のため同志社人の奮起と責任とを促された時の感銘は非常なものであった。それから下山して催された創立記念式における水崎基一先生の大学設立趣意書の朗読の際の感銘は、文字通り声涙共に下るの有様でいよいよ校祖の念願の大学開校の日間近しの希望に輝くものであった。原田社長は同志社大学開校の理事会の決議文を朗読されて全同志社人の協力と奮起を求められて式辞とされた。ワンパーボスの校歌で終って、同志社チャーを思い切り叫んだのを忘れる事が出来ない。明けて明治四十五年の二月には正式に同志社大学開校が認可せられ、学校当局者の

多忙さと緊張振りとは在学生のわれらにもひしひしと感ぜられた。入学試験も無事済み四月には入学式を挙げられ、新同志社大学には神学部と政治経済学部と英文科の二学部一学科が発足した。神学部は前述のように既に大学組織になって



遺跡調査

いたので横滑りで私共は本科の最上級に編入された。角帽をかぶり得たのは神学部の本科生生だけであり、袴に角帽という前時代の姿は今思い出してもまことにほほ笑ましいものであった。

いよいよ同年の五月二十日には大学開校式の華やかな行事が挙行さる事となった。校内は式場のチャペルを始め物々しい感じで一杯であった。式場には長谷場文部大臣を初め、菊池枢密顧問官、大森京都府知事、久原京大総長等、校友では徳富、宮川、小崎、浮田の大先輩方、その他外人ではグリーン博士等一流の貴顕紳士方が壇上に着席され、学生の目にはまことに壮観であった。その中でわれらの社長原田助先生の姿が一段と光っていた印象はまことに強く、式後学生連が誇らしげにその印象を語り合った事も忘れ得ない思い出である。式後校庭でラグビーの試合

全寮制の学園(遺稿)

の外は今とはなくなってしまったが同志社独特の勇壮な旗
 脊の競争が展開されて同志社学生の意気を見せた事もな
 つかしい思い出である。

最上級に移行したわれら九名の神学部学生は僅か一
 年だけの大学生活を終って、翌大正二年の三月には第一
 回の卒業生として社会に進出する事になった。五十余年を
 経た今日、キリスト教主義幼稚園教育の先達となった岩村
 清四郎君と仙台の尚絅女学校で宗教教育に一生を捧げ
 ている丸山吉永君と南洋のボナベ島伝道に従奉した田中
 金造君と小生の四人が生きている。一昨年のリユニオン
 の際、卒業五十年を記念するため同志社に会合して二日
 間生活を共にし、最後の夜は思い出の石山の三日月楼で
 一泊し、往時を語り明した事はまことに楽しいものであった。
 現在の同志社大学の真の発展を祈って止まないものである。

(同志社時報十六号 昭和四十年八月)

יהוה רצני לא אחר
 בנאות דשא יבצני
 עלמי מנוחת ינהלני

PSALMI XXIII 1-2

主はわが牧者なり
 われをしのぎことある
 主は我とみごころの野を
 いのちの水濱にもちかたふ
 詩篇第二十三篇
 一九百五十八年二月五日
 古稀 片桐 哲



同志社女子専門学校長時代

故片桐 哲 略歴



明治40年
普通科卒業記念

- 1888(明治21)年3月3日 片桐清治・亀代の次男として
岩手県水沢市に生まれる。
- 1907(明治40)年3月 同志社普通学校卒業
- 1913(大正2)年3月 同志社大学神学部卒業
同志社神学士
- 1913(大正2)年9月～
1916(大正5)年6月 米国太平洋神学校で研究
B.Dの学位受領
- 1916(大正5)年9月～
1920(大正9)年3月 米国ハートフォード神学校及び
同大学院で研究。
S.T.Mの学位受領(1917年6月)
- 1920(大正9)年4月 同志社大学神学部教授
- 1920(大正9)年7月 原田芳子と結婚
- 1930(昭和5)年4月～
1931(昭和6)年5月 在外研究員としてパレスチナ、
欧米各国歴訪
旧約聖書考古学、聖地地理歴史学を研究
- 1931(昭和6)年6月 同志社大学文学部長
- 1933(昭和8)年4月～
1952(昭和27)年3月 同志社女子専門学校長
- 1933(昭和8)年4月～
1945(昭和20)年3月 同志社高等女学校校長
- 1947(昭和22)年4月～
1970(昭和45)年3月 梅花学園理事
- 1949(昭和24)年4月 同志社女子大学教授
- 1950(昭和25)年4月～
1953(昭和28)年3月 同志社女子大学長
- 1951(昭和26)年8月～
1953(昭和28)年3月 同志社理事
- 1953(昭和28)年3月 同志社女子大学を定年退職
- 1953(昭和28)年4月 同志社女子大学名誉教授の称号を受く
- 1965(昭和40)年11月 同志社大学名誉神学博士の学位受領
勲三等瑞宝章受章
- 1966(昭和41)年1月～
1970(昭和45)年3月 梅花学園長
- 1968(昭和43)年4月～
1969(昭和44)年3月 梅花女子大学長
- 1982(昭和57)年7月3日 午前1時25分、永眠(94歳)

故片桐 哲 先生に捧ぐ

名誉顧問・OB会長 遠藤 彰

同志社グリー・クラブの創始者、初代指揮者、初代顧問、名誉顧問、同OB会名誉会長として、片桐先生は一千に及ぶ現役・OBたちの尊敬と敬愛の対象であられた。

グリー・クラブの誕生は今世紀初頭に遡るが、当時神学部学生であった先生は、平賀徳造、浜田光雄、平田甫氏（いずれも故人）などととも、学内で開かれた弁論大会の男子男声三部合唱を指揮し、この合唱団に初めてグリー・クラブの名を名乗らせたのであった。じらいグリー・クラブ

は80年近い歴史と輝かしい伝統とを形成し、国内においてはもとより、度重なる海外演奏旅行によりその名は広く諸外国にまで宣伝されるにいたった。1976年には同志社グリー・クラブOB会が設立されたが、同会は満場一致先生を名誉会長に推戴した。OB会のクローバー・クラブもまた全国合唱コンクール優勝を果したり、海外演奏旅行を行ったりして、その充実ぶりはまことに目ざましい。

先生は音楽の専門家であったわけではなく、旧約聖書を専攻された神学者であられた。大正初年米国に留学中、当時の指揮者浜田光雄氏につきのごとく書き送っておられる。「同志社グリー・クラブもこの点においては（愉快な一種独特の音楽）十分尽力下さるべく候は勿論に候も、さらに目下の日本精神界の向上のためにも十分の助力をせらるべく、この点において切に教会音楽の発達にも御尽すいさるべきことと存じ申し候。すなわち、前者1/2後者1/2の割合にて練習下されたく候」。先生は帰国後神学部教授として旧約学を教えられたが、1933年同志社女専校長に転じ、のち同女子大学長となり1953年定年退職にいたるまで同志社の女子教育の最高責任者の地位にあられた。その教育理念の根幹は、いうまでもなく聖書の精神であった。そしてこの精神は右の書簡が示すようにやはり先生の創設し愛し育まれたわがグリー・クラブの精神でもあったのである。

先生は、グリー・クラブ顧問であられた頃、その演奏会には必ず奥様とともに来場して激励され、また演奏旅行にはやはり御夫人同伴で随行され公式行事の役を果たし、

また部員の精神・肉体両面の世話に心を砕いて下さった。当時の部員諸君は現在社会の各方面でそれぞれ重要な働きをしているが、いずれも先生御夫妻の温いお人柄と深い愛情とに強い感銘をうけ、それぞれの人生のあり方に多くの示唆を頂いたのであった。

近年はお身体の具合もあり、演奏会場にお見え下さることも難しくなっており、現役諸君にはその声がいかに接する機会

が乏しくなってきたことを憂いたOB会幹事諸君が、昨

年、先生の肖像写真を作成してグリー・クラブに寄贈した（OB会報第6号参照）。その寄贈式は先生の健康状態のよい日を選んで新町別館で行われたが、その時の先生の慈顔と現役諸君への力強い激励のお言葉は今なお私共の記憶に新たである。じらいこのお写真はグリー・クラブ部室に掲げられ、先生の威厳と慈愛に満ちたお顔はつねに部員の活動を見まもり、無言の励ましを与えて下さる。先生はいつも「音楽の源は歴史的にはキリスト教音楽にあり、地域的にはヨーロッパにある」と言って、グリー・クラブの欧州演奏旅行の夢を語っていられた。明年夏この計画がいよいよ実現の運びとなるが、先生は天上できっと喜んでいて下さるであろう。

私の学生時代のヘブライ語の恩師でもあられた先生は、米寿の記念に生涯の感懐をイザヤ書の言葉に託してヘブライ語で色紙に書いてくださった。「主を待ち望む者は新たなる力を得ん」（40章31節）という句であった。先に述べた先生の教育理念でありグリー・クラブの指導理念であった聖書の精神は、この一句に凝縮表現されているようである。

グリー・クラブは、先生の遺されたこの理念を十分に継承し、技術面の錬度はもちろんのことながら、さらに高度の精神性をもって先生の御期待にそえるよう、そして本邦大学合唱界においてつねに独自の境位を誇示しうるものとなることができるよう、ここに決意を新たにしたい。永遠の平安のうちに憩われる先生の霊の上に、限りない祝福の豊かならんことをせつに祈りつつ。

（同志社女子大学編、「片桐 哲先生追悼文集」1982年）



讃美歌「はなよりもめでにし」

なお、平成16年10月10日(日)実施の、同志社寒梅館に於けるグリークラブ100周年記念式典において讃美歌「はなよりもめでにし」(317番)が100年の時空に想いを馳せながら歌われることとなりました。

第30代指揮者 森本 潔(昭和36年卒)

この弁論大会の場所「東寮の第六寮」と、その頃の練習場と思われる「神学生の東寮、第三寮」の場所を以下に推測します。当時、明治40年(1911)頃、同志社の周辺には4つの地域に第一寮から第十二寮までがあり、生徒は合わせて約600名、学生の気風は寮生活が基本で、朝夕に礼拝、祈祷会が持たれていました。東寮3棟：アーモスト館周辺、西寮4棟：運動場北側及び烏丸今出川北西部、北寮5棟：大学館付近にあったとされています。このため、弁論大会、練習会場はともに今のアーモスト館周辺であったと推定して良いのではないかと考えます。

[illegible]

「ここで初めて『同志社グリークラブ』の名を公にした」とグリー創立50年誌にあるこの讃美歌を明治36(1903)年版から発掘できた事は、タイムス36号に発表させていただきました。これを機会に、少し関連事項を整理してみたいと思い立ったのが以下の記述です。10月10日の京都における記念式典に向けて、メンバーの皆さんがグリー創設の頃、また最初に歌われた讃美歌に思いを馳せる一助になれば幸いです。

1. 317番のコピーが表している事柄

標題 Temperance: この讃美歌は詞の内容から「自制、克己、節制」に分類される

9.4.9.6.9.4.9.6: はなよりもめでにし (9) わが子よ (4) のこしころもだに (9) いとなつかし (6) メロディーの拍数と歌詞が表記されている

Foster: Stephen Collins Foster (スティーヴ・コリンズ・フォスター) の作曲

Key D m ♯ | r. d. m., r | d. x d' | l d' ♯ など: この曲はニ長調 ミレド ミレド ドラド と音をとりなさいとの表記(移動ド)

関連する聖句: 旧約聖書 箴言10章1節「愚かなる子は母の憂いなり」

今の訳では、「(知恵ある子は父の喜び) 愚かな子は母の嘆き」

* ソロモンの格言

新約聖書ルカ伝 15章18節「起ちて我父に往かん」今の訳では、「(ここをたち) 父のところに行っておう」

* 放蕩息子のたとえの箇所

2. 作曲者のこと

1826-1864 (アメリカ) 37年の生涯に約300曲の名曲を残し、アメリカ民謡の父と呼ばれる。南北戦争の勃発する10年前、1851年に発表したSwanee Ribber (原題どおり・南部なまり) は前年結婚した妻ジェニーとの間に長女マリアンが生まれ、すでに音楽を職業として作曲活動を行くことを決意していた頃の元気溢れる名作。当時は楽譜を出版社に売ることが作曲家の収入源であったと言われているが、アメリカにおいて音楽を職

業としたごく初期の作曲家の一人。新島 襄の函館脱出(1864)の年代と呼応して考えると興味深い。

なお、現在の日本の讃美歌には Foster の曲は見られない。

3. 訳詞者のこと

別所 梅之助(1871-1945)。青山学院の前身である東京英和学校出身。「武蔵野の一角に立ちて」など多数の著書がある文学者であり、牧師。青山学院山岳部・部長の記録もある。昭和29年(1954)版讃美歌(我々に最もなじみが深く、“21”に移行する前の讃美歌)の邦訳者索引によると、560曲余の中で、実に24曲が彼の「日本語訳」の賛美歌です。良く知られているものでは、90番 こもかみの、448番 みめぐみを身にうくれば、があります。自ら作詞された賛美歌は155、278、301です。昭和2年(1927)予備調査が始まり、昭和29年(1954)版讃美歌として出版されるまで、三輪 源造、由木 康、木岡 英三郎、鳥居忠五郎、津川 主一らと共に讃美歌委員会常任委員。

4. 明治44年(1911)グリークラブのメンバー8名によって歌われた状況

神学生の東寮で第三寮長の片桐 哲指導により同好の士が合唱の練習を行っていたが、夏休みが終わってすぐ、東寮の第六寮2階にあった14畳の集会室で、全寮生の連合弁論大会が催された際、8名の男声3部合唱で旧讃美歌317番「はなよりもめでにし」が歌われた。この時初めて、片桐哲の命名によるグリークラブを公に用いた。メンバーは高音部平田 甫・松浦 繁・片桐 総、中音部に蜂谷 為三・谷 喜楽・平賀 徳造、低音部に浜田 光雄・川中 忠治であったらしい。

(グリークラブ30年誌から引用して書かれた同志社大学マンドリンクラブ[創立明治43年(1910)]詳年譜 参照)

参照: ●インターネット: S. C. Foster,
●インターネット: 同志社大学マンドリンクラブ 詳年譜
●グリー50年誌、80年誌
●讃美歌 1954年版 及び 同 讃美歌略解
●讃美歌 21
●The Hymnal A. S. Barnes and Company Inc. 1942
●同志社の歩み ― 戦前八十年史 ― (2.16.2004)

同志社グリークラブ名称の変遷

1903(明治36)年頃	・クワイア
1908(明治41)年	・ダビデ・クワイア
1911(明治44)年9月	・同志社グリークラブ
1931(昭和6)年頃	・同志社大学グリークラブ
1941(昭和16)年	・同志社大学学友会修練団修文部音楽班同志社大学男聲合唱團
1946(昭和21)年12月	・同志社グリークラブ

1903年 (明治36年)

頃から、神学科の学生を中心として讃美歌を組織的に歌うようになり、「クワイア」や「ダビデ・クワイア」を称した。おりしも、キリスト教界では「新選讃美歌」から「さんびか」に代わる時であり、練習会が同志社内だけではなく、色々な場所で行われた。その指導に当たったのがクワイアのメンバであった。そうこうするうちに、他の科の学生もクワイアに多く参加する様になった。「さんびか」や宗教曲だけではなく、ポピュラーや外国の学生歌を歌うことが多くなった。1911(明治44)年9月、同志社グリークラブの名を公にした。これは全同志社が対象であり大学、中学の区別がなかったことによる。

時代は移り1931(昭和6)年制定の会則1条には「本クラブは同志社大学グリークラブと称す」とある。1912(大正元)年の専門学校令、1920(大正9)年の大学令によって同志社大学を開設しており、これらのからみで同志社大

学グリークラブを称するようになったと思われる。

1941(昭和16)年同志社大学学友会修練団修文部音楽班同志社大学男聲合唱團と名のこととなる。これは国の施策にそうもので、学校報国団体制確立方(文部省訓令第27号)により同志社専門学校報国団団則が1940(昭和15)年4月1日に実施され、一部改変し大学修練団が発足し団則は1941(昭和16)年1月31日文部省に認可された。そして修練団の結成は1941(昭和16)年2月11日紀元節をもってとりおこなわれた。

1945(昭和20)年の敗戦とともに学生も学校へもどって来た。10月の学生大会で同志社グリークラブの名で合唱団が新しく作られるべきだとの話が行われ、13名の同志をもって発足した。1946(昭和21)年戦後第1回関西合唱コンクールには同志社男声合唱団で参加した。そして12月、正式に同志社グリークラブと改名され今日に至る。

グリー基金について

グリー基金はグリークラブの名付け親である片桐先生の積年の夢であった『グリー会館の設立』を実現するための基金である。これは同時に、我々グリーンメンの夢でもある。

ことの始まりは定かではないが、片桐先生はグリークラブを卒業する者達をご自宅に招き、卒業を祝って下さった。卒業生達は毎年数万円ずつではあるがグリー会館の設立のため基金を積み立て、その結果を先生に報告していたようである。基金は創立60周年時(1964年)には約40万円ほどになっていたという。先生はこれを出発点としてグリー会館設立のための募金を展開するよう、小田泰弘氏(昭31年卒)、渡辺謙之助氏(昭31年卒)らを中心としたメンバーに託された。これらは現在約900万円になっている(平成16年4月現在)。なお、当初はグリー基金ではなく、グリー『寄金』であったようである。

想

同志社グリークラブ創立60周年
の記念すべき歳を茲に迎えるに当り、

過去を追想し、亦将来を夢見て洵に感無量なものである。河上文久君が役目から中心になつて創立五十周年の記念会を盛大に催したのは、つい昨日の事のように感ぜられるが、早や十年が経つて了つたのである。その後年々二、三十名位い完、卒業生を送り出しているの、OBの数は増加の一途を辿り、現在は恐らく六百数十名を数えるに到つているのではあるまいかと思う。その本流はグリークラブの終身大学院ともいふべきクローバークラブに進学して、楽しい生活の延長を続けているのである。洵にグリーンメンは終身会員であり、終生の友であり、亦兄弟なのである。グリーンメンの第一世には少数ではあるが既に古稀に達した人もあり、三十才前後が中堅層で第二世の時代が開かれんとしているのである。グリークラブは同志社学園が永久に続く限り、永久に発展する団体なのである。光榮ある過去を追想すると共に、更に一層将来の堅実なる発展の為に全力を傾けて努力し、その為に祈らなければならない。

グリーも茲数年来、学生自身の精進に加えて、優れた新界の専門家である福永陽一郎先生を技術顧問に迎え、亦ヴォイストレーナーには大久保昭男、中村博之の両先生を煩わして、格段の進況を発揮しつつあることは、殊に喜びに絶えない点である。クラブメンバーも百数十名に達して、その真剣な精進振りは、過日の野尻湖畔に催された合宿訓練には百三十名が参加し熱心に努力した一事に依つても立証出来ると思う。然るに依然として練習すべき一定の場所を持たず、平安教会その他の場所を転々として、無駄な苦勞を繰返しているのである。

亦大切な歴代の楽譜や、貴重なグリーの歴史的記録や記念品を保存すべきクラブハウスも無いので、いつの間にか遠散して了つていたので洵に残念至極な事である。小生は数年前からこれを何とか解決しなくてはグリーの将来の為にならないと考えて、微力ではあるが学生自身の側から発奮して、小さいものでもよいからグリー自身の練習室と楽譜や記念品及

片桐 哲

び研究図書等の保存室を所有したい為に土地と建物を購入する積立金をする決心をし、毎年の演奏旅行の際乏しい生活の中から数万円宛でも節約し、それを一定の額まで積立て、OBと社会とに呼びかけて先づ地所と練習室と保管室とを実現したいと夢を画いたのである。幸い役員達の賛同を博し、毎年相当額節約してきたのである。然し報先を聞くのみで具体的な資金を見た事がなく、只喜ぶだけで、いつの間にか内容は姿を消して了つていたのである。然るに今年の三月卒業された二十二名の諸君が此の計画に従つて各自乏しい財布をはたいて合計金貳万貳千円也を耳をそろえて、京都銀行の一ヶ年の定期預金として、松本慎一君が代表して拙宅まで届けられた。具体的なものを手にしたが是が初めてであつただけに小生の歡喜と感激とは言葉にたとえ難く非常な感銘を受けたのであつた。数年来の夢の第一歩が具体化されたものとして、心から感謝したのである。而も今年は創立六十周年を迎える年でもあり、神の深い摂理が潜まれているようにも思えて神に深い感謝の祈を捧げたのである。金銭の事柄については全く無能な小生は早速身近に居られるOBの実業家の小田泰弘、渡辺謙之助両君に來宅を求め、是の貴重な献金を出発点として、立派な同志社グリークラブ会館建設の実現の夢を、弥々具体化するため資金募集運動の立案計画を進めるように研究を進めて呉れるように御依頼したのである。この記念すべき六十周年を振出しに来るべき七十周年には堂々たるグリー会館が目の前に見られるようにと祈るものである。OBと現役が一団となつてこの夢実現のため最も聡明な計画と方法とを組織し、着々前進するように祈つて止まない。種々の有意義な記念行事が計画せられ展開されて行くであろうが、それと同時に永遠の計画をも懸命に考えて行きたいものである。殊に榮えある六十年の歴史を築き上げられたるOB諸兄のご一考を煩わしたいものである。

(1964.9.15 老人の日 七十六才記す)

「創立60周年記念誌より」

グリー基金

永遠の事業に参画～一步一步着実な歩みを～

片桐 哲

グリーンメンに与えられた特権



同志社は近世日本の誕生後もっとも早く生まれた大学です。同志社グリーンクラブも複雑な日本近代史の発展途上で生まれましたから近世史を離れて、その存在は考えられません。

同志社は百年の歴史をもち、グリーンクラブは八十年弱の歴史をもつ学生団体です。これは日本の学校の歴史でもめずらしい存在で、とくにグリーンクラブが同志社の重要な公式行事に参画しているのは他の学校では見られない特色といえます。学生諸君は、単なる伝統と思って参加しているかもしれませんが、そうではなくて、そこに新島精神が宿っていると考えべきでしょう。別ないい方をすれば、同志社の公式行事に参加できる特権が与えられているということは、学生とはいえ人格が認められているということですし、学生としても光栄なことといわねばなりません。

このように考えますと、グリーンクラブは同志社とともにあり、同志社は永遠ですから、グリーンもまた永遠に存続するということをよく考えて、慎重に行動する必要があると思います。ですから、現役諸君は、先輩がきずいた伝統の上に、目標を永遠におき自分達はその基礎をつくりつつあるんだという意識をもってほしいと思います。

基金づくりが大きな仕事

OB会も今年五周年を迎えられました。同志社の歴史、グリーの歴史からいえば、誕生まだ日が浅いといえますが、その使命はまことに大きいといわねばなりません。というのは、OB会は自分たちの現役時代のことを思いをいたし、その時代時代におかれた任務を果す役割があるからです。

そのもっとも大きな任務の一つは基金づくりです。私がまだグリーンクラブの顧問をやっていたころ卒業生を家に招いて食事をしながら、歴史を語り、将来の夢を話したところ、卒業生が二千元ずつ記念に残していったくれ、それがいつしか習慣となったと聞いています。(註・グリー基金百万円 OB会五百六十万円 56年8月現在)

一人の負担する金額は少なくとも、同志社が永遠であるかぎり、基金はふくらんでいき、いつの日かグリー会館建設の夢は実現するものと信じています。目標が定まっている以上、あせりは禁物です。そして、グリー会館ができそこであなた方の子ども、孫が学ぶといったふうになってほしいと思います。

学生はなんといっても、経済的にも、力の点においても微力ですから、必要なものはOBが援助してやらねばならないと思います。それがOB会のいま一つの仕事といえましょう。

国際的な視野で

グリーンクラブの演奏会の招待状をもらう、そのこと自体が非常に名誉に感ずる、そういう団体に育つことも今後の大切な課題だと思います。また、それを同志社がつくらなくてははいけません。さらにいえば、五年に一度くらい、アメリカやヨーロッパへ演奏旅行ができればと思います。その心は、新島先生が学ばれた大学との交流を絶やさないと、アメリカが今日あるそのもととなったヨーロッパへの恩返しということにあります。

アーモスト大学は小さな大学ですから、はなやかな発展は期待できません。とすると、お互いに呼んだり呼ばれたりするには、やはりOB会の力が必要でしょう。(談)

「同志社グリーンクラブOB会報

Vol.8(OB会5周年記念号)1981.11.22より」

グリー基金

先生・ロマン

楠本英雄(昭和40年卒・故人)

グリー会館建設、いつの日か必ず実現させたいものだ。練習場以外に宿泊の設備を持ち、合宿ができるように。寮としても使いたい。グリー会館を利用するのは自分たちだけであってはならぬ。息子や孫にまで引継がれるものでなければならない。正面玄関ロビーには、歴代卒業生の名簿が銅板に刻みこまれている。いつの日か、息子や孫達が私の名前を見つけだして、私の若き青春に想いを馳せてくれるだろう。そして、傍らの恋人に、私を自慢してくれるだろう。「僕の親爺も祖父もここで歌っていたんだよ」と。

片桐先生のお宅へOB会報の取材にうかがった折り、先生の夢をお聞かせいただいた。グリークラブはもっと海外へ目を向けねばならない。4～5年に一度は海外へ送り出したいものだ、と仰言った。そして、新島襄が学んだアーモストへお礼に行かねばならない。そのお礼は米国のみならず、海外いたるところで同志社グリークラブの歌声を響かせることでもあると仰言った。

いつの頃からか、卒業生が残していった後輩の為へのお金、これをグリー基金と名付け今に



昭和50年 二瓶輝蔵氏と(同志社百周年記念神学協議会にて)

至っている。これはとても貴重なものだ、これを大いに発展させたいとも仰言った。そして冒頭に記したグリー会館、このグリー会館は先生の悲願であった。いつの日か、必ず我々の手でグリー会館建設を実現させねばならぬ。OB会会則、事業目的の第一にOB会館の建設をうたっている。OB会館の建設は、我々OB会員に等しく課せられた責務であり、又、男のロマンなのである。

合掌。

「同志社グリークラブOB会報 Vol.9(片桐先生追悼号)1982.10.24より」



昭和39年グリークラブ創立60周年記念演奏会(栄光館)

OB会設立の経緯について

OB会の歴史は意外と浅く、1976年がその始まりである。OB会設立の原動力となった要因としては2つ挙げられ、一つは現役の渡米演奏旅行(1974年4月~5月)の支援で、もう一つは片桐先生の米寿を祝う会(1976年3月)で先生自らOB会を設立させたいとおっしゃったことである。そしてわずか7ヶ月後の1976年10月にはOB会が発足したことを考えると、当時の発起人諸氏の苦労は相当であったと推察される。以下にOB会設立時に尽力された方々の記事及び寄稿を掲載する。

OB会設立に想う

神戸女学院中高部長

松本寛二(昭和15年卒・故人)

一九七六年、同志社が第二世紀を迎えたその年までにグリークラブを卒業した者の数は何と七〇〇人をこえているそうです。そのすばらしい事実を知らされた時、私はその長い歴史と伝統の深さを感じると同時に今日のグリークラブの隆盛があることを痛感したのです。それともう一つ思ったことは、七百余人のすべてとはいかなくても全国にちらばっているOBの諸君が年に一度でも二年に一度でもいいから一堂に会してカレソンを歌いその時代のグリーの歌をうたい、そして七十余年にわたる年代の人々が一本の数珠になって心のふれ合いをもつ機会が出来たらどんなにすばらしいだろう……ということでした。

その大きな夢が今回発起人諸兄の熱意と努力によってその名も“同志社グリークラブOB会”として新たに発足したのです。本当にうれしいことです。そして十月十七日に開かれたはじめての総会には遠くは北海道、九州をはじめ全国各地から二百名をこすOB達がはせ参じてくれました。卒業後はじめて歌ったという先輩も沢山いました。一粒の種子が落ちて発芽した土壌が同志社学園といった恵まれた環境であったことも確かに幸していることは言うまでもありませんが、その土壌はいつまでも大切に培って行かなければなりません。ともすれば散りがちなOBたちを一つにし、過去のグリー、現在のグリー、そして未来のグリーへの橋渡しとすることはもちろんですが、さらに誰しもが持っている心のふれ合いの場としてこの会を育てていきたいと念願するものです。大変な業かもしれませんが、そのOB会の初代の会長になんとか選ばれてしまいました。

微力を承知の上全力投球をするつもりです。ま

たこれを機会に不明のOB達の所在をさがし出すことと、演奏活動にも再出発したいと思っています。どうか不明になっている仲間をみつけて下さい。そしてまたOB達の大合唱にも積極的に参加して下さい。

「同志社グリークラブOB会報
Vol.1 (OB会設立創刊号)より」

グリークラブOB会の展望

幹事長 小田泰弘(昭和31年卒・故人)

片桐先生米寿祝賀会の席でOB会発足の檄が発せられ、不肖私が世話人代表に指名されて以来、若手の情熱あふれる先輩達の協力により着々とその準備を進めてまいり、去る十月十七日無事にOB会発足へと漕ぎつけました。

そこに亘るまで会を重ねること十数回、時には学校で、又ある時はレストランで、又小生宅、等いろいろな場所で協議を続けました。その間に感じたことは、案内状を発送したところ実に大きな反響があったことです。

今まで存じ上げなかった大先輩や、若い先輩達多数から賛同の意や、激励の言葉を多数いただきました。そして無事OB会が盛大裡に発足したことは、私達が各自の仕事の合間に努力して来たことが多少でも稔りを持てたことと喜こんでおります。

そして十二月九日第一回理事会が開かれ、今後の執行機関である幹事団も指名されいよいよ具体的活動に入りました。

名簿の作成、演奏活動、資料の整理保存、等々、仕事は山積しておりますが、幹事の諸君又皆様様のご協力を得て一つづつ取り組んで行きたいと思っております。

扱て、時を同じくして、この丁度良い機会に慶応ワグネルのOBから呼びかけがありました。今年七月三日東京九段会館において慶応、早稲田、関

学、同志社の四校のOBによる四連合唱コンサートを行おうではないかという訳です。早速に理事会、幹事会の決議を得その準備に取りかかっております。マネージは東京在住のOBにまかせ、三十一年卒の橘君にその責についてもらっております。東京のOBも結束はかたく、約三〇名程が常に集まって歌っていると云うことです。

関西での練習は平安女学院理事長の藤井清先輩のお口添えて同校の教室を毎月第二、第四の日曜日午後二時から五時迄お借りすることが出来ましたので二月十三日から開始致しました。指揮はグリー派米時の指揮者富岡健君に決定し、曲目はシューベルトのG調に決り既に楽譜の印刷は大阪の四十八年卒の平井雅則君のご好意で完成しております。

これからでも練習には皆様こそって参加していただくことを望みます。

「同志社グリークラブOB会報
Vol.1 (OB会設立創刊号)より」

「OB会設立」のころ

田村康浩 (昭和38年卒)

昭和51年10月17日、設立総会が200人を超すOBが集まり開催され、OB会が発足した。

設立の気運が生まれるのに、2つの大きな出来事がグリーの卒業生にあった。これらを成功させるため、当時の現役とOBが最大のエネルギーと知恵を出し合ったことが半年という短い準備期間で設立に至ったと今でも信じている。

一つは49年の渡米であり、一つは51年3月に催された、片桐先生の米寿祝賀会だった。

渡米については演奏曲目、プログラム、衣装、行程等はそれぞれの担当者が力量を発揮したが、同志社が以前に渡米した他大学に比べ、最も特長を表したのが基金の口数だった。大口の寄付は少なかったけれど、OBを含む小口の賛同者は群を抜いて多かった。

募金を開始するに当たって、OBの住所を確認することが最重要な仕事になった。担当したT君の苦労は計り知れない、しかしそのお陰で募金活動がスムーズに進行し、後のOB会設立時には大いに役立った。

片桐先生米寿を祝う会 (昭和51年3月) では、何と言っても先生ご自身からの「OB会を発足させたい」という熱いお言葉が全てだった。

渡米の時の世話人を中心に準備委員会を立ち上げ、同年10月17日に設立の運びとなった。

片桐先生をはじめ、松本寛二、小田泰弘、楠本英雄諸兄のあのOB会に対する思いを忘れることなく発展させなければならないと念じている。

特にOB会の設立迄の間、クローバークラブによって、多くのOBをまとめて下さった松本先輩には、今更ながら感謝の念を持ってお礼申し上げたい。云うならば、法人名「同志社グリークラブOB会」、ブランド名「クローバークラブ」として、全てのOBが参加し、喜びを分かち合えるよう、願わざるを得ない。

なお、今回の寄稿に当たり、設立時の事については、80周年誌に詳しく述べられているので重複は避けた。

100周年という記念すべき年を皆さんと共に迎えられたことを幸せに思っている。

～OB会組織変更について～

OB会の組織は執行部が「幹事会」、審査・承認を行うのが「学年理事会」というようになっていた。殆ど京都在住者で形成されていた幹事会の決議事項は、学年理事会にて再度審議され、承認された事項のみ実施されていたが、幹事会にて再度検討を指示された案件も多くあった。このため、決定を急がれる案件でも、その最終決定に数ヶ月要したことも多々有り、皆それぞれ限られた時間を有効に使うのが難しい状況にあった。この問題を取り除くためには、幹事会・学年理事会の二重の組織を無くし、組織の一本化を図ることが必要であるという機運が高まった。松村時男氏 (昭35年卒) が会長、岡田哲氏 (昭52年卒) が幹事長であった1994年から1995年にかけて会則を改正し、これにより幹事会を廃止し、全ての審議・決定は学年理事会で行うこととなった。なお、これに伴いこれまで幹事会が行っていた実務については学年理事が分担することになり、現在に至るのである。

会則について

OB会の会則については、楠本英雄氏(昭和40年卒)を中心として作成され、OB会設立当初より運用されてきた。その後、前述の組織変更や支部作成の基準等について1995年に村上恵一氏(昭和33年卒、当時副幹事長)を中心に会則が改正された。

会則作成にあたって——楠本英雄(昭和40年卒・故人)

なにしろ七百を超える野郎達の集団を組織だったものにしようというのである。どこから手をつけようかという事になり、結局、会則を草稿していく課程において会の輪郭を整えようという事になった。今から一年前のことである。

たき台にする規約を多数持ちよった。町内会の会則のようなものから会社定款、はては中小企業等協同組合法に基づく諸規則までが含まれていた。

まず最初に骨組を作らなければならない。いわゆる役員さんと呼ばれる人達を二つのグループに分けた。

その一つは、強力に会の事業を推進していく機関的な役割をする人達、この人達には現実には多くの時間と労力を割いてもらわねばならない。多くの時間と労力を割ける年齢層というものは自ずと限定されてくるしその為にはある程度卒業年度が重複しても仕方がない。

その二は、長い年代に亘って縦に長く分布するOB達の意見を正確に反映し且つその意見を代表してもらう人達。すなわち卒業年代毎の代表者という事になる。たとえていうならば、列車の車輛一輛毎に専務車掌を選任するという事になろうか。乗客全員が個々に意見を持ってこれたのでは機関手が困ってしまう。どの方向に走ってよいかわからなくなってしまう。先頭車輛の車掌から最後尾車輛の車掌達が集まって列車の行先をきめる。誤った方向に列車が走ってしまえば止むを得ず機関手に「お前はクビだ」と言わねばならない。

専務車掌を理事と呼び機関手を幹事と呼ぶことにした。理事はその学年の意見を代表し任期はとくに定めない。誰を理事にし、いつまでやってもらうかはすべてその年代におまかせする。他からは一切口だししない。幹事は車掌達の集まりである理事会で選任される。任期は3年とした。役員構成に

ついては以上である。

名称については現時点で考えられる最も妥当な最大公約数的なものをあえて採用した。いつか時が来れば当然、改称ということも考えられよう。いならば、法人名を同志社グリークラブOB会、ブランドの一つをクローバークラブといった風に使いわけることになろう。

事業の第一番目に「グリー会館の建設」がうたわれている。生々しすぎる位、具体的な表現だ。異論が多くあった個所であるが、あえて事業の第一番目にうたう事となった。哲先生の言葉にもあるように我々の悲願なのである。わずかではあるが、その為の基金が毎年卒業生によって積立られている。

会員について。「同志社グリークラブを卒業した者」とうたっている。異論のあるところであるが、積年の慣行とユーモアを加味し、あえてこの表現をとる事となった。

何分、生まれたばかりの会であり会則である。十七条の「重要事項」についてもその範囲は不明確であり、民法でいう信義則の原則にたよらざるを得ない。生まれたばかりの会にしてみれば、幹事会に大幅の権限を与え、牽引の役割を果たしてもらわざるを得ない。列車が誤った方向に走れば、最終的には理事会が人事権を行使して幹事を罷免するしかないと思う。

生まれたばかりの会と会則を暖かく見守ってやり、理事を通じ正確な意見を反映し、誤まりは誤まりとして正し、皆んなしてよりよい会を育てあげようではないか。

「同志社グリークラブOB会報 Vol.1 (OB会設立創刊号)より」

■同志社グリークラブOB会会則

第一章 総則

【名 称】

第1条 本会は、同志社グリークラブOB会と称する。

【事務所】

第2条 本会の事務所は理事会において決定する。

【目 的】

第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、同志社グリークラブを援助することを目的とする。

【事 業】

第4条 本会は、前条の目的達成のために次の事業を行う。

1. グリー会館の建設または設置のための事業
1. 会員相互の親睦及び情報交換のための事業
1. 同志社グリークラブを援助するための事業
1. OB会の合唱活動を援助するための事業
1. その他本会の目的を達成するために必要な事業

第二章 会員及び会費

【会 員】

第5条 本会は、次の条件を満たすもので構成される。

- (1) 会員は、同志社グリークラブを卒業した者。同志社グリークラブに在籍した者で、理事会の承認を得た者。
- (2) 会友は、OB会の目的に賛同して入会を希望し、二名以上の会員の推薦を得、理事会の承認を得た者。

【会 費】

第6条 本会の会員、会友は別に定める会費を納入しなければならない。

第三章 役員

【役 員】

第7条 本会に次の役員を置く。

会長	1名
理事長	1名
副理事長	若干名
理事	若干名
監事	2名

理事は各学年を代表する者(学年代表理事)、各支部を代表する者(支部代表理事)及びOB会事業を運営する者(運営理事)とする。

本会は同志社グリークラブ顧問を理事に迎え、その名称を現役顧問理事とする。

【選任及び承認】

第8条

- (1) 会長、監事は総会に於いて会員の中から選任する。
- (2) 学年代表理事・支部代表理事は、各卒業学年及び各支部において選出され、総会に於いて承認を得るものとする。
- (3) 学年代表理事・支部代表理事は、会員の中から理事長、副理事長を選任する。
- (4) 上記の理事は、学年代表理事・支部代表理事及び会員の中から運営理事を選出し、総会の承認を得る。

【権 能】

第9条

- (1) 会長は本会を代表し、本会の会務を総括する。
- (2) 理事長は会長を補佐し、総会の議決に基づき本会の日常の会務に従事する。また、会長に事故ありたる場合、会長の代行となる。
- (3) 副理事長は理事長を補佐し、理事長に事故ありたる場合、理事長の代行となる。
- (4) 理事は理事会を構成し、総会の議決に基づき本会の会務を決定し、分担する。
- (5) 運営理事は運営理事会を構成し、理事会の議決に基づき本会の会務を執行する。
- (6) 監事は次の任務を行う。
 - (a) 会計を監査すること。
 - (b) 理事及び運営理事の会務執行及び処理状況を監査すること。
 - (c) 会計及び会務の執行について、総会に報告すること。

【任 務】

第10条

- (1) 役員の任期を3年とする。ただし再任を妨げない。
- (2) 補欠または増員により選任された役員の任期は前任者または現任者の残任期間とする。
- (3) 役員は辞任または任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

■同志社グリークラブOB会会則

第四章 総会

【種 別】

第11条 本会の総会は定時総会及び臨時総会の2種とする。

【構 成】

第12条 総会は会員をもって構成する。

【権 能】

第13条 総会は本会の運営に関する次の事項を決議する。

- (1)事業計画及び収支予算
- (2)事業報告及び収支決算
- (3)役員の選任及び承認
- (4)会則の改正
- (5)会費の額
- (6)その他本会の運営に関する重要事項

【開 催】

第14条

- (1)定時総会は毎年1回開催する。
- (2)臨時総会は次の場合に開催する。
 - (a)理事会が必要と認めたとき
 - (b)会員の5分の1以上から会議の目的を記載した書面により招集の請求があったとき

【招 集】

第15条

- (1)総会は会長が招集する。
- (2)会長は前条の規定による請求があったときは、その日から50日以内に臨時総会を招集しなければならない。
- (3)総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって少なくとも20日前までに通知しなければならない。

【議 長】

第16条 総会の議長はその総会に於いて、出席会員の中から選出する。

【定足数】

第17条 総会の定足数は委任状を含め全会員の10分の1以上とする。

【議 決】

第18条 総会の議事は、この会則に規定するもののほか、出席した会員の過半数

をもって決し、可否同数の時は、議長の決するところとする。

理事会、運営理事会もこれに準ずる。

【議事録】

第19条 総会の議長はその総会に於いて、書記及び議事録署名委員2名を選任するものとする。また、その議事録は総会終了後、広く会員に広報するものとする。

第五章 理事会

【構 成】

第20条 理事会は理事をもって構成する。

【権 能】

第21条 理事会は次の項目を審議する。

- (1)総会に付議すべき事項
- (2)総会の決議した事項の執行に関する事項
- (3)その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

【開 催】

第22条 理事会は通常理事会と臨時理事会の2種とし、通常理事会は年3回開催する。

【招 集】

第23条 理事会は理事長が招集する。

【議 長】

第24条 理事会の議長は出席理事の中から選出する。

第六章 運営理事会

【構 成】

第25条

- (1)本会に運営理事10名以上20名以内を置くことができる。
- (2)運営理事は、学年代表理事及び支部代表理事をもって選任される。
- (3)運営理事会は理事長、副理事長及び運営理事をもって構成する。

【権 能】

第26条

- (1)運営理事会は理事会から選任された事項及び緊急に処理すべき事項を決議し、執行する。

■同志社グリークラブOB会会則

(2)運営理事会に於いて議決した事項のうち重要事項に関しては理事会に報告し、その承認を得なければならない。

(3)運営理事会は必要に応じて、特別委員会を設置することが出来、広く会員の中から当該委員を任命することが出来る。

【招 集】

第27条 運営理事会は理事長が招集する。

第七章 支部

【支 部】

第28条

- (1)本会は支部を置くことができる。
- (2)支部の名称はその所在地方名により、「同志社グリークラブOB会〇〇支部」と称する。

【設立要件】

第29条

- (1)支部設立については都道府県を単位とするか、または近隣の複数地域を単位とすることが出来る。ただし原則として、一支部は10名以上の会員が活動可能であることを要す。
- (2)各支部の活動は本会の目的に準ずる。

【届出承認】

第30条 支部を設立する時は支部所在地、代表者名、支部代表理事名、会員名簿を会長に提出し、理事会の承認を得なければならない。

第八章 OB合唱団

【名 称】

第31条

- (1)本会の合唱団をクローバークラブと称する。
- (2)各地のクローバークラブの名称は、その所在地方名により、「〇〇クローバークラブ」と称する。

【代表及び活動】

第32条

- (1)クローバークラブの代表は会長がこれを務める。
- (2)本会の事業として合唱活動を行う時は、本会が各クローバークラブを統括する。

【設立要件】

第33条

- (1)クローバークラブの団員は同志社グリークラブOB会会員により構成される。ただし、各クローバークラブの運営規則により本会会員以外のものも団員とすることが出来る。
- (2)各クローバークラブの設立については、都道府県または近隣の複数地域を単位とし、一つのクローバークラブは10名以上の団員が活動可能であることを要する。
- (3)各クローバークラブの活動は本会の目的に準ずる。

【届 出】

第34条 各クローバークラブを設立する時は、所在地、団長名を会長に届け出るものとする。

【内 規】

第35条 各クローバークラブの運営規則は、各クローバークラブが定める。

第九章 会計

【会計年度】

第36条

- (1)本会会計年度は4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。

【費 用】

第37条

- (1)予算以外に特別に費用を要する事が生じた時は、理事会が別に定める。
- (2)各支部及び各クローバークラブの会計は独立とする。

第十章 補則

【細 則】

第38条 本会施行についての必要細則は別に運営理事会において定め、総会の承認を得て施行する。

附 則

本会則は1996年4月1日より施行する。

〔*:1999年4月25日 一部改正(第8条)〕

30

年会の経緯について

今やすっかりOB会行事の恒例となっている30年会であるが、
発案は昭和27年卒の諸氏によるものである。

「グリークラブ卒業 30・40・50周年記念の集い」について

都木直文(昭和27年卒)



誰が言い出したか「クローバークラブの練習や演奏会などで会うのはいつも同じ顔ぶれ、一度遠方の皆へも呼びかけて同期会をやろうじゃないか」ということになり、その後も世話人をつとめることになる藤戸、土肥、今西、都木の4名が集まって打ち合せ、早速招集をかけて確か昭和56年4月某日、12名が出席して大阪北区の東洋ホテルで卒業以来初の同期会を行った。

その席上「来年はグリーを卒業して30年、いわば同じ釜の飯を食った先輩、後輩へも呼びかけて記念の集いをやろう」ということになり、その結果、昭和57(1982)年4月24日、ホテルフジタ京都に於いて、昭和25,26,28年卒の方々の出席を得て「卒業30周年記念の集い」を催した。同期の出席は前年と同じ12名であった。

いつの頃からか「30年会」と称して、卒業30年の学年が主催者となり、その前後3学年、計7学年が出席、その年に30年会を卒業する先輩に記

念品などを贈り「春の調べ」で送り出すというフェアウェル・コンサートの再現など、われわれが始めた卒業(現在は卒団という)30年の集いが、今やOB会の中でユニークな素晴らしい会に発展し引き継がれていることを嬉しく思っている。

我々27年卒は当初20年後の数字としてキリが良い50周年を考えたが、「この10年間に真砂、山口両君、その前に村上君の合わせて3名が亡くなっている。やっぱり40周年をやろう」ということになり、「卒業40周年記念の集い」を平成4(1992)年10月17日、ホテル阪神・クラブ・スターライトで、昭和12年卒の大先輩から31年卒の先輩・後輩方と同伴夫人5名を含め55名のご参加を得て行った。27年卒は13名中12名の出席であった。

平成14(2002)年11月2日、ホテル阪急インターナショナルに於いて「卒業50周年記念の集い」を催した。集いには昭和18年卒の大先輩を始め先輩10名、後輩20名、27年卒9名(体調・仕事などの都合で欠席4名)同夫人などを含めて計48名の皆様が駆けつけて頂き、お陰様で大きな節目である卒業50年の集いを無事終えることができたことを有難く思っている。

ところで、27年卒の16名は、戦争末期の昭和20年春に工業専門学校(当時)へ入学したもののから25年に大学3年編入の者まで多岐にわたるが、この時期の社会は、まだ敗戦と戦後の後遺症を色濃く残しており、同志社でも昭和23年、新制大学が発足するなど学制改革の過程にあり、そんなことがあってグリー同期生と言っても、その在部期間は2年から7年となっている。

次の周年行事の60周年はともかく、3年後に「是非55周年を」との声があり、何とか実現できればと願っている。

30年会在定着し始めるにつれ、会は盛大になっていったが、同時に参加者の定義があいまいになっていた。そこで、昭和38年卒の30年会より、「当該学年を中心として前後3学年」に限定され、現在の30年会の姿ができあがった。

30年会のこと

田村康浩 (昭和38年卒)



卒業30年を記念して、前後の学年を交えパーティーを催された。そんな話を聞いたのは今から22年前の春だったと記憶する。その年、1982年は、片桐哲先生が天に召された年だから、忘れられない事となった。

数年後、私たちの年にも案内が来るようになり、参加する同期生もあった。

当時は、当番学年により、呼びかける学年にも幅があり、前後3学年にこだわらず、少し離れた先輩や、知人も誘われていたようだ。

一度二度と参加するうち、30年会在OB会において大きな意味と力を持つことになってきたことに気づいた。

卒業して30年、年齢では50歳を少し過ぎ、仕事の上でも一番脂ののった年代、OB会にもまた、現役グリーにとっても頼りになる学年の集まりだからだ。

こんな素晴らしい会を考えついた人には大きな感謝を申し上げたい。OB会でも公認された30年会。次の年が当番学年という年、私たち38年卒の同期生は、それ迄に多くが参加した。

来年どうしよう、そんな話になった。まず、案内する人、学年を絞った。1回生に時の最上級生から、自分たちが最上級生の時の1回生迄の7学年に限ろう、ということになった。

当番学年は最下級生と最上級生の両方を、その日再体験できる。何より出席者全員をグリークラブを通じて知っている。

当番学年を介して新たな先輩後輩の繋がりが生まれ、OB間の和が広まるように思える。

20年会では少し若い、40年会では一寸バラつく。それぞれ楽しみはあるけれど、30年会は、OB会のパワーの中心としても力強く育ち続けて欲しいと願っている。

●30年会の軌跡

項目	日時	場所	幹事学年	備考
第1回	1982. 4.24	ホテルフジタ京都	S27年卒	出席者S25卒～S28卒
第2回	1983. 3.26	ホテルフジタ京都	S28年卒	出席者S26卒～S29卒、他先輩多数
第3回	—	—	S29年卒	30年会在未開催(40年会在1994.11.27からすま京都ホテル)
第4回	1985. 9.28	ホテル日航大阪	S30年卒	
第5回	1986.10.11	ホテルサンフラワー京都	S31年卒	
第6回	1987.10.10	京都グランドホテル	S32年卒	
第7回	1988.10. 8	大阪梅田 新阪急ホテル	S33年卒	出席者S30卒～S36卒(57名)
第8回	1989.11. 4	新島会館	S34年卒	参加者98名
第9回	1990.10.14	しょうざん	S35年卒	前日第21回竹馬会(京都 東山 松葉亭)
第10回	1991.11.16	京都年金基金センター「らんざん」	S36年卒	出席者61名
第11回	1992.10.17	京都 新阪急ホテル	S37年卒	第1回40年会在開催(1992.10.17ホテル板神クラブスターライト)
第12回	1993.11.14	新島会館	S38年卒	参加学年を幹事学年を軸とした前後各3学年に限定
第13回	1994.10.23	ホテルフジタ京都	S39年卒	
第14回	1995.11.12	新島会館	S40年卒	出席者S37卒～S43卒(70名)
第15回	1996.11.17	新島会館	S41年卒	出席者S38卒～S44卒(97名)
第16回	1997.11. 9	新島会館	S42年卒	
第17回	1998.11.22	からすま京都ホテル	S43年卒	
第18回	1999.11.14	都ホテル	S44年卒	
第19回	2000.10.22	都ホテル	S45年卒	
第20回	2001.11.11	都ホテル	S46年卒	
第21回	2002.11.17	都ホテル	S47年卒	第1回50年会在開催(2002.11.2 ホテル板急インターナショナル)
第22回	2003.12. 6	しょうざん	S48年卒	
第23回	2004.10. 9	新島会館	S49年卒	

40

30年会から40年会、そして50年会へ

グリークラブ100年の歴史において、30年会は各学年にとって一つの「節目」であることはもちろんであるが、30年会にとどまらず、さらに40年会、50年会と輪は広がってきている。

卒業40周年記念の集い

藤戸 武(昭和27年卒・故人)



「グリーを卒業して40年目になるんやけど、何かやるの?」

「そういえば卒業30年の会を京都のホテルフジタでやってからもう10年経ったわけか」

「数字としてはキリがよいのは50だろうけど、10年後になるヨ」

「あと10年というと人数が減るかもネ。まず僕自身、自信ないナ」

「この10年間に真砂君と山口君の2人、その前に村上君、あわせて3人が亡くなっている」

「じゃあ、やっぱり40周年記念をやるか」

「よし、やろう!!」

こんな具合にして私達昭和27年卒業者の卒業40周年記念行事の準備が始まったのでした。

そして平成4年10月17日午後4時、大阪梅田・ホテル阪神クラブスターライトに昭和12年卒から31年卒まで、同伴夫人5人・特別参加のオッカケ(?)女性3人を含めて55人の皆様に賑々しくご参加頂きました。

今西君[27年学年理事]の司会で、土肥君[元幹事長]の開会挨拶、OB会を代表して長島先輩[副会長・24年卒]の御挨拶、物故者へ黙祷を捧げた後、藤井先輩[12年卒]の発声で乾杯して祝宴。

宴半ばにして27年卒の面々の顔見世を皮切りに大先輩や特別参加者のスピーチ:アームスト大学を事細かに紹介して来年のメモリアルツアーのアピールして下さった柳原先輩[15年卒]、この会のために準備した曲集を掲げて「グリークラブ卒業」とは書いてあるが大学卒業とは何処にも書いてない」と変な贅辞を頂いた前窪先輩[18年卒]、「我々は元海軍の体験者で…」と飛び出して来られた沖口[21年卒]、野澤[?], 山本[24年卒]の三先輩等々、先輩程ハッスルしておられたようで、私達主催者としても嬉しい事でした。

続いて「希望の島」を始めナツメロの合唱、各卒業年度毎に参加者の御紹介、アッという間に予定の時間が経ってしまいました。締め括りは内山先輩[21年]の指揮で「DOSHISHA COLLEGE SONG」(久々の1番、2番)を高らかに歌い、遠藤先輩[OB会副会長・昭和17年卒]のリードによる「DOSHISHACHEER」でめでたくお開きとなりました。

こうして私達の卒業40周年記念の意義を、より深めて下さった方々に厚く御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。また、世話人の皆さんご苦勞様でした。

ところで、昭和27年卒は16人、物故者3人で現在13人ですが、コンクールの審査や何やでどうしても出席できないひとが1人あって出席率は100%は惜しくも逃したものの、13人中12人が出席。これはナカナカのものでありました。

「グリーサルーン Vol.26 1993.2.26より」



卒業50周年記念の集いを終えて

都木 直文(昭和27年卒)

2002年11月2日「卒業50周年記念の集い」を大阪北区のホテル阪急インターナショナル・花風の間で行いました。

当日は昭和18年卒の大先輩を始め先輩方10名、後輩方20名、同期9名及び同伴の夫人方7名、そして特別参加の女性2名の計48名の皆様が、北は仙台、西は九州田川市など各地から駆けつけご参加くださり、本当にありがとうございました。

午後6時、今西君(S27年卒)の司会で始まり、まず同期を代表して土肥君(元幹事長)の開会挨拶、続いて遠藤先輩(S17年卒)が都合によりご欠席のため、急遽お願いした岡本先輩(S25年卒)からOB会を代表してご挨拶をいただき、物故者へ黙祷を捧げた後、前窪先輩(S18年卒)のご発声で乾杯し祝宴に入りました。

暫く和やかな歓談が続いたところで、27年卒一同が登場、それぞれよりグリー時代の思い出や近況などを報告。ここで織田先輩(S25年卒)の指揮で「希望の島・詩篇102篇」を合唱。

次いで「昭和17年に大阪の中学を卒業し同志社グリークラブに入学、22年に卒業のところが、終戦で同志社も混乱しており、もうお前は卒業しろと21年9月に追い出された。やはり若い頃の思い出はグリー

をおいて他にない」と仰る沖口先輩(S21年卒)ほか長島先輩(S24年卒)や戸所(S28年卒)大橋・河上(S30年卒)の諸君、そして前窪夫人、特別参加の上阪さんから楽しい心温まるメッセージをいただきました。また、再来年に創立100周年を迎えるグリークラブの松岡幹事長から、お祝いのメッセージが届けられたのは大変嬉しいことでした。現役とOBの交流が今後とも更に活発になって行くことを願う次第です。

この間に、磯谷君(S28年卒)と同夫人によるウクレレとフラダンスや、大河内(S28年卒)赤井・中島(S30年卒)辻(S33年卒)の諸君によりパーバーストップ・メロディのクワルテットが披露され、パーティを大いに盛り上げてくれました。

集いも終わりに近づいたところで、来年50周年を迎える28年卒への引継式が行われた後、寺本君(S29年卒)の指揮により「春の調べ」と「カレッジソング」を歌い、長島先輩のリードによる同志社チアード、私達の卒業50周年の集いはめでたく幕を閉じました。さきに卒業30周年・40周年を行い、そして今年は50周年という大きな節目を迎えて、多くの皆様のお蔭をもちまして記念の集いを無事終えることが出来感謝しております。

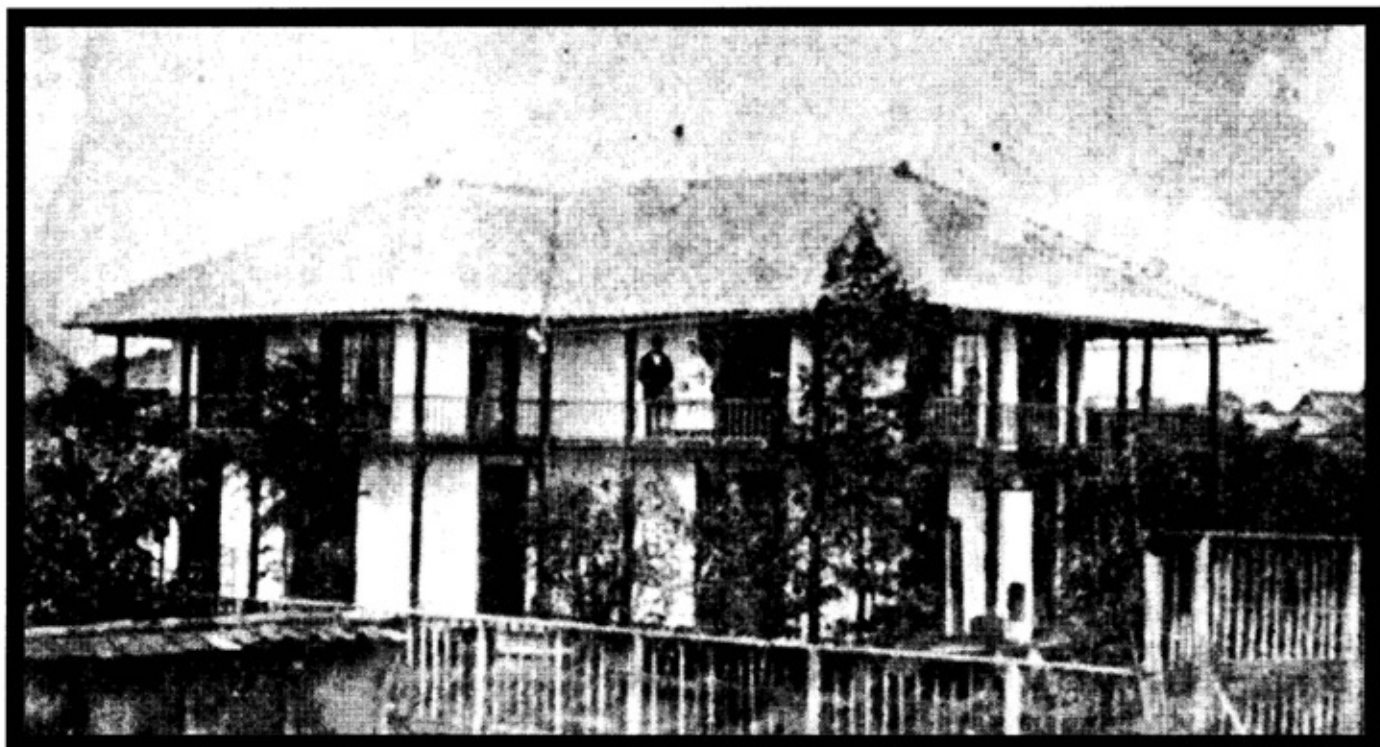
私達の時代の社会は、まだ戦後の後遺症を色濃く残しており、同志社では昭和23年春に新制大学がスタートするなど学制改革の過程にあり、そんなこともあって、同期卒業と言ってもグリー在部期間が2年から7年と区々になりました。比叡山や宮津・浜寺での合宿、毎年のコンクール出場、



ライブ音楽会、立教との交歓会や各地への演奏旅行、殊に26年には翌年発足の四連演奏会の足掛りとなった初の慶応ワグネルとの交歓演奏会や外食券持参の戦後初の16日間にわたる東北・北海道演奏旅行を実現するなど、あのモノもカネもない時代でありましたが、充実した思い出の多いグリー生活を送ることができたことを、幸せに思っております。

「グリーサロウン Vol.57 2003.2.5より」





烏丸会館（グリークラブ部室）

グリークラブの部室として永く利用された「烏丸会館」と呼ばれる建物があった。烏丸今出川下ル西入ルに建ち、上の写真に見るように木造二階建コロニアル風の洋館であった。

現在この場所には、YMCA青少年センターが建っている。

京都YMCA70年史によると、この烏丸会館は同志社創立の際に新島襄を助け、また京都YMCA創立者の一人でもあった宣教師デビスの私邸として明治11年(1878年)に建築され、昭和40年頃までその姿を見ることが出来た。昭和27年頃、グリークラブの指導を頂いていたOBの湯浅永年氏(大正10年卒・女子大教授)がその2階に住まわれており、現役メンバーがよく出入りしていたことから、1階の広さ約10畳程の1室を借り受け、昭和37年9月頃まで部室として利用させてもらっていた。

部屋には、ソファーや戸棚が並び委員会を開くことが出来るほどの広さであった。

また、昭和27年4月頃よりグリークラブによる利用が始まったことが「グリークラブ時報第2号」から読み取ることができる。

部屋の窓から

矢 是 榮 士

今春から出来た私たちの部屋、御所の木立を底い土堀こしに眺められる部屋。

部屋が出来てから、学校へゆくということになにかしら安心感に似たものが感じられるようになった。そこに行けばいつも見なれた顔や口がある。それに何より有難いことに、そこに行き来へすれば、唱う事が出来る。毎日窓から唱う声が聞えている。

窓の向うに畑があるが、土地所有者と相談してお花畑乃至花壇を造る事になり、毎日美しく咲いた花が見られるのもさう遠い事ではないと思う。

所が部屋関係者がさうやって毎日少しもきれいにしようと思つて走りまわっているのに一般メンバーが一向に平氣でいるのが残念である。もつと皆できれいに、器物を破損しないように細心の注意を払つてほしい。

部屋そのものがもつと本格的に軌道にのつたら、私たちの生活のオアシスになるだろう。

その日の一日も早からんことを希う

(部屋管理長)

同志社グリーン・クラブ時報

昭和二十七年五月廿二日印刷
昭和二十七年五月廿五日発行

社 長 品

発行人 山 田 虎 参

編輯人 河 上 文 久

発行所 同志社グリーン・クラブ

京都市上京区烏丸通今出川下ル
烏丸会館内 電話四一五七三

▽ Glee Club 創立81年～100年のあゆみ

創立81年

1985年(昭和60年)



この年の春は、3月29日にミスユニバース日本代表選考会(ザ・シンフォニーホール)、5月2日には11PM(よみうりTV)とテレビ出演が続いた。

6月5日、第11回同志社・関学交歓演奏会が大阪フェスティバルホールにて行われ、6月8・9日には、第34回東西四大学合唱演奏会が東京厚生年金会館大ホール・東京文化会館大ホールで行われた。同志社グリーク

ラブはガエターノ・ドニゼッティ(Gaetano Donizetti)作曲の詩篇51による宗教曲「Miserere」を福永陽一郎氏の編曲・指揮で本邦初演した。

7月30日～8月2日、広島・大分・佐賀・福岡への演奏旅行を行った。最終日の福岡では電気ホールにおいて九州大学コールアカデミーとのジョイント・コンサートが行われた。この年の夏合宿は長年慣れ親しんだ野尻湖畔を離れ、志賀高原で行った。

11月3日、大阪フェスティバルホールにおいて第

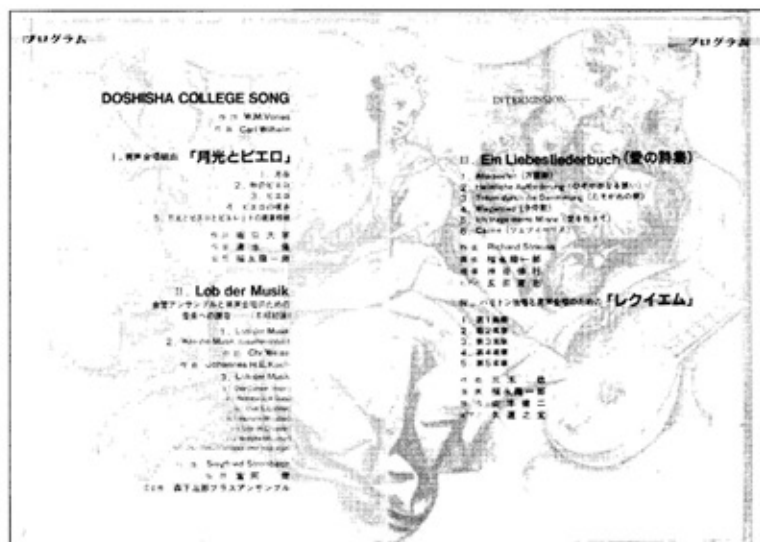
12回関西六大学合唱演奏会が行われた。単独ステージではリヒャルト・シュトラウス(Richard Strauss)歌曲集「Ein Liebesliederbuch(愛の詩集)」を演奏し、合同では小松一彦氏指揮、関西フィルによる管弦楽伴奏でケルビーニ(Cherubini)作曲「Requiem d-moll」とアンコールとしてシベリウス(Siberius)作曲「交響詩Finlandia」を合唱付きで壮大に演奏した。

12月20日、ザ・シンフォニーホールにおいて第81回定期演奏会を開催した。この年は戦後40年にあたり、三木稔作曲「バリトン独唱とピアノのためのレクイエム」を福永陽一郎氏の指揮、久邇之宣氏のピアノ、山本健二氏の独唱で演奏した。また富岡健氏の指揮、森下治郎プラスアンサンプルの伴奏でジークフリート・シュトロバッハ(Siegfried Strohbach)作曲「Lob der Musik-金管アンサンブルと男声合唱のための音楽への讃歌-」他を本邦初演した。

この演奏会では男声合唱組曲「月光とビエロ」も福永氏の指揮で演奏された。この年の「月光とビエロ」は、それまでの同志社グリーがあまり得意でなかったアンサンプルの基礎を固める為のレパートリーとして、学生指揮者神谷伸行が春の同関交歓演奏会から通年で練習してきた曲であった。福永氏から「滅多にない音程の良い澄み切ったハーモニー」と評される演奏であった。

12月24日、第21回全同志社メサイア演奏会が京都会館第1ホールで行なわれた。

昭和61年 尾池 智治



創立82年

1986年(昭和61年)

正月明け1月10日、目前に迫った「第2回ヨーロッパ演奏旅行」に向けた練習を3年生以下で開始。宗教曲、現代曲、愛唱歌など20タイトルあまりを準備。

また、この年の4月からスタートする同志社大学田辺キャンパス開校に伴い、少しでも練習の効率をあげるために田辺、今出川校地双方から通いやすい丹波橋近辺での練習もできるよう公民館等の新しい練習場も探し、確保した。

1月末よりフェアウェル練習も平行して開始し、2月15日学生会館ホールにて「同志社グリークラブ創立81周年卒業生のためのフェアウェルコンサート」を行い、26名の先輩を送り出した。

2月20日、待望の「第2回ヨーロッパ演奏旅行」を挙行。西ドイツ4都市(マインツ、マンハイム、ハイデルベルグ、デュッセルドルフ)、東ドイツ3都市(東ベルリン、ドレスデン、ライプツヒ)、そしてスイス3都市(バーゼル、チューリヒ、リシュリコン)を歴訪し、あわせて11回の演奏会を実施。音楽の源泉に触れ、またスイスではホームステイのチャンスにも恵まれ異文化にも存分触れられた22日間であった。因みに当時は、まだ「ベルリンの壁」が完全に現存しており、その意味でも貴重な体験であった。

帰国直後に卒業式に例年同様参列、あわただしく春合宿へ突入。4月5日、田辺キャンパス開校に伴う田辺校地での初めての入学式に参列。同時に「新入部員勧誘」を実施、苦戦が予測されたが、30数名が4月19日の対面式を迎えた。

6月21日、大阪フェスティバルホールにて「第35回東西四大学合唱演奏会」が行われ福永陽一郎先生のもと、「ドイツ民謡集」をアカペラで歌い上げた。

またこの年は同志社グリークラブOB会創立10周年にあたり、7月6日OB会主催の記念演奏会にて上記「ドイツ民謡集」およびOB・現役合同では「男声合唱組曲 柳川風俗詩」を演奏した。

夏の演奏旅行は、1年生のデビューステージを兼ねて、8月3日、名古屋において「同志社・上智大学グ

リークラブジョイントコンサート」を実施。地元の大学合唱団のバックアップのおかげで無事成功をおさめた。

8月末に長野県飯山で夏合宿を実施。

9月13日、東京厚生年金会館大ホールにて「福永陽一郎還暦記念コンサート」を実施。これは、「陽ちゃん先生」にご指導いただいている8つのアマチュア合唱団体と1つの市民交響楽団

で先生の還暦を合同で祝うコンサート。500名あまりの合同ステージは、シベリウス作曲「交響曲フィンランド」。あらためて、みんなに心から尊敬されている「陽ちゃん先生」の偉大さを痛感したひと時だった。

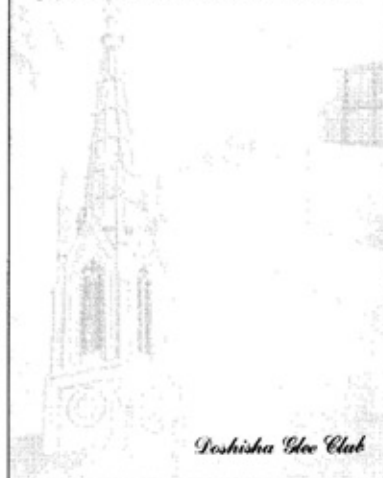
11月2日、「第13回関西6大学合唱演奏会」を大阪フェスティバルホールにて実施。合同曲は関屋晋先生指揮で男声合唱曲「岬の墓」を演奏した。

12月20日、大阪ザ・シンフォニーホールにて第82回定期演奏会を行った。

また今年も1年の締めくくりとなる第22回全同志社メサイア演奏会を12月24日、京都公会堂第一ホールにて実施。指揮者は小泉ひろし先生でおこなった。

昭和62年卒 高梨 純

The 82nd Annual Concert



プログラム		プログラム	
DOSHISHA COLLEGE SONG		7 Negro Spirituals	
1. Missa O Magnum Mysterium		作曲: M. S. Bartholomew	
作曲: T. L. de Victoria		1. Hallelujah	
編曲: 高梨 純		2. Little Amen Break	
1. Kyrie		3. Let Us Then Break Together	
2. Gloria		4. I Got My Tongue Out 'n' My	
3. Credo		5. Sometimes - Four Little & Adorable Chords	
4. Sanctus		6. The Battle of Jericho	
5. Benedictus		7. My Lord What a Mighty	
6. Agnus Dei		8. Don't My Lord, Deliver Us	
8. 男声合唱組曲「雨」		9. 独奏「タンホイザー」より	
作曲: 菅 隆		作曲: R. Wagner	
編曲: 高梨 純		編曲: 高梨 純	
1. 雨の来り		2. 雨の来り	
2. 雨の来り		3. 雨の来り	
3. 雨の来り		4. 雨の来り	
4. 雨の来り		5. 雨の来り	
5. 雨の来り		6. 雨の来り	
6. 雨の来り		7. 雨の来り	
7. 雨の来り		8. 雨の来り	
8. 雨の来り		9. 雨の来り	
9. 雨の来り		10. 雨の来り	
10. 雨の来り		11. 雨の来り	
11. 雨の来り		12. 雨の来り	
12. 雨の来り		13. 雨の来り	
13. 雨の来り		14. 雨の来り	
14. 雨の来り		15. 雨の来り	
15. 雨の来り		16. 雨の来り	
16. 雨の来り		17. 雨の来り	
17. 雨の来り		18. 雨の来り	
18. 雨の来り		19. 雨の来り	
19. 雨の来り		20. 雨の来り	
20. 雨の来り		21. 雨の来り	
21. 雨の来り		22. 雨の来り	
22. 雨の来り		23. 雨の来り	
23. 雨の来り		24. 雨の来り	
24. 雨の来り		25. 雨の来り	
25. 雨の来り		26. 雨の来り	
26. 雨の来り		27. 雨の来り	
27. 雨の来り		28. 雨の来り	
28. 雨の来り		29. 雨の来り	
29. 雨の来り		30. 雨の来り	
30. 雨の来り		31. 雨の来り	
31. 雨の来り		32. 雨の来り	
32. 雨の来り		33. 雨の来り	
33. 雨の来り		34. 雨の来り	
34. 雨の来り		35. 雨の来り	
35. 雨の来り		36. 雨の来り	
36. 雨の来り		37. 雨の来り	
37. 雨の来り		38. 雨の来り	
38. 雨の来り		39. 雨の来り	
39. 雨の来り		40. 雨の来り	
40. 雨の来り		41. 雨の来り	
41. 雨の来り		42. 雨の来り	
42. 雨の来り		43. 雨の来り	
43. 雨の来り		44. 雨の来り	
44. 雨の来り		45. 雨の来り	
45. 雨の来り		46. 雨の来り	
46. 雨の来り		47. 雨の来り	
47. 雨の来り		48. 雨の来り	
48. 雨の来り		49. 雨の来り	
49. 雨の来り		50. 雨の来り	
50. 雨の来り		51. 雨の来り	
51. 雨の来り		52. 雨の来り	
52. 雨の来り		53. 雨の来り	
53. 雨の来り		54. 雨の来り	
54. 雨の来り		55. 雨の来り	
55. 雨の来り		56. 雨の来り	
56. 雨の来り		57. 雨の来り	
57. 雨の来り		58. 雨の来り	
58. 雨の来り		59. 雨の来り	
59. 雨の来り		60. 雨の来り	
60. 雨の来り		61. 雨の来り	
61. 雨の来り		62. 雨の来り	
62. 雨の来り		63. 雨の来り	
63. 雨の来り		64. 雨の来り	
64. 雨の来り		65. 雨の来り	
65. 雨の来り		66. 雨の来り	
66. 雨の来り		67. 雨の来り	
67. 雨の来り		68. 雨の来り	
68. 雨の来り		69. 雨の来り	
69. 雨の来り		70. 雨の来り	
70. 雨の来り		71. 雨の来り	
71. 雨の来り		72. 雨の来り	
72. 雨の来り		73. 雨の来り	
73. 雨の来り		74. 雨の来り	
74. 雨の来り		75. 雨の来り	
75. 雨の来り		76. 雨の来り	
76. 雨の来り		77. 雨の来り	
77. 雨の来り		78. 雨の来り	
78. 雨の来り		79. 雨の来り	
79. 雨の来り		80. 雨の来り	
80. 雨の来り		81. 雨の来り	
81. 雨の来り		82. 雨の来り	
82. 雨の来り		83. 雨の来り	
83. 雨の来り		84. 雨の来り	
84. 雨の来り		85. 雨の来り	
85. 雨の来り		86. 雨の来り	
86. 雨の来り		87. 雨の来り	
87. 雨の来り		88. 雨の来り	
88. 雨の来り		89. 雨の来り	
89. 雨の来り		90. 雨の来り	
90. 雨の来り		91. 雨の来り	
91. 雨の来り		92. 雨の来り	
92. 雨の来り		93. 雨の来り	
93. 雨の来り		94. 雨の来り	
94. 雨の来り		95. 雨の来り	
95. 雨の来り		96. 雨の来り	
96. 雨の来り		97. 雨の来り	
97. 雨の来り		98. 雨の来り	
98. 雨の来り		99. 雨の来り	
99. 雨の来り		100. 雨の来り	

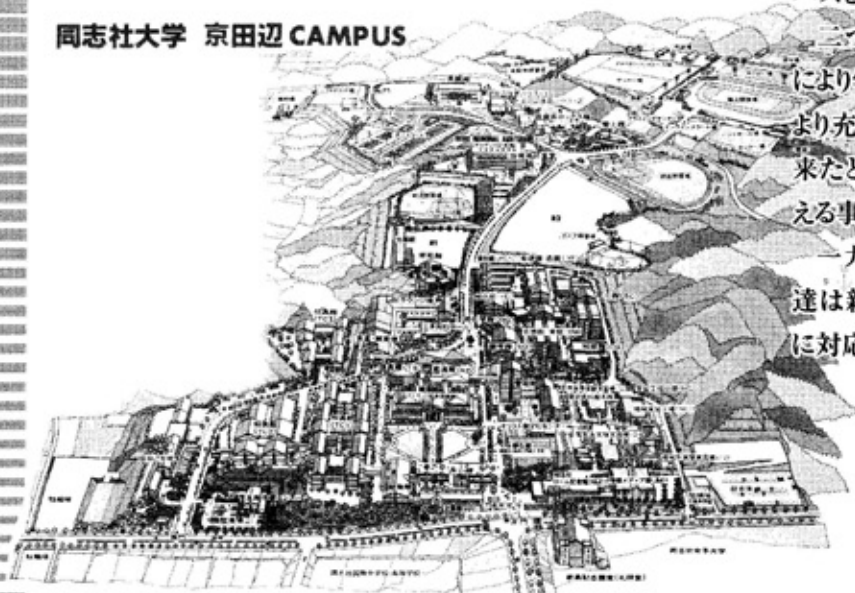
同志社グリークラブ創立 81年～100年のあゆみ



京阪奈丘陵に広がる田辺キャンパスは、一九八六年に開校し現在一万三千人の学生が学んでいる。東西千二百m、南北八百mの敷地総面積は七九万（隣接の同志社女子大学、国際中学校・高等学校を含めると百万）㎡で、学内に点在する古代古墳遺跡は文化財として保存されている。

伝統に培われた風格のある今出川キャンパスに対し、広々とした自然環境の中にとけ込むようにたたずむ田辺キャンパスは、いかにもアーモスト大学のキャンパスを彷彿とさせる。

同志社大学 京田辺 CAMPUS



二つのキャンパスを持つことにより学生達のキャンパスライフは、より充実し幅を持たせる事が出来たと同時に、新たな課題を抱える事となったことも事実であろう。

一九八六年以降のグリーメン達は新たな環境の変化に柔軟に対応し続けている。



同志社大学
今出川 CAMPUS

今出川と田辺 「二つの練習場を持つグリークラブの課題」

今から約20年前、1986年春に、同志社大学京田辺キャンパスが出来たことにより、1・2回生と3・4回生が京田辺と今出川の両キャンパスに分断され、同志社グリークラブの活動に大きな影響を与えたことは想像に難くありません。

今でこそ今出川、京田辺両校地に分かれ、互いに行き来しあうことで活動しているということは、部員にとってごく自然にうけとめてられています。やはり、2校地に分断された当時は、分断されたことによる練習の方法、時間、回生間によるコミュニケーションなど様々な問題が生じ、先輩方の苦勞は計り知れない程大きかった事でしょう。

先に述べた問題について具体的に述べますと、まず1つ目に挙げられるのが、両校地間の移動における金銭的な問題です。工学部を除く3～4回生は今出川から京田辺へ、そして1～2回生と工学部生は京田辺から今出川へと近鉄、地下鉄を乗り継ぎ練習場へと足を運ぶのでありますが、交通費が馬鹿にならないほどかかってしまい、部員の金銭的負担が大きく、中には地下鉄を利用せず、自転車をこいで今出川に来る部員もいます。自転車を利用することに関しても、駐輪場所や盗難、また事故などの問題があります。しかしこのような2校地間移動の問題も近い将来解決される案が浮上しました。それは、大学側の運営による2校地間移動バスです。バスが運行されるようになれば部員の負担も減ることでしょう。

2つ目に挙げられるのが練習の参加率の問題です、やはり学生の本業は勉強であり、今年からは試験におけるGPA制度(試験の放棄が認められず、単位が取れなかった場合にも卒業時における平均点に換算される)が導入され、授業が5、6、7時間限にあると、どうしても練習開始に間に合わなかったり、休まなければいけない事があり、な

かなか練習がはかどらない事も度々あります。グリーをとるか、授業をとるかで部員の中にも様々な考え方がある中で、練習場の割り振りや、練習時間の変更等、改善策はあると思うので、皆が万全の態勢で練習に臨める形をこれから模索していきたいと思っています。

3つ目の問題点として、校地の分割により、1～2回生と3～4回生間のコミュニケーションを図る機会が減ってしまったことが挙げられます。個々でみると問題はないのですが、やはり偏りがありクラブ全体として見てみると全員がうまくコミュニケーションをとっているとは言えない現状があることは事実です。いくら練習で顔を合わしているとはいえ、練習外の時間と比べると微々たるものです。いかに部員同士の絆を深められるかは練習外の場にあるといっても過言ではないかと思います。

時代の移り変わりと共に学生気質、部員の考え方も変わりつつありますが、グリークラブの根底に流れるグリー魂というものはいつの時代も変わらないと断言できます。今後も2校地による問題、困難に出くわすかもしれませんが、偉大な先人たち、また先輩達が築きあげてきた同志社グリークラブという不変の存在、部員の心にあるグリー魂を大事に、また誇りに思っ、100年にとどまらず、この先何百年も先の後輩達に繋げていけるように部員一同活動していきたいと思っています。

現役四回生 藤谷 真、二回生 元吉 圭太



同志社グリークラブ創立 81年～100年のあゆみ

創立83年

1987年(昭和62年)

DOSHISHA GLEE CLUB 83rd ANNUAL CONCERT



6月14日、フェスティバルホールにて、第12回同志社・関西学院グリークラブ交歓演奏会が行われた。指揮：武内和朋、ピアノ：長田育忠により、「男声合唱のための「季節へのまなざし」」(作詩：伊藤海彦、作曲：荻久保和明)、指揮：富岡健、ピアノ：長田育忠により「チャイコフスキー歌曲集」(編曲：福永陽一郎)を演奏した。関西学院を凌ぐ熱演となり、

今年度の同志社の評価が大いに高まることとなった。また、指揮：松尾葉子、ピアノ：大島義彰により「男声合唱とピアノのための「ゆうやけの歌」」(作詩：川崎洋、作曲：湯山昭)を合同演奏した。

6月20日、サントリーホールにて第36回東西四大学合唱演奏会(昼夜2回公演)が行われた。指揮：富岡健、ピアノ：久邇之宣により「チャイコフスキー歌曲集」(編曲：福永陽一郎)を演奏し、富岡氏は浣刺とした棒で、四連デビューを果たした。(合

同演奏は同関と同一)

7月5日、八幡市文化センター大ホールにて、第24回同志社・立教大学グリークラブ交歓演奏会が行われ、指揮：武内和朋により「男声合唱組曲「中原中也の詩から」」(作曲：多田武彦)、指揮：富岡健、ピアノ：長田育忠により「チャイコフスキー歌曲集」(編曲：福永陽一郎)を演奏した。また、指揮：皆川達夫により「Missa O Magnum Mysterium」を合同演奏した。

厳しいスケジュールの中、前期だけで5ステージにもおよぶ曲目を一定以上のレベルでこなしたことは、後期に向けての大きな自信となった。

11月3日、フェスティバルホールにて第14回関西六大学合唱演奏会が行われた。指揮：武内和朋、ピアノ：長田育忠により、「Nänie(哀悼歌) op.82」(作詩：Friedrich Schiller、作曲：Johannes Brahms、編曲：北村協一)を、また、指揮：朝比奈隆、管弦楽：大阪フィルハーモニー交響楽団により、本邦初演となる「Helgoland」(作曲：Anton Bruckner)を合同演奏した。

12月19日、超満員となったザ・シンフォニーホールにて第83回同志社グリークラブ定期演奏会を行った。学生指揮者による「Nänie(哀悼歌) op.82」、指揮・編曲：福永陽一郎、ピアノ：久邇之宣による、本邦初演となった「Hiawatha's Wedding Feast」(作詩：Henry Wadsworth Longfellow、作曲：Samuel Coleridge-Taylor)、指揮：富岡健、ピアノ：水谷彰子、独唱：手島由紀子、演出：花田英夫により、「オペレッタ「Merry Widow」より」(作曲：Franz Lehar、訳詩：野上彰、編曲：福永陽一郎)、指揮：福永陽一郎、ピアノ：久邇之宣により、「男声合唱とピアノのための「祈りの虹」」(作詩：峠三吉・金子光晴・津田定雄、作曲：新実徳英)が演奏された。満員の聴衆から、惜しめない喝采が贈られる感動的な定演となった。

12月24日、京都コンサートホール大ホールにて第23回全同志社メサイア演奏会(指揮：金洪才)が行われた。

昭和63年卒 武内 和朋

プログラム

DOSHISHA COLLEGE SONG

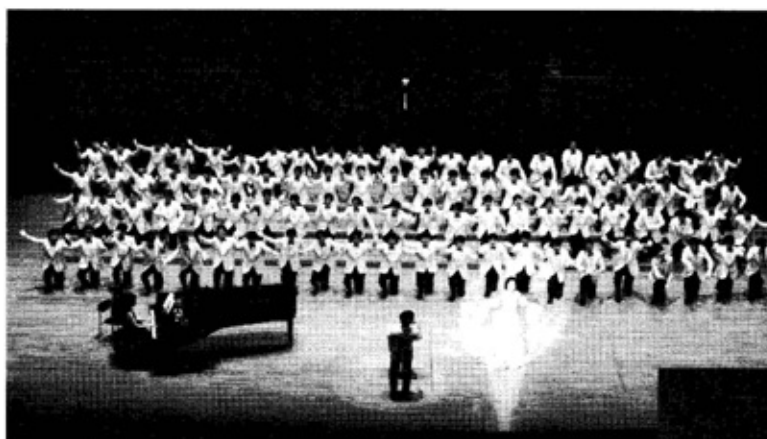
指揮：W.M. Vones
伴奏：Carl Wilson

I. 'Nänie' (哀悼歌) op. 82
作詞：Friedrich Schiller
作曲：Johannes Brahms
編曲：福永陽一郎
指揮：武内和朋
ピアノ：長田育忠

II. 'Hiawatha's Wedding Feast' (本邦初演)
作詞：Henry Wadsworth Longfellow
作曲：Samuel Coleridge-Taylor
編曲：福永陽一郎
指揮：富岡健
ピアノ：水谷彰子

III. オペレッタ 'Merry Widow' より
1. OLLI TOBACKE'S
2. VILVA LÉD
3. AGO DE ADELA
4. ROMANZE
5. FINALE
指揮：Franz Lehar
訳詩：野上彰
編曲：福永陽一郎
指揮：福永陽一郎
ピアノ：久邇之宣

IV. 男声合唱とピアノのための「祈りの虹」
作詞：峠三吉・金子光晴・津田定雄
作曲：新実徳英
指揮：福永陽一郎
ピアノ：久邇之宣



■第83回
同志社グリークラブ定期演奏会
1987年12月19日
ザ・シンフォニーホール



■第14回
関西六大学合唱演奏会
1987年11月3日
フェスティバルホール

■第36回
東西四大学合唱演奏会
1987年6月20日
サントリーホール



同志社グリークラブ創立 81年～100年のあゆみ

創立84年

1988年(昭和63年)



✧ Girl's

6月19日、フェスティバルホールにて、第37回東西四大学合唱演奏会が行われた。指揮：富岡健により「CHANTS D'AUVERGNE (オーヴェルニュの歌)」(オリジナル編曲：Marie-Joseph Canteloube de Maralet, 男声合唱編曲：福永陽一郎、チェレスタ、オーボエ、コントラバスの伴奏付き)を演奏し好評を得た。また、指揮：福永陽一郎に

より「ドイツ男声合唱曲集」(編曲：福永陽一郎)を合同演奏した。

7月28日、京都府立勤労会館にて、同志社グリークラブとテビュカンテリナ合唱団(スウェーデン)とのジョイントコンサートが行われた。

7月30日から8月2日にかけて演奏旅行を行った。(7月30日高松演奏会、7月31日讃岐丸船上コンサート、8月1日番城小学校音楽鑑賞会、8月2日宇和島演奏会、以上計4公演)

9月26日、フェスティバルホールにて行われたフィルハーモニア管弦楽団大阪公演(指揮：Guiseppe Sinopoli, 演目 Gustav Mahler作曲 交響曲第8番)に出演した。

11月3日、フェスティバルホールにて第15回関西六大学合唱演奏会が行われた。指揮：大島直哉、ピアノ：長田育忠により「Die Tageszeiten(いちにち)Op.76」(作詞：Joseph von Eichendorff、作曲：Richard Strauss、ピアノ編曲：Otto Ginger)を演奏した。また、指揮：洲脇光一により「スロヴァキア民謡曲集より」を合同演奏した。

12月17日、京都会館第1ホールにて、新島記念第9演奏会に出演した。

12月20日、シンフォニーホールにて、第84回同志社グリークラブ定期演奏会を行った。ステージ順に、指揮：福永陽一郎による「男声合唱組曲 わがふるき日のうた」(作詞：三好達治、作曲：多田武彦)、学生指揮者による「Die Tageszeiten」、指揮：富岡健による「合唱による風土記 阿波」(作曲：三木稔)、指揮：福永陽一郎、ピアノ：久瀬之宜、独唱：岡坊久美子、塚田康弘による「オペラ PORGYと BESSより」(作詞：DuBose Heyward, Ira Gerswin、作曲：George Gerswin、編曲：福永陽一郎)が演奏され、演奏会は成功裏に終了した。

12月24日、京都会館第1ホールにて行われた第

24回全同志社メサイア演奏会で多忙かつ多岐にわたった年内の活動を終了した。

平成2年卒 栗田陽一



創立85年

1989年(昭和64年・平成元年)

2月20～3月13日にかけて、第3回ヨーロッパ演奏旅行としてスイス・ドイツ・ギリシャ・フランスを歴訪し11回のコンサートを行った。(同行指揮者:富岡健)フランスでは、パリのサン・メリ教会にてフランス国立管弦楽団と共にフォーレのレクイエムを演奏し大好評を博した。(女声部は、現地の女声合唱団「ミモザ」)

6月15日、フェスティバルホールにて第13回同関交歓演奏会。6月24日には東京文化会館にて第38回東西四大学合唱演奏会が行なわれた。同志社グリークラブは福永陽一郎指揮により、「月光とピエロ」を演奏したが、演奏後、客席で聞いていた小林研一郎が全速力で駆けつけて来て、「陽ちゃん、凄かった。フルトヴェングラーになったんじゃない!…」と叫んだという逸話が伝えられている。のちに福永氏自ら「春のピエロ…同志社グリークラブにおける最高の演奏」と評した伝説的な出来映えとなった。(合同指揮は畑中良輔:ワーグナー・オペラ男声合唱曲集)

7月28日、福島県の平市民会館大ホールにおいて演奏会。

11月3日、フェスティバルホールにて第16回関西六大学合唱演奏会が行われた。同志社グリーはマーラーの「さすらう若人の歌」を熱唱。この年は恒例の六連運動会でも圧倒的な優勝を遂げており、関西学生合唱界において「向かうところ敵なし!」という圧倒的な評価を得る。(合同指揮は富岡健:「ラマンチャの男」)

11月5日、大谷ホールにて開催された同志社アニヴァーサリーコンサ

ートに出演した。

12月16日、ザ・シンフォニーホールにて第85回同志社グリークラブ定期演奏会が行なわれた。指揮:福永陽一郎氏、ピアノ黒澤美雪により「岬の墓」「ブロードウェイミュージカル名曲集」を演奏した。最終ステージにおける「飛び出し事件?」により、超満員の観客からはさらに大きな歓声がおこるほどの大盛況。しかし、福永氏のアンコール「Dixie」が福永陽一郎氏と同志社グリークラブという最高のコンビネーションでの最後の曲となった。(翌年2月に逝去)

12月24日、京都コンサートホール大ホールにて第25回全同志社メサイア演奏会が行われた。12月26日、小林研一郎指揮、京都市交響楽団の「炎の第九」に出演。

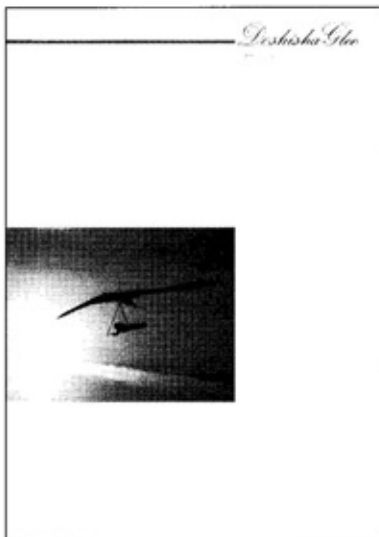
平成2年卒 伊東 恵司



PROGRAM	PROGRAM
DOSHISHA COLLEGE SONG 指揮 W.M. Varrie ピアノ Carl Wilkins I 同声合唱曲集 中 豊島由美子 1 旅立ち 2 春 3 春の歌 4 春の歌 5 春の歌 6 春の歌 7 春の歌 II 同声合唱曲集 中 豊島由美子 1 旅立ち 2 春 3 春の歌 4 春の歌 5 春の歌 6 春の歌 7 春の歌	III 同声合唱曲集 中 豊島由美子 1 旅立ち 2 春 3 春の歌 4 春の歌 5 春の歌 6 春の歌 7 春の歌 IV GREAT NUMBER FROM BROADWAY MUSICAL ブロードウェイミュージカル名曲集 1 OVER THE RAINBOW 2 INDIAN LOVE CALL 3 BEGIN THE BEGINE 4 NIGHT AND DAY 5 OKLAHOMA 6 OL' MAN RIVER

創立86年

1990年(平成2年)



福永陽一郎氏逝去!

平成2年2月10日、日本の音楽界に激震が走った。とりわけ同志社グリーにとっては、突然目の前が真っ暗になるような出来事であり、文字通り「羅針盤を失った船」のような状態であった。

丁度その1週間後、2月17日に同志社大学学生会館で行われた第85回卒団生のためのフェアウェルコンサートに福永氏から「春

のビエロ」という寄稿をいただいたが、それが遺稿となり、またその年の卒団生に氏から送る予定の曲であった美空ひばりの「川の流れるように」は2月9日に途中まで書き上げた原稿が残され、氏最後の編曲(未完成)となった。

6月24日大阪フェスティバルホールで行われた第39回東西四大学合唱演奏会(昼夜公演)では、福永氏が生前に選曲され、本来であれば氏に指揮していただく予定であった「莊嚴ミサ」(デュオ

バ作曲)を演奏した。

11月3日大阪フェスティバルホールで関西六大学合唱演奏会が行われた。合同曲は平田勝氏による「四つの仕事唄」(小山清茂作曲)を演奏した。

11月26日、大阪フィルハーモニー交響楽団の第252回定期演奏会に出演、大阪フェスティバルホールでベルリオーズ作曲の「ファウストの劫罰」を演奏した。指揮は福永氏と関係の深い若杉弘氏(滋賀県立芸術劇場くびわ湖ホール芸術監督、東京室内歌劇場芸術監督)であり、男声合唱のパートでは関学グリーとの「共演」となった。

12月18日はシンフォニーホールで第86回定期演奏会を行った。この演奏会は福永氏の追悼演奏会となり、福永氏と共に日本の男声合唱界を率いてこられた畑中良輔氏、福永氏を同志社グリーに技術顧問として招聘した浅井敬壹氏(グリー昭和37年卒)を客演指揮者に迎え、畑中氏の指揮で「Zigeunermelodien」Op.55(ドボルジャーク作曲)、浅井氏の指揮で「富士山」(多田武彦作曲)を演奏した。同志社グリーにとっては、畑中氏は初めて、浅井氏は80周年以来2回目のステージであった。またアンコールでは福永氏が2月のフェアウェルコンサートで指揮する予定であった「Mary Poppins」から「Feed the Birds」を演奏した。

12月24日、京都会館第一ホールで第26回全同

志社メサイア演奏会が行われた。

平成3年卒 竹内 正



Y.F (福永陽一郎先生)のこと～

伊東恵司(平成2年卒)

福永陽一郎は針金のように細い身体をしていた。ただ純粹に合唱を愛したこの音楽家は、死の前日まで音楽のために奉仕した。人工透析を続けながら指揮棒と青年の感性だけを持って人生を文字通り駆け抜けていったのである。あの日からもうどれくらい経つのだろう。思い出すのさえ嫌だったあの冬の寒い夜からもう10年以上の歳月が流れてしまったことになる…。

1989年、第38回東西四大学合唱演奏会で福永陽一郎は同志社グリークラブとの30年もの付き合いの総決算として「月光とピエロ」を指揮した。私は幸運にも学生指揮者として男声合唱の基本ともいえるこの組曲の下振りをすることが出来た。福永陽一郎はすでに5、6年に渡って人工透析を続けているという身体であったが、一時期の不調を乗り越え思い立ったように「ピエロをやろう…」と言った。そして私には小さくこう呟いた。「最近ようやく音楽が体から溢れるようになってきたんだよ…」

単純な和音だけで成り立っているこの曲を歌いこむことは複雑なリズムやアンサンブルを克服していくよりも随分難しい。学指揮としてのキャリアも浅かった私は詩を読み漁り、楽譜に書き込みを重ね、とりあえず先生の指示する練習をすることで精一杯だった。しかし、困難を乗り越えると合唱はかつて無い輝きを極め、後に福永陽一郎自身をして「春のピエロ～音楽の理想郷が出来た」と言わしめるものになった。6月の東京文化会館の演奏会では「堀口大学の詩と清水修の曲と福永陽一郎の音楽作りが渾然となって理想の境地に達した」と評された。当日早稲田グリーを振っていた小林研一

郎が全速力で走り寄ってきて、「陽ちゃん凄いいよ、フルトヴェングラーになったんじゃない!」と絶賛したことを、先生自身が子供のように嬉しそうに何度も話してくれた。



詩の中に刻みこまれているベシズムやくらい抒情性がどのような音の配列や調性になって表現されているかということは下振りとして随分勉強になったし、どうしてこの曲がこれほど歌われてもなお美しい輝きを失わないのかということは存分に思い知らされたような気がする。

しかし、どうしても忘れることの出来ないフレーズがある。「悲しいからずや、身はピエロ、月のやもめの父なし子…」に続く4曲目の3拍子「月はみ空に身はここに…月はみ空に身はここに…」の繰り返しである。先生はこの1回目をテヌートスタッカートで切り分けた。レガートで歌うことに何の疑いも無いこのフレーズを「き・は」「ら・に」に切り分けた時、福永陽一郎の細い、今にも折れそうな身体から、指先から、腕の振り下ろしから、表情から…、音楽そのものが溢れてくるのを感じた。切り分けたことが意外だったというのではない。音の一つずつ大切にするため、一つの音符に心を込めるため…、音符は音楽家の絵筆でとぎれとぎれの溜息のように描かれていた。しかし、どうして切り分けるのか、この音作りはどういう意図によるものなのか、どういう思想に裏打ちされているのか…、そういったことは全く無関係に、そのとき音楽は「音楽」以外の何物でも無くなっていたのだ。和音がどうだとか、詩の解釈がどうだといった「理性」の入り込む余地はもう何もない。ただ、ひたすらに音楽のみが立ち上がっていた。そんなことであるのだろうか…と自分自身の声と存在と耳を疑いながらも、それを

Y.F (福永陽一郎先生) のこと～



第6回東西四大学OB合唱連盟演奏会(1987年7月12日) ザ・シンフォニーホール

経を擦り減らしてしまっていたのだが、その後もそこまで真剣に練習と向き合った記憶がなく、福永先生の練習がどれほど張り詰めたものであったかということが思い出される。逆に何度も先生に褒められたことがあった。私が特に嬉しかったのは「君の手は何かを語ろうとしているね」と言われたことであった。

確認せずにはおれなかったのである。福永陽一郎の身体には頭のとっぺんから足の爪先まで、歌が満ち溢れていた。「月はみ空に身はここに…」という3拍子で歌われた一片の詩のかけらからは、冴えきった映像だけでなく、寒さや、痛みや、身悶えするような寂しさや、惨めさや、諦めや、それでも生きているという安心感や、やさしさや、不思議さが理屈や言葉では説明の出来ない音楽の塊として紡ぎ出されていたのだ。僕は思わず歌いながら泣き出しそうになっていた…。

夏が過ぎ、秋の多忙な練習の中で定期演奏会の「岬の墓」の練習がついおろそかになったことがあった。たった一度だけだったが、ひどく叱られて落ち込み自信を無くしかけたことがあった。練習不足という原因ははっきりしていたが、それでも私が曲に対して持っていたイメージに甘さがあったことを認めずにはおられず、激しく自分を責めながら何度も楽譜を見直し、技術系全員の力で次の練習までに必死で音楽を立てなおした。次の練習で先生に「明日が本番でも大丈夫!」と労われたときには、このまま倒れても良いというほど神

福永陽一郎は最後の最後までアマチュアの音楽に拘った。アカデミズムを嫌い、縛られることを嫌い、媚びることを嫌い、純粹すぎるほどの音楽への情熱のあまり命まで削ってしまった。アマチュアにしか出来ない120%の音楽、ひたむきな心を先生は生きることと同じように愛していた。技巧や水準を大きく越えるもの、解釈とか時代背景とか、そういった次元のアプローチを無にしようとするもの…、誰しもが何らかの形で胸に持っている生命そのものに根ざした「歌ごころ」こそ「本物の音楽」の源泉なのだ。先生はいつもそう言っていた。そして何より、心のこもった音楽が人の人生までも支配する力を持っているということをこの音楽家は身をもって教えてくれたのである。

先生が亡くなられた後、半年ほど経って楽譜整理の為に藤沢のお宅を訪問したことがある。先生の小部屋は亡くなった時のままに保存されていた。数え切れないほどのレコードと楽譜を整理しながら、私は部屋の片隅から「月光とピエロ」の楽譜を拾い出した。何の書き込みもない新しい楽譜の裏表紙には「Y.F」の文字が記されていた。その横に



福永陽一郎先生指導25周年記念パーティー
昭和62年(1987)年9月27日(宝ヶ池プリンスホテル)

編曲用のキーボードが主人の帰りを待つ愛犬のようにおとなしく置かれたままになっていた。福永陽一郎に触れ、その表情の中から音楽そのものを感じ取った人はあまりに多かった。そして福永陽一郎は同志社グリークラブの歴史にとってかけがえの無い宝物だった。しかし、はからずも「見上げてごらん夜の星を」を私たちのフェアウェルの終曲に選んだまま、福永陽一郎は私たちのもとから去っていったのだった。

あれから少しばかりの年月がたった。

同志社グリーの歴史は続く。そこで育まれた人たちが様々な場所で音楽活動を展開している。私自身も先生から教えてもらったことを少しでも語り継ぎたいという気持ちから、一生懸命の合唱活動を続けている。演奏会のたびに「陽ちゃん、何とかちょっとでも良い音楽が出来ますように…」と祈

*Sing a song in your heart,
always and forever!*

*having many memories
of your composition*

Y. Fukuoka

っている。陽ちゃんはその度に微笑みとも苦笑いともつかない表情のままこちらを見ているような気がする。一生懸命の音楽の後でふと見上げた夜空の中には私たちの音楽活動を見つめるY.Fという星座が存在しているに違いない…、そう思うのだ。

同志社グリークラブ創立 81年～100年のあゆみ

福永陽一郎 略歴

1926年 4月30日	神戸市須磨区衣掛町に生まれる。父は教師で関西学院グリークラブOB。母は幼稚園長。	1956年 4月13日	産経ホールに於いて、マスナータイスを指揮。藤原歌劇団常任指揮者となる。
1932年 (6歳)	増田正氏に師事開始。ピアノと作曲初歩。この経験が後の音楽活動の原点となる。	1959年 2月 (33歳)	第2回NHKイタリア・オペラ公演に日本側指揮者として参加。男声合唱のスタンダード曲集「グリークラブアルバム」(カワイ楽譜)を編纂・出版。
1935年 8月 9日 (9歳)	父の死。正規の音楽教育の停止。	8月	法政大学混声合唱団(「アカデミー合唱団」の前身)の常任指揮者となる。西南学院グリークラブの指揮者に迎えられる。
1939年 (13歳)	関西学院中学部入学。グリークラブに籍を置く。増田正氏に師事再開。		藤沢市民交響楽団創立に際し、常任指揮者となる。
1940年 4月 (14歳)	母の西南学院大学児童教育科着任に伴い福岡に移住。西南学院中学部に転校。ピアノを高橋暁夫氏に師事。	1962年 (35歳)	同志社グリークラブ技術顧問となる。
1943年 1月 (17歳)	井口基成氏に師事を開始。	1969年 4月 (43歳)	肺結核のため横浜の国立結核療養所に入院(9月まで)
1944年 4月 (18歳)	東京音楽学校(現・東京芸術大学)本科ピアノ科入学。豊増昇氏に師事開始。	1970年 (44歳)	藤沢市教育委員長より文化功労者として表彰される。
1945年 (19歳)	3月10日の空襲で東京の下宿が全焼。福岡に帰る。福岡で初の放送出演(JOLK)。	1971年 (45歳)	小田原男声合唱団発足。指揮者に迎えられる。
1946年 2月24日 (20歳)	復学。お茶の水の東京音楽学校分教場に住む。アルバイトでジャズ・バンド生活を始める。また、明治大学音楽部管弦楽団の指揮者をつとめる。	1972年 (46歳)	藤沢市文化担当参与となる。
1947年 3月21日 (21歳)	ピアニストとして東宝交響楽団入団。	1974年 4月15日 (48歳)	同志社グリークラブの、第4回世界合唱祭参加に同行。
1948年 1月 (22歳)	東京音楽学校中退。藤原歌劇団との関わりの中で、多くのオペラに携わる。	5月16日	再び発病。
1949年 8月 (23歳)	東宝交響楽団退団。福岡に帰る。	8月	第24回東京六大学合唱連盟定期演奏会で、早稲田大学グリークラブを指揮。1977～1990年まで同団を指揮。
9月	福岡・筑紫野合唱団の専任指揮者に迎えられる。	1975年 5月3日 (49歳)	
1950年 4月 (24歳)	西南学院神学部に入籍。グリークラブに籍を置く。	1976年 (50歳)	藤沢市長より音楽振興について表彰される。
1951年 2月 (25歳)	再び上京。藤原歌劇団入団。グルィットの副指揮者となる。	1977年 (51歳)	湘南コールグループの常任指揮者に迎えられる。
9月 1日	ミニョンの日本初演に際し、初めて正式に、合唱指揮者としてプログラムに載る。	1980年 (54歳)	藤沢男声合唱団設立。常任指揮者となる。神奈川県民功労者として表彰される。
11月 5日	福岡にて暁子夫人と結婚。	1983年 8月 (57歳)	腎不全のため入院、以後人工透析を続けながらの演奏活動となる。
1952年 2月 (26歳)	畑中良輔氏と共にプロ合唱団「東京コラリアーズ」を創立。	1987年 (61歳)	神奈川県文化賞受賞。
1953年 9月20日 (27歳)	東西四大学合唱連盟第2回演奏会で、合同合唱を指揮。同志社グリークラブとの出会い。	1990年 2月10日 (63歳)	心不全のため、藤沢市民病院で召天。

創立87年
1991年(平成3年)

福永陽一郎先生が他界され1年を迎えた。2月10日に東京芸術劇場で開かれた福永陽一郎追悼記念演奏会では「見上げてごらん夜の星を」、「白鳥(サンサーンス)」を演奏した。1991年は東西四大学合唱演奏会が40回記念を迎えた年でもある。6月16日にフェスティバルホールでの大阪公演、6月22日に東京文化会館での東京公演の2回公演がなされ、同志社グリークラブは小林研一郎氏の指揮の下、荻久保和明作曲「(男声合唱とピアノのための)縄文」を演奏した。男声合唱曲の中でも難曲と呼ばれる曲の一つである。35分38秒(CDより)という演奏時間からだけでも大曲であることが想像できる。小林研一郎氏との練習は5月28日と29日、あと直前の6月14日～16日の計5日間のみ。緊張感の満ちた、まさしく「炎のコバケン」の音楽に引きずり込まれていった練習であった。最初の5月28日の練習では、まず学生指揮者の永島健一氏の下振りで演奏し、永島氏も我々もその時点で精一杯の演奏をしたのであるが、それが小林氏の一振りで「縄文」の素晴らしい音楽が作られていったのを、今でも忘れられない一瞬として記憶している。

9月7日からの夏合宿では、定期演奏会でブラームスのワルツ集「愛の歌」を指揮していただく畑中良輔氏に志賀高原までお越しいたき、9月9、10日に練習が持たれた。定期演奏会のパンフレットに畑中氏の寄稿でも書かれているが、練習の終わり寸前まで我々はブラームスを歌いこなせなかった。最後となった10日の午後の練習時、畑中氏は我々にブラームスの生涯ークララ・シューマンとの友情やシューマンの死などについて語られた。その話のあと、全曲を通したとき、「奇跡は起きた(畑中 記)」。私はグリーを

卒団後、全く音楽とかかわりない生活を送っているが、確かにあの瞬間、ブラームスの世界に居たことには間違いない。

11月3日の関西六連、および12月18日の定期演奏会では、学生指揮により「青いメッセージ」を演奏した。この曲も難曲である。また同志社グリー初挑戦の曲であった。陽ちゃんが亡くなったあと、1991年は新たな音楽を学生なりに模索した年だったのではなかろうか。

12月25日は第27回全同志社メサイヤ演奏会が開かれた。その演奏は大晦日にKBS京都により放映された。この年はマスコミに登場する機会が多かった。話は前後するが、5月20日にはABC放送の「おはよう朝日です」に出演した。雑誌では、朝日新聞社のAERA(No.27 7月2日号)に、早稲田グリークラブと共に記事が掲載された。「歌う体育会と呼んでください」と称した写真入りの記事は、舞台以外での数少ない写真の一つである。



第27回同志社メサイヤ演奏会

平成4年卒 松本亮介

DOSHISHA COLLEGE SONG		INTERMISSION	
I MESSA MATER PATRIS Kyrie Gloria Sanctus Benedictus Agnus Dei 作 曲: Joseph des Pres 編 曲: Elliot Parker 指揮: 松本 亮介		II ヴェルディ・オペラ合唱曲集 1. 歌劇「オテロ」より 「オテロの独唱(カヴァー) おれ、おれを愛し、おれを愛するまで」 2. 歌劇「オセロ」より 「オセロの2重(カヴァー) おれを愛し、おれを愛するまで」 3. 歌劇「オセロ」より 「オセロの3重(カヴァー) おれを愛し、おれを愛するまで」 4. 歌劇「オセロ」より 「オセロの4重(カヴァー) おれを愛し、おれを愛するまで」 5. 歌劇「オセロ」より 「オセロの5重(カヴァー) おれを愛し、おれを愛するまで」 6. 歌劇「オセロ」より 「オセロの6重(カヴァー) おれを愛し、おれを愛するまで」 7. 歌劇「オセロ」より 「オセロの7重(カヴァー) おれを愛し、おれを愛するまで」 8. 歌劇「オセロ」より 「オセロの8重(カヴァー) おれを愛し、おれを愛するまで」 9. 歌劇「オセロ」より 「オセロの9重(カヴァー) おれを愛し、おれを愛するまで」 10. 歌劇「オセロ」より 「オセロの10重(カヴァー) おれを愛し、おれを愛するまで」	
III ヴェルディ・オペラ合唱曲集 1. 歌劇「オテロ」より 「オテロの独唱(カヴァー) おれ、おれを愛し、おれを愛するまで」 2. 歌劇「オセロ」より 「オセロの2重(カヴァー) おれを愛し、おれを愛するまで」 3. 歌劇「オセロ」より 「オセロの3重(カヴァー) おれを愛し、おれを愛するまで」 4. 歌劇「オセロ」より 「オセロの4重(カヴァー) おれを愛し、おれを愛するまで」 5. 歌劇「オセロ」より 「オセロの5重(カヴァー) おれを愛し、おれを愛するまで」 6. 歌劇「オセロ」より 「オセロの6重(カヴァー) おれを愛し、おれを愛するまで」 7. 歌劇「オセロ」より 「オセロの7重(カヴァー) おれを愛し、おれを愛するまで」 8. 歌劇「オセロ」より 「オセロの8重(カヴァー) おれを愛し、おれを愛するまで」 9. 歌劇「オセロ」より 「オセロの9重(カヴァー) おれを愛し、おれを愛するまで」 10. 歌劇「オセロ」より 「オセロの10重(カヴァー) おれを愛し、おれを愛するまで」		IV LIEBESLIEDER (「愛の歌」・「新・愛の歌」より) 1. Brahms: Liebeslieder (カヴァー) 2. Brahms: Liebeslieder (カヴァー) 3. Brahms: Liebeslieder (カヴァー) 4. Brahms: Liebeslieder (カヴァー) 5. Brahms: Liebeslieder (カヴァー) 6. Brahms: Liebeslieder (カヴァー) 7. Brahms: Liebeslieder (カヴァー) 8. Brahms: Liebeslieder (カヴァー) 9. Brahms: Liebeslieder (カヴァー) 10. Brahms: Liebeslieder (カヴァー)	

同志社グリークラブ創立 81年～100年のあゆみ

創立88年

1992年(平成4年)



DORSEY COLLEGE GLEE CLUB

私達が4年生の時の実質的な活動は2月から3月にかけて行われた欧州演奏旅行とっていいだろう。その詳細については私の同期である林君の別稿をご参照頂きたいが、ここに一つ書くとなれば、同志社グリーが現在も大変お世話になっている本山秀毅先生に本格的に御指導頂いたのがこの演奏旅行が最初である(本山先生にはこの年の第

88回定期演奏会の客演指揮、フェアウェルコンサートの出演など、何かとお世話になった一年であった)。

四連では単独ステージに井上道義先生をお招きして「ボギーとベス」を、合同ステージでは飯森泰次郎先生をお招きしてワグナーの「使徒の愛餐」を演奏。ワグナーは四連では珍しくフルオーケストラとの共演もあり、印象に残っているメンバーも多いかと思う。

夏の国内演奏旅行があり香川県高松市の香川

県民ホールにて演奏会を行った(この年の1年生の初ステージでもあった)。

この年はグリークラブの初代指揮者で名誉顧問でもあった片桐哲先生の没後10年にあたり、片桐哲先生昇天10周年記念演奏会が行われ、グリークラブも出演した。

六連では単独ステージでは「ラ・マンチャの男(英語版)」を(伴奏:長田育忠先生)、合同演奏では石丸寛先生をお招きし、先生自ら編曲の「Nigro Spirituals」を演奏した。

定期演奏会では前出の本山先生(20世紀アメリカの男声合唱曲、ピアノ:長田先生、ティンパニ:村上博美先生)に加え、山下一史先生を客演指揮に迎えて「R. シュトラウス歌曲集」を演奏(ピアノ:久邇之宜先生)。なお、翌年定演ではバーンスタイン氏最後の愛弟子ともいえる佐渡裕氏によるショスタコーヴィチの演奏があり、カラヤン氏のアシスタントも務めた山下先生によるシュトラウスと面白い対比を成す事となる。山下先生についてはとりわけ耳が素晴らしいとの印象が残っている。グリーメンが出す声の音程はもちろんだが、先生にしか気づかない微妙な違和感から楽譜の間違ひを見つけ出すことも少なからずあったように記憶している(ベームがR.シュトラウスにしたように)(お、これで20世紀後半の3大指揮者が出揃った?)。クリスマスの日に恒例の全同志社メサイア演奏会を行った。

フェアウェルコンサートと言えば、とにかく自由奔放に我々らしい笑いを伴った4回生のステージが思い出される(これだけ笑いを誘ったのは同志社グリーのフェアウェルでは初めてのことでないと思われる)。もちろんただお笑いに走るのではなく、締める所は締め(たつもり)、珍しく渋谷先生(当時顧問)にも指揮台に立って頂くなど思い出の詰まったステージとなった。

平成5年 辛 鐵見 太郎

PROGRAM

DORSEY COLLEGE SONG

作詞: 山手樹

作曲: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

STAGE 1

Musical: Man of La Mancha (ラ・マンチャの男)

作詞: 山手樹

作曲: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

STAGE 2

「20世紀アメリカの男声合唱曲」

作詞: 山手樹

作曲: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

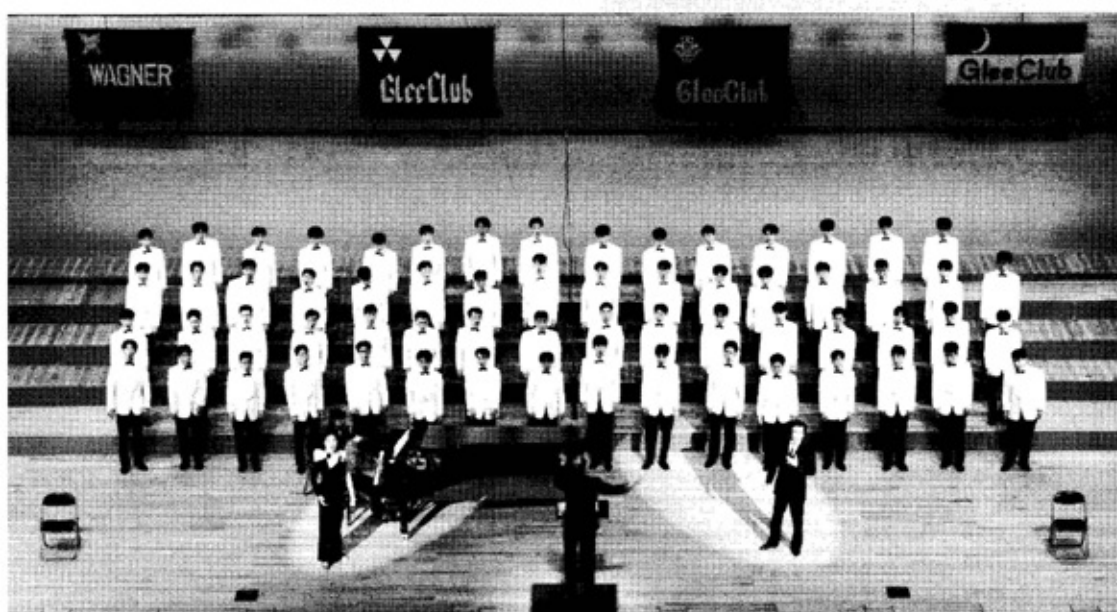
指揮: 山手樹

伴奏: 山手樹

指揮: 山手樹



第88回 卒業生のためのフェアウェルコンサート 1993.2.13



第41回 東西四大学合唱演奏会 1992.6.28 フェスティバルホール

● 創立89年
1993年(平成5年)



続いて6月26日には東京・昭和女子大学人見記念講堂にて第42回東西四大学合唱演奏会が開催される。

7月23日～29日の夏期演奏旅行では同志社の校祖・新島襄先生に縁のある北海道函館市、青森県風間浦村、むつ市への演奏旅行を行った。さらに夏期休暇期間中の8月14日には京都を訪問したハーバードグリークラブの京都公演に賛助

12月24日には京都会館第1ホールにて指揮者に金洪才氏を迎えて第29回全同志社メサイア演奏会を開催した。

平成6年卒 谷本 啓

DOSHISHA COLLEGE SONG

作詞：宮 田 洋一 作曲：Carl Wilson

-INTERMISSION-

STAGE 1

男声合唱曲『永訣の朝』

歌：原 保弘 堀 二

ピアノ：高田 繁

内奏：宮田 洋一/作曲：堀 二 堀 二

STAGE 3

MUSICAL『SOUTH PACIFIC』

歌：原 保弘 堀 二

ピアノ：高 淳子

Don't Enchanted Evening

There is nothing like a dream

"Haven't met"

Happy Talk

Bali-Hai

作詞：J. Hammerstein, Inc./作曲：R. Rodgers

編曲：堀 二/編一

STAGE 2

『新りの風景』

歌：原 保弘 高田 繁

オルガン：高田 繁

バック・ヴォーカル：中田陽子

『de profundis』

作曲：Lorenz Gellert

『動物たちのフー・ラ・ラ歌百集』

作曲：高田 繁

STAGE 4

革命前夜による「中の音楽」より 『六つの男声合唱曲集』

歌：原 保弘 堀 二

雄々しく果しう

果てて果たぬ

戦国の戦い

愛ののほ

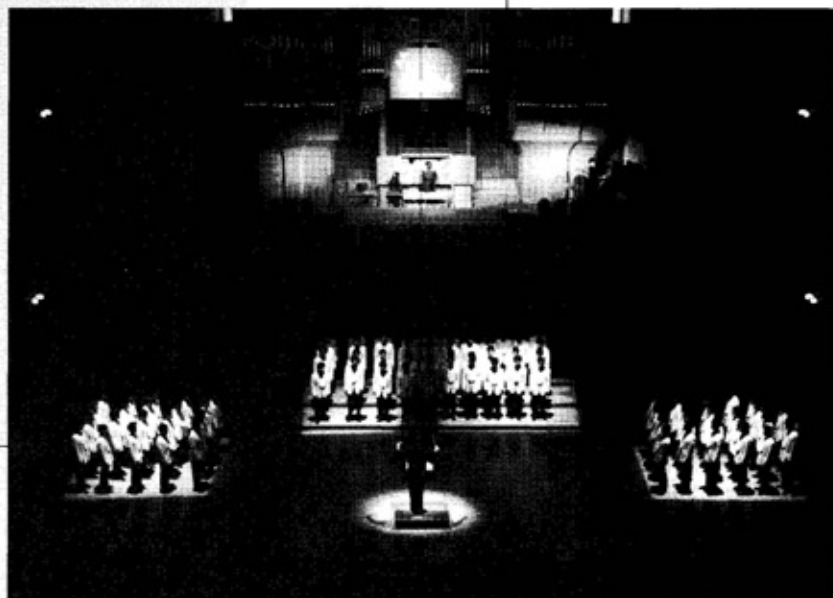
雄雄歌

歌

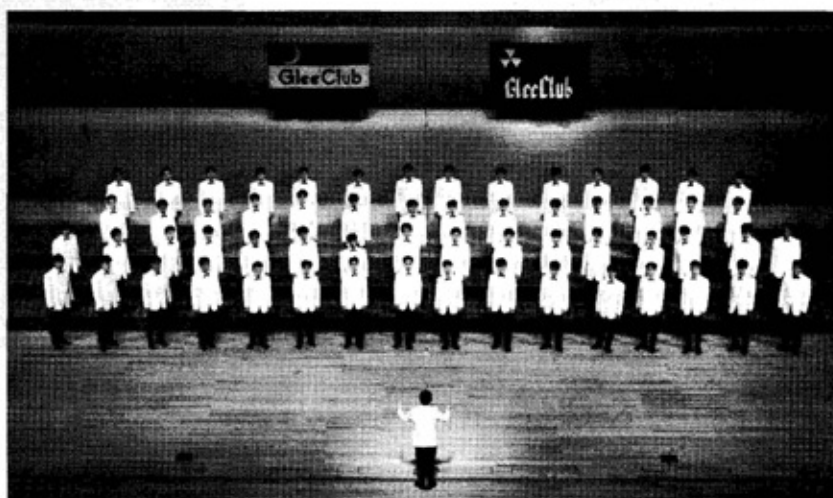
作詞：宮田 洋一/作曲：J. Hammerstein

8

9



第89回 定期演奏会 第2ステージ 本山先生による「祈りの風景」



第14回 同窓交歓演奏会 1993.6.18 フェスティバルホール

同志社グリークラブ創立 81年～100年のあゆみ

創立 **90** 年

1994年(平成6年)

The 90th Annual Concert
DOSHISHA GLEE CLUB

1994.12.20 (Tue)
The Symphony Hall.

平成6年最初のグリークラブの行事は総会であった。総会で新たな役職就任者が選出され、4回生卒団後の新体制がスタートした。

2月第2土曜日は、学館ホールで恒例のフェアウェルコンサートが行われた。構成は、4回生を含めた全体の演奏、3回生以下の新体制による演奏、そして、4回生による思い出のステージであった。卒業式終了後、3月下旬の約一週間、

滋賀県の和邇浜のユースホステルで春合宿が行われた。新学期が始まり、4月早々から新歓オリエンテーションが始まった。グリークラブも例年どおり入学式で校歌を歌い、クラブの勧誘活動を行った。教室を使用したデモ演奏、その後の宴会などで、50人は下らない新入生に対して強引に「入部します」と表明させた。

5月29日には京都合唱祭が行われ、ブルックナーの「Ave Maria」と黒人霊歌である「Did't My Lord Deriver Daniel」の2曲を演奏した。合唱祭終了後は、打上げを行い、最後には三条大橋の下で大合唱し、大いに盛り上がった。

6月26日にはフェスティバルホールにて東西四大学合唱演奏会が行われ、我団は「大作曲家による東ヨーロッパ

民謡」を本山秀毅先生の指揮で演奏した。この年は我団がトリであり、団員の気合も入っていた。7月17日は恒例行事となっている祇園祭で太子山を曳かせて頂いた。例年、雨が多いが当時は快晴で猛暑であった。7月28日から8月1日まで、夏季演奏旅行が行われた。場所は九州の日田、直方、宇部で、行きは神戸から船を利用した。この年には特別に平成2年卒の伊東恵司先輩に1ステージ指揮をして頂いた。

9月7日から12日の日程で、夏合宿が志賀高原で行われた。朝9時から夜の9時まで、一日9時間から10時間の練習をこなした。

11月3日には関西六大学合唱演奏会(六連)がフェスティバルホールにて行われた。我団は学生指揮者によりトスティ歌曲集を演奏した。

11月28日には京都のシルクホールでクラブ創立90周年記念演奏会が行われ、学生指揮者で月光とビエロを演奏した。

12月20日にはザ・シンフォニーホールで第90回定期演奏会が行われた。この年は、指揮者の石丸寛先生がこの日のために特別に作曲して頂いた新曲を演奏した。また、演奏会には作詞者の方もご来場頂いた。

12月24日には京都府会第一ホールにて全同志社メサイア演奏会が行われた。指揮は井上道義先生だった。

平成7年卒 荒川 剛



第89回卒業生のためのフェアウェルコンサート 1994.2.12 大学会館

PROGRAM

DOSHISHA College Song

指揮: 本山 秀毅
指揮: Carl Wilson

1st STAGE

指揮: 本山 秀毅
指揮: 本山 秀毅
指揮: 本山 秀毅
指揮: 本山 秀毅
指揮: 本山 秀毅

トスティー歌曲集

1. April
2. March
3. La Serenata
4. L'hermine Canzone
5. Adieu!

2nd STAGE

指揮: 本山 秀毅
指揮: 本山 秀毅
指揮: 本山 秀毅
指揮: 本山 秀毅
指揮: 本山 秀毅

光の中を 月光とビエロ

1. 月夜
2. 月の光
3. ビエロ
4. ビエロの唄
5. 月光とビエロのミッドナイトの夜

INTERMISSION

3rd STAGE

指揮: 本山 秀毅
指揮: 本山 秀毅
指揮: 本山 秀毅
指揮: 本山 秀毅
指揮: 本山 秀毅

心の響き! 現代の宗教音楽

- Kyrie (作曲: David Friedman)
- Aldous (作曲: Richard Thompson)
- De Profundis (作曲: Jay Evan Gossamer)
- Calvary (作曲: David Coates)
- Sanctus (作曲: William Byrd)

4th STAGE

指揮: 本山 秀毅
指揮: 本山 秀毅
指揮: 本山 秀毅
指揮: 本山 秀毅
指揮: 本山 秀毅

新川組の三つの詩 (新作初演)

1. やがて五月 (吉田秀司編より)
2. 大へのオード (大へのオードより)
3. はね橋 (はね橋より)

創立91年

1995年(平成7年)

2月14日から3月7日までの3週間にわたって、第5回ヨーロッパ演奏旅行を行った。イギリス・フランス・ドイツ・スイス・オーストリアの5カ国を訪問し、本山秀毅氏の指揮で、「NÉGY RÉGI MAGYAR NÉPDAL」(作曲:B・バルトーク)、「現代宗教音楽集」、「合唱のためのコンポジションⅢ」(作曲:間宮芳生)などを演奏した。

6月17日、昭和女子大学人見記念講堂で第44回東西四大学合唱演奏会が行われた。グリークラブは指揮:黒岩英臣、ピアノ:久邇之宜により男声合唱組曲「御誦」(作曲:大島ミチル)を演奏した。合同演奏は、皆川達夫氏の指揮で「Missa Mater Patris」(作曲:ジョスカン・デ・プレ)。

続く6月25日、フェスティバルホールにおいて第15回同窓交歓演奏会が行われた。黒岩英臣氏指揮による「御誦」に加えて、ヨーロッパでも演奏

を重ねた、男声合唱組曲「草野心平の詩から」を、学生指揮により披露した。

8月4日、5日、夏季演奏旅行として、和歌山県御坊市の御坊市民文化会館で演奏会を行った。

11月3日、フェスティバルホールで第22回関西六大学合唱演奏会が行われた。グリークラブは、学生指揮により、男声合唱とピアノのための「縄文」(作詩:宗左近、作曲:萩久保和明)を演奏した。また、指揮:辻正行、ピアノ:長田育忠により「ヴェルディ・オペラ合唱曲集」を合同演奏した。

11月20日、広島市国際会議場(フェニックスホール)で、広島文化女子短大音楽科20周年記念演奏会に賛助出演した。山下一史氏指揮のもと、広島交響楽団との共演でブラームスの「ドイツ・レクイエム」を演奏し、好評を博した。

12月21日、ザ・シンフォニーホールで第91回定期演奏会を行った。指揮:本山秀毅、ピアノ:長田育忠により「さすらう若人の歌」(作曲:G・マーラー)を、そして、指揮:関屋晋により、「Drei Männerchöre」(作曲:R・シュトラウス)などを演奏した。

12月24日、京都コンサートホール大ホールにて第31回全同志社メサイア演奏会が行われた。

12月29日、ザ・シンフォニーホールにおいて、佐渡裕氏指揮「21世紀への第九」に特別参加。京都バッハ合唱団、大阪センチュリー交響楽団と共演した。

平成8年卒 上野 大介

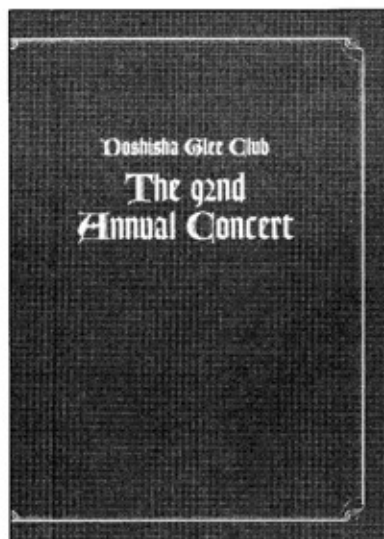


PROGRAM	
Doshisha College Song	
指揮: 本山秀毅 伴奏: Carl Wilhelm	
1st Stage	2nd Stage
Spirituals	さすらう若人の歌
1. Rock - At the End	"Lieder eines schmerzenden Geistes"
2. Sometimes I Feel	1. 悲しき心 - Gustav Mahler
3. My God, My God	2. 悲しき心 - Gustav Mahler
4. If God My Father	3. 悲しき心 - Gustav Mahler
5. O Lord	4. 悲しき心 - Gustav Mahler
3rd Stage	4th Stage
現代宗教音楽集(編: 久邇之宜)	Drei Männerchöre
1. 現代宗教音楽集(編: 久邇之宜)	1. Drei Männerchöre
2. 現代宗教音楽集(編: 久邇之宜)	2. Drei Männerchöre
3. 現代宗教音楽集(編: 久邇之宜)	3. Drei Männerchöre
4. 現代宗教音楽集(編: 久邇之宜)	4. Drei Männerchöre
5. 現代宗教音楽集(編: 久邇之宜)	5. Drei Männerchöre

同志社グリークラブ創立 81年～100年のあゆみ

創立92年

1996年(平成8年)



6月、京都での数少ない演奏機会の一つである京都府合唱祭にて、アルカデルトのアヴェ・マリアと詩篇98を演奏した。

6月20日、アメリカ東部八大学でも名高いイエール大学から、アジアツアーの一環で京都を訪れたイエールグリークラブと、ジョイントコンサートを同志社女子大学栄光館で開催した。日米合同のステージはメサイ

アから3曲を選び、賛助出演の同志社女子大学メサイア研究会、神戸女学院コーラス部を加え、演奏した。イエールグリークラブとは昭和49年にも共演しており、実に22年ぶりのハーモニーとなった。

つづいて6月30日、大阪のフェスティバルホールにて第45回東西四大学合唱演奏会が行われた。小泉ひろし氏を指揮に迎え、男声合唱のための「季節へのまなざし」を演奏した。

この年の夏季演奏旅行(8月3日～5日)は、同

志社の創立者・新島襄の生誕の地である、群馬県安中市に赴き、安中市文化会館にて熱演した。

9月2日～7日、長野県信濃平にて地獄の夏合宿が行われた。最終日前日までシャトー宮沢から一歩も出ることなく、一日10時間の過酷な毎日であった。

11月3日、第23回関西六大学合唱演奏会がフェスティバルホールにて行われた。

12月17日大阪のザ・シンフォニーホールで、第92回定期演奏会を行った。本山秀毅氏指揮で無伴奏男声合唱のためのく〜今でも...ローセキは魔法の杖を、北村協一氏の指揮にて男声合唱組曲「青いメッセージ」をそれぞれ演奏した。

12月24日、恒例の第32回全同志社メサイア演奏会が京都コンサートホールにて行われた。

平成9年卒 山元 進

Program		Program	
DOSHISHA College Song 作詞：W. M. Vories 作曲：Carl Wilhelm		—INTERMISSION—	
1st STAGE 指揮：山元進 Irish Folk Songs 1. Avenge and Fight Words: Thomas Moore Irish Tune "Congenial Friends" Arranged by Alice Parker 2. THE LAST ROSE OF SUMMER Words: Thomas Moore Irish Tune Arranged by Oscar Weinley 3. THE PARTING GLASS Arranged by Alice Parker 4. To Ladies' Eyes Words: Thomas Moore Irish Tune "Foggy a Foggy" Arranged by Alice Parker 5. LONKINERIKY AIR & DANNY BOY Words: Traditional Arranged by Oscar Weinley		3rd STAGE 指揮：山元進 作詞：A. Haydn 作曲：A. Haydn 「ZIGUNERMELODIEN」Op.55 —ジプシーの歌— 1. Mein Lied erklingt 2. Es wie mein Triangel 3. Rings in der Wald 4. Als die alte Mutter 5. Ringelreimt die Saiten 6. In dem weiten freien luftigen Lenzkleide 7. Darf der Falke schwingen	
2nd STAGE 指揮：山元進 作詞：山元進 作曲：山元進 「今でも...ローセキは魔法の杖」 I. 愛の星は光を照らす II. 遠くは巨大なキャンパス III. 愛の光に IV. 真の心は神の光に V. 愛の光に包まれて VI. 愛の光に包まれた愛の光は愛を止め		4th STAGE 指揮：山元進 作詞：山元進 作曲：山元進 「青いメッセージ」 1. 片断と花の季節 2. 春の足音 3. 愛の光に包まれた 4. 愛の光の季節 5. 愛の光に包まれて 6. 愛の光の季節	

創立93年

1997年(平成9年)

フェアウェルコンサートで19名の卒団生を送り出した後、多くの不安と確かな期待を胸に、同志社グリークラブ93年目の活動は52名の仲間と共に始まった。

6月、東京での開催となった第46回東西四大学合唱演奏会(昭和女子大学人見記念講堂)では本山秀毅氏を客演指揮に迎え、「Dissemination」をテーマにトンプソン、バーバーなど20世紀アメリカの男声作品を採り上げた。同ステージは翌月の第16回同関交歓演奏会(いずみホール)でも再演され、さらに初見参となった同ホールのケーニッヒ社製パイプオルガンを wield グノーの「ミサ第2番」を歌った。合同ステージは共に多田武彦氏指揮による「富士山」、多田氏のフレージング持論である「うねり、ねばり、たたみこみ」の忠実な実践が思い出される。

夏には中国・四国方面への夏期演奏旅行を行い、高松演奏会(香川県民ホール)ではクローバークラブ、岡山演奏会ではノートルダム清心女子大学(岡山シンフォニーホール)とのジョイントステ

ージが持たれた。

文化の日恒例、第24回関西六大学合唱演奏会(多田武彦「在りし日の歌」を演奏した(フェスティバルホール)。演奏会直前ゲネプロで1回生の発案から、パート別オーダーを全員シャッフルして本番を演奏するという、何ともスリリングなステージを味わったことが懐かしい。200余名による合同ステージは富岡健氏指揮による「メリーウイドウ」。

そして12月、第93回同志社グリークラブ定期演奏会を開催(ザ・シンフォニーホール)。当時より現役の良きアドバイザーであった伊東恵司氏が第90回定演に続いて卒団後2度目の指揮、関東の実力派ピアニスト西川秀人氏を迎え高田三郎「水のいのち」を演奏した。東京クローバークラブによって男声版が委嘱されたこの作品は、意外にもこの時が同志社グリークラブとしての初演であった。また前年の北村協一氏に続き、関西学院グリークラブ指揮者である広瀬康夫氏を招き、「The sound of hope」と題しクリスマス・スピリチュアルを披露した。最終ステージは学生指揮者自らオリジナルアレンジを加えて指揮し、関西二期会の雑賀美可女史、田中由也氏、そして長田育忠氏と共にガーシュインのオペラ「ボギーとベス」を熱演した。1年の締めくくりはクリスマスに行われた第33回全同志社メサイア演奏会、指揮は黒岩英臣氏であった(京都コンサートホール)。

昨今、学生気質の変化が語られることは少ないが、我々もまた技術、組織などあらゆる面において大きな変革を迫られた時であり、「基本への回帰」を常に心掛けひたすらに次代へと繋がる演奏を目指した1年であった。今となっては全てが良い思い出である。

平成10年卒 小林 香太



同志社グリークラブ創立 81年～100年のあゆみ

創立94年

1998年(平成10年)

Doshisha
Glee Club

第94回 同志社グリークラブ定期演奏会
1998年12月4日(日) ザンワ・ホール

同志社グリークラブ平成11年卒団生たちが四回生になったのは、1998年4月のことだった。彼らが入団したのは、阪神大震災とオウム真理教の事件があった年で、神戸の少年事件など、在団中に社会を大きく揺るがすような事件がいくつも起こった。何かに崇られているような、そんな社会状況のもと、大卒の就職状況も低迷を続ける中、彼ら

のグリー生活は四年目を迎えたのである。

在団生の中途退団は悪化の一途を辿り、四年目を迎えた後も、四回生から少なくとも3人が消えた。部員の減少は台所事情の悪化につながる。それを乗り切ることができたのは、ひとえに当時の在団生全員の団結と、会計の尽力の賜物である。

あの年は嵐のような年で、無我夢中の内に過ぎた。終わってみると、すべての出来事が混沌としていて、ひとつひとつの記憶がはっきりとしない。だが、鮮明に印象に残っているのは、あの最後の定期演奏会のステージ、ライトに照らされた自分たちだ。

全部で4ステージ演奏したが、鮮烈な印象とともに今でも思い出されるのは、第4ステージである。演奏したのは、ランドール・トンプソンの「The Testament of Freedom」で、ジェファースンの文章に曲を付けたものだ。内容は自由の賛歌で、一曲目の歌詞が最終曲の最後に現れる構成になっている。全曲歌い通してくる中でわき起こってきた感動とともに、最初に歌った歌詞を新たに歌い出すその瞬間が、今でも心に焼き付いて離れない。

はっきり言って苦しいばかりの四年間だった。気分が重くなることばかりの最後の一年間だった。自由などとはほど遠い学生生活だったように思えた。だが、それは違った。あれこそ、まさにわれわれが選んだ青春であり、あれこそまさにわれわれが自分自身の人生の一部を一つの目的のために燃焼させた時間だったのだ。あれは今からでは考えられないほど自由な時間だった。何でもできる、何をしてもかまわない時間を、明確な目的のために燃やし尽くしたのだから。「われらに生命を与えたもうた神は、同時に自由をも与えたもうた」と歌い出したときの感動を一生忘れないだろう。ついでにその直後、後ろでプレスが上がったのか、へろへろした声を出して、感動を薄めてくれた後輩がいたことも。だが、あの感動は自分たちだけで得たものでなく、彼を含めた後輩たちの支えがあったから得られたと信じている。

平成11年卒 山口 隆介



第94回 定期演奏会前の記念写真

Program

Doshisha College Song
作詞: W. M. Vories
作曲: Carl Wilhelm

1st Stage

「Kaj-Erik Gustafsson 男声合唱作品集」

作曲: Kaj Erik Gustafsson
指揮: 伊東忠司

Salve Regina

Kyrie

Gloria

Sacchar

Agnus Dei

2nd Stage

「Doshisha Glee Club Selection」

指揮: 浅井敬彦、伊東忠司、石井隆昭

3rd Stage

男声合唱組曲「月光とピエロ」

作曲: 堀江大智

作詞: 浅井敬彦

指揮: 浅井敬彦

月光

秋のピエロ

ピエロ

ピエロの囁き

月光とピエロとピエロの汽車機関

月光とピエロとピエロの汽車機関

月光とピエロとピエロの汽車機関

月光とピエロとピエロの汽車機関

月光とピエロとピエロの汽車機関

月光とピエロとピエロの汽車機関

月光とピエロとピエロの汽車機関

月光とピエロとピエロの汽車機関

月光とピエロとピエロの汽車機関

月光とピエロとピエロの汽車機関

月光とピエロとピエロの汽車機関

月光とピエロとピエロの汽車機関

月光とピエロとピエロの汽車機関

月光とピエロとピエロの汽車機関

月光とピエロとピエロの汽車機関

月光とピエロとピエロの汽車機関

月光とピエロとピエロの汽車機関

4th Stage「The Testament of Freedom」

原文: Thomas Jefferson 作曲: Randall Thompson

指揮: 石井隆昭 ピアノ: 浅田貴志

I. The God who gave us life. II. We have counted the cost.

III. We fight not for glory. IV. I shall not die without a hope.

創立95年

1999年(平成11年)

フェアウェルコンサートで卒団生を送り出した後、少人数での活動を余儀なくされていたグリークラブであったが、6月の同窓交歓演奏会、東西四大学合唱演奏会では同志社単独ステージの客演指揮者に松原千振先生をお呼びし、エストニアの作曲家、トルミスの男声合唱作品を演奏した。少人数ならではの響きと洗練されたハーモニーは同志社グリーの新しい方向性を示すものと好評を得た。

同志社単独ステージ

トルミス男声合唱作品 V.Tormis作曲

客演指揮:松原千振 ソプラノ独唱:野本英理
合同ステージ

無伴奏男声合唱のための『幻の雪』

作詩:草野心平

作曲・指揮:萩久保和明

四連の練習と並行して行なわれた新歓活動では、種々の試みが功を奏し、多くのフレッシュを迎えて8月4日、同志社ゆかりの青森・風間浦村で演奏会をおこなった。

四連では27名のオンス
テにとどまった同志社グリー
であったが、11月3日に
行なわれた関西六大学合
唱演奏会では倍増の55名
がフェスティバルホールの
ステージにたち、人数の減
少に苦しむ関西の大学合
唱界で独り気を吐いた。

同志社単独ステージ

コダーイ男声合唱曲集

K.Zoltan作曲

指揮:五十嵐嘉紀

六大学合同ステージ

男声合唱組曲

『IN TERRA PAX〜地に平和を〜』

作詩:鶴見正夫

作曲:萩久保和明

指揮:高嶋昌二 ピアノ:藤澤篤子

12月17日、第95回定期演奏会。この年は長年
慣れ親しんだシンフォニーホールを離れ、小振り
ながら響きに定評のあるいずみホールでの定演
となった。

J.G.Rheinberger男声合唱作品〜

Missa B-Dur op.172より

指揮:伊東恵司 オルガン:平松寿美

男声合唱組曲「草野心平の詩から・第三」／

指揮:五十嵐嘉紀

コダーイ男声合唱曲集／指揮:五十嵐嘉紀

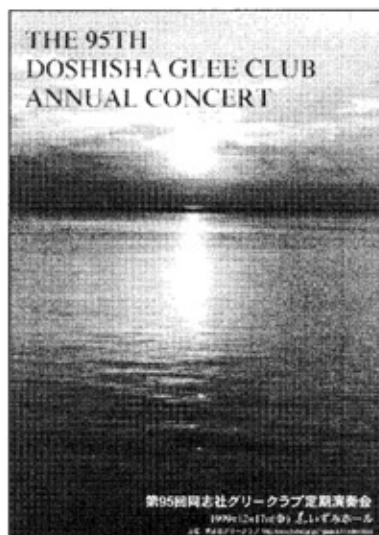
The Ballad of LITTLE MUSGRAVE and
LADY BARNARD B.Britten作曲

指揮:本山秀毅 ピアノ:船橋美穂

この年、久々に客演指揮者に本山秀毅先生を
迎え、グリーと本山先生のコンビが復活。

12月24日、全同志社メサイア演奏会が指揮者
に佐藤功太郎先生を迎えて京都コンサートホ
ールで行なわれた。

平成13年卒 板倉 伸久



Program	
Doshisha College Song	作詞: 松原千振 作曲: Carl Orff
1st Stage: J.G.Rheinberger男声合唱作品 〜Missa B-Dur op.172より〜	
Kyrie	作曲: J.G.Rheinberger
Ave Maria	作曲: 伊東恵司
Gloria	作曲: 伊東恵司
Agnes Dei	作曲: 伊東恵司
2nd Stage: 男声合唱組曲「草野心平の詩から・第三」	
1. 雪	作詞: 草野心平
2. 梅	作詞: 草野心平
3. 桜	作詞: 草野心平
4. 雪の降る夜	作詞: 草野心平
5. 雪の降る夜	作詞: 草野心平
INTERMISSION	
3rd Stage: 「コダーイ男声合唱曲集」	
Kodály: Dances	作曲: Zoltan Kodály
Kodály: Psalm	作曲: Zoltan Kodály
4th Stage: 「The Ballad of LITTLE MUSGRAVE and LADY BARNARD」	
	作詞: Benjamin Britten 作曲: Benjamin Britten 指揮: 本山秀毅 ピアノ: 船橋美穂

同志社グリークラブ創立 81年～100年のあゆみ

創立 **96年**

2000年(平成12年)



2月11日、永らく同志社グリークラブの技術顧問であった福永陽一郎先生のメモリアルコンサートに福永記念クワイヤーとともに出演。

7月2日、ザ・シンフォニーホールにて第49回東西四大学合唱演奏会が行われた。単独では指揮:本山秀毅、弦楽合奏:セント・ポールチェンバーオーケストラ(主に京都教育大学の

学生で構成)により「Gustav Holst Six Choruses」(作詩:Helen Waddell、作曲:Gustav Holst)を演奏した。合同演奏では指揮:須賀敬一、ピアノ:中村有木子により男声合唱組曲「水のいのち」(作詩:高野喜久雄、作曲:高田三郎)を演奏した。

8月3日、サマーコンサートを同志社中学校礼拝堂にて行った。

9月10日、11日にかけ山口県宇部市にて演奏旅行を行った。

11月3日、第27回関西六大学合唱演奏会をフェスティバルホールにて行った。単独では指揮:白石法之(学生)、ピアノ:泉マリ(現在は私と結婚して赤澤マリになりました)、パーカッション:田中安紀により「Fallaの7つのスペイン民謡」(作曲:M.D.Falla、編曲:青島広志)を演奏した。合同ステージでは指揮:当間修一、ピアノ:木下重子:パーカッション:山内利一、中路友恵により男声合唱組曲「御誦」を演奏した。

12月16日、第96回定期演奏会を京都コンサートホール大ホールにて行った。約20年振りの京都での定期演奏会であった。京都で行ったことはクラブのあり方を連日の話し合いで模索する中、変革期であったこの時期における象徴的な出来事であったと思います。

12月24日、第36回全同志社メサイア演奏会を京都コンサートホールにて行った。

平成13年卒 赤澤 昌樹

Program	
Doshisha College Song	指揮: M. Wilson 伴奏: Carl Wilson
1st Stage 「七つのスペイン民謡」	
1. EL FALGÚ (FALLA)	指揮: Manuel de Falla
2. EL FALGÚ (FALLA)	指揮: 泉マリ
3. EL FALGÚ (FALLA)	指揮: 白石法之
4. EL FALGÚ (FALLA)	指揮: 田中安紀
5. EL FALGÚ (FALLA)	指揮: 山内利一
6. EL FALGÚ (FALLA)	指揮: 中路友恵
7. EL FALGÚ (FALLA)	指揮: 須賀敬一
2nd Stage 「CUATRO CANTOS PENITENCIALES 〜悔悟の四つの歌〜」	指揮: J. Rautava 伴奏: 伊藤孝司
1. De profundis (Luter)	
2. Te igitur (Luter)	
3. Tenebrae (Luter)	
4. Tantum ergo (Luter)	
--- INTERMISSION ---	
3rd Stage 男声合唱組曲「河川風俗詩」	指揮: 本山秀毅
1. 第一楽章	指揮: 本山秀毅
2. 第二楽章	指揮: 本山秀毅
3. 第三楽章	指揮: 本山秀毅
4. 第四楽章	指揮: 本山秀毅
4th Stage 男声合唱とピアノのための「感傷的な二つの奏鳴曲」	指揮: 泉マリ
1. 第一楽章	指揮: 泉マリ
2. 第二楽章	指揮: 泉マリ

同志社グリークラブ創立 81年～100年のあゆみ

創立98年

2002年(平成14年)



6月30日、ザ・シンフォニーホールにて第51回東西四大学合唱演奏会が行われた。グリークラブは指揮:本山秀毅、ピアノ:船橋美穂により男声合唱とピアノのための「三つの時刻」作曲:三善晃 作詩:丸山薫、二群の男声合唱とピアノのための「路標の歌」作曲:三善晃 作詩:木島始を演奏した。また、指揮:藤井宏樹、オルガン:大竹久美により

「Messe in B Op.172」作曲:Rheinberger Joseph Gabrielを合同演奏した。

8月3日、文化パルク城陽にて京都大学グリークラブ・北海道大学合唱団・同志社グリークラブジョイントコンサート「初雁来」が行われた。この3団によるジョイントコンサートは初の試みであったが集客数1200人を超す大盛況の下に幕を閉じた。

9月21日、いずみホールにて同志社グリークラブ・クローバークラブジョイントコンサートが行われた。10月27日、大阪厚生年金会館大ホールにて第29

回関西六大学合唱演奏会が行われた。指揮:飯沼京子、編曲・ピアノ:村上果により「来ればわかる!!」と題して「I Want to Hold Your Hand」「フォークソングメドレー」「パラダイス銀河」「酒と泪と男と女」「夜空ノムコウ」「川の流れるように」を合同演奏した。

11月4日、伊丹市立文化会館いたみホールにて開催された第4回バックスフェスタに出演した。この演奏会は関西合唱連盟主催の男声合唱団のみで行われる合唱祭であり、初めての参加となった。

12月7日、京都コンサートホール大ホールにて第98回同志社グリークラブ定期演奏会を行った。本山秀毅氏の指揮により男声合唱曲集「恋のない日」作詩:堀口大樹 作曲:木下牧子を演奏した。

12月24日、京都コンサートホール大ホールにて第38回全同志社メサイア演奏会が行われた。

平成15年卒 坊向 敏和

Program	
Doshisha College Song	作詞: M. H. Jones 作曲: Carl Wein
1st Stage 「三つの時刻」	作詞: 三善晃 作曲: 三善晃 指揮: 本山秀毅
2nd Stage フランスの男声合唱作品より	作詞: 三善晃 作曲: 三善晃 指揮: 本山秀毅
3rd Stage 男声合唱曲集「恋のない日」	作詞: 堀口大樹 作曲: 木下牧子 指揮: 本山秀毅
4th Stage ユージカ「Man of La Mancha (ラ・マンチャの男)」より	作詞: Joe Darion 作曲: Mitch Leigh 指揮: 本山秀毅 ピアノ: 船橋美穂

創立99年

2003年(平成15年)

創立99周年を迎えたこの年は、いよいよ目前に迫る100周年を視野にいたれた活動が目立った。まず2月15日に京都文化博物館で行われた第98回フェアウェルコンサートにおいては、在団生・卒団生合同ステージで往年の同志社グリークラブの愛唱歌を選曲することで(どんぐりころころ・みゆりしあらずば・詩篇98など)多くのOBと共に歌うことができるレパートリーを増やすことに成功した。

近年定期的に行われるようになってきた海外演奏旅行であるが、この年は逆に、アメリカからアーモスト大学グリークラブ・女声合唱団が来日し、6月4日(水)同志社女子大学栄光館で同志社グリークラブとジョイントコンサートを開催するに至った。これは我々にとって例年にない幸運であり、2年前の2001年9月にアーモスト大学で同時多発テロのための追悼礼拝に参加し、悲しみを共有した部員にとってはまさに異国の友との感慨深い再会であった。なお当日は、演奏会後に同志社同窓会館でレセプションを、さらにその後は翌日の朝まで共に三条河原町で過ごし、互いに交流を深めた。6月29日に東京文化会館で行われた第52回東西四大学合唱演奏会では、合同ステージで広瀬康夫氏の指揮により「パーパーショプの世界」を振り付きで演奏し、観客を驚かせた。7月13日には呉竹文化センターにおいてサマーコンサートが開催された。

夏合宿を経て、9月6日から1泊2日の行程で、クロバークラブとともに高松演奏旅行を行った。6日にアクトホールで行われたジョイントコンサートの合同ステージや、その後のレセプションでOBと現役が交流する機会が与えられたことは大変に意義深いことであった。前年まで秋季に開催されていた関西六大学合唱演奏会が、この年6団一致で凍結の方向に向かったことにより、新たな試みとして10月25日、京都に活動拠点を持つ、同志社グリークラブと立命館大学メンネルコールによ

るジョイントコンサートが開催された。客演指揮者には高嶋昌二氏を迎えた。このジョイントで両団の部員は、互いに技術的にもマネージメント的にも良い刺激を与え合った。

12月7日、京都コンサートホール大ホールで第99回定期演奏会が開催された。第4ステージでは本山英毅氏の指揮によって近年機会が少なかった吹奏楽による小アンサンブルとの共演を果たした。12月24日、同じく京都コンサートホール大ホールで第39回全同志社メサイア演奏会が開催されたが、この年はテノールのソリストとして我が団OBである小貫岩夫氏を初めて迎えた。

平成16年卒 山田倫大



Program	
Doehisha College Song	
1st Stage: Sen Shantyより	指揮: 本山英毅 指揮: 本山英毅
2nd Stage: 専攻会創立50周年「五つの花のフラン」	指揮: 本山英毅 指揮: 本山英毅
3rd Stage: 同志合唱団「Enfance finie〜過ぎ去りし少年時代〜」	指揮: 本山英毅 指揮: 本山英毅
4th Stage: DAS BERLINER REQUIEM	指揮: 本山英毅 指揮: 本山英毅

創立100年

2004年(平成16年)

2月14日、同志社礼拝堂において、99周年年度生のためのフェアウェルコンサートを行った。そしてこの演奏会より、同志社グリークラブの100年目が始まった。

3月にはNHK京都に出演、クラブ紹介を行った。

5月23日の朝日新聞には第41回京都合唱祭にむけての練習風景が掲載された。また、この日は、100周年記念フォーラムが同志社大学寒梅館ハーディホールで、ゲストに多田武彦先生や、グリークラブ出身の合唱界の著名人を迎えて、基調講演、「男声合唱界の未来はどうか」というパネルディスカッション、全員での「柳川」の大合唱という内容で催された。

5月30日は第41回京都合唱祭に、出演し、「津軽じょんがら節」などを演奏した。

6月27日は第53回東西四大学合唱演奏会が大阪のNHKホールで催された。

7月10日はSummer Music Fairと題して、海外演奏旅行社行会を兼ねた、サマーコンサートを同志社大学寒梅館ハーディホ

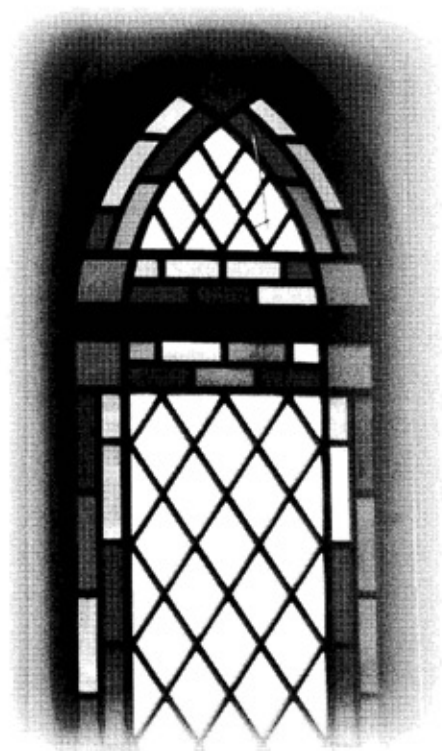
ールで開催した。

9月6日より18日までアメリカ海外演奏旅行が行われた。前回の演奏旅行は9・11のニューヨークテロがあり、プログラムの難航が一部あったが、今回は無事に日程を終えることができた。

そして10月10日は同志社大学寒梅館ハーディホールにて、100周年記念式典が、OBの方々とともに催され、12月14日には京都コンサートホールにて第100回同志社グリークラブ定期演奏会が催される。また12月24日に京都コンサートホールにて第40回全同志社メサイア演奏会に出演する。

同志社グリークラブは今年で100年という長い歴史をたどってきたが、どの年のメンバーも、その中で精一杯生きて、様々なことに挑戦し、歌い続けた。来年より101年目とクラブ史において新しい世紀に突入するがこれからもその精神を受け継いで、歌い続けていってほしい。

現役四回生 東 留以



同志社グリークラブは一年間で様々な演奏会を経験しますが、フェアウェルコンサートは他の演奏会とは違って、演奏会を開くことに悲しみ、寂しさというものが部員の心に刻まれます。仲間、そして同志社グリークラブとの別れは避けては通れないのですが、この演奏会によって卒団生から在団生へと歴史がうけつがれ、同志社グリークラブはさらなる高みへと進むことができるのです。

卒団生を送り出す送別演奏会なるものは大正期から開かれてましたが、現在のフェアウェルコンサートという形をとるようになったのは1953年からです。

現在とは違い当時は卒団生が送別の歌（春の調べ）を歌うのではなく、在団生が歌って卒団生を送り出すという形をとっていました。時代の移り変わりとともにフェアウェルコンサートの形も少しずつ変化していき、ここ数年の形としては、まず卒団生、在団生の合同ステージ、次に在団生による卒団生

を送るステージ、そして卒団生思い出のステージで構成されており、構成自体にはあまり変化がありませんが、卒団生ステージにその変化がみられます。卒団生のみで歌うだけでなく、卒団生が一回生の時の上回生を年毎にステージに招いてグリーライフ4年間の思い出の曲を歌っていくステージ内容であり、まさに卒団生の四年間がこのステージに凝縮されているといっても過言ではないでしょうか。

フェアウェルコンサートは在団生にとっても非常に重みのある演奏会です。クラブを支えてきた最上回生が抜けた、三回生以下のメンバーで始めて歌う、新体制のスタートとなるからです。

出合いがあれば別れがある。しかし、このクラブにおいて別れとはその言葉の中に再び仲間と出会える、そのような願いが込められているような気がしてなりません。

確かに同志社グリークラブは永遠には在団できず、四年で卒団しなければならないといった運命が存在します。けれどクラブで過ごした四年間の思い出は各々の胸に生き続け、心の拠り所となるでしょう。フェアウェルコンサートは卒団生にとって、クラブとの別れのある場であるとともに、新しい人生への旅立ちとも言え換えられるのではないのでしょうか。

現役四回生 藤谷 真、二回生 元吉圭太

「最近のフェアウェルコンサート」

同志社グリークラブと「太子山」

グリークラブ創部、100周年記念おめでとう御座います。

京都「祇園祭」の「太子山」にグリークラブ員が昇き手として、昭和50年(1975年)より参加して頂いてから連続30年間、先輩から後輩への引継ぎも良く、今日まで無事故にて祇園祭の斎行に携わって頂き、真夏の暑い日差しのもと、期待の眼差しで胸を膨らませる多くの観覧の皆さんに豪華絢爛たる懸装品で飾る「太子山」を披露して頂いている事に対し太子山保存会として感謝しているところです。

ことに今年は貴クラブの100周年記念をともに祝うが如く7月2日の「くじ取り式」に於いて、当保存会としては16年振りの「山第一番」を引き当て、「長刀鉾」に続いての晴れ晴れしい巡行列に参加し見事にその役を演じて頂きました。

祇園祭の巡行も戦後、色々と変革があり、昭和26年(1951年)までは、旧来のコースを巡行していましたが、昭和31年(1956年)から寺町通を経由し御池通に出るコースに変更され、昭和36年(1961年)から現在の巡行コースに変更されました。

太子山の山昇きさんは、戦前は向日市乙訓郡物集女の集落から来て頂いていましたが、戦後農村も人手不足となり、また背丈が揃わなくなりましたので、学生さんをお願いするようになりました。

巡行コースも旧来よりも長くなった事により、昭和三十九年(1964年)に木組の四本柱に車輪を付け、担う方法から押していく方法に変更されました。貴クラブと当保存会との出会いは先輩よりの話では、30年前に貴大学よりグリークラブを祇園祭の巡行に参加させて欲しいとの強い要請が有ったそうで、当時の保存会の長老達は貴クラブの規律正しい日頃の活動振りを良く知っていて快諾したとのことです。当時の長老達には先見の明があり、現在まで長期に亘ってのご協力が続いているのは、グリークラブに所属する皆さんが先輩より伝統行事の良き作法を継承され、礼儀正しい態度に安心しているからです。ことに巡行出発前に美しいハーモニーでのコーラスの披露は、近隣住民にも知れ渡り時間ともなれば何処からともなく集まり拝聴し、皆でお町内から巡行への出発を見送ってもらっています。



「祇園祭」 太子山保存会 会長 中野晴男



「太子山」の由来については、「聖徳太子尊」を御神体としてお祀りしているところから「太子山」の名がついています。お祀りしている「聖徳太子像」は美豆良に結った16歳のとき、父、用明天皇病氣平癒を祈願されている孝養太子像のお姿(法隆寺)を手本にして作られたものと言われています。

聖徳太子は、淡路塩屋に漂着した唐櫃の中から出てきた如意輪観音像を胸から下げて、持仏とされていた太子が、四天王寺建立に際し自ら山城の国折田郡土車の里に、右手に斧を持って仙入されましたが、その山中で清水(霊泉)の湧くのを見て、しばし傍らの「たらの木」にお厨子を懸けられておかれたところ、お厨子が木から離れないので仏堂建立を思い立たれ、仏のお告げで得た紫雲棚曳く大杉を伐り、六角堂を建立されたと云うのが、有名な六角堂頂法寺であります。太子山はこの縁起を元にした山と云われ、大杉にまさに斧を入れようとする太子の姿が取り入

れられているのです。

従って太子山だけは真松の替わりに杉を用いる慣わしで、巡行にはその杉にお厨子が祀られているのです。

祇園祭が始まってから、今日まで1135年の間にはさまざまな変遷を重ねてきましたが、正に動く美術館とも云われるように、わが国の最も優れた文化財として、国の重要有形民俗文化財の指定を昭和37年5月23日(1962年)に受け、その後昭和54年2月3日(1979年)に同じく国の重要無形民俗文化財の指定を受けました。私達は、この貴重な文化財を子々孫々に至るまで継承していかねばならない責務を負っています。どうか貴クラブの皆さんにも引続き継承の程をお願いすると共に日本三大祭りの一つである「祇園祭」を益々盛り上げて頂くよう期待しています。

平成16年7月吉日(2004年)

100周年記念イベント 第1弾「合唱フォーラム」

●2004年5月23日(日)／午後2:30～ ●同志社大学 寒梅館「ハーディーホール」

「歴史と伝統を生かしてその時代に関わる合唱を未来に!」

「クラブ創立100周年を記念して、京都で100年間歌い続けてこられた喜びを何か形に残したい…」そんな思いからこの「合唱フォーラム」の企画はスタートした。

2004年5月23日。新緑鮮やかな日曜日の午後、新築なった母校同志社の学生会館「寒梅館」ハーディーホールに全国から集まったOB諸兄を含む600人を越える合唱ファンを集めて、「京都・同志社・音楽～合唱音楽の楽しみ、その未来～」とアカデミックなテーマでフォーラムは開催された。

現役のカレッジ・ソングに続いて、フォーラムの第1部は、合唱人なら誰でも一度は歌ったことのある合唱界の大御所、作曲家多田武彦先生を迎えての「基調講演」から始まった。「京大時代は同志社の練習をこっそり見学した」「私の合唱ハーモニーの原点は同志社グリーと関学グリー」「清水脩先生や山田耕作先生に学んだこと」「出不精で代表作のご当地「柳河」に今だ旅した事すらない。しかし、京都は何かあると安らぎを求めて足繁く通った」など多田先生の知られざるエピソードの数々のご披露と合唱音楽を真摯に語る先生の講演に会場は静かな興奮と満足感に包まれた。

第2部は、OB諸氏によるパネルディスカッション。コーディネーターに日下部吉彦氏(S27卒)、パネラーに浅井敬壹氏(S37卒)、井阪絃氏(S39卒)、桑山博氏(S44卒)、伊東恵司氏(H2卒)が登場。会場にも四大学のOBとして松浦周吉氏(関学OB)、阿部良行氏(慶応OB)、池田寛水氏(早稲田OB)、そして合唱連盟から吉村信良氏(全日本合唱連盟理事長)、さらに多田武彦先生にも加わっていただいたの大討論会となった。

ステージ上のパネラー各氏からはそれぞれのグリー一現役当時の様子が紹介され、さらにかつてのライバル東西四大学のOB各氏からは100周年への祝辞と思い出などが披露された。

さらに、関西と関東の合唱団の置かれた環境の違い(東の唱歌と西の宗教曲)からの発展と歴史、合唱発声法の大切さ、音楽界全体との関わり、そしてその時代に関わる合唱活動の大切さなど、これからの合唱界や特に学生合唱団への提言がされるなど、予定以上にもっと時間の欲しい豪華な中身あるパネルディスカッションとなった。

そして討論終了後、多田先生指揮による「柳河」、日下部氏による「詩篇98」の会場全体の大合唱でフォーラムは最高潮を迎えた。

最後の第3部は、今回のフォーラムテーマの「合唱の楽しみ」を卒業後も実践するOBカルテット2組が登場。間もなく結成25周年を迎える「4×4(フォーバイフォー)」(長谷川邦男氏、森島敏夫氏、佐藤道雄氏、堀部勝也氏)の絶妙のスタンダードやジャズナンバーのハーモニー、こちらも結成20年を超える「ワイルドローバーズ」(萩原潤三氏、平井雅則氏、金子悦文氏、中村徹夫氏)の懐かしのPOPSメドレーやバワフルなハーモニーに会場は惜しめない拍手を送った。

また、フォーラム途中で同志社大学八田英二学長が祝辞を述べるために駆けつけていただくなど創立100周年の記念にふさわしいイベント第一弾は無事盛大に終了した。

高橋 博(昭和47年卒)



■案内パンフレット中面



「カレッジソング」を歌う現役グリーメン



パネルディスカッション 会場のパネラー諸氏



「柳河」を指揮される多田武彦先生



パネルディスカッション 同志社グリークラブ OB諸氏



客席風景



アトラクション「エンジョイ!ハーモニー」



客席風景



客席風景



「詩篇98」を指揮される日下部氏

同志社グリークラブ創立100周年記念
合唱フォーラム
京都・同志社・音楽
～合唱音楽の楽しみ、その未来～

PROGRAM

DOSHISHA COLLEGE SONG

記念講演 「私と同志社グリー」
基調講演 多田武彦（作曲家）

パネル・ディスカッション
「合唱音楽の楽しみとその未来」

コーディネーター
日下部吉彦（昭和27年卒）

パネリスト
浅井 敬豊（昭和37年卒）
井阪 紘（昭和39年卒）
桑山 博（昭和44年卒）
伊東 恵司（平成2年卒）

会場パネラー
多田 武彦（作曲家）
松浦 周吉（関西学院グリークラブOB）
阿部 良行（早稲田大学グリークラブOB）
池田 寛水（慶応ワグネルソサエティ男声合唱団OB）
吉村 信良（全日本合唱連盟理事長）

同志社大学長挨拶
学長 八田 英二

アトラクション「エンジョイ!ハーモニー」
フォーバイフォー、ワイルド・ローバース

100周年記念式典 ●2004年10月10日(日)/午前11:00～12:00 ●同志社大学 寒梅館「ハーディーホール」

午前11時から12時の間、ハーディーホールにて、創立100周年記念式典が挙行されました。厳粛な中にも華やいだ雰囲気の中で100年の重みを改めて感じることであった至福のひとつでした。

同志社グリークラブ創立100周年記念式典 式次第

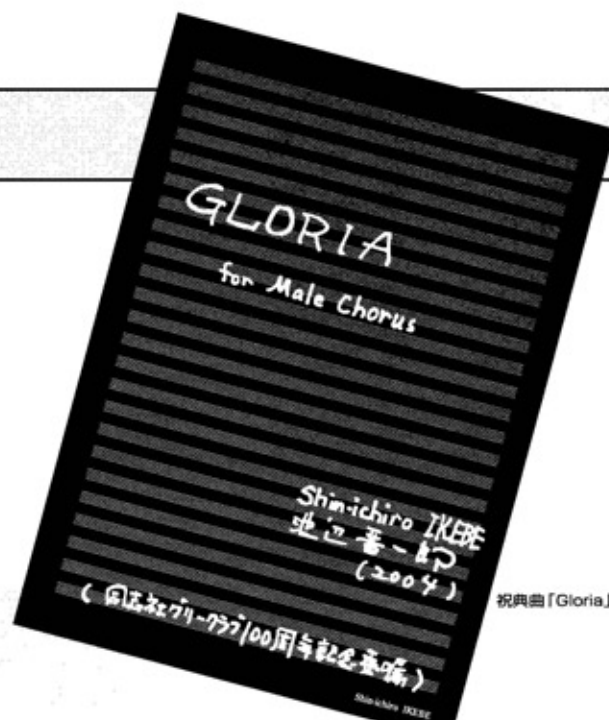
日時/2004年10月10日(日) 11時
会場/同志社大学寒梅館 ハーディーホール
司式/前グリークラブ顧問 澁谷昭彦(S31卒)
奏楽/荒井牧子

■前奏	プレリュードとフーガハ長調 BWV545より J.S.バッハ	
■招詞	澁谷昭彦	
■合唱	「Hail Our GLEE CLUB」	合唱/グリークラブ・OB 指揮/岩田有正(第73代学生指揮者)
■讃美歌	317「はなよりもめでにし」	一同
■聖書朗読ならびに祈祷	エフェソの信徒への手紙 5章19～20節	原 忠和(S31卒)
■永眠者追悼 献歌「Requiem Aeternam」		合唱/グリークラブ・OB 指揮/日下部吉彦(S27卒)
■式辞	OB会会長	遠藤 彰(S17卒)
■祝辞	同志社大学長	八田英二様
■祝辞	新月会理事長	中井三夫様
■謝辞	OB会理事長	木下利彦(S41卒)
■記念演奏「The Lord is my shepherd」		合唱/グリークラブ 指揮/岩田有正
■100周年記念祝典曲「Gloria」	作曲/池辺晋一郎	合唱/グリークラブ・クローバークラブ 指揮/浅井敬彦(S37卒)
■合唱	「Doshisha College Song」	一同 指揮/森本 潔(S36卒)
■頌栄	541「父、み子、みたまの」	一同
■祝祷		原 忠和
■後奏	トリオソナタ第1番変ホ長調 BWV525より J.S.バッハ	
■報告	澁谷昭彦	

本日は、アーレンオルガン社製デジタル・コンピューター・オルガンR-320型を使用いたします。



祝典曲を作曲頂いた池辺晋一郎氏



祝典曲「Gloria」楽譜



同志社大学 寒梅館



招待者 受付



OB 受付



聖書を朗読する 原 忠和 牧師 (昭和31年卒)



讃美歌を唄う参加者



左から、日下部吉彦氏 (昭和27年卒)、池辺晋一郎氏、浅井敬賢氏 (昭和37年卒)

レインボーコネクションフェスティバル

●2004年10月10日(日)/午後1:00～4:00 ●同志社大学 寒梅館「ハーディーホール」

グリークラブの原点は「歌う」こと。戦争の時代、学園紛争の時代など、数々の苦難の時にも純粋に音楽することを追い求めてきた伝統。時代は違っても脈々とその音楽は一世に受け継がれてきました。そんな100年に及ぶグリークラブ・OBのメンバーを虹色に例えて、現役プラス7色プラスワン計9つのブロックに分け、各々の時代の曲を歌いあげました。

1. みゆるしあらずば

2. 希望の島

3. 浮世の旅路

4. 心の緒琴に

5. 秋のピエロ

6. ピエロ

7. 月光とピエロとピエレットの唐草模様

(5～7 男声合唱組曲「月光とピエロ」より)

堀口大学 作詩 清水 脩 作曲

8. 最上川舟唄(山形県民謡)

1～4 指揮: 森本 潔 (S36卒)

5～8 指揮: 日下部吉彦 (S27卒)

Gold Connection ゴールド コネクション



GOLD



GOLD

1. KYRIE (「Messe Solennelle」より)

Albert Duhaupas 作曲

2. ピエロの嘆き

(男声合唱組曲「月光とピエロ」より)

3. Georgia On My Mind

ソロ: 坂下義紀 (S39卒) 編曲: 井阪 紘 (S39卒)

Red Connection レッド コネクション



RED

1 指揮: 湊谷和彦 (S42卒)

2 指揮: 廣野 寛 (S43卒)



ORANGE

1. Turn, Amarillis, To Thy Swain (TEN GLEESより)

Thomas Brewer 作曲

2. ふるさとにて (男声合唱組曲「北陸にて」より)

田中冬二 作詩 多田武彦 作曲

3. All my trials (黒人霊歌)

福永陽一郎 編曲

4. Wanting You (Musical「New Moon」より)

福永陽一郎 編曲

5. さらば青春

小椋 佳 作曲 福永陽一郎 編曲

指揮: 桑山 博 (S44卒)

Orange Connection オレンジ コネクション

1. Yellow Age's Tada-Take Medley / Edited by H. Inaguma

多田武彦 作曲

2. CREDO (「Messe Solennelle」より)

Albert Duhaupas 作曲

指揮: 山下裕司 (S52卒)

Yellow Connection イエロー コネクション



YELLOW

Green
Connection
グリーン
コネクション

1. 鐘鳴りぬ (男声合唱組曲「わがふるき日のうた」より)
三好達治 作詩 多田武彦 作曲
2. The Impossible Dream (見果てぬ夢)
(Musical「Man of la Mancha」より)
Joe Darion 作詩
Mitch Leigh 作曲
福永陽一郎 編曲 指揮: 芦田直幸 (S57卒)
伴奏: 長田育忠



GREEN



BLUE

Blue
Connection
ブルー
コネクション

- 「黒人霊歌」
1. Ev'ry Time I Feel The Spirit
 2. Ride the Chariot
 3. My Lord, What a Mornin'
 4. Didn't My Lord Deliver Daniel
- 指揮: 中村 洋 (S62卒)

Musical「Man of la Mancha」より
福永陽一郎 編曲

1. Man of la Mancha (I, Don Quixote)
2. The Impossible Dream

指揮: 福田研二 (H6卒)
伴奏: 長田育忠

Indigo
Connection
インディゴ
コネクション



INDIGO

男声合唱組曲「柳河風俗詩」
北原白秋 作詩 多田武彦 作曲

1. 柳河
2. 紺屋のおろく
3. かきつばた
4. 梅雨の晴れ間

指揮: 白石法之 (H13卒)

Purple
Connection
パープル
コネクション



PURPLE

Active
Connection
現 役



ACTIVE

1. 斎太郎節 (宮城県民謡)
2. 赤とんぼ
三木露風 作詩 山田耕祐 作曲
3. Ave, Verum Corpus
W.A. Mozart 作曲
指揮: 岩田有正 (第73代学生指揮者)

記念レセプション

●2004年10月10日(日)/午後5:30～8:00
●ウェスティン都ホテル京都

記念レセプションが記念式典、レインボー・コネクション・フェスティバルに続いてウェスティン都ホテル京都にて行われました。

藤井 清氏(昭和12年卒)の発声による乾杯で幕を開けた記念レセプションは、約650名の参加者で会場を埋めつくし、松山前総長を始めとする来賓の方々のユーモアを交えた祝辞で会場は感動の渦につつまれました。



松山前総長のごあいさつ



あいさつをする連藤 彰OB会長(昭和17年卒)



乾杯をする藤井先賢(昭和12年卒)



650名のレセプション風景



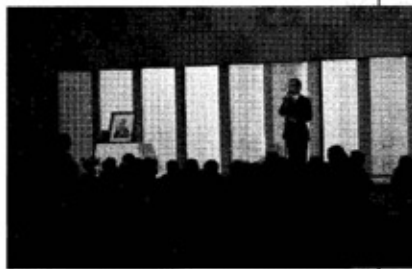
浅井敬豊氏の池辺先生直撃インタビュー



来賓のあいさつに耳を傾けるOB



いくつになっても歌うことを忘れないOB

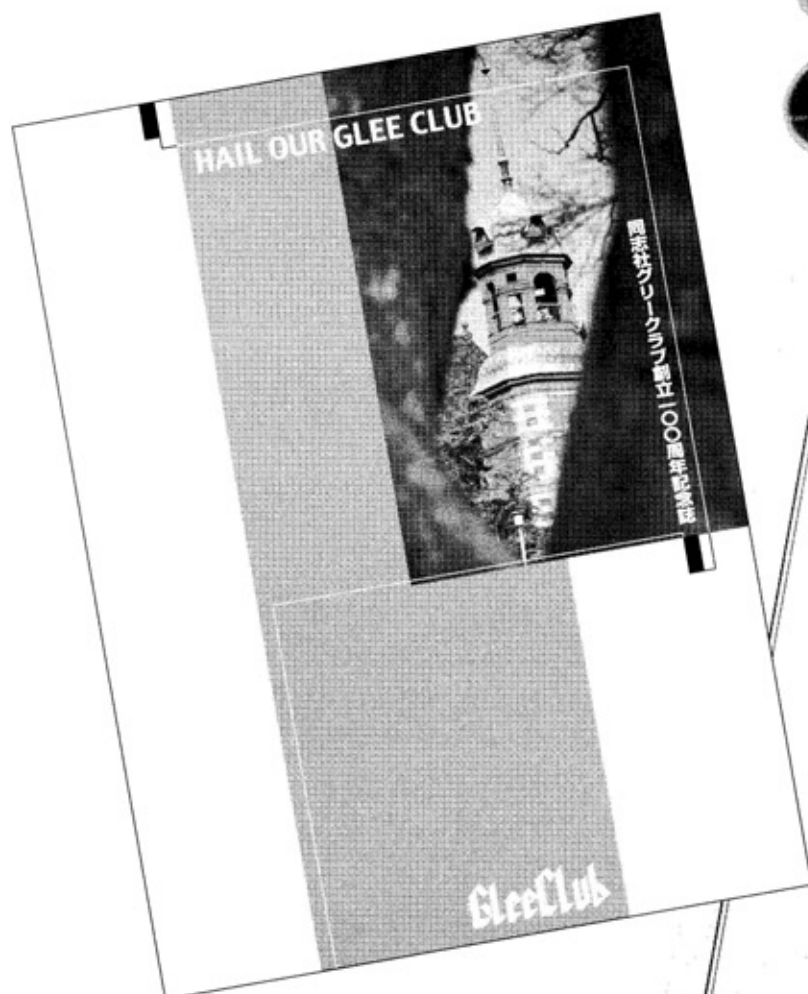


あいさつをする木下利彦委員長(昭和41年卒)

記念誌・合唱の記録のCD化

100周年記念プロジェクトにおいて、記念誌の発行と同時に「エピソード100」と題したグリー史の中のエピソードを纏めた物、また過去の記録をデジタル化する試みがなされました。

デジタル資料には、過去に発行された30周年誌、50周年誌、60周年誌、80周年誌の全コピー、及び過去の演奏会等の録音の一部が、計6枚のCDに収録されています。



同志社グリークラブ創立 81年～100年のあゆみ

■同志社グリークラブ合唱の記録/DISC 1

年号	創立	ステージタイトル	曲タイトル	演奏会	演奏会日付	場 所	作 詞 指 揮	作 曲 ソリスト	編 曲 演 奏
1		アナウンス							
2	昭和 29	50	Doshisha College Song	創立50周年記念 定期演奏会	1954.6.25	大阪産業会館	WM.Vories 渋谷 昭彦	C.Wilhelm	
3	昭和 39	60	Doshisha College Song	第60回定期演奏会	1964.11.23	京都府第一 ホール	WM.Vories 中川 清	C.Wilhelm	
4	昭和 59	80	Doshisha College Song	創立80周年記念 定期演奏会	1984.12.21	ザ・シンフォニー ホール	WM.Vories 高橋 圭二	C.Wilhelm	
5		同志社創立100周年 記念レコード	大学歌	同志社レコード					
6	昭和 61	82	Hail Our Glee Club	第2回 歌州演奏旅行	1986.3.10	リシュリコン 教会	J.N.Pierce 中村 洋	J.N.Pierce	原曲: Alma Mater
7	昭和 29	50	新しき歌をエホバに 向かって歌え(詩篇98)	創立50周年 記念レコード	1954.10.7	西宮 マーキュリー レコード	渋谷 昭彦		平田 南
8	平成 16	99	You'll Never Walk Alone	99フェアウエル	2004.2.14	同志社 チャペル	Oscar Hammerstein II 若田 有生	Richard Rodgers	福永 隆一郎 ピアノ: 坂田 佳央理
9	平成 16	99	春の調べ	99フェアウエル	2004.2.14	同志社 チャペル	西川 真澄		
10	平成 15	99	アンコール	希望の島	第99回定期演奏会	2003.12.7	京都コンサート ホール大ホール	西川 真澄	
11	昭和 57	78	故片桐野先生、 故大貫二先生追悼式	梅子の実	第78回定期演奏会	1982.12.11	ザ・シンフォニー ホール	大中 寅二	林光、福永 隆一郎 ピアノ: 福永 隆一郎
12	昭和 37	58	男声合唱組曲 「月光とピエロ」	秋のピエロ	第58回定期演奏会	1962.12.20	京都府第一 ホール	堀口 大幸	清水 清
13	昭和 39	60	「わが歳月」60周年記念 委嘱作品-初演	自立して	第60回定期演奏会	1964.11.23	京都府第一 ホール	坂田 寅夫 福永 隆一郎	大中 恩
14	昭和 29	50	通りゃんせ	創立50周年 記念レコード	1954.10.7	西宮 マーキュリー レコード	渋谷 昭彦		日下部 吉彦
15	昭和 32	53	Gloria	第10回全国 合唱コンクール	1957.11.23	大阪府立体育館	河原林 昭俊	Albert Duhaupas	
16	昭和 33	54	無人喜歌	Nobody knows de trouble I see	第54回定期演奏会	1958.5.31	栄光館	市島 重三	L.de Paur ピアノ: 有賀 のゆり
17	昭和 36	57	男声合唱組曲 「在りし日の歌」	米子	第57回定期演奏会	1961.7.1	京都府第一 ホール	中野 中也 逢井 敬賢	多田 武彦
18	昭和 40	61	「十の詩曲」による 六つの男声合唱曲	歌	第14回東西四大学 合唱演奏会	1965.6.19	東京文化会館 大ホール	新井: 安田 二郎 福永 隆一郎	D. Shostakovich 福永 隆一郎
19	昭和 41	62	男声合唱組曲 「月光とピエロ」	ピエロの嘆き	第15回東西四大学 合唱演奏会	1966.6.12	大阪フェスティバル ホール	堀口 大幸 福永 隆一郎	清水 清
20	昭和 44	65	男声合唱のための 「西つきの仕事」	酒蔵歌 ～若手農民謡	第18回東西四大学 合唱演奏会	1969.6.22	東京文化会館 大ホール	日下部 吉彦	小山 清茂
21	昭和 46	67	聖チェリアのための 荘厳ミサ	Credo	第67回定期演奏会	1971.12.2	京都府第一 ホール	宇部 允人	Charles Gounod Orch: ヴィエール室内合唱団

■同志社グリークラブ合唱の記録/DISC 2

年号	創立	ステージタイトル	曲タイトル	演奏会	演奏会日付	場 所	作 詞 指 揮	作 曲 ソリスト	編 曲 演 奏
1	昭和 47	68	合唱のための「三つの 抒懐」(男声版初演)	ふるさとへの夜に寄す	第21回東西四大学 合唱演奏会	1972.7.2	大阪フェスティバル ホール	立原 道造 福永 隆一郎	三橋 寛 福永 隆一郎 ピアノ: 笠原 道
2	昭和 49	70	「南太平洋」より	Bali Hai	第70回定期演奏会	1974.12.6	京都府第一 ホール	Oscar Hammerstein II 大島 功	Richard Rodgers 福永 隆一郎 ピアノ: 福永 隆一郎
3	昭和 51	72	「Messe Solennelle」	Kyrie	第72回定期演奏会	1976.12.14	京都府第一 ホール	山下 裕司	Albert Duhaupas
4	昭和 54	75	ミュージカル 「Man of La Mancha」より	The Impossible Dream	第75回定期演奏会	1980.1.8	京都府第一 ホール	Mitch Leigh 福永 隆一郎	Joe Darion 福永 隆一郎 ピアノ: 山本 優子
5	昭和 56	77	「NEGRO SPIRITUALS」	SET DOWN SERVANTS	第77回定期演奏会	1982.1.23	京都府第一 ホール	福永 隆一郎	
6	昭和 57	78	「MISSA BREVIS IN HON. ST. JOANNIS DE DEO in B-dur」	Agnus Dei	第78回定期演奏会	1982.12.11	ザ・シンフォニー ホール	J.Haydn 福永 隆一郎	F.Habel ソプラノ: 坂田 美里
7	昭和 59	80	Lieder eines fahrenden Gesellen 「さすらい者の歌」	Die zwei blauen Augen	創立80周年記念 定期演奏会	1984.12.21	ザ・シンフォニー ホール	Gustav Mahler 福永 隆一郎	Gustav Mahler 福永 隆一郎 ピアノ: 久瀨 之宜
8	昭和 61	82	歌劇 「タンホイザー」より	フィナーレ	第82回定期演奏会	1986.12.20	ザ・シンフォニー ホール	R.Wagner 高岡 健	R.Wagner ソプラノ: 岡崎 久美子 バリトン: 塚田 孝弘
9	平成 1	85	GREAT NUMBER FROM BROADWAY MUSICAL	Oh man river	第85回定期演奏会	1989.12.16	ザ・シンフォニー ホール	福永 隆一郎	
10	平成 3	87	LIEBESLIEDER	Zum Schluß (結び)	第87回定期演奏会	1991.12.18	ザ・シンフォニー ホール	G.F.Daumer/J.W.Goethe 堀中 俊輔	Johannes Brahms 福永 隆一郎 ピアノ: 山本 優子/長田 育忠
11	平成 4	88	R.シュトラウス歌曲集	Cacilie	第88回定期演奏会	1992.12.19	ザ・シンフォニー ホール	山下 一史	R. Strauss 福永 隆一郎 ピアノ: 久瀨 之宜
12	平成 6	90	新川和江の三つの詩 (新作初演)	はね橋 「はね橋」より	第90回定期演奏会	1994.12.20	ザ・シンフォニー ホール	新川 和江 石丸 真	石丸 真 ソプラノ: 日暮 喜恵美 バリトン: 田中 由也 (関西歌劇団)
13	平成 9	93	オペラ 「Porgy and Bess」より	Oh Lawd, I'm On My Way	第93回定期演奏会	1997.12.20	ザ・シンフォニー ホール	D.B.Hayward & L.Gershwin 小林 哲太	G.Gershwin ソプラノ: 福賀 美可 (関西二期会) バリトン: 田中 由也 (関西歌劇団)
14	平成 10	94	DOSHISHA GLEE CLUB SELECTION	豊上川内歌	第94回定期演奏会	1998.12.14	ザ・シンフォニー ホール		
15	平成 13	97	「かみさまへのてがみ」	終曲	第97回定期演奏会	2001.12.15	京都コンサート ホール大ホール	詞曲: 谷川 俊太郎 本山 秀樹	高橋 みどり ピアノ: 泉 マリ
16	平成 14	98	ミュージカル 「Man of La Mancha (ラ・マンチャの男)」より	Finale Knight of The Woeful Countenance~ Man of La Mancha~ The Impossible Dream	第98回定期演奏会	2002.12.7	京都コンサート ホール大ホール	Mitch Leigh 訪向 敬和	Joe Darion 源田 俊一郎 ピアノ: 坂田 佳央理 パーカッション: 福井 鈴

同志社グリークラブよ、永遠に



現役幹事長 藤谷 真(四回生)

「歌を歌う」という人間にとって純粋な活動のみを通じて100年もの間人の心、魂を揺さぶり続けてきた同志社グリークラブ。

100年という歴史を築いてこれたのは奇跡でもなんでもない、必然なのだと私は断言できます。なぜなら同志社グリークラブの歌声には技術を越えたもの、魂の叫び、生命の輝きが込められているからです。たしかに、素晴らしい技術は人々の心を打つことが出来るでしょう。しかし、その技術だけでは真の意味で人との心の対話、感動の共有はできません。プライドや、エゴを取り払い、自己のありのままの姿を、思いをすべて声に変え、歌うことによってこそ歌い手、聞き手の境界を越えて、感動の共有が出来、「聴衆と一体となった音楽」が生まれるのです。

現在、世界には音楽、音が満ち溢れ、音のない世界は想像することは出来ないといっても過言ではないと思います。しかし、その音楽の多くは人々にすぐに飽きられて捨てられているのが現状です。それはCDのヒットチャート等を見ればすぐにわかります。その逆に、いつまでも人々の心に残り愛され続けている音楽があるという事実も存在します。その両者の差は何なのかを考えた際に、後者の音楽には普遍的なもの、人間の喜怒哀楽といっ

た感情、魂の叫びが込められているのだと思います。それは同志社グリークラブに当てはまるのではないのでしょうか。100年もの間に時代が数々の変遷を遂げる中、いつの時代も変わらず、同志社グリークラブの音楽、声に普遍的なもの、音楽を、仲間を、クラブを愛する心、自己の様々な思いが存在していたのだと言えます。

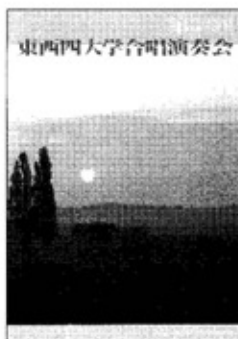
同志社グリークラブが創立100周年を迎えたことは真に素晴らしいことであり、今こうしてクラブで歌えることを部員一同誇りに思うと同時に歴史を築いてこられた偉大な先輩方に敬意の念を抱いております。しかし、この100周年が同志社グリークラブの終着点ではないと思います。その気持ちは私達以上に先輩方のほうが強く抱かれていることでしょう。150年、200年と歴史を重ね、永遠に同志社グリークラブの歌声が人々の心に残り、愛され続けて欲しいと願うのではなく、そうであると信じております。人生のなかにおけるたった4年ではありますが、仲間や先輩方とそして、世界にひとつしかない同志社グリークラブの音楽と出会い成長できたことはかけがえのない財産であり、その思いは皆同じだと思います。グリークラブを卒団しても魂は卒業せず、これからもグリークラブとともに歩み続けることでしょう。

同志社グリークラブよ、ありがとう、そして永遠に...

東西四大学

東西四大学合唱演奏会 この20年

第34回



PROGRAM	
第1曲	「あふたりの心」
作曲	山本 優子
指揮	福永陽一郎
ピアノ	山本 優子
第2曲	「Lieder eines schmerzlichen Geistes」
作曲	Henri Duparc
編曲	北村 協一
指揮	福永陽一郎
ピアノ	山本 優子
第3曲	「デュバルク歌曲集」
作曲	Henri Duparc
編曲	北村 協一
指揮	福永陽一郎
ピアノ	山本 優子

1985年6月8日 東京厚生年金会館大ホール

6月9日 東京文化会館大ホール

「MISERERE」～詩編51より～

伴奏付男声合唱のための

(日本初演)

作曲 Gaetano Donizetti, 編曲 福永陽一郎

<指揮> 福永陽一郎 <ピアノ> 山本優子

(合同演奏)

「デュバルク歌曲集」

作曲 Henri Duparc, 編曲 北村協一, 藤森数彦

<指揮> 三林 輝夫

<ピアノ> 田中瑤子・中野明子

第35回 東西四大学合唱演奏会



PROGRAM	
第1曲	「ドイツ民謡集」
作曲	ドイツ民謡
指揮	福永陽一郎
第2曲	「月光とピエロ」
作曲	堀口 大祐
指揮	福永陽一郎
ピアノ	清水 脩
第3曲	「デュバルク歌曲集」
作曲	Henri Duparc
編曲	北村 協一
指揮	福永陽一郎
ピアノ	山本 優子

第35回

1986年6月21日 フェスティバルホール

「ドイツ民謡集」-新しい合唱の

スタンダードを求めて-

<指揮> 福永陽一郎

(合同演奏)

男声合唱組曲「月光とピエロ」

作詩 堀口大祐, 作曲 清水 脩

<指揮> 山田 一雄

第36回



PROGRAM	
第1曲	「チャイコフスキー歌曲集」
作曲	Pyotr Ilyich Tchaikovsky
編曲	福永陽一郎
指揮	富岡 健
ピアノ	久邇 之宜
第2曲	「ゆうやけの歌」
作詩	川崎 洋
作曲	湯山 昭
指揮	松尾 葉子
ピアノ	大島 義彰

1987年6月20日 サントリーホール

「チャイコフスキー歌曲集」

作曲 P.I. チャイコフスキー, 編曲 福永陽一郎

<指揮> 富岡 健 <ピアノ> 久邇 之宜

(合同演奏)

男声合唱とピアノのための「ゆうやけの歌」

作詩 川崎 洋, 作曲 湯山 昭

<指揮> 松尾 葉子 <ピアノ> 大島 義彰

第37回

1988年6月19日 フェスティバルホール

「CHANTS D'AUVERGNE」

(オーヴェルニュの歌)

原作曲 Joseph Canteloube, 編曲 福永陽一郎

<指揮> 富岡 健 <チェロ> 水谷 彰子

<オボエ> 三島 文子 <コントラバス> 石丸 美佳

(合同演奏)

「ドイツ男声合唱曲集」

<指揮> 福永 陽一郎

<伴奏> 大阪教育大学ウインドアンサンブル



第38回

1989年6月24日 東京文化会館大ホール

男声合唱組曲「月光とピエロ」

作詩 堀口 大學, 作曲 清水 脩

<指揮> 福永 陽一郎

(合同演奏)

歌劇「タンホイザー」より

作曲 R.Wagner, 編曲 福永 陽一郎

<指揮> 畑中 良輔 <ピアノ> 佐藤 正浩



第39回

1990年6月24日 フェスティバルホール

「MESSE SOLENNELLE」

作曲 Albert Duhaupas

<指揮> 佐々木 修

(合同演奏)

男声合唱のための「アイヌのウポポ」

採譜 近藤 鏡二郎, 作曲 清水 脩

<指揮> 佐々木 修





第40回 記念演奏会

1991年6月16日 フェスティバルホール

6月22日 東京文化会館大ホール

男声合唱とピアノのための「縄文」

作詩 宗 左近, 作曲 荻久保 和明

<指揮>小林 研一郎 <ピアノ>久邇 之宜

(合同演奏)

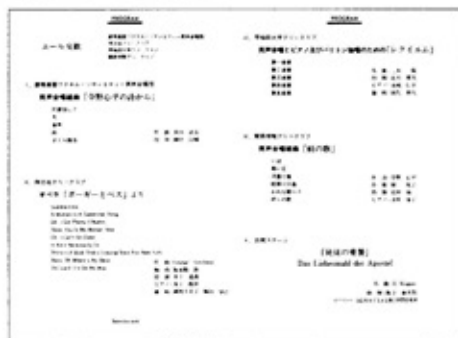
男声合唱組曲「御 誦」

作曲 大島 ミチル

<指揮>北村 協一 <ピアノ>谷池 重祐子

<ハ・カッション> 吉岡 孝悦, 高橋 明邦

<アルト独唱> 志村 年子



第41回

1992年6月28日 フェスティバルホール

オペラ「ボーギーとベス」より

作曲 George Gershwin, 編曲 福永 陽一郎

<指揮> 井上 道義 <ピアノ> 井上 珠世

<独唱> 岡坊 久美子 塚田 康弘

(合同演奏)

「使徒の愛餐」Das Liebesmahl der Apostel

作曲 R.Wagner

<指揮> 飯守 泰次郎

<オーケストラ> 同志社女子大学音楽学科管弦楽団



第42回

1993年6月23日 昭和女子大学人見記念講堂

「チャイコフスキー歌曲集」

作曲 P.チャイコフスキー, 編曲 福永 陽一郎

<指揮>黒岩 英臣 <ピアノ>久邇 之宜

(合同演奏)

オペレッタ「メリー・ウイダー」より

作曲F.レハール, 編曲北村協一, 訳詞野上 彰

<指揮>松尾 葉子 <ピアノ>鈴木 織衛

<独唱>加藤千春 <ヴァイオリン>浅井万水美

第43回

1994年6月26日 フェスティバルホール

「大作曲家による東ヨーロッパ民謡」

作曲 Béla Bartók 他

<指揮> 本山 秀毅

<トランペット> 竹森 健二

<ハープカッション> 小川 真由子

(合同演奏)

「アメリカの懐かしい歌」

<指揮・編曲> 石丸 寛



第44回

1995年6月17日 昭和女子大学人見記念講堂

男声合唱組曲「御 誦」

作曲 大島 ミチル

<指揮> 黒岩 英臣 <ピアノ> 久邇 之宜

<アルト独唱> 井上和世

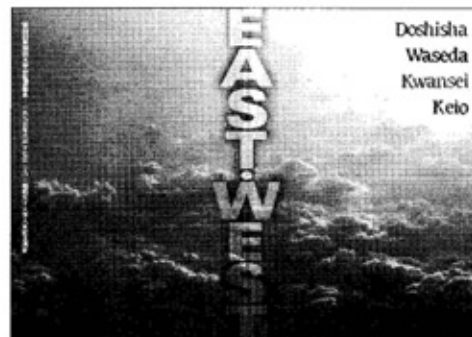
<ハープカッション> 小川 真由子・南雲 和佳奈

(合同演奏)

「Missa Mater Patris」より

作曲 Josquin des prez

<指揮・編曲> 皆川 達夫



第45回

1996年6月30日 フェスティバルホール

男声合唱のための「季節へのまなざし」

作詩 伊藤 海彦, 作曲 荻久保 和明

<指揮> 小泉 ひろし <ピアノ> 長田 育忠

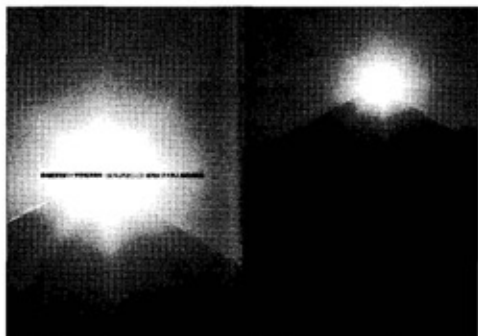
(合同演奏)

「スウェーデン・ロマン派の合唱曲」

<指揮> 松原 千振

<ピアノ独唱> 広瀬 康夫





第46回

1997年6月22日 昭和女子大学人見記念講堂

「DISSEMINATION

～20世紀のアメリカ合唱曲から～」

作曲 Randall Thompson, Samuel Barber,
Aaron Copland 他

<指揮> 本山 秀毅 <ピアノ> 長田 育忠

<ティンパニー> 越川 雅之

(合同演奏)

男声合唱組曲「富士山」

作詩 草野 心平, 作曲 多田 武彦

<指揮> 多田 武彦

第47回

1998年6月28日 フェスティバルホール

男声合唱組曲「雪と花火」

作詩 北原 白秋, 作曲 多田 武彦

<指揮> 浅井 敬壹

(合同演奏)

ロシア革命詩人による”十の詩曲”より

「六つの男声合唱曲」

訳詩 安田 二郎, 作曲 D. Shostakovich,

編曲 福永 陽一郎

<指揮> 浅井 敬壹



第48回

1999年6月27日 昭和女子大学人見記念講堂

「トルミス男声合唱作品」より

エストニア民謡, 作曲 V. トルミス

<指揮> 松原 千振

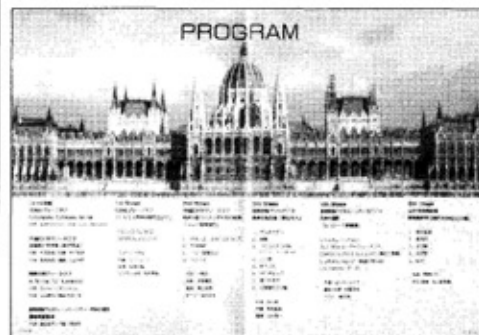
<ソプラノ独唱> 野本 英理

(合同演奏)

無伴奏男声合唱のための「幻の雪」

作詩 草野 心平, 作曲 萩久保 和明

<指揮> 萩久保 和明



第49回

2000年7月2日 ザ・シンフォニーホール

「Gustav Holst Six Choruses」

作詩 Helen Waddell, 作曲 Gustav Holst

<指揮> 本山 秀毅

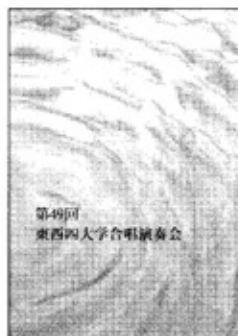
<弦楽合奏> セント・ポール・チェンバー・オーケストラ

(合同演奏)

男声合唱組曲「水のいのち」

作詩 高野 喜久雄, 作曲 高田 三郎

<指揮> 須賀 敬一 <ピ・アノ> 中村 有木子



第50回

2001年7月1日 昭和女子大学人見記念講堂

男声合唱組曲「クレアの絵本第2集」

作詩 谷川 俊太郎, 作曲 三善 晃

<指揮> 本山秀毅

(合同演奏)

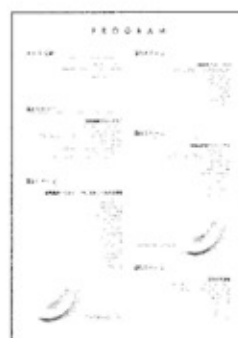
男声合唱とピアノのための「祈りの虹」

作詞 峠 三吉・金子 光晴・津田 定雄

作曲 新実 徳英

<指揮> 新実徳英

<ピ・アノ> 中川 俊郎



第51回

2002年6月30日 ザ・シンフォニーホール

男声合唱とピアノのための「三つの時刻」

作詩 丸山 薫, 作曲 三善 晃

二群の男声合唱とピアノのための「路標のうた」

作詩 木島 始, 作曲 三善 晃

<指揮> 本山 秀毅 <ピ・アノ> 船橋 美穂

(合同演奏)

「Messe in B Op.172」

作曲 Rheinberger Joseph Gabriel

<指揮> 藤井 宏樹 <ピ・アノ> 大竹 久美



第52回

2003年6月29日 東京文化会館大ホール

「5月の歌」～ドイツ・ロマン派の男声合唱曲より～

<指揮> 本山 秀毅

(合同演奏)

「バーバーショップコーラスの世界」

<指揮> 広瀬 康夫



プログラム 1. 第1部 男声合唱曲より 2. 第2部 バーバーショップコーラスの世界 3. 第3部 男声合唱曲より 4. 第4部 男声合唱曲より 5. 第5部 男声合唱曲より	1. 第1部 男声合唱曲より 2. 第2部 バーバーショップコーラスの世界 3. 第3部 男声合唱曲より 4. 第4部 男声合唱曲より 5. 第5部 男声合唱曲より
--	---

第53回

2004年6月27日 NHK大阪ホール

「シベリウス男声合唱曲より 作品18」

作曲 Jean Sibelius

<指揮> 本山 秀毅

(合同演奏)

「THE BEST SONGS ON BROADWAY」

編曲 信長 貴富

<指揮> 清水 雅彦 <ピアノ> 福崎 由香



プログラム 1. 第1部 シベリウス男声合唱曲より 2. 第2部 THE BEST SONGS ON BROADWAY 3. 第3部 シベリウス男声合唱曲より 4. 第4部 THE BEST SONGS ON BROADWAY 5. 第5部 シベリウス男声合唱曲より	1. 第1部 シベリウス男声合唱曲より 2. 第2部 THE BEST SONGS ON BROADWAY 3. 第3部 シベリウス男声合唱曲より 4. 第4部 THE BEST SONGS ON BROADWAY 5. 第5部 シベリウス男声合唱曲より
---	--

関西六大学合唱演奏会



昭和49年第1回開催以来、二度の大阪フィルハーモニーそして朝比奈隆との競演など輝かしい歴史を残してきた六連…しかし私達の年に回って来た時にはその面影は全くあり

ませんでした。各大学の部員の減少、それに伴う集客の減少は著しく、2700人のキャパシティを誇る大阪フェスティバルホールにはここ数年、半分以上の1300人ほどしか入らないという惨状でした。このような状況では演奏会の存在自体を疑問視する声も当然出てきます。28回六連終了後、関学が「このような演奏会に参加する意義がない。一度、六大学の首脳陣で演奏会の取り組み姿勢を確認し合いたい。それ次第では脱退したい」と切り出したのです。次年度の幹事をやることになっていた私にはショッキングでした。どうしても自分の力で六連を立て直したいと思っていたからです。結局話し合いの場では、演奏面、集客面の両方で29回を全力で取り組み、もし成果が見られないなら解散に踏み切るということで一致しました。その後、私を中心としたマネージャーや学生指揮者は幾度となく集合し、どうすれば成功に導けるかを話し合いました。日曜の昼十二時から夜の九時までコーヒー一杯で同じ喫茶店で話し合うということもありました。その結果、合同ステージは女性指揮者の指揮で誰でも知っているポピュラーソングのメドレーを歌うという異色のステージにすることを決めました。また集客面では各大学の持ち場を大きく変更させて、今までよりもきめ細かな地元の合唱団への宣伝活動を行うことにし、ホールも住み慣れた大阪フェスティバルホールから大阪厚生年金会館に移して大阪南部の客も狙うことにしました。またホールを移すことで経費も大幅

に削減できるようにしました。すべてが現状を打開しようと必死に模索した結果であったのですが私は本当に不安な毎日でした。これだけの変化を試みて演奏会が大コケしたら一体周囲からどのような批判があるかと思うと心配で夜も眠れない日もありました。その不安を紛らわすには自分自身が宣伝活動に精を出すことが一番でした。とにかく多くの合唱団を周り、チケットを多く買ってもらおうと授業など無視して宣伝活動を行いました。ようやく手ごたえを感じたのは演奏会二週間前に指定席が完売した時です。そして当日、予想を上回る1900人の客入りと自分自身のマネージミスの為、開演が15分遅れるアクシデントが発生、しかし演奏会自体は成功で、アンコールの「川の流れるように」の大合唱はとても感動的なものとなりました。最後の拍手を聞いた時、一年間の苦勞が吹き飛びました。

しかし、演奏会数日後の話し合いでは会議が紛糾しました。演奏面はともかく、集客面について表面的には成功したようには見えたとはいえ、実態は一部の大学の頑張り過ぎ、大学間のモチベーションの差は今回も解決されていなかったのです。表面的には成功を取めた演奏会の解散は外部から見れば大きな矛盾のように見えます。しかし、僕達は六連を続けることがこれからの各団の活動に支障をきたすと判断し、解散を選択しました。もちろんこの結論に到るまで何度も話し合いの場が持たれたのは言うまでもありません。三十年間の歴史に自分自身でピリオドを打つことに抵抗も感じました。でもこれが現状での最良の選択だったと今でも思っています。

長谷川 亮太(平成16年卒)

関西六大学

関西六大学合唱演奏会

第1回 関西六大学合唱演奏会

昭和49年11月1日大阪厚生年金会館大ホール

単独 男声合唱曲「智恵子抄」より

作詩 高村光太郎

作曲 清水 脩

指揮 大島 功

ピアノ 笠原 進

合同 A.Duhaupasの荘厳ミサより「Credo」

作曲 Albert Duhaupas

指揮 北村 協一

第2回 関西六大学合唱演奏会

昭和50年10月28日大阪厚生年金会館大ホール

単独 男声合唱組曲「大手拓次の三つ詩」

作詩 大手 拓次

作曲 清水 脩

指揮 山口 正

合同 男声合唱組曲「富士山」

作詩 草野 心平

作曲 多田 武彦

指揮 福永陽一郎

第3回 関西六大学合唱演奏会

昭和51年10月19日大阪フェスティバルホール

単独 Messe Solennelle(荘厳ミサ曲)

作曲 Albert Duhaupas

指揮 山下 裕司

合同 男声合唱組曲「海の構図」

作詩 小野 純一

作曲 中田 喜直

編曲 福永陽一郎

指揮 関屋 晋

第4回 関西六大学合唱演奏会

昭和52年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 男声合唱組曲「沙羅」

作詩 清水 重道

作曲 信時 潔

編曲 福永陽一郎

指揮 林 宏之

ピアノ 長島 優子

合同 「魔笛」より「僧侶の合唱」

作曲 W.A.Mozart

「魔弾の射手」より「狩人の合唱」

作曲 C.M.Weber

「フィデリオ」より「囚人の合唱」

作曲 L.Beethoven

「タンホイザー」より「巡礼の合唱」

作曲 R.Wagner

「さまよえるオランダ人」より「水夫の合唱」

作曲 R.Wagner

管弦楽 大阪フィルハーモニー交響楽団

指揮 朝比奈 隆

第5回 関西六大学合唱演奏会

昭和53年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 男声合唱組曲「北斗の海」

作詩 草野 心平

作曲 多田 武彦

指揮 樋上 雅人

合同 男声合唱のための「おおさか」

—関西六大学合唱連盟本年度委嘱作品—

作曲 外山 雄三

指揮 外山 雄三

ピアノ 加藤八千代

第6回 関西六大学合唱演奏会

昭和54年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 「MASS No.2 IN G」

作曲 C.F.GOUNOD

指揮 千代沢修一

合同 「SEA SHANTY」より

編曲 ROBERT SHAW他

指揮 北村 協一

関西六大学合唱演奏会

第7回 関西六大学合唱演奏会

昭和55年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 男声合唱組曲「雪と花火」
作詩 北原 白秋
作曲 多田 武彦
指揮 池尻 隆弘

合同 「十の詩曲」より
作詩 安田 二郎
作曲 D.Shostakovich
編曲 福永陽一郎
指揮 浅井 敬壹

第8回 関西六大学合唱演奏会

昭和56年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 ルネッサンス合唱曲集
編曲 福永陽一郎
指揮 芦田 直幸

合同 MESSE DE L'ORPHEON
指揮 根津 弘

第9回 関西六大学合唱演奏会

昭和57年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 ZIGEUNERLIEDER Op.103
(ジプシーの歌)

作曲 Johannes Brahms
指揮 楠 敏也
独唱 西山 勲
鈴木 典夫
ピアノ 長田 育忠

合同 男声合唱組曲「枯木と太陽の歌」
作詩 中田 浩一郎
作曲 石井 欽
指揮 関屋 晋
ピアノ 山本 篤子

第10回 関西六大学合唱演奏会

昭和58年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 男声合唱組曲「わが歳月」
作詩 阪田 寛夫
作曲 大中 恩
指揮 須藤 彰二

合同 「LES PRELUDES(前奏曲)」
-合唱初演-
作詩 安田 二郎
作曲 Franz LISZT
編曲 福永陽一郎
指揮 福永陽一郎
ピアノ 伊吹 元子
山本 優子

第11回 関西六大学合唱演奏会

昭和59年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 Zigeunermelodien Op.55
作詩 Antonin Dvorak
指揮 高橋 圭二
ピアノ 長田 育忠

合同 「コダーイ男声合唱曲集」
作曲 Kodaly Zoltan
指揮 洲脇 光一

第12回 関西六大学合唱演奏会

昭和60年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 Ein Liebesliederbuch(愛の詩集)
作曲 Richard Strauss
編曲 福永陽一郎
指揮 神谷 伸行
ピアノ 長田 育忠

合同 Requiem in D minor
作曲 Luigi Cherubini
指揮 小松 一彦
管弦楽 関西フィルハーモニー管弦楽団

関西六大学合唱演奏会

第13回 関西六大学合唱演奏会

昭和61年11月2日大阪フェスティバルホール

単独 「7Negro Spirituals」

指揮 中村 洋

合同 男声合唱組曲「岬の墓」

作詩 堀田 善衛

作曲 團 伊玖磨

指揮 関屋 晋

ピアノ 長田 育忠

第14回 関西六大学合唱演奏会

昭和62年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 「Nänie」(哀悼歌)

作詩 F.Schiller

作曲 J.Brahms

編曲 北村 協一

指揮 武内 和朋

ピアノ 長田 育忠

合同 HELGOLAND (本邦初演)

作曲 Anton Bruckner

指揮 朝比奈 隆

管弦楽 大阪フィルハーモニー交響楽団

第15回 関西六大学合唱演奏会

昭和63年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 「Die Tageszeiten」op.76

作詩 Joseph von Eichendorff

作曲 Richard Strauss

ピアノ編曲 Otto Singer

指揮 大島 直哉

ピアノ 長田 育忠

合同 「スロヴァキア民謡曲集」より

作曲 Bela Bartok

Eugen Suchon

指揮 洲脇 光一

第16回 関西六大学合唱演奏会

平成元年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 「Lieder eines fahrenden Gesellen」

(さすらう若人の歌)

作詩 Gustav Mahler

作曲 Gustav Mahler

編曲 福永陽一郎

指揮 伊東 恵司

ピアノ 長田 育忠

合同 Musical「Man of La Mancha

(ラ・マンチャの男)」

作詩 Joe Darion

作曲 Mitch Leigh

編曲 福永陽一郎

指揮 富岡 健

ピアノ 久邇 之宜

第17回 関西六大学合唱演奏会

平成2年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 From The Sunny South～A Choral

Suit on The Songs of Stephen Foster～

作曲 Stephen Foster

編曲 福永陽一郎

指揮 竹内 正

ピアノ 長島 優子

合同 男声合唱のための「四つの仕事唄」

作曲 小山 清茂

指揮 平田 勝

第18回 関西六大学合唱演奏会

平成3年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 男声合唱組曲「青いメッセージ」

作詩 草野 心平

作曲 高嶋みどり

指揮 永島 健一

ピアノ 長田 育忠

合同 男声合唱組曲「富士山」

作詩 草野 心平

作曲 多田 武彦

指揮 多田 武彦

関西六大学合唱演奏会

第19回 関西六大学合唱演奏会

平成4年11月1日大阪フェスティバルホール

単独 Musical「Man of La Mancha
(ラ・マンチャの男)」

作詩 Joe Darion
作曲 Mitch Leigh
編曲 福永陽一郎
指揮 村上 哲夫
ピアノ 長田 育忠

合同 「Negro Spiritual」
編曲 石丸 寛
指揮 石丸 寛

第20回 関西六大学合唱演奏会

平成5年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 男声合唱組曲「永訣の朝」
作詩 宮沢 賢治
作曲 鈴木 憲夫
指揮 福田 研二
ピアノ 長田 育忠

合同 「タンホイザー」より
「大行進曲」「巡礼の合唱」「フィナーレ」
作曲 R.Wagner
指揮 佐々木 修
管弦楽 大阪シンフォニカーオーケストラ

第21回 関西六大学合唱演奏会

平成6年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 「トスティー歌曲集」
作曲 F.P.Tosti
編曲 北村 協一
指揮 長谷川宏志
ピアノ 長田 育忠

合同 「合唱のためのコンポジションⅢ」
作曲 間宮 芳生
指揮 斉田 好男

第22回 関西六大学合唱演奏会

平成7年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 男声合唱組曲「縄文」
作詩 宗 左近
作曲 萩久保和明
指揮 上野 大介
ピアノ 長田 育忠

合同 ヴェルディ・オペラ合唱曲集
作曲 Giuseppe Verdi
指揮 辻 正行
ピアノ 長田 育忠

第23回 関西六大学合唱演奏会

平成8年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 「ZIGEUNERMELODIEN」Op.55
作詩 A.Heyduk
作曲 A.Dvorak
編曲 福永陽一郎
指揮 坂田 善弘
ピアノ 長田 育忠

合同 「Disney Standard Numbers」
編曲 源田俊一郎
指揮 外山 浩爾
ピアノ 長田 育忠

第24回 関西六大学合唱演奏会

平成9年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 男声合唱組曲「在りし日の歌」
作詩 中原 中也
作曲 多田 武彦
指揮 小林 香太

合同 「Merry Widow」より
作曲 Franz Lehar
編曲 福永陽一郎
指揮 富岡 健
ピアノ 田淵 幸三
ソプラノ 芦原 昌子

関西六大学合唱演奏会

第25回 関西六大学合唱演奏会

平成10年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 「The Testament of Freedom」

原文 Thomas Jefferson

作曲 Randall Thompson

指揮 石井 隆昭

ピアノ 長田 育忠

合同 男声合唱のための「四つの仕事唄」

作曲 小山 清茂

指揮 齊田 好男

樽太鼓 茶屋 克彦

第26回 関西六大学合唱演奏会

平成11年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 「コダーイ男声合唱曲集」

作曲 Kodaly Zoltan

指揮 五十嵐嘉紀

合同 「IN TERRA PAX～地に平和を～」

作詩 鶴見 正夫

作曲 萩久保和明

指揮 高嶋 昌二

ピアノ 藤澤 篤子

第27回 関西六大学合唱演奏会

平成12年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 「Fallaの7つのスペイン民謡」

作曲 M.d.Falla

編曲 青島 広志

指揮 白石 法之

ピアノ 泉 マリ

パーカッション 田中 安紀

合同 男声合唱組曲「御誦」

作曲 大島ミチル

指揮 当間 修一

ピアノ 木下 亜子

パーカッション 山内 利一、中路 友恵

第28回 関西六大学合唱演奏会

平成13年11月3日大阪フェスティバルホール

単独 「合唱のためのコンポジションⅢ」

作曲 間宮 芳生

指揮 福田 一登

合同 「V.Tormis男声合唱作品集」

作曲 Veljo Tormis

指揮 伊東 恵司

ソプラノ 日下部祐子

第29回 関西六大学合唱演奏会

平成14年10月27日大阪厚生年金会館大ホール

単独 Musical「Man of La Mancha
(ラ・マンチャの男)」より

作詩 Joe Darion

作曲 Mitch Leigh

編曲 源田俊一郎

指揮 坊向 敏和

ピアノ 坂田佳央里

パーカッション 福井 鈴

合同 「来ればわかる!」

編曲 村上 果

指揮 飯沼 京子

ピアノ 村上 果

トランペット 築山 昌弘、福谷 誉樹

ホルン 佐藤 明美、椋橋 基博

トロンボーン 細川由美子

テューバ 小林 裕

パーカッション 和佐野勲

同志社・立教大学グリークラブ 交歓演奏会について

同志社大学

同立は、昭和62年の第24回を最後にその後開催されていない。双方（特に同志社サイド）のスケジュールの調整がつかないことが主たる原因であるようである。

同立は、日本で一番古い伝統がある交歓演奏会であり（第一回は昭和6年）、戦後も昭和22年に立教大学グリークラブの復活第一回の定期演奏会に同志社グリークラブが賛助出演したことでその演奏会が成立したということ、その翌年には、その思いもあり、戦後復活第一回の同立が開催され、その後昭和41年までは毎年開催された。

立教大学グリークラブの50周年誌（昭和49年刊）には、立教にとって戦後の復活は同志社あってのこと、という文章があり、彼らの歴史における同志社は、パートナーとしての思いが強く、また、非常にありがたいことに、その伝統は今の現役にも語り継がれていると聞く。しかしながら、その是非は別として、同志社はその後の軸足が東西四連へシフトして行き、既に20年近くも同立は開催されていない。

現役が無理ならばOBで！という志を持って、今年（平成16年）の7月31日に、同立OB交歓演奏会が立教大学構内で開催されたことは喜ばしいことである。次のOB演奏会の開催を期待すると同時に、いつの日にか現役の同立の再復活への希望を持ち続けたいものである。

立教大学

同志社・立教交歓演奏会年表

年 月 日	場 所	内 容
第1回 1931年(昭和 6年) 5月15日	東京・朝日講堂	出演団体 同志社グリークラブ、プリムローズ、管弦楽団、マンドリンクラブ 立教大学:管弦楽団、グリークラブ
第2回 1932年(昭和 7年) 5月16日	同志社・栄光館 この年2月15日栄光館落成	出演団体 同志社グリークラブ、プリムローズ、邦楽部、マンドリンクラブ 管弦楽団 立教大学:管弦楽団、
第3回 1933年(昭和 8年) 6月14日	立教大学	以上の交歓演奏会は「グリー」の交歓というより大学間の交流であった
1947年(昭和22年) 11月	東京毎日ホール	立教グリークラブ発表演奏会に賛助出演。復活への第一歩
第1回 1948年(昭和23年) 5月 8日 5月 9日	大阪YMCA 同志社・栄光館	復活立教・同志社交歓演奏会(大阪公演) 復活立教・同志社交歓演奏会(京都公演)
第2回 1949年(昭和24年) 5月29日	東京・読売ホール	演奏曲目(同志社グリークラブ) 羊飼いの日曜日・Der Lieberbote・船唄(ホフマン物語より)・夜の放浪者・Requim Aeternam・墓と星・ゴンドラの船唄・巡礼の合唱
第3回 1950年(昭和25年) 5月21日	同志社・栄光館	演奏曲目(同志社グリークラブ) あしたまで・眠りの調べ・乾杯の歌・他 Beati Mortui・ふるさと・他 他にマンドリンクラブ出演
第4回 1951年(昭和26年) 5月24日	東京・日比谷公会堂	演奏曲目(同志社グリークラブ) 狩の歌・春の嵐・アベ・マリア・剣と豎琴 幸 園・ジェリコの戦い・とうりゃんせ・家路をさして
第5回 1952年(昭和27年) 5月25日	同志社・栄光館	演奏曲目(同志社グリークラブ) Motertto・牡鹿の溪水をしたいて・ Cantate Domino 指揮 寺本和市 Negro Spritualより 指揮 寺本和市 他にマンドリンクラブ出演
第6回 1953年(昭和28年) 5月30日	東京・日本青年会館	
第7回 1955年(昭和30年) 5月28日	同志社・栄光館	
第8回 1956年(昭和31年) 6月 9日	東京・タッカーホール	
第9回 1957年(昭和32年) 6月29日	同志社・栄光館	演奏曲目(同志社グリークラブ) Missa Pacis 指揮 河原林 昭良 男声合唱のための組曲「雪と花火」 指揮 河原林 昭良 Negro Spritualより 指揮 河原林 昭良
第10回 1958年(昭和33年) 6月 7日	東京・タッカーホール	
第11回 1959年(昭和34年) 5月31日	同志社・栄光館	演奏曲目(同志社グリークラブ) 「宗教曲」 指揮 森本 潔 合同演奏 「月夜孟宗の曲」 指揮 森本 潔 赤とんぼ・夕やけ小やけ 指揮 森本 潔 黒人霊歌集 指揮 森本 潔
第12回 1960年(昭和35年) 6月11日	東京・文京公会堂	

年 月 日	場 所	内 容
第13回 1961年(昭和36年) 6月 4日	京都会館第一ホール	演奏曲目(同志社グリークラブ) 「ドイツミサ」 シューベルト作曲 指揮 浅井敬一 ロシア民謡より 指揮 浅井敬一 合同演奏・聖史曲チャイコフスキー作曲 指揮 福永陽一郎
第14回 1962年(昭和37年) 6月 9日	東京・文京公会堂	演奏曲目(同志社グリークラブ)
第15回 1963年(昭和38年) 6月 5日	京都会館第一ホール	演奏曲目(同志社グリークラブ) 「中勘助の詩より」
第16回 1964年(昭和39年) 6月 7日	神田共立講堂	演奏曲目(同志社グリークラブ) 「小学生の詩による男声合唱組曲」 指揮 中川 清 「荘厳ミサ曲」マール・デュオバ 指揮 中川 清
第17回 1965年(昭和40年) 10月31日	京都会館第一ホール	演奏曲目(同志社グリークラブ) 「ルネッサンス名宗教曲集」 指揮 中野皓夫 「十の詩曲」による六つの男声合唱曲 指揮 中野皓夫
第18回 1966年(昭和41年) 10月15日	東京・九段会館	演奏曲目(同志社グリークラブ) Sea Chanty 指揮 瀧谷和彦 「北陸にて」 指揮 福永陽一郎
第19回 1976年(昭和51年) 6月30日 1977年(昭和52年) 8月 3日	東京・文京公会堂 大坂厚生年金中ホール 立教大学グリークラブ 大阪公演に賛助出演	演奏曲目(同志社グリークラブ) 石井 欽作品集 指揮 山下裕司 「R.シュトラウス 愛の詩集」 指揮 福永陽一郎
第20回 1979年(昭和54年) 6月30日	京都・大谷ホール	演奏曲目(同志社グリークラブ) 男声合唱のための組曲「蛙の歌」 指揮 千代沢修一 男声合唱と打楽器のための「もぐらの物語」 指揮 富岡 健 合同演奏「富士山」 指揮 富岡 健
第21回 1980年(昭和55年) 6月13日	東京・日比谷公会堂	演奏曲目(同志社グリークラブ) 「Negro Spirituals」 指揮 池尻隆弘 男声合唱組曲「雨」 指揮 福永陽一郎 合同演奏「月光とピエロ」 指揮 保延 裕史
第22回 1983年(昭和58年) 7月10日	京都・大谷ホール	演奏曲目(同志社グリークラブ) 男声合唱組曲「三崎のうた」 指揮 須藤彰治 「宗教曲集より」 指揮 富岡 健 合同演奏 「日本民謡より」 指揮 富岡 健
第23回 1984年(昭和59年) 7月 8日	東京・中央会館ホール	演奏曲目(同志社グリークラブ) シベリウス男声合唱曲集 指揮 高橋圭二 コダーイ男声合唱曲集 指揮 富岡 健 合同演奏 Missa O Magnum Mysterium 指揮 皆川達夫
第24回 1987年(昭和62年) 7月5日	八幡市文化センター 大ホール	演奏曲目(同志社グリークラブ) 男声合唱組曲「中原中也の詩から」 指揮 武内和朋 チャイコフスキー歌曲集 指揮 富岡 健 合同演奏 Missa O Magnum Mysterium 指揮 皆川達夫

クローバークラブの活動記録

クローバークラブの起源は、昭和21年11月に行われた同志社EVE音楽会に、全国から集まった約30名のグリークラブOBがクローバークラブの名で「讃美歌551番」他を指揮森本芳雄氏(大正14年卒)により演奏したことに始まります。

爾来、全国各地に展開するグリーンOBは、OB会主催の演奏会が開催されるとなればいざ鎌倉とばかりに参集し、また、いくつかの地域では、年代を超えて協力しながら様々な活動を続けています。OBが集えばその名をクローバークラブと名乗り、地域のグリーンOBが少なければ他大学OBも巻き込み、あるいは、地域の女声合唱団を巻き込み、時には現役グリーを招請して演奏会を企画したりと、その活動は多彩で工夫満載です。

卒業後はそれぞれに異なった道を歩み、職業も違えば生活環境も違う中で、やはり集い歌うことの喜びを忘れることができないのは、仕事以外にも何かに集中することの大切さをそれぞれが感じ取っているばかりでなく、むしろ音楽することへの誇りを感じているからでしょう。

周年	関西	東京	名古屋	広島	四国
創立81周年 1985年(昭和60年)	7月7日 第5回東西四大学OB合唱連盟演奏会 東京厚生年金会館				
			現役名古屋演奏会賛助出演 名古屋芸術創造センター		
創立82周年 1986年(昭和61年)	4月26日 故長井育先生追悼音楽会 吹田メイシアター 大ホール 7月6日 同志社グリークラブOB会創立10周年記念演奏会 京都シルクホール				
創立83周年 1987年(昭和62年)	7月12日 第6回東西四大学OB合唱連盟演奏会 ザ・シンフォニーホール				
	第2回ハワイ演奏旅行				
創立84周年 1988年(昭和63年)		11月12日 東京クローバークラブ創立30周年演奏会 ゆうとびあ			7月30日 現役 同志社創立111周年記念演奏会(主催:高松クローバークラブ) 高松明善高校講堂
創立85周年 1989年(平成元年)	7月23日 第7回東西四大学OB合唱連盟演奏会 東京文化会館大ホール				
	2月4日 東西四大学OB合唱団による ひやひやコンサート 森ノ宮ピロティホール 11月5日 同志社アンバーサリーコンサート 大谷ホール	12月22日 '89年クリスマスコンサート サントリーホール			
創立86周年 1990年(平成2年)	7月22日 東西四大学OB合唱団による はなはなコンサート いずみホール	11月10日 東京クローバークラブ群馬・大泉演奏会 大泉文化むら 12月23日 '90年クリスマスコンサート サントリーホール			
創立87周年 1991年(平成3年)	7月14日 第8回東西四大学OB合唱連盟演奏会 フェスティバルホール				
		2月10日 陽ちゃんといっしょ(堀永陽一郎追悼演奏会) 東京芸術劇場 9月13日 東京クローバークラブ仙台演奏会 仙台・青少年文化 11月3日 東京クローバークラブ文化功労ショー サントリーホール 12月22日 東京東京クローバークラブ衛星放送出演 テレビ朝日	10月27日 東海クローバークラブ ハートビート・コンサート 電気文化会館コンサートホール		

創立88周年 1992年(平成4年)	7月19日 大阪城北教会創立100周年記念音楽会 大阪城北教会 8月23日 東西四大学OB合唱団による わくわくコンサート 厚生年金会館中ホール 10月18日 片桐哲先生召天10周年記念礼拝・演奏会 栄光館	11月23日 東京クロークラブ創立34周年演奏会 新宿文化センター	11月1日 東海クロークラブ ハートビート・コンサート2 電気文化会館コンサートホール	7月25日 現役 新島親先生生誕150周年記念特別演奏会(主催:県校友会同窓会) 香川県県民グランドホール
創立89周年 1993年(平成5年)	7月18日 第9回東西四大学OB合唱連盟演奏会 東京厚生年金会館			
	10月30日 クロークラブ演奏会 豊中市立アーク文化ホール 12月18日 おきつも女声合唱団演奏会出演 名張市青少年センターホール			
創立90周年 1994年(平成6年)	4月24日 ロータリークラブ総会 京都国際会議場	9月23日~25日 新潟・前橋・高崎演奏旅行	5月15日 東海クロークラブ ハートビート・コンサート3 名古屋市芸術創造センター	
創立91周年 1995年(平成7年)	7月16日 第10回東西四大学OB合唱連盟演奏会 ザ・シンフォニーホール			
	3月4日 茨木春日丘教会チャリティコンサート 4月 グリークラブ物故者追悼礼拝 同志社礼拝堂 11月4日 同志社コープヴェガ・クロークラブジョイントコンサート 広島県民文化センター 11月5日 広島流川教会礼拝サービス 倉敷高屋教会演奏会	3月5日 阪神大震災・被災教会支援チャリティコンサート 豊南坂教会 5月21日 東京クロークラブ ジョイフルコンサート ティアラこうとう 10月8日 第1回同志社対7(東京)演奏会 都市センターホール	10月8日 第6回市民合同フェスティバル合唱コンクール	
創立92周年 1996年(平成8年)	1月28日 茨木春日丘教会チャリティコンサート 5月12日 東西四大学OB合唱団による のびのびファミリーコンサート メルパルクホール(大阪) 10月19日 札幌演奏会道新ホール 12月8日 京都いのちの電話 チャリティコンサート 栄光館	6月15日 チャペルコンサート 豊南坂教会 11月2日 第2回同志社メサイア(東京)演奏会 ティアラこうとう	10月20日 東西の青春・三重に集う 10月27日 第7回市民合同フェスティバル合唱コンクール	
創立93周年 1997年(平成9年)	7月6日 第11回東西四大学OB合唱連盟演奏会 東京厚生年金会館			
	1月26日 クロークラブ演奏会 京都コンサートホール 小ホール 8月24日 神戸栄光教会会堂再建のためのチャリティコンサート 神戸文化会館中ホール 10月19日 神戸雲内教会会堂再建のためのチャリティコンサート 大阪城北教会 11月16日 川口基督教教会・西宮聖光教会会堂復興のための音楽会 大阪教会	9月13日 松本淳さん米寿祝賀会 新神戸幸谷教会 10月25日 千代田フェスティバル出演 靖国神社境内		8月2日 現役 同志社創立120周年 グリークラブ創立95周年記念特別演奏会(主催:県校友会同窓会) 香川県県民グランドホール

クローバークラブの活動記録

周 年	関 西	東 京	名古屋	広 島	四 国
創立94周年 1998年(平成10年)	4月 同志社グリーンクラブ・クローバークラブジョイントコンサート 栄光館 8月9日 またまたファミリーコンサート メルパルクホール(大阪) 6月7日 小磯記念美術館ロビーコンサート 小磯記念美術館 11月21日 同志社大学陸上競技部80周年記念式典 都ホテル 10月25日 京都教会演奏会	2月1日 第3回同志社メサイア(東京)演奏会 紀尾井ホール 6月13日 合唱団かえるたち15周年記念演奏会に出演 ティアラこうとう 8月8日 同志社グリーンクラブ東京演奏会に出演 調布グリーンホール 9月11日～13日 韓国演奏旅行 11月15日 東京クローバークラブ創立40周年演奏会 カザルスホール 12月23日 首都圏OBクリスマスパーティー 目黒会館	1月31日 第1回定期演奏会(なこやかコンサート) 7月31日 フォーレ「レクイエム」演奏会 11月17～19日 室内オペラ「浅茅ヶ宿」		
創立95周年 1999年(平成11年)	2月14日 茨木春日丘教会チャリティーコンサート 5月16日 平安教会礼拝サービス 9月26日 千里丘教会チャペルコンサート 11月21日 千里聖愛教会コンサート 11月28日 同志社教会124周年記念礼拝サービス	7月25日 第12回東西四大学OB合唱連盟演奏会 ザ・シンフォニーホール 1月23日 新島襄終焉碑前祭に参加 神奈川県大磯町 5月23日 地域を結ぶハーモニーに出演 高崎音楽センター 7月20日 松本淳氏告別式に参列 松戸教会 10月 韓国演奏旅行 11月5日 石田文博氏告別式に参列 松戸教会 12月5日 クリスマスコンサート 紀尾井ホール	4月17日 第2回定期演奏会(さわやかコンサート) 6月27日 長久手オペラレクチャーコンサート		
創立96周年 2000年(平成12年)	6月24日 日本基督教団扇町教会創立90周年記念チャペルコンサート扇町教会 11月18日 同志社創立125周年記念 全同志社合唱祭 京都コンサートホール 10月15日 日本基督教団南大阪教会チャペルコンサート 南大阪教会 11月3日 同志社大学ホームカミングデー 12月9日 神戸女学院創立125周年記念メサイア出演 神戸国際会館	1月23日 新島襄終焉碑前祭に参加 神奈川県大磯町 2月11日 KFCに参加 京都 6月3日 松本淳氏記念会に参加 船員会館 7月20日 東京クローバークラブ サマーコンサート 紀尾井ホール 11月18日 同志社創立125周年記念演奏会に出演 京都シンフォニーホール 11月26日 東京クローバークラブ高崎演奏旅行 群馬高崎センター 12月9日 クリスマスコンサート2000 紀尾井ホール	5月13日 SINGERSなもとのジョイントコンサート 10月28日 第3回定期演奏会	11月25日 同志社創立125周年記念コンサート 同志社混声合唱団・京都・広島ジョイントコンサート 広島県民文化センター	
創立97周年 2001年(平成13年)	10月21日 クローバークラブ演奏会 いずみホール 11月3日 同志社大学ホームカミングデー出演 11月4日 バッカスフェスタ出演 いたみホール	7月29日 第13回東西四大学OB合唱連盟演奏会 東京文化会館大ホール 1月23日 新島襄終焉碑前祭に参加 神奈川県大磯町 10月14日 陽ちゃんと一緒 in Fujisawa 神奈川県藤沢 11月24日 第4回同志社メサイア(東京)演奏会紀尾井ホール	5月11～13日 韓国演奏旅行 11月10、11日 オペラ「フィガロの結婚」 11月17日 豊田スタジアム「Dream Concert」		

創立98周年 2002年(平成14年)	9月21日 同志社グリークラブ・クロ ーバークラブジョイントコ ンサート いずみホール 11月3日 同志社大学ホームカミン グデー 出演	1月23日 新島襄終焉碑前祭に参加 神奈川県大磯町 2月10日～11日 宇都宮・鬼怒川演奏旅行 宇都宮上町教会 3月31日 イースター礼拝奉仕と演 奏会 中目黒教会 4月27日 「四季の山行」レコーディ ング 機坂スタジオ 6月22日 同志社グリー クラブOB追悼記念礼 拝(演奏会) 豊南坂教会 9月21日 大阪クローバークラブ・ 同志社グリークラブジョ イントコンサートに出演 いずみホール 10月26日 チャペルコ ンサート 中目黒教会 10月27日 チャペルコ ンサート 谷田部教会 11月6日～10日 台湾演奏旅行 11月29日 津下満寿子氏告別式に参 列 豊南坂教会	1月19日 津賀田中学 校総合学習講座 3月24日 第4回定期演奏会 6月23日 梅雨の晴れ 間のコンサート 8月25日 万博支援コンサート 11月23日 「自然との共生を考えよう」 コンサート	6月 京都広島同志社混 声合唱団ジョイントコン サート 京都コンサート ホール	
創立99周年 2003年(平成15年)	9月6日 同志社グリークラブ・クロ ーバークラブ高松演奏会 11月2日 同志社大学ホームカミン グデー出演	7月21日 第14回東西四大学OB合唱連盟演奏会 フェスティバルホール 6月15日 礼拝奉仕と演奏会 宇都宮上町教会 10月12日～13日 礼拝奉仕と演奏会 仙台北教会	10月26日 第5回定期演奏会		9月6日 グリークラブ 創立100周年 クロー バークラブ創立50周年 記念特別演奏会(主催:泉 校友会同窓会) 香川県 県民アクトホール
創立100周年 2004年(平成16年)	2月22日 敦賀教会演 奏会 敦賀教会 3月28日 メンタルコーラス記念ラ イブ 大阪市中央公会堂 8月22日 創立50周年記念クロー バークラブ演奏会 森ノ 宮ピロティホール 11月7日 同志社大学 ホームカミングデー出演	2月28日 吹奏楽部とのジョイント コンサート 新松戸南小学校 5月14日～17日 韓国演奏旅行 7月31日 第1回同立OB交歓演奏 会 立教大学第一食堂 8月22日 大阪クローバークラブ創 立50周年演奏会 ピロティホール 9月26日 礼拝奉仕と 演奏会 松戸教会		2月14日 広島同志社 混声合唱団創立10周年 記念コンサート 広島県 民文化センター	

注1) 名古屋地区については1995年からは東西四大学OB合唱団東海、2000年5月以降はGranphonicとして活動

注2) 広島地区については1965年のジョイントコンサートがきっかけで、同志社コールベガと広島在住のグリーOBが中心となって「広島同志社混声合唱団」として活動

東西四大学OB合唱連盟演奏会の記録

東西四大学OB合唱連盟演奏会のクローバークラブ

第5回(1985年)の同志社「南太平洋」と第6回(1987年)の合同演奏の指揮を福永陽一郎氏が2回続けて振られたが、この後体調を崩されて再び我々OBの前で棒を振られることはなかった。

第7回(1989年)の同志社の指揮者森本潔氏は当時の演奏会を振り返って次のように述べられている。

1979年7月23日を以て上野の東京文化会館のステージでの禁止事項が追加されたと言うことである。真偽のほどは別にしてその事項とは「合唱団が下駄でステージに乗ること」、特に下駄をはいたままステージを歩き回らないこととされている。

原因となったのは110名に及ぶ「クローバークラブ」が揃いの同志社マーク入り浴衣に下駄ばきと言うスタイルでステージに登場した第7回東西四大学OB合唱演奏会である。勿論、出演者は細心の注意をはらい、当時ニチパンの広告部長であった山口氏提供のテープを下駄に貼ったのであったが、歌っている間は良いとしてステージへの出入りには相当の騒音を出したようである。特に同時に行われていた小ホール演奏者と聴衆には大変迷惑をかけたようである。

その時の演奏曲は多田武彦作曲の「月夜孟宗の囀」。詩の朗読を同窓の二谷英明氏にお願いして、フルート演奏を田口浩良氏とかなり手の込んだ演出を寒河江マネージャー・木下幹事長のもとに実行した。すでに四半世紀前、メンバーの平均年齢も40代を少し越えた若さ溢れるクローバーの歴史の一頁であった。

第11回(1997年)は市島章三氏の指揮でライ

ンベルガー作曲「ミサ曲へ長調」をオルガニスト高橋聖子氏(ヤマハ電子オルガンF-400使用)で演奏し大好評を博した。

「Clover News OB四連特集号」(1997年8月19日発行)の市島氏によると「今回のOB四連成功の鍵は『全クローバーの一致協力体制と曲目の選択』これにつきて」と言われている。「現役・OB通じての四連初演曲を全てのクローバーが成功させたことは、今後のコミュニケーションとメンバーの理解協力が必要。」と結ばれた。

第12回(1999年)は「鳥よ」を指揮楠敏也氏のもと暗譜で歌うことに挑戦し成功を収めたことによる達成感と自信は大きかった。

第13回(2001年)は運営に実行委員会方式(委員長:梅田隆司氏)を採用して「歌う」ということをキーワードにOBの集結を図った。1967年(昭和42年)の初演以来、現役の四連・定期演奏会で過去4回、延べ15学年が歌ったことのある「R. Strauss 歌曲集」より6曲を選び、OBの参加を呼びかけたところ、卒業後歌っていなかったOBも集まり大成功を収めた。指揮者の小林香太氏は「本番直前のリハーサル室で歌ったあの演奏を忘れることが出来ません。メンバーの確信に満ち溢れた表情、そしてピアニストの久邇先生が唸り、顔を高潮させての渾身の「Morgen」。この歌曲をやったよかった、このメンバーと共に歌えて本当によかった」と述べています。

第14回(2003年)は過去最大の2400人の入場者数を記録した。第13回に引続きピアニストに久邇先生をお迎えして、その大聴衆の前で、山下裕司氏の指揮で「岬の墓」を精力的にそして、日本語を大切に歌ったことは記憶に新しい。合同曲「富士山」の指揮も日本合唱界の重鎮浅井啓壹氏が振られ、そのダイナミックな指揮に歌い手も聴衆も酔いしれてしまった。

そして、第15回は2005年7月24日に東京芸術劇場大ホール(池袋)で開催の予定である。

【第5回(1985年)～第14回(2003年)】

年 月 日
会 場

クローバークラブ
新月会
稲門グリークラブ
慶應ワグネル・ソサィティOB合唱団
合同演奏

年 月 日
会 場

クローバークラブ
新月会
稲門グリークラブ
慶應ワグネル・ソサィティOB合唱団
合同演奏

年 月 日
会 場

クローバークラブ
新月会
稲門グリークラブ
慶應ワグネル・ソサィティOB合唱団
合同演奏

年 月 日
会 場

クローバークラブ
新月会
稲門グリークラブ
慶應ワグネル・ソサィティOB合唱団
合同演奏

年 月 日
会 場

クローバークラブ
新月会
稲門グリークラブ
慶應ワグネル・ソサィティOB合唱団
合同演奏

第5回 1985年7月7日
東京厚生年金会館

Musical「南太平洋」より 指揮:福永陽一郎
Messe in G-dur 指揮:小池義郎
海の構図 指揮:岡本俊久
Musical「New Moon」 指揮:畑中良輔
OB四連愛唱歌集より 指揮:各合唱団指揮者

第7回 1989年7月23日
東京文化会館大ホール

月夜孟宗の図 指揮:森本 潔
The Student Prince 指揮:亀井清一郎
Westside Story 指揮:堀 俊輔
シェヘラード男声合唱曲集 指揮:畑中良輔
日本民謡集 指揮:各合唱団指揮者

第9回 1993年7月18日
東京厚生年金会館

雪と花火・東京景物詩から 指揮:市島章三
沙羅 指揮:小池義郎
合唱のためのコンポジションⅢ 指揮:堀 俊輔
水のいのち 指揮:畑中良輔
君といつまでも他 指揮:各合唱団指揮者

第11回1997年7月6日
東京厚生年金会館

ミサ曲へ長調 作品190 指揮:市島章三
アイヌのウポポ 指揮:広瀬康夫
北斗の海 指揮:多田武彦
蛙の歌 指揮:北村協一
わが男声合唱曲 指揮:岡本俊之

第13回2001年7月29日
東京文化会館大ホール

「R.Strauss歌曲集」より 指揮:小林香太
富士山 指揮:広瀬康夫
前田憲男vsワセグリOB 指揮:前田憲男
歌劇「タンホイザー」より 指揮:伊藤茂雄
水のいのち 指揮:北村協一

第6回 1987年7月12日
ザ・シンフォニーホール

Seven Beatles Numbers 指揮:山下裕司
交響曲第9番・第4楽章 指揮:小池義郎
月下の一群 指揮:山本正洋
Zigeunerlieder 指揮:畑中良輔
Shenandoah他 指揮:福永陽一郎

第8回 1991年7月14日
フェスティバルホール

ラ・マンチャの男 指揮:楠 敏也
Messe Solennelle 指揮:亀井清一郎
革命詩人による「十の詩曲」より 指揮:山本正洋
草野心平の詩から 指揮:畑中良輔
月光とピエロ 指揮:北村協一

第10回1995年7月16日
ザ・シンフォニーホール

Musical「回転木馬」 指揮:楠 敏也
Porgy and Bess 指揮:広瀬康夫
枯れ木と太陽の歌 指揮:松尾葉子
月下の一群 指揮:北村協一
エビロークに見る多田武彦の世界 指揮:多田武彦

第12回1999年7月25日
ザ・シンフォニーホール

島よ 指揮:楠 敏也
Afro-American Song 指揮:広瀬康夫
合唱による風土記～阿波 指揮:堀 俊輔
Liebeslieder(愛の歌) 指揮:畑中良輔
月光とピエロ 指揮:北村協一

第14回2003年7月21日
フェスティバルホール

岬の墓 指揮:山下裕司
ELVIS PRESLEY 指揮:広瀬康夫
戦旅 指揮:須賀敬一
Zigeunerlieder 指揮:畑中良輔
富士山 指揮:浅井敬壹

メサイアの歩み(第21回~第40回)

第21回

1985年/昭和60年12月24日
京都会館第一ホール
指揮 延原武春
ソプラノ 坂口菜里
アルト 井上和世
テノール 金谷良三
バス・バリトン 木川田 澄
チェンバロ 有賀のゆり
オルガン 鷺淵紹子



第22回

1986年/昭和61年12月24日
京都会館第一ホール
指揮 小泉ひろし
ソプラノ 坂口菜里
アルト 井上和世
テノール 金谷良三
バス 蔵田裕行
チェンバロ 有賀のゆり
オルガン 鷺淵紹子



第23回

1987年/昭和62年12月24日
京都会館第一ホール
指揮 金 洪才
ソプラノ 坂口菜里
アルト 井上和世
テノール 金谷良三
バス 蔵田裕行
チェンバロ 有賀のゆり
オルガン 鷺淵紹子



第24回

1988年/昭和63年12月24日
京都会館第一ホール
指揮 佐々木 修
ソプラノ 椎木由美子
アルト 井上和世
テノール 金谷良三
バリトン 片桐直樹
チェンバロ 戎 洋子
オルガン 鷺淵紹子



第25回

1989年/平成元年12月22日
京都会館第一ホール
指揮 岡田 司
ソプラノ 岡坊久美子
アルト 井上和世
テノール 金谷良三
バス 木川田 誠
チェンバロ 有賀のゆり
オルガン 鷺淵紹子



第26回

1990年/平成2年12月24日
京都会館第一ホール
指揮 小松一彦
ソプラノ 岡坊久美子
アルト 井上和世
テノール 西垣俊朗
バス 横田浩和
チェンバロ 藤井由美
オルガン 鷺淵紹子



第27回

1991年/平成3年12月25日
京都会館第一ホール
指揮 山下一史
ソプラノ 岡坊久美子
アルト 井上和世
テノール 金谷良三
バス 横田浩和
チェンバロ 藤井由美
オルガン 鷺淵紹子



第28回

1992年/平成4年12月25日
京都会館第一ホール
指揮 初山和明
ソプラノ 松下悦子
アルト 井上和世
テノール 金谷良三
バス 塚田康弘
チェンバロ 藤井由美
オルガン 鷺淵紹子



第29回

1993年/平成5年12月24日
京都会館第一ホール
指揮 金 洪才
ソプラノ 松下悦子
アルト 井上和世
テノール 金谷良三
バス 塚田康弘
チェンバロ 藤井由美
オルガン 鷺淵紹子



第30回

1994年/平成6年12月24日
京都会館第一ホール
指揮 井上道義
ソプラノ 釜洞祐子
アルト 井上和世
テノール 金谷良三
バス 宮原昭吾
チェンバロ 藤井由美
オルガン 鷺淵紹子



メサイアの歩み(第21回～第40回)

第31回

1995年/平成7年12月24日
京都コンサートホール大ホール
指揮 山下一史
ソプラノ 松下悦子
アルト 竹本節子
テノール 金谷良三
バス 三原 剛
チェンバロ 有賀のゆり
オルガン 鷺淵紹子



第36回

2000年/平成12年12月24日
京都コンサートホール大ホール
指揮 佐藤功太郎
ソプラノ 日紫嘉恵美
アルト 栗林朋子
テノール 金谷良三
バス 灘井 誠
チェンバロ 井嶋万友美
オルガン 鷺淵紹子



第32回

1996年/平成8年12月24日
京都コンサートホール大ホール
指揮 佐藤功太郎
ソプラノ 松下悦子
アルト 三井ツヤ子
テノール 金谷良三
バス 井原秀人
チェンバロ 井嶋万友美
オルガン 鷺淵紹子



第37回

2001年/平成13年12月24日
京都コンサートホール大ホール
指揮 山下一史
ソプラノ 松下悦子
アルト 児玉祐子
テノール 金谷良三
バス 井原秀人
チェンバロ 井嶋万友美
オルガン 高橋聖子



第33回

1997年/平成9年12月24日
京都コンサートホール大ホール
指揮 黒岩英臣
ソプラノ 松下悦子
アルト 児玉祐子
テノール 金谷良三
バス 井原秀人
チェンバロ 井嶋万友美
オルガン 鷺淵紹子



第38回

2002年/平成14年12月24日
京都コンサートホール大ホール
指揮 本名徹次
ソプラノ 鈴木美登里
カンタータ 上杉清仁
テノール 谷口洋介
バス 井原 剛
チェンバロ 井嶋万友美
オルガン 大代 恵



第34回

1998年/平成10年12月24日
京都コンサートホール大ホール
指揮 山下一史
ソプラノ 野村恵子
アルト 岡本明美
テノール 金谷良三
バス 三原 剛
チェンバロ 井嶋万友美
オルガン 鷺淵紹子



第39回

2003年/平成15年12月24日
京都コンサートホール大ホール
指揮 金 洪才
ソプラノ 日紫嘉恵美
アルト 栗林朋子
テノール 小貫岩夫
バス 井原秀人
チェンバロ 井嶋万友美
オルガン 高橋聖子



第35回

1999年/平成11年12月24日
京都コンサートホール大ホール
指揮 佐藤功太郎
ソプラノ 松下悦子
アルト 栗林朋子
テノール 金谷良三
バス 三原 剛
チェンバロ 井嶋万友美
オルガン 高橋聖子



第40回

2004年/平成16年12月24日
京都コンサートホール大ホール
指揮 佐藤功太郎
ソプラノ 松下悦子
アルト 栗林朋子
テノール 小貫岩夫
バス 井原秀人
チェンバロ 井嶋万友美
オルガン 高橋聖子

管弦楽は全て同志社交楽団

第2回/ヨーロッパ演奏旅行

1986年2月20日～3月13日

Concert Tour

マインツ



2月20日木曜日、大阪空港に集合。多くの先生、先輩たちや他団の人たち、それに旅行に参加できない仲間たちの見送りを嬉しく思いながら、カレッジソングを歌っていざ出発。飛行機に乗ること約18時間。途中、デュッセルドルフに駐機中、機内でデモ演奏をし早くも外国人の同志社グリーンファンをつくる。最初の訪問地はマインツ。マインツ大学の大学礼拝に聖歌隊として参列。教会に着いてあまりの大きさに驚き、歌ってみてあまりの素晴らしい音響にまた驚く。



マインツの大劇場前にて

マンハイム

マンハイムではみんなドキドキしていた。何故かという、ここでは最初のホームステイがあるからだ。マタイ教会でバッハ・ギムナジウムと交歓演奏会を行なった後、歓迎会を催してくださり、そこでホスト・ファミリーと対面。美しい女性がいる家庭に行けた者はラッキー、不幸にもモヒカン刈りの本場パンク兄ちゃんの家になってしまった者もいた。随分とかわいがってもらったことだろう。



新婚家庭に泊まったばかりに、邪魔になるからといって寒い夜に追い出された者もいた。しかし大方は、とても親切な人たちがばかりで、非常に良くしてくださって、帰国後もずっと手紙のやりとりが続いている部員も少なからずいる。

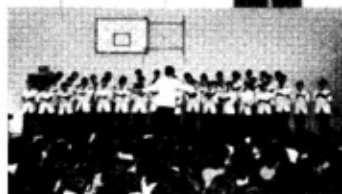
ハイデルベルク

アルト・ハイデルベルク。旅行者に人気のあるドイツの中でも特に愛されている地であろう。山の中腹にそびえ立つハイデルベルク城の眺めは素晴しかった。またこの大学は非常に歴史があり、今年でちょうど、600周年。その大学の音楽部の教授であるW・ダルマン先生のご協力で開催コンサートを行なうことができた。滞在中お世話になったハイデルベルクに留学中の日本人女性が、私たちの歌う日本の歌を聞いていて涙を見せたのが印象的であった。夜はホームステイ。お城のそばの大邸宅で眠っている自分が信じられなかった。



デュッセルドルフ

デュッセルドルフは日本の企業が数多く進出しているために、日本人が非常に多い。ここで私たちは、1000人もの学童が学んでいる日本人学校で演奏会を行なった。場所は体育館で一度に全生徒を収容できないので二部構成で行なったが、生徒たちの他にも父兄や一般の日本人の方たちが数多く観に来てくださった。演奏曲目はいつもと違い日本の曲を中心としたもので、皆さん大変喜んでくださり、また富岡先生のユーモラスな司会が一層、会場の雰囲気盛り上げた。尚、デュッセルドルフは西ドイツ最後の訪問地ということで、この夜、街にくり出した者も少なからずいたが、希望がなかった者は誰もいない。



東ベルリン

3月1日、いよいよ西ドイツを離れ、東ドイツへとたつ。飛行機で西ベルリンへ到着後、迎えに来ていた東ドイツのバスに乗る。ベルリンの壁を越えるときに1時間ほど待たされ、やっと入国。しかし風景の違いに驚かされる。華やかだった西ドイツの街とは対照的で、街全体に色彩が乏しく古びている。戦争で爆撃を受けたまま未だに修復されない建物も目立った。かの有名なウンテル・デン・リンデンを歩いても、印象的だったことは、人影の少なさと自動車のクラシック的といえる古さと肌を刺



1986年2月20日～3月13日 第2回ヨーロッパ演奏旅行

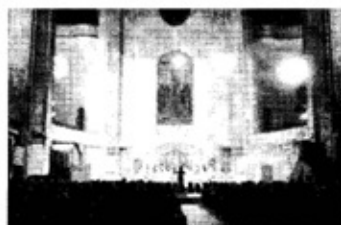
すような寒さばかりであった。ここでは翌朝、教会の日曜礼拝に参列。社会主義国にもかかわらず、早朝の礼拝堂は熱心なクリスチャンで一杯になった。



サンスーシ宮殿にて
(女性二人は東ドイツでのガイドさん)

ドレスデン

東ドイツの中でも最も美しく文化的な地ドレスデン。ここには、750年の歴史を持ち、世界的な声楽家のP・シュライヤーやT・アダムを生み出した聖十字架合唱団がある。この合唱団を持つ聖十字架教会で私たちは演奏会を行なうことができた。観客も1500人は来ていただろうか。ドーム型の非常に高い天井には巨大な十字架の絵が描かれており、私たちの歌声はすべてそこへ吸い込まれていき、礼拝堂の中はとても豊かな響きで包まれた。演奏会は大成功、アンコールが終って退場するときもずっと拍手が鳴り止まなかった。その夜、エルベ川の



ほとりのホテルでバイオリンの演奏を聞きながらの夕食はホントに最高だったなあ!

ライプチヒ

ここにはJ.S.バッハが音楽監督を務めた聖トーマス教会がある。私たちはこの教会での演奏会を夢見、出発前に準備を進めてきたが、残念ながら実現はできなかった。しかし牧師さんのご好意で教会を見学する許可があり、バッハの墓がある祭壇の上に立ち、わずかな地元の神学生たちを前にして、数曲歌うことができた。その後、牧師さんと神学生らと交えて座談会を行ない、教会を後にした。いつか後輩たちが正式な演奏会を実現してくれることを願いつつ…。

次の日、オペラハウスで歌劇「ホフマン物語」を鑑賞。さすがプロはうまい。



J.S.バッハの墓の前に跪く富岡先生

バーゼル

いよいよ最後の訪問国となったスイス。東ドイツから夜行列車に揺られ、国境でたたき起こされたこともあって、バーゼルに着いたときはみんな寝不足気味。しかしホストファミリーと対面してから元気回復。日本人の家庭が多くあったり、美しい女性がいったりして、みんな大はしゃぎで各家庭に散っていった。今回の旅行ではホームステイが5度もあったが、バーゼルが最もファミリーと交流できる時間の余裕があり、今でもここでの思い出は部員たちの間でよく語られているようだ。美しい娘のピアノ演奏で歌をうたって楽しんだという者もいれば、男1人の家で夕食後に皿洗いをさせられた者もいたり、実にさまざま面白い。



スイス・アインジーゼルの修道院前にて
牧師さんたちが私たちのために
アルペン・ホルンを演奏

チューリヒ・リシュリコン

チューリヒではスイス最大の聖堂であるグロスミュンスターの日曜礼拝に参列。宗教曲を歌い、礼拝後にすっかりおなじみになった同志社大学教授シュベネマン先生の司会で日本の歌曲を歌う。そして同じ日にウンターシュトラス教会で演奏会。教会のオルガニストの伴奏で昨年の定演のプログラムであった Lob der Musik も歌った。次の日、チューリヒ近郊の町であるリシュリコンで最後の演奏会。その夜ホテルで打ち上げパーティ。みんな旅の思い出を大いに語り合った。

この22日間、多くの素晴らしい演奏会を経験し、またいろいろな地に訪れ数多くの人たちと出会った。それらの思い出をすべてあげるととても枚挙にいとまがなく残念だが、とにかく実に有意義でかつ楽しい旅行であった。



スイス・ミッション会長ヒッツさんへ記念品の贈呈

第3回/ヨーロッパ演奏旅行①

1989年2月20日～3月13日

Concert Tour

■第3回ヨーロッパ演奏旅行 スケジュール

2月20日(月) 大阪発
2月21日(火) パリ フランクフルト経由
マインツ大学訪問
2月22日(水) シュバイヤーにてコンサート
(宗教改革記念教会)
2月23日(木) ウルムにてコンサート
(三位一体教会) ホームステイ
2月24日(金) ミュンヘンへ移動
2月25日(土) ミュンヘンにてコンサート
2月26日(日) 救世主教会にて日曜礼拝奉仕
2月27日(月) ミュンヘン観光
2月28日(火) ベルンへ移動
3月 1日(水) ベルンにてコンサート
(聖霊教会)
3月 2日(木) インターラーケンにてコンサート
(インターラーケン教会)
3月 3日(金) チューリヒにてコンサート
(説教者教会)
3月 4日(土) チューリヒ観光
3月 5日(日) アテネ経由、カニアへ移動
3月 6日(月) カニアにてコンサート
3月 7日(火) オースドックス
アカデミーハウスにてコンサート
3月 8日(水) イラクリオンにてコンサート
3月 9日(木) アテネにてコンサート
(戦争博物館ホール)
3月10日(金) パリへ移動
コンサート(サンメリ教会)
3月11日(土) パリ観光
3月12日(日) パリ発
3月13日(月) 大阪着

団員54名 同行者3名

(指揮者:富岡健、顧問:渋谷明彦、

特別同行:クラウス・シュベネマン教授)

コンサートプログラム

1. Missa O Magnum Mysterium
(T.L. Victoria)

2. 宗教曲集

Ave Maria (A. Bruckner)
Locus iste (A. Bruckner)
O Sacrum Convivium (Viadana)
Heilig (F. Schubert)

3. Requiem (G. Faure)

4. 男声合唱組曲

合唱による風土記「阿波」(三木 稔)

5. 日本の現代合唱曲集

神舞い〜男声合唱組曲
「花之伝言」より(石井 欽)
ヴォーカリーズ〜男声合唱とピアノのための
「祈りの虹」より(新実徳英)
ピリカピリカ〜男声合唱組曲
「アイヌのウポポ」より(清水修)
さくら散る〜男声合唱組曲
「草野心平の詩から」より(多田武彦)

6. 日本民謡集

最上川舟歌
音戸の舟歌
ソーラン節
五木の子守歌
おてもやん

7. ポピュラーアンコール

ハレルヤ(ヘンデル)
Yesterday
赤とんぼ
上を向いて歩こう
なんと美しい山々(ギリシャ民謡)他



1989年2月20日～3月13日 第3回ヨーロッパ演奏旅行

西ドイツ

1989年2月22日、シュバイヤーの教会でのコンサートで、この欧州演奏旅行の幕が切って落とされた。

石造りの重厚な壁に我々の歌が吸い込まれてゆく。ヨーロッパ最初のコンサートはそんな教会の荘厳さを、そして欧州の歴史の重さを部員一人一人に実感させるものとなった。

次なるコンサートの地は大聖堂の街、ウルム。ホームステイ先の人々の暖かい

拍手に包まれたアットホームなコンサートであった。

ドイツでの最後のコンサートはビールの街、ミュンヘンの教会で厳かに行われた。

我々の演奏は、耳の肥えたドイツの人々をどうやら満足させることができたようだ。

フランクフルト空港に着いた早々、大事件発生。なんと、大多数の部員の荷物がシャルル・ド・ゴール空港に積み残されてしまった。これはもういきなりのパニック! 結局、全員の手に荷物が届いたのは翌日でありました。それにしてもあの時は冷や汗もんだったなー。



ドイツと言えば思い出すのは、ウルムでのホームステイ。やさしそうな夫婦のベンツに乗って行く者、綺麗な女性に付いて行く者、ドイツ語しか話せないお爺さんの家に行く者(ドイツの人はほとんどが英語を解します。)とそれぞれ色々な家庭のお世話になりましたが、ドイツの人達の優しさと親切心は一生忘れられないでしょう。Danke Schön.

ミュンヘンではやはりビールの旨さと、市庁舎前の広場で歌った即席演奏会が印象に残っています。おかしなおじさんの飛び入りも交じり、大変盛り上がりました。



スイス

第2の訪問国スイスは、ヨーロッパ中央部に位置するわずか九州程の小さな国であるが、雄大なアルプスの風景には、北海道出身である幹事長佐藤氏も驚いた! スイスでは、首都ベルン、

ユングフラウへの登山口インターラーケン、そしてスイス最大の都市チューリッヒの3都市、いずれも地元有数の教会で演奏会を催した。殊に、チューリッヒでの演奏会は、先の2度のヨーロッパ演奏旅行でも訪れたと言うこともあり、会場には前回は懐かしんで来て下さった方なども混じり、暖かい雰囲気の中、とても良い演奏会を聞くことができた。行程の半分を消化し、部員の中には疲れが見え始めて来る者もいたが、会場割れんばかりの拍手はそんな疲れも吹き飛ばしてくれた。



インターラーケンのユースホステルは静かな湖の辺りに位置する。3月2日スイス。誰もが

厳寒と積雪を思い浮かべていたのだが、とても暖かく草原は青く、まさに Sarem Lights (爽やかな二人だけの世界へ)。かくして富岡先生は、青空の下でのアンサンブルを企画して下さいました。アルプスを望みながらの素敵な練習なんて、もう一生出来ないだろうなあ。しかし、あのチーズフォンデュは、またいつか味わってみたいものだ。3月4日はチューリッヒで1日自由行動。チューリッヒ湖で遊覧船に揺られたり、彼のアインシュタインを輩出したスイス連邦工科大学を訪れたり、皆思い思いに余暇を楽しんだ。演奏会中訪れた町の内、私はこのチューリッヒが一番気に入っている。ローレックスやバリーと言った一流品店が軒を連ねるが、さほど華やかさは無く落ち着いたいて、しかも庶民的な香りが漂っているのだ。俺もホイヤーの腕時計買えばよかった。



Concert Tour

第3回/ヨーロッパ演奏旅行②

1989年2月20日～3月13日

ギリシャ



ギリシャの通貨をご存じだろうか。ドラクマといって、1ドラクマ=1円くらいである。物価は日本の1/2くらいなのだが、このドラクマ紙幣というのは、日本にも

ちかえっても日本円にもどらないのである。そんなことも知らずに100ドル分も両替してしまい、何か金持ちになった気分であった。しかし朝は名所観光、昼は店が休み、夜はコンサートということで1000ドラクマも使わないうちに、ついにギリシャ最終日のアテネをむかえた。パルテノン神殿観光後、ドラクマを使いきらんべく、わけのわからない置き物や絵皿、人形、革製品などほしくもないものを山ほど買ってギリシャの旅はおわったのであった。

滞在中の3月6日～10日まで、連日連夜の演奏会であった。昼の2時から5



時まではどの商店も昼休みをとってしまうというお国柄からか、演奏会の10分や20分の遅れはあたりまえであり、その上お客さんの反応もあまりいいものとはいえなかった。しかし富岡先生にヨーロッパについてから編曲していただき、アルプスの山麓で音取りをしたアンコール用のギリシャ民謡は大好評であった。



フランス

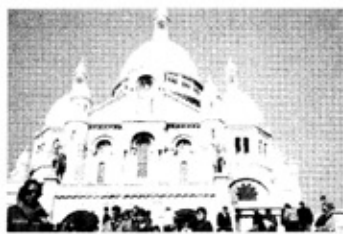
これは夢なのだろうか?糸の様に細く響き渡るホルン。小川のせせらぎの如く流れるバイオリン。フランス国立管弦楽団の方々を目の前にして、感激の余り涙を流したのは私だけであろうか。パリの最先端をゆくレ・アル地区内に建つサン・メリ教会にて、我々は現地の女声合唱団「ミモザ」、そしてフランス国立管弦楽団とで、富岡先生のタクトの下、フォーレのレクイエムを演奏した。演奏はとてもうまくゆき、会場を埋め尽くした1000人もの聴衆の拍手喝采は激しく、この感動は生涯決して忘れることはないであろう。



3月11日、ブローニュの森を見下ろすホテル・コンコルド・ラファイエットの一室では私は清々しく目を覚ました。前日に最後の演奏会を終え、今日はゆっくりとパリの雰囲気を楽しめる。

エッフェル塔、オペラ座にモンマルトルの丘。カフェでくつろいだ後は、彼女と約束しているオ・シャドルマンの小物を探しに行かなければならない。そしてヨーロッパ最後の夜を迎えた。悪友共とシャンゼリゼ通りのレストランへ行き、ディナーの前にワインで、長く、楽しく、有意義だった演奏旅行に乾杯した。

これにて演奏旅行は幕を閉じることになる…と思いきや、エール・フランス274便大阪行きの



二階キャビンでミニコンサートが始まったのである。世界広しと言えども、北極点で演奏会を開いたのは同志社グリークラブくらいのものではないだろうか。





1989年2月20日～3月13日 第3回ヨーロッパ演奏旅行



同志社グリークラブの3回目の欧州演奏旅行は西ドイツ、スイス、ギリシャを回り、フランス国立管弦楽団との共演という幸運にも浴したパリのサン・メリ教会で幕を閉じた。今、こうして振り返り、関係者の方々から理想的な演奏旅行だったと言われる時、3週間の充実した体験がそれぞれの心の中にしっかりと生きていることを実感する。演奏旅行を通して我々の得たものは計り知れない。格式と伝統のある教会で「本物の響き」に接することが出来たのは大きな収穫だった。一般に西洋音楽の合唱の伝統は石の文化と密接な関係があるとされているが、どんな近代的なホールも作り得ない独特の雰囲気を持った音と音との響き合いを自分の耳で聞いた時、ただ残響が長いというだけの問題ではなく、ここからポリフォニーやハーモニーが生まれ、西洋音楽の一つの主流が育まれていったのだということを強く感じた。ミサ曲や宗教曲が、神聖な場所で歌われることによって「なるほど、美しいだけではなく、やはり強い祈り気持ちに裏付けられた曲だったのだ」と、他の場所では決して感じ得ないことを体験として吸収することが出来た。

また、最も思い出深いのは、ミュンヘンの新市庁舎前での即席コンサートである。石畳の広い通りの真ん中で大道芸人に負けじと歌を歌いだしたところ、通行人の全てが足を止めたのではないかと思えるほどの大勢の人たちが我々を取り巻き、嵐のような拍手で包んでくれたのである。2曲、3曲と歌っていくと、しまいには愉快的な老紳士が握手を求めてきたり、全員が手拍子を打ってくれるなど、大変な盛り上がりを見せた。

訪問した先々で、人々の温かで素直な反応を目の当たりにした。音楽が決して技巧や理論で成り立っているものでなく、万人の心に宿るものだとすることを肌で感じた。また、それが、狭いホールの中だけで生成するものではなく、時間を豊かに彩り、人と人の心を結びつける魔法の役割を果たすものであるということをあらためて教えてくれた。最後の演奏会を終えたパリの夜、心の底からの部員の笑顔に、この演奏旅行で得た貴重な体験が我々をより大きく飛躍させる原動力となることを確信した。

(学生指揮者・伊東恵司・経4)

1989年5月号「同志社大学通信」より転載

第4回/ヨーロッパ演奏旅行①

1992年2月19日～3月10日

Concert Tour

コンサートプログラム

● Missa Mater Patris (Josquin des Prez)

● 現代宗教曲集

Locus iste (Anton Bruckner)

Ave Maria (Anton Bruckner)

Jubilate Deo (Henk Bading)

Ave Regina Caelorum
(Henk Bading)

● 日本民謡集

最上川舟歌

音戸の舟歌

そうらん節

五木の子守歌

おてもやん

● 男声合唱のためのアイヌのウポポ
(清水 脩)

イギリス

2月23日。終日フリー。前日の時差マジックによる25時間強制移動にもかかわらず、皆、普段の練習に来る時とは別人のような顔をして町へと繰り出していました。



大英博物館、バッキンガム宮殿、ウエストミンスター寺院etc. 普段はTVでしか見たことのない所を観光してまわりました。タワーブリッジをロンドン橋とまちがえて、タクシーに「LONDON BRIDGE PLEASE」と言った方がいいが、何の変哲もない橋につれていかれた人など、この1日だけで数えられないほどのエピソードができました。24日、いよいよ演奏会。St.Mary教会を会場として、地元の人達と共に、言葉ではなく音楽で通じあうことができました。また今回の旅行の目的の一つが「本場の教会の響きを体験する」ことであり、今回の演奏会が団員一同、初体験であったので、その音響の素晴らしさにド肝をぬかれてしまいました。普段日本で行う演奏会とは全く異なる状況の演奏会で不安はかくせませんでしたが、何とか無事にこの演奏旅行の第一歩を踏みだせたのではないかと思います。





1992年2月19日～3月10日 第4回ヨーロッパ演奏旅行

フランス

我々の次なる訪問地はフランス・パリである。海外初体験者の多いグリーンメンも、そろそろ異国の空気に慣れてきたようだ。ボンビドーセンターのすぐ近く、サンメリ教会で行われる今回の演奏会は、この演奏旅行の中でも最も規模の大きいものの一つだけに失敗は許されない。しかし何とすばらしい教会なのだろう。石造りの教会の独特の響きは、我々の拙い歌でさえ名演奏に錯覚(?)させてしまう程だ。殊に本場ヨーロッパの教会で宗教曲を歌う感激は、なかなか得がたい収穫だったと思う。



現地の方々の暖かい協力もあって、会場はほぼ満員、良い気分で演奏することができた。鳴りやまぬ拍手に学生指揮者Mも悪ノリして何度となくアンコールに応えた。(誰かとめろ!)

パリではフリータイムも比較的あったので皆思い思いのパリの休日を楽しんでいたようだ。市内の観光地ではあき足らず、渋谷先生とヴェルサイユまで足をのばした者もいた。私自身もパリには格別の思いを寄せていただけに精力的に行動した。とかく名所の多いパリだが、特に早朝、リュクサンブール庭園やソルボンヌを訪ねた。カルチェラタンや、小路をさまよっているうちに、ムーランド・ラ・ギャレットを見つけてKさんと喜んだ夕暮れのモンマルトルの思い出が今でも胸に残る。お目当てだった美術館めぐりも、充分でなかったし、やはりもう一度、パリへ行こうと私は心に秘めている。



ドイツ

ドイツ最初の都市はベルリンである。ベルリンと言えば、森鴎外を思い出すが、今や欧州改革の中心としてその名が知られている。到着当日にベルリンフィルの演奏会に行った者、本山先生を含め約5名。ドイツ演奏旅行は音楽とともに始まった。また、パリのホテルにパスポートを忘れた者、飛行機の中でパスポートを捨てかけた者がいたことも見逃せない(あれにはヒヤヒヤしました)。ベルリンでの演奏会は、マルツァーニ地区のホールで行われ、地区の区長さんが聴きにきて下さった。演奏会の最後はスタンディングオベーションで拍手を下さり、部員にとって忘れられない演奏会となった。我々の歌うジョスカン・デ・プレのミサが、重厚な石の壁、美しいステンドグラスにはねかえり、聴衆の心に訴えた。ドイツ最後の都市フランクフルト。ここでの演奏会は音楽大学のホールで行われ、ヘッセン州の放送局が収録にきて下さった。また、本山先生ご友人方、地元の合唱団の方々が交流会を開いて下さり、大変楽しい一日となった。ドイツを通して、アンコール曲、地元シュヴァーベンの民謡「ムシデン」を歌ったときの聴衆の顔の輝きを忘れることができない。ドイツではビール、ソーセージ、アウトバーン、ベルリンの壁などを期待していたが、シュトゥットガルトのシラープラッツ(広場)での日向ぼっこは部員の心を和ませた(マクドナルドのハンバーガーも私を和ませた)。もちろんビールなどは期待通りで素晴らしい。Schön!



第4回/ヨーロッパ演奏旅行②

1992年2月19日～3月10日

Concert Tour

スイス



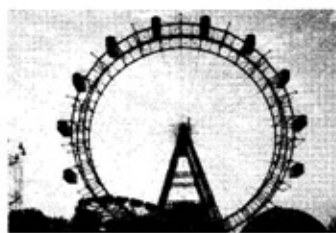
3月2日、冷たい雨の降りしきる中、私はコートの襟を立て到着ゲートへと足早に向っていた。ああ私のチューリヒ! 君は何故そんなに冷えきった涙で私を濡らすのか。君は

本当の人間の優しさを遠い過去に置き去りにしてしまったのか…。それぐらい冷たい雨の降る中、我々はチューリヒを訪れた。チューリヒと言えばスイス最大の商工都市、さぞかし賑やかだろうと思えば、市街地には市電が、チューリヒ湖には白鳥が、遠くにはアルプスの山々が、と非常に落ち着いた街であった。そんなチューリヒでの演奏会は、翌3日、町の中心にあるブレディガー教会で行われた。お客さまはさほど多くなかったが、大変熱心に演奏に耳を傾けて下さり、音楽を通じて小さな国際交流ができた気がした。そう言えばこの演奏会、私は下見のためみんなよりひと足先にこの教会の行ったのだが、何故かまだ閉まっていた、中に入ることができなかった。仕方なく、もう薄暗くなった教会の入口の前に座り、1リットルのジュースをラッパ飲みしながら教会が開くのを待っていた。教会の前で人々の慈悲を請う哀れな東洋人にも見えたのか、前を通り過ぎていく人々全てが私を同情の眼差しで見るのである。通り過ぎた後、再び振り返り、私を指して何か言っているカップルもいた。確かに私は決して高貴な顔つきではない。しかしそんな目で見なくても…。冷たい雨が私の心にも降ったチューリヒであった。



オーストリア

ザルツブルグ。モーツァルトを生んだ音楽の都。映画「サウンド・オブ・ミュージック」の舞台にもなったこの美しい町が、ヨーロッパでの最後の演奏会の開催地となりました。演奏会当夜、会場に現れた聴衆の数は約20人。ボツリボツリと聴衆が散らばる客席に69人のグリーメンの歌声が流れ始めました。ステージからは聴衆ひとりひとりの表情や拍手の音までが分かります。初めの2つのステージが終わっても、その表情は心なしに皆厳しく、拍手もまばらです。こうなったらグリーメンにも日本男児としての意地があります。「20人も2,000人も一緒や。



みんな最後まで気を抜くやないで。」先輩の言葉に励まされ再びステージへ。この日最後の、

そしてヨーロッパ最後のステージが終わったとき、約20人の聴衆は皆立ち上がり、笑顔と精一杯の力を込めた拍手をステージの私達に送ってくれたのです。「私はオーストリア人として恥ずかしい。こんな素晴らしい合唱団の演奏会に客があれだけしか来なかったなんて。」後で聴衆の一人から聞いたこの言葉は、たとえそれがこの国一流のお世辞であったとしても、私達にとって演奏旅行の最後を飾る最高の賛辞の言葉となりました。翌朝、一行はウィーンへと発ちました。グリーメンは過ぎ行く古い街並みの中に、作曲中の曲の旋律を口ずさみながら歩くモーツァルトの後ろ姿や、「ドレミの歌」を唄いながらかけ抜けていくマリアと7人の子供達を思い描いたのでした。





1992年2月19日～3月10日 第4回ヨーロッパ演奏旅行

第4回ヨーロッパ演奏旅行回想 ～マネージャーの涙～ 林 克己(平成5年卒)

何で涙が出るのか分からなかった。

3週間のヨーロッパ演奏旅行を終え、伊丹空港に到着したばかり。

ハア、やっと終わったんや…。感慨というよりもホッとした気持ちが涙を流させているのか。横で歌っているカレッジソングを聴きながら、冷静にその気持ちを分析し、この3週間を振り返っていた。

ロンドンの王立音楽院St.マリルボーンチャーチでの演奏会。ヨーロッパでの初ステージは緊張と期待の中行われた。終演後、聴きに來ておられた上品なおばあさんから、良い演奏会だったこと「音頭の舟歌」のソロについてのコメントを頂いた…。らしいが、舞い上がって英語を一言も聞き取れず、笑うしかなかった自分が情けなかった。

パリではサン・メリ教会でのチャリティコンサート。演奏会の前に教会近くでデモ演奏を行って緊張をほぐしたが、本番は教会の重厚さと荘厳さ、歴史の深さに大いなる感動と極度の緊張をもつての演奏会だった。ここでヨーロッパの「石の響き」を実感したグリーンメンは多かったのではないだろうか。

と、ここまでは良かったのだが…。

演奏旅行も進み、緊張がほぐれてきたのか、この後様々な事件が勃発した。

次の訪問国はドイツ。演奏会場の地区の区長さんが駆けつけてくださったベルリン、シュテイツ教会での伝統ある「教会音楽の夕べ」に出演させてもらったシュトゥットガルト、音楽大学のホールで演奏し、州の放送局が収録にきてくださったフランクフルト。いずれも忘れがたい演奏会であったが、やはり一番の思い出はアンコール曲「ムシデン」(シュヴァーベンの民謡)を歌い始めたときの聴衆の笑顔と驚き、そして…とよめきだろう。

そして事件。パリのホテルにパスポートを忘れたグリーンメン。飛行機の中でパスポートを機内食と一緒に捨て、降機後に探してもらったグリーンメン。この後のウィーンでパスポートを盗られ、

「帰国のための渡航書」で帰国したグリーンメン。やはりグリーンメンの演奏旅行にパスポート事件は必須なのか???ちなみに次のヨーロッパ演奏旅行に縁あって添乗員として同行することとなったが、その時もパリの地下鉄車内にてパスポートを盗られたグリーンメンがいた。しかも私のすぐそばで…ああ神様。

さて、演奏旅行は次のスイスに。チューリヒの演奏会は遠藤先生のご紹介で、これまでも演奏会を開かせてもらっているが、今回はプレディガー教会での演奏会。熱心に耳を傾けてくださった聴衆を前に、大変熱の入った演奏会となった。

そして最後の演奏会地オーストリアへ。チューリヒからバスでアルプスを越え、途中の素晴らしい景色に酔いしれ、リヒテンシュタイン公国にて休憩。一路ザルツブルクへ。

ザルツブルクでは丁度キリスト教の祭事「灰の水曜日」にあたったため、ミサに参列。我々が歌うジョスカン・デ・プレのミサ曲と共に礼拝が進行していく。

そして最後の演奏会。ザルツブルクでの演奏会は、聴衆約20名と少なかったが、最後ということもあり、渾身の演奏となったのではないかな。演奏の途中は客席より集音マイクを出して録音している人がいた。終了後、聴衆総立ちでの拍手をもらい、次の一言を聞いた。

「こんな素晴らしい合唱団の演奏会に客があれだけしか来なかったなんて、私はオーストリア人として恥ずかしい。」

たとえお世辞であろうと、この言葉は我々の演奏旅行の成功を語っているではないか。

様々なことがあった。音楽以外にも様々なことを感じ、学び、体験した。ここで思い返せることなどほんの一部にしか過ぎない。それらは我々の人生の大きな糧となろう。事件も山ほどあった。私の知らないところでは更に多くの事件があっただろう。グリーンメンは決してそれを私に言わない。いつかどこかで記事にされるのでは…と恐れているに違いない。よし、いつか聞き出して記事にしてやる。流れる涙に誓った。

新島襄生誕150周年記念

新島メモリアルツアー

Part 1

1993年9月15日～9月22日

アメリカ演奏旅行ではいまだ時差ボケも直らぬまま演奏と移動に追われる毎日だったが、
その中で出会った人々に私達は音楽がどんなに人を魅きつけるものなのか痛感させられた。

■新島メモリアルツアー スケジュール

9月15日(水) 日本 出発
▼
9月16日(木) ワシントンD.C・ラットランド
▼
9月17日(金) アーモスト大学訪問
▼
9月18日(土) ニュートン・ボストン
▼
9月19日(日) フィリップスアカデミー訪問
▼
9月20日(月) ボストン(休養日)
▼
9月21日(火) プリマス・ニューヨーク
▼
9月22日(水) 帰 国

演奏曲名

●Missa O Magnum Mysterium
(Victoria)

●日本民謡集

最上川舟歌 そうらん節
音戸の舟歌 おてもやん

●愛唱歌集

Ride the Chariot
斎太郎節
Soon ah will be done
上を向いて歩こう

ボストンシンフォニー

S… みなさんこんにちは。私たち同志社グリーは9月中旬から8日間、同志社の創立者新島襄の生誕150周年を記念し新島の学んだアメリカの地を訪問し日米親善を図ることを目的とした新島メモリアルツアーに同行することとなりました。ついでには私たちがアメリカで学んだこと、感じたことを少しばかり紹介してみたいと思います。さっそくだけど、演奏旅行で一番印象に残っていることは?

M… そうやなあ、やはりボストンシンフォニーホールのことやなあ。本拠地としているボストン交響楽団の音楽監督をされている小沢征爾と同じ舞台に立てたことはもう感激の嵐、何かホールの響きも違っていったんやないかなあ。

S… それはリハーサル中に観客席に座ってらしたグリーのOBの方も認めてられたことだよ。けれどそれにしてもあの小沢征爾が私たちの演奏会で振ってくれたかもしれないという噂は本当だったのかな。結局時間の都合がつかなくてダメだったらしいけど。

M… ホールの響きもそやけど演奏会自体でも感動してしまったわ。特にハレルヤコーラスを2回も歌うハプニングがあったんやけど呼応するかのよう観客も歌いだすその光景に感激して涙が出そうやったわ。

S… あの時の反応は僕も本当に嬉しかった。アメリカ人は音楽を評価するのに建前はないって言うからね。同志社グリーの演奏自体どうだったかよくわからないけど、観客と感動を共にするという我々の目標は十分達せられたのではないかと思う。

M… ストームさえにも楽しんで聞いてくれはったし、そう言えばK原にサイン求めているかわいいう女の子もおったな。

1993年9月15日～9月22日
新島メモリアルツアー

S… かわいい女の子といえばやはり司会役をして下さったエグロ・マリーさん。奇麗だったなあ。僕らの楽屋まで来て下さったけど、もう楽屋は大混乱。まるで記者会見のようだった。見えないからってロッカーの上に上がってみてた人もいたような気がする(笑)。

M… そうや、楽屋ゆうて思い出したんやけど、楽屋に閑学グリーのステッカーが貼ってあったわ。

S… 閑学グリーも昨年ここで演奏しているからね。つくづく腐れ縁で感じ。

現地学生との交流



S… さてと、話は変わるけど、現地の学生との交流はどうだった?

M… やはりフィリップスアカデミーの礼拝後の夕食会で現地の学生と同じテーブルで食事が出来たのがすごく嬉しかったわあ。

S… めったに出来ない体験だったね。わずかながらの会話で思ったことは彼らが日本に深い関心をよせていたこと。お箸も上手に使っていたよ。



新島島が函館から脱出し、その後上海にて米国に向け乗船したワイルド・ローバー号

M… 俺が感じたんは隣の黒人の女の子が医者になりたいゆうて、将来のことをしっかりと考えたなあということかな。

S… そうだったね8時からスタディだからといって自分の寮に帰っていく後ろ姿にはただ茫然と見守っているしかなかったもんなあ。

M… さすがブッシュが卒業した超エリート校! ところで、アムハースト大学についてはどう思う?



S… フィリップスアカデミーでもそうだったのだけど、キャンパス見たとたん、同志社グリーに入って失敗したと思ってしまった(笑)。その分勉強して留学したほうが自分にプラスになったんじゃないかと思ったんだ。

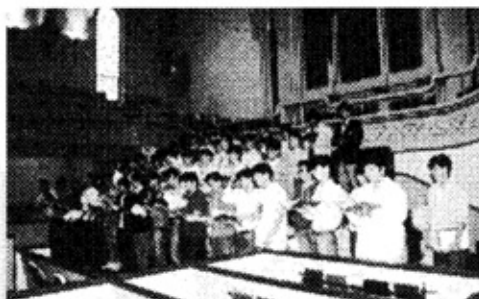
M… そやけど、演奏後のカクテルパーティでは双方の大学歌を歌いあったり、いつの間にか一緒に黒人霊歌を歌とったりして一味違った友情が芽生えてよかったんちゃう? 全くの異文化の俺らがちょっとでもアメリカ文化を肌に感じる事ができたんやし。

新島襄生誕150周年記念

新島メモリアルツアー

Part2

1993年9月15日～9月22日



グレース教会 ラットランドにあるグレース教会。演奏後にいただいたアイスは非常に甘く、1本で十分なのに笑顔ですすめられ、笑顔で応え、3本も食するものもいた。

S… そうだね、今考えれば演奏旅行初日のグレース教会を訪ねたときにも感じられたんじゃないかなあ。あの教会での演奏会は初回であって、耳の肥えたアメリカ人に僕らの演奏がどう評価されるか少し不安だった気がする。けれど、彼らが演奏後に拍手で激励し、握手を求めてくれたことは今後の演奏の自信につながったと思う。あの彼らの笑顔は決して忘れられない。

M… 初日にしてあのM彦の入場ブライニング事件も忘れられへんけどな(笑)。

S…ほんと、ほんと(笑)。

まとめ

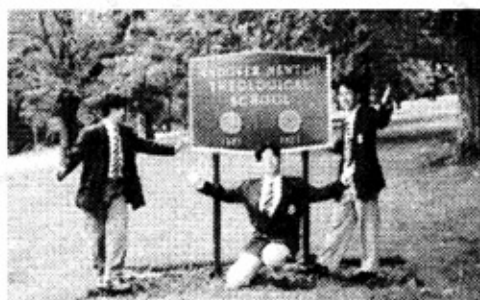
今回の演奏旅行で一番に痛感したのは、合唱は大変スケールが大きいということ。合唱は相手を理解するのに時には言葉以上に効力を発揮する。再来年のヨーロッパ演奏旅行でもまたいい経験が出来ると確信している。最後に、この新島メモリアルツアーにご尽力下さった新島コミティーの方々やアメリカ現地で歓迎して下さい下さった皆さま、そして校友会の方々、その他大勢の方には大変お世話になりましたこと深く御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。



新島襄の元下宿先 ポストン公園近く。多人数でうろつき写真撮影したため、現在居住の一般の方に怪訝そうに窓から覗かれてしまった。ゴメンナサイ。



マリOTTホテル 「私達はロビーで宿泊します…」と遠慮したくなるほどの立派なホテル。2階の高級品店でショッピングをしたグリーンメンは見かけられなかった。



アンドーバー神学校 ポストン郊外に位置する神学校は自然に囲まれ美しかった。校内見学が主な目的であったが、数時間しか居られず、心残りでした。



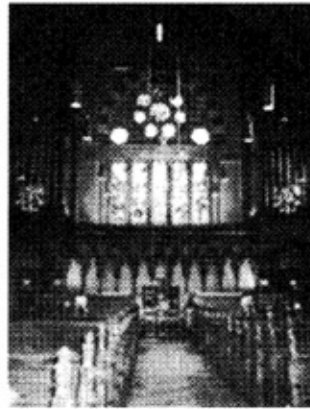
ポストンの夜明け ホテルからの写真。グリーンメンは午前中の授業をベッドで過ごすため実際に見たものは数少ない。カラーで見せられないのが残念。

1993年9月15日～9月22日

新島メモリアルツアー



ボストンシンフォニーホール シンフォニーでの本番は唖然としてしまった。観客が超満員だったのである。たまっていた疲れも忘れて歌った真に一生に一度しかできない体験だった。アンコールストームも大好評!



オールドサウス教会 ポストンの中心街にある教会で、グリーンクラブは聖歌隊として参加した。礼拝後にいただいたお手製のクッキーやアイスクリームは格別だった。

新島メモリアルツアーの思い出 -ある部員の日記より-

浅海 誠(平成6年卒)

「ラットランドのグレース教会へ向かう。ホテルからバスに揺られて3時間程到着。この教会で新島先生は日本での大学設立の寄付を募るため演説をしたそうである。そして集まった金額は現在の価値で2億3千万円。新島先生の熱い思いが聴衆に響いたのであろう。今百二十年の時を超えて、僕たちは同じ場所にいます。自分たちの歌はお客様の胸にどれだけ響くのだろうか」という期待と不安を抱いて。聴衆の皆さんは優しく。客席手前で渋い顔のおじいさんも最後に誉めてくれた。そしてリハーサルの際皆に蔓延していた、倦怠感とあせりと気負いを教会が吸い取ってくれた。すごく気持ちがいい。」(一九九三年九月十六日の日記より)

当初アメリカ演奏旅行への参加については、何度か話し合いの場がもたれた。というのも、過密なスケジュールにより定期演奏会に向けての練習が不足してしまうことへの危惧や、旅行日が大学の後期日程開始と重なり学生の参加が難しいことが懸念されたからである。だが最終的には参加を決定する。得るものの大きさを信じたからである。参加人数は53名。そして九月二十一日最終日の日記――

「ボストンシンフォニーでの演奏後、急遽行われたストーム。その中の一曲「O Sacrum Convivium」を目頭を抑えておられたアンドーバー神学校の校長先生。ボストンシンフォニーにてメサイアを振っていたとき、次の日フィリップスアカデミーのチャペルを見に来てくださった指揮者の先生。お二人とも我々グリーンメンをまるで自分たちの教え子であるかのように自慢げに、にこにこ見守ってくれているのを見た時「この旅行に来て良かった」と感じた。新島先生は見ず知らずの土地アメリカに単身渡り、たくさんの人の暖かさを受けた。そして「新島先生が受けた愛情」を、その教え子である我々もこの地アメリカでたくさん感じた。その愛情に「歌を通して応えようとした旅であつたように思う。」

第5回/ヨーロッパ演奏旅行

1995年2月14日～3月7日

Concert Tour

コンサートプログラム

- 愛唱歌集
- 心の響き/現代の宗教音楽より
- NÉGY RÉGI MAGYAR NÉPDAL
- 男声合唱組曲「草野心平の詩から」
- 男声合唱曲
「合唱のためのコンポジションⅢ」

日本 2/14

2月14日、新しくできた関西国際空港から不安と希望を胸に抱きロンドンに向けて飛びたくとしていました。我々がグリーンメンこれから起こらんとしていることに誰も気付いていませんでした。(実は関空においても数時間フライトが遅れたのですが、今思えばこの様なことはまさにプロローグにすぎなかったようです)一スミマセン、そんなにすごいものではありません。



イギリス 2/14～2/18



まず最初に訪れたのはイギリスのロンドンでした。海外初体験のものがほとんどであるにもかかわらず皆普段どおりおくすることなく思い思い終日フリーを楽しんだのでした。英語を話せるものはほんのひと握り程度の中、体をフルに使ったり、日本語でこり押ししたりとそれぞれ好き勝手に意思表示をしていました。Big Benなど、まるで写真の中のような別世界をさまよっていると、クラブのことなどどこかにいってしまったかのように、リフレッシュをしました。17日いいよ演奏会。この演奏旅行初の演奏会ということで皆の緊張がありありとわかります。

それにしても本場のチャペルの音響はすさまじいものがあり、とまどうこともしばしばでしたが、無事成功(?)を収め、皆まずひと安心すると共に、これは演奏旅行であって観光旅行ではないという重大な事実気付いたのです。



フランス 2/18～2/21

我々の次なる訪問地、フランスはパリである。ここで行われる演奏会は現地邦人とのJointで演奏旅行最大規模のもの一つだけに失敗は許されないものでした。Eglise Saint Germain-des-Prez教会で演奏したのですがこの教会はパリの中でも大変歴史があり独特の雰囲気の中、我々の歌声が響いた時は何ともいえない気持ちを味わうことができました。この演奏会でのあるハプニングをここで再現したいと思います。

……「あれ? 角(Top IV)さんがいないぞ」

……「あっ!! トイレに閉じこめられている」

トイレのかぎがこわれ、演奏会本番直前までひらかなかったのです。花の都パリ。しかし美しい都市の裏側は恐ろしいものです。小林(Top II)がジブシーのガキ共にバスポートをすられたのです。皆さまパリへ行かれることがありましたら、気をつけて下さい。本当に危険です。



ドイツ 2/21～3/1

演奏旅行において最も滞在期間が長かったのが、このドイツでした。ベルリン、フランクフルト、シュツットガルトの3都市を訪問しました。

東西統一されたドイツにおいてベルリンはそれがも

っとも表れていたように思えました。ベルリンにおける演奏会は旧東ドイツにあるST. HEDWIGS KATHEDRAL教会で行われました。この教





1995年2月14日～3月7日 第5回ヨーロッパ演奏旅行

会では宗教音楽のみ歌いました。又この演奏会では、一緒に来ていただいた松下先生に独唱をしていただき、その時は私自身も一人の聴衆となっていました。フランクフルトは本山先生の思いでの街であり、この地における演奏会は、本山先生の留学先だった音楽大学で行われた。あいにく長期休暇の真っただ中のためお客さんが少なかったが、非常に良い演奏ができました。この演奏会にはこの大学の先生が来ておられたのですが、大変満足なさったのか、演奏後我々グリーンメンと握手をなさっておられました。なんだか少しえらくなった気分が味わえました。そうそう忘れてはならないのは、キートリッヒに

においてミサに参加したことです。グレゴリオ音楽なるものを中心にミサが進



んでいきます。すごく神秘的で私自身一番印象に残っています。また本山先生に連れていってもらった店で食べたスベアリブは我々グリーンメンの食欲を完全に満たしました。こんなものを日頃食べているからドイツ人はあんなにこっついのかと変に納得してしまっ

スイス 3/1～3/3

美しい自然、我々を見降ろすアルプスの山々、さわやかな気分がひたっている我々にガイドさんが一言、「チューリッヒはジャンキー（麻薬中毒者）が多かったんです



よ。今は少しましになりましたけど」あ〜パリの再現か、と不安がよぎったものの、結局これといったハブニングもなく、やれやれという感じでした。ここチューリッヒでは最後の演奏会が行われ、皆これまでの演奏会を

思いがえしながら曲を歌いきりました。この演奏会の打ち上げの時にあるおぞましい事件がおこったのでした。名付けて「愛の逃避行事件」。我がグリーンクラブ91年の歴史において団内恋愛というものは御法度だったのですが、なんとついにそれが発覚してしまっ

たのです。N森(TopⅢ)、Sき(BariⅢ)←本人のプライバシー保護のため実名はふせさせていただきます。この2人が、打ち上げをすっぽかし、それはもうあついで夜をすごしたのです。あ〜なんということなんだ。



オーストリア 3/3～3/6

最後の訪問地、オーストリアはウィーン。ここで演奏会



は行なわなかったのですが、数々の作曲家を生んだこの地に触れることで団員の音楽的センスを深めるという目的のもと訪れました(ただ観光しかたっただけじゃないのetc、数々の御意見もあるかと思いますが、ノーコメントとさせていただきます)。ここウィーンではこの演奏旅行の打ち上げが行われたのですが、あまり思い出したくない(思い出せない!?)ため今回は報告のほうをひかえたいと思いますが、一言だけおわび申し上げます。「日本の恥をふりまいてしまいました。もうしわけございません」

気持ちをきりかえて、ここウィーンではオペラをききに行くもの、コンサートに行くもの、ウィーンの森を訪れるもの、本来の目的に沿う良心的な団員が多数の中、カジノにいりびたるというおろかもがいました。(私も少しだけいったのですが、とても楽しかったです。)

まあ、勝てばそれはそれでよかったねといえるのですが、ある2回生(親ごさんにばれたらまじでやばいらしいので、これ以上それが誰なのかはここでは申しあげられません)は、2人で10万円以上負けてしまうことをやってのけました。もうすぐ日本に帰れるという喜びと、さびしい気持ちのいりまじる中、それぞれ最後の訪問地を満喫しました。

日本 3/7

3月7日、約3週間の演奏旅行もついに終わりました。この演奏旅行のために御尽力いただいた皆様方、特に阪神大震災直後という大変な時期にもかかわらず、きもちよく送りだしてくださったOBの皆様方、御同行していただいた先生方、そして我々が敬愛する父ちゃん、母ちゃん、本当にありがとうございました。この貴重な体験を一生大事にします。



Concert Tour

アメリカ演奏旅行

1998年2月16日～3月9日

2/16

関西空港を発ち、ニューヨークへ

日本とはしばしの別れ。ニューヨーク上空では雨と風にあおられ、飛行機が恐ろしいほど揺れ、早口のアナウンスが流れる中、奇跡的に着陸

2/17～19

ニューヨークの街をうろ
うろ…歩く
だけで結構ス
リリングだっ
た記憶が…



2/20

ウールゼイ・ホールにて、イェール・グリーとジョイント・コンサート

現代日本合唱曲ステージをかける。アカデミックではない生命力あふれる演奏で、イェール・グリーの均衡の取れた音楽と好対照をなす。アメリカで却って同志社グリークラブを再発見。

2/21

スミス大学にて、5大学合唱祭に参加。大渋滞に巻き込まれ、リハーサルに20分の遅刻。スミス、マウント・ホリヨークといった名門女子大のお嬢様相手に団員一同大張り切り。ただ、お嬢様の大半は、団員よりも堂々たる体格だった。

2/22

アーモスト大学、パークレー・リサイタルホールにてコンサート。前日に同じく合唱祭に参加していたアーモスト・グリーの面々が、ウェルカム・パーティーを開いてくれていた。翌日演奏会があるにもかかわらず、羽目を外したっけ…アーモスト・グリーでは、1997年来日の折に触れた「いざ起て戦人よ」の印象が強かったらしく、「いくさびとよ」と連呼してくれる団員もいた。もちろん、歌った。

ラットランド、グレース教会訪問。今回の旅行の目的



の一つ、新島先生の足跡をたどるその一歩。

DOSHISHA GLEE CLUB CONCERT TOUR IN U.S.A.

ENJOY LISTENING! JAPANESE CHORAL HARMONY, SINCE 1904

TOUR CONTENTS

FEBRUARY 20, 1998
CONCERT AT YALE (JOINT)
<WOOLSEY HALL>

FEBRUARY 21, 1998
CHORAL FESTIVAL
AT SMITH COLLEGE

FEBRUARY 22, 1998
CONCERT AT AMHERST COLLEGE
<BUCKLEY RECITAL HALL>

FEBRUARY 26, 1998
CONCERT AT U.C. DAVIS
<FREEMAN HALL>

MARCH 3, 1998
UNIVERSAL STUDIO CONCERT
<OUT-DOOR THEATER>

MARCH 4, 1998
CONCERT AT POMONA COLLEGE (JOINT)
<BRIDGES HALL>

MARCH 6, 1998
CONCERT AT U. OF HAWAII (JOINT)
<ST. ANDREWS CHURCH>





1998年2月16日～3月9日 アメリカ演奏旅行

2/23

雨のボストンをバスで散策。オールドサウス教会～アンドーバー神学校～ハーバード大学～フィリップス・アカデミーという行程。現地在住の同志社OB志茂さんに同行していただく。その後の自由時間、各自思い思いに観光して回る。

2/24

ボストンからサンフランシスコへ。とうとう、ボストンではモーニングにお茶が出なかった。サンフランシスコは、曇り空が多かった東海岸とは対照的に、カラッと晴れていた。

この後、27日まで観光。その間に、グリーOBの坂下さん、松井さんのお世話で、ジャパントウン内で小演奏会を持つ。日系の方々、特にお年を召した方に聞いていただき、初心に戻る。

2/28

UCデーヴィスにてコンサート。サンフランシスコからOBの方たちがバスで駆けつけて下さる。ところが、渋滞で、日本民謡を演奏した第一ステージに間に合わなかったため、アンコールで「ソーラン節」「五つ木の子守歌」を再演。後日聞いた話では、現地の新聞に「同志社グリーのアンコールは、拍手があろうとなかろうと続いた」と書かれたらしい。

3/1

サンフランシスコを発ち、ロサンゼルスに。渡米の際、乗り継ぎのため、一度着陸している。団員の一部が、アメリカンサイズのコーラを初体験した地でもある。あまりの量に目が点になりました。

3/2

同志社OB大江さん、中村さん、梅沢さんのお力添えで、ユニバーサルスタジオで邦人として初コンサートをかける。露天でした。その後ユニバーサルスタジオが日本にも来たのは、この時の縁かも。



3/4

ボモナ大学、ブリッジズホールにて、ボモナ大学とのジョイントコンサート。打ち上げの後グリーンメンたちは、ボモナ大学生のお部屋に、分散してお泊まり。それぞれにみな、楽しい夜を過ごしました。



3/5

ロスに別れを告げ、最後の訪問地、常夏の島ハワイはホノルルへ。

3/6

セント・アンドリュース・カテドラルにて、ハワイ大学とのジョイントコンサート。日米の国歌を歌い交わした。

3/7

完全自由日にて、みんな好きに過ごす。翌日が怖い……

3/8

グリーOBの松村さんのご尽力で、マキキ教会での礼拝に、歌で参加。神様、グリーンメンの罪深い前日をおゆるし下さい。

この夜、ワイキキの浜に十数人が集まり、気が済むまで歌った。騒音に悩まされたホテル客の方などがいらっしゃったら、この場を借りて深くお詫びします。あれは我々です。



3/9

ホノルルを発つ。関西空港に着いた時には、3/10になっていた。

Concert Tour

■ 2001年アメリカ演奏旅行 スケジュール

- 9月 8日(土) Trinity Lutheran Church
(フィラデルフィア近郊)にて
演奏会
- 9月 9日(日) First Presbyterian Church
(フィラデルフィア市内)にて
演奏会
- 9月10日(月) ウェストミンスター音楽大学
訪問 Nassau Presbyterian
Church (プリンストン大学内)
にて演奏会
- 9月12日(水) スミス女子大学にて
スミスグリークラブと交流会
- 9月13日(木) グレース教会にて演奏会
- 9月13日(木) アーモスト大学にて演奏会
- 9月15日(土) フィリップスアカデミー訪問
- 9月16日(日) オールドサウス教会(ボスト
ン市内)礼拝奉仕
Hardy-Neesima Memorial
Concert 出演
- 9月19日(水) アンドヴァー神学校訪問

この旅行中、9月11日に米国同時多発テロ
事件が起こりました。

9月14日、私たちはアーモスト大学での演
奏会後、アーモスト卒業生の追悼集会に参
加し、歌を捧げました。

アメリカ演奏旅行

2001年9月7日～9月21日

9月7日

朝7時半、伊丹空港集合。成田経由にて、ダラス空港
に着く。その後、ワシントンまで飛ぶ。着いたのは夜で、
すぐホテルに入った。

9月8日

午前中はワシントン市内観光。アーリントン墓地、リン
カーン記念堂、ホワイトハウス、国会議事堂を巡る。国会
議事堂前にてカレソン・リジョイスを歌う。

(アメリカの地で初めての歌)

午後は、Trinity Lutheran Church(フィラデル
フィア近郊Lansdale)にて演奏会。岸基史顧問(奥様
のご両親がLansdaleにお住まい)のご尽力で、演奏会
と部員全員が
ホームステイ
をさせていた
だいた。



9月9日

午前中は、再びTrinity Lutheran Churchにて
Rally Day(教会学校の初日)の礼拝にて奉仕。その
後バスにてフィラデルフィア市内に移動。午後、First
Presbyterian Church(フィラデルフィア市内)にて
演奏会。ペンシルバニア大学グリークラブメンバー数名
が来てくれ、演奏会後、市内で交流した。

9月10日

午前中、プリンストンの街にあるウェストミンスター音
楽大学を訪問、合唱の授業を見学。午後は、プリンスト
ン大学内のNassau Presbyterian Church にて演
奏会。

この演奏会から本山秀毅先生が参加され、指揮をし
ていただいた。

9月11日

この日は、ナイアガラの滝の観光を予定していたが、
バスで移動中、同時多発テロ事件が起こった。途中で、
国境封鎖の情報が入り、ナイアガラ行きを中止し、しば
し待機と今後について考える意味もあり、フィラデルフ
ィアの前日宿泊のホテルに引き返す。

翌日に交流会を予定していたスミス女子大学、グレー
ス教会、アーモスト大学から「可能ならば是非」という連
絡を受け、翌日から当初の予定通り、行けるところまで
行くという結論に達した。



2001年9月7日～9月21日 アメリカ演奏旅行

9月12日

朝にフィラデルフィアを発ち、夕刻スミス女子大学に到着。スミスグリークラブの練習場のホールにて歌の交流。続いて食事会。女子大生とお食事会、英語での会話・・・にグリーメンは緊張、しかし前日の出来事でショックを受けていたことを逆に癒してもらった。

9月13日

午前中はアーモスト・ノーサンプトンで自由行動。夕刻、グレース教会にて演奏会を行った。同時多発テロで親族を亡くした聴衆が泣きながら聴いておられた。グレース教会でも大変歓待していただき、食事をいただいた。



9月14日

午前中は自由行動。午後、アーモスト大学を訪問、グリークラブのJon君に学内を案内していただく。そのスケールの大きさに驚く。ジョンソンチャペルにて新島襄の肖像画に直面。その後、夕刻に Buckley Recital Hall にて演奏会。大変熱狂的に迎え入れられ、アーモスト大学長、Gerety氏より記念品をいただく。その後、学生たちとレセプション、大変な盛り上がりであった。レセプションの盛り上がり後、アーモストグリークラブ顧問Chermin先生の依頼により、同時多発テロの犠牲者を悼む集会に参加。夜、多くの蠟燭のともるアーモスト大学の中庭にてAlleluia、Deep Riverを歌った。



9月15日

アーモストから、ボストンに向けて出発。途中、フィリップスアカデミー訪問、魔女裁判で有名なSalemの町を観光し、Harvard大学に到着。グリークラブの練習場を見学、学生ガイドに学内を案内していただいた。予定していたボストン港での海員宿舎訪問は港への立ち入り禁止で中止。

9月16日

朝、オールドサウス教会(ボストン市内)にて礼拝奉仕。ボストンご在住の同志社OB志茂さんのご尽力でご招待いただいた。午後には同教会にてHardy-Neesima Memorial Concertに出演。駐ボストン日本総領事も来られていた。単独演奏の他、The Cambridge Community合唱団、The Phillips Academy室内管弦楽団・合唱団、Amherst 大学卒業生、およびThe Old South聖歌隊と、Messiahより数曲の合同演奏も行った。終演後、Amherst GleeのOBイーサン氏宅に全員が招待されパーティーを開いていただいた。



9月17日・18日

この日までに、部員で話し合い、ニューヨーク観光を取りやめ、ボストンにて20日まで滞在することに決定していたので、2日間は終日自由行動であったが、希望者のみ、Alpheus Hardy氏の墓参りとHarvard Glee Clubの年度初練習の見学を行った。

部員は、思い思いに自由行動していた。宿泊していたホテルのすぐ後ろはFenway球場で、当時のRed Sox の野茂の試合を観戦した部員もいた。

9月19日

午前中はアンドヴァー神学校を全員で訪問。午後は希望者のみプリマス観光を行った。自由行動でボストンを巡る部員も多数いた。

9月20日

朝からニューヨークのJFK空港に向かい、帰路につく。空港での厳重な警戒の中、日本への飛行機に乗り込み、全員無事に日本に帰国した。今回の旅行は、9月11日の同時多発テロ事件の後、ほぼ予定通りの演奏会をさせていただき、当初の旅行とは違った面でも多くの事を学ばせていただき、いつまでも記憶される旅行になったと思う。

3年経った現在、ある意味では、参加した者にとっては今でもこの旅行は終わっていないような気持ちにさせられているのではないと思う。この旅行で経験した多くのことは、衝撃的な21世紀初頭の出来事と共に、同志社グリークラブの歴史にも刻まれるはずである。

平成14年卒 島本 英年

アメリカ演奏旅行①

2004年9月6日～9月18日

Concert Tour



アメリカ演奏旅行スケジュール

- 9月 6日(月) 伊丹発 ニューヨーク観光
- 9月 7日(火) ニューポートへ移動 ニューベッドフォードにて地元の合唱団の方々と合唱交流会
- 9月 8日(水) プリマスへ(プリマス開拓村、メイフラワー号等見学) グレース教会にてコンサート
- 9月 9日(木) アーモスト大学にてコンサート、交流会
- 9月10日(金) スミス女子大学にてミニコンサート、スミス女子大学グリークラブと交流会
- 9月11日(土) ボストン郊外(アンドーバー、フィリップスアカデミー、セーラム)訪問
- 9月12日(日) オールドサウス教会にて日曜礼拝奉仕 ボストン市内観光
- 9月13日(月) ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学訪問 ニューヨークへ移動
- 9月14日(火) ニューヨークにて終日自由行動
- 9月15日(水) フィラデルフィアへ移動 フィラデルフィア観光(独立記念館、フィラデルフィア美術館等)
- 9月16日(木) ニューヨークにて終日自由行動
- 9月17日(金) ニューヨーク発
- 9月18日(土) 伊丹着

団員25名 同行者2名

(顧問:岸基史、特別同行:志茂望信氏)

コンサートプログラム

第1ステージ

Zwei geistliche Chore fur
Mannerstimme Op.115
Felix Mendelssohn

Beati Mortui
Periti Autem

Ave, verum Corpus KV618 in D Major
Wolfgang Amadeus Mozart

Messe Solennelle
Gloria
Albert Duhaupas

第2ステージ

さくら

編曲:武満 徹、岩田 有正

斎太郎節 宮城県民謡
編曲:竹花 秀昭

鈴をおさめて

作詞:時雨 音羽 作曲:中山 晋平

赤とんぼ

作詞:三木 露風 作曲:山田 耕作
編曲:福永 陽一郎

最上川舟唄 山形県民謡
編曲:清水 脩

第3ステージ

柳河風俗詩より 柳河

作詞:北原 白秋 作曲:多田 武彦

月光とピエロより 秋のピエロ

作詞:堀口 大聖 作曲:清水 脩

恋のない日より 噴水

作詞:堀口 大聖 作曲:木下 敦子

新しい歌より うたをうたうとき

作詞:まど みちお 作曲:信長 貴富

空に、樹に…より 生きる

作詞:谷川 俊太郎 作曲:新実 徳英



2004年9月6日～9月18日 アメリカ演奏旅行

9月6日

伊丹空港集合の後、ニューヨークへ。時差のため午前に出発してその日の午前に到着だったので、ニューヨーク市内を半日観光した。前回の演奏旅行で同志社グリーが遭遇した9・11の現場にも訪れ、事件の凄まじさを目の当たりにすると同時に、今回の演奏旅行の意味を改めて考えさせられた。



9月7日

バスでニューポートへ移動。その後ニューベットフォード鯨博物館員の櫻井さんのご尽力で、博物館見学の後、船上で地元合唱団であるシーシャンティーコーラスの方々



と合唱交流をさせていただいた。お互い海にまつわる歌(絆をおさめて、シーシャンティー等)を歌い大いに盛り上がった。

9月8日

午前中はプリマス開拓村、メイフラワー号を見学し、午後からはバスでグレース教会へ。グレース教会では大変な歓迎をしていただき、演奏会も大成功だった。特にグレース教会合唱団の方と合同の、パイプオルガン伴奏で歌ったモーツァルトの「Ave Verum Corps」はとても印象的であった。



演奏会終了後、グリーメンはそれぞれグレース教会員の方々に2、3名ずつホームステイさせていただき、ホストファミリーと楽しい夜を過ごした。



9月9日

バスでアーモスト大学へ。昨年、アーモスト大学合唱団が来日した際に栄光館やカラオケで共に歌った仲間にも再び会えて懐かしさがこみ上げてきた。しかし、カラオケであれだけ盛り上がったにもかかわらず、自分のことを全く覚えてくれているメンバーもいて少しさびしかった…(でも、またすぐに仲良くなりました)。その後、アーモストの学食で昼食をとった。学内で相当マネージをしてくれていたようで、コンサートについてよく尋ねられた。



アーモストでの演奏は大成功だった。言葉を越えて「聴衆と一体となる音楽」ができた演奏会だった。その後、アーモストの学生と一体となって飲んだ…



Concert Tour

アメリカ演奏旅行② 2004年9月6日～9月18日

9月10日

アーモストの演奏会の後はノーサンプトンのホテルに泊まり、この日は昼過ぎまで自由行動だった。各自ノーサンプトンの町をふらつき、前日の酔いとともに関までの旅の疲れを癒した。

夕方からはスミス女子大学グリークラブと交流した。ちょうどスミス女子大で京都の展示会をやっていたので、そのレセプションで歌わせてもらった。日本から持参した「同志社グリークラブ特製オリジナルはっぴ」を着て日本の曲を歌い、お客さんに大好評だった。交流会の後、ボストン郊外のホテルへ。



9月11日

9・11の日にアメリカにいるということで、朝からメンバーそれぞれが少し神秘的な面持ちだった。しかし、そんなムードもバスに入ってこられた同志社OB志茂さんの笑い声で吹き飛んだ。今回の旅行で最も衝撃的な出会いだった。

その後、バワフルな志茂さんにご同行いただきバワフルに移動。アンドーバー、フィリップスアカデミー、セーラムを訪れ、ホテルに帰ると地元の方々とバーベキューパーティー。志茂さんをはじめ地元の方々の温かいもてなしによって、印象深い一日となった。

9月12日

午前中はオールドサウス教会で礼拝に出席させていただき、宗教曲を演奏。すばらしい教会で演奏できたことに皆感激していた様子だった。



午後からは自由行動で、各自思い思いにボストン市内を観光した。



9月13日

この日は志茂さんの案内でハーバード大学、マサチューセッツ工科大学、科学博物館、ボストン美術館を見学した。ハーバードではちょうど新歓期間で日本と同じようにテーブルを並べ、多くのサークルが勧誘活動をしていた。その中を歩いていた時、「You sing?」と声をかけられた。ハーバードグリーだった。アメリカでもグリーに勧誘されるとは…これがきっかけで、ハーバードグリーのテーブルの前でリジョイスを歌い新歓のお手伝い(?)をした。





2004年9月6日～9月18日 アメリカ演奏旅行

夜にはボストンに別れを告げ、一路ニューヨークへ。その晩ニューヨークの夜景を見て一同大感激。「見上げてごらん夜の星を」を歌い、その場にいた日本人の方から「最高!」の一声。



9月14日

ニューヨークにて終日自由行動。

9月15日

フィラデルフィアで終日観光。独立記念館、フィラデルフィア美術館等を見学。アメリカ独立の精神に触れる。



9月16日

ニューヨークにて終日自由行動。各自最後のアメリカを思い思いに過ごす。

9月17日

JFK空港を出発し、日本へ。



9月18日

全員無事伊丹空港に到着。

今回の演奏旅行を行うにあたりましてご尽力いただいた皆様方、特に志茂さん、岸顧問には旅行全体を通じて大変お世話になりました。そして何より、現役を支援して下さったOBの皆様方、ご父母の皆様方、今回の旅行に関してご支援、ご協力いただいた全ての皆様方へ心より御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

文責 穴田 淳一郎



本邦初演曲

■同志社グリークラブ初演

組曲「雪と花火」

多田雅彦(昭和33年卒)

四十数年前を思い起こすと、それは彼の一言から誕生した。

当時、指揮者だった同期の河原林昭良君から、四連に出す曲を探しているとの話を聞いた私は、組曲「柳河風俗詩」や「富士山」を作曲、演奏していた兄のことを思い出し、卒業記念に兄に頼んでみようかと話したところ、厚かましいお願いだがそうしてもらえば助かるとのことで兄に依頼することにした。

当時、兄は転勤で東京に移り住み「起伏に富んだ山手の町並み」や「明治・大正時代への郷

愁を感じさせる下町の路地」への散策を楽しんでいたようである。

同志社グリークラブから新曲の委嘱を受けて、東京の風物への印象を合唱組曲の形で残しておこうと詩人北原白秋の詩集「東京風物詩」(後に「雪と花火」に改題)に題材を求め、男声合唱組曲「雪と花火」を作曲したとのこと。

よく聴く「トビシーの前奏曲第二巻」の終曲「花火」にあやかっ、縹色(はなだいろ)に暮れていく夕空と「両国の川開き」をオーバーラップさせながら、組曲の終曲に「花火」を配置した。

■クローバークラブ初演

委嘱初演のエピソード

日下部吉彦(昭和27年卒)

私がクローバークラブを指揮していた1954年から66年の間に、最もお世話になった作曲家は、故清水脩先生だった。戦後の作曲界のトップ・リーダーであり、全日本合唱連盟の理事長も務められた清水先生は、まさに合唱界の大御所だった。

とりわけ男声合唱に強い興味を持っておられた先生と、随分親しくさせて頂き、数々の作品を書いて頂いた。

なかでも記憶に残るのは、男声合唱のための三つの日本民謡「機織唄」・「最上川舟唄」・「牛追い唄」である。

この曲は、1958年7月6日、クローバークラブ東京演奏会(東京サンケイ会館)のための委嘱作だが、とりわけ「最上川舟歌」は、男声合唱のスタンダード・ナンバーとして、現在も広く歌われている

のは、ご存じの通り。

初演者として、ひとこというならば、その後、大学グリーの愛唱曲として若い人たちによって歌われるうちに、原曲のイメージとはやや遠い、速いテンポになっているように思える。

これでは日本民謡にならない。

次に思い出深いのは「山に祈る」だ。この曲は元々ダークダックスの委嘱曲で、男声クワルテットとして人気を得ていたが、1960年6月27日、大阪毎日ホールでのクローバークラブ演奏会に、大編成の男声合唱用に書き替えて頂いた。

ところが、この初演で、とんでもないハプニングが起こった。

山の遭難事故でわが息子を失った母親が、息子の残した日記を切々と読むナレーションに綴ら

同志社グリークラブ・クローバークラブ

■同志社グリークラブ初演

また第二曲目の「彼岸花」では「どうせ、湿地の彼岸花／蛇がからめば身は細る」のくだりで、悲しい遊女の姿を凝視していた詩人の視野に、「どうせ、湿地の彼岸花／午後の三時の鐘が鳴る」のくだりでは、徐々にズームアウトして行き、あたりの景観までも写しこんでいくような映画さながらの見事な描写に感動しながら、曲づくりをしていったと聞いている。

昭和32年6月東京青年館で開催された東西四大学合唱演奏会において、河原林昭良君指揮の同志社グリークラブの初演は多くの聴衆を

魅了し、福永陽一郎さんにも「今までにない男声合唱の魅力を引き出した名演奏である。」との称賛を受けたようで、その名演奏は後世への語り種となった。

その余勢を駆って、同年11月の全日本合唱コンクール大学の部において、同志社グリークラブは、長年の宿敵関学グリークラブを破り、全国優勝の快挙を成し遂げた。

■クローバークラブ初演

れる悲劇だが、その最終幕、悲しみがクライマックスに達したとき、なぜか、舞台そでから、花束を抱えた幼女が、ヨチヨチと舞台中央に向かって歩き出した。

あっけにとられる客席。終演後に出されるべき花束を、幼女が抱えて、ちょっとしたスキに飛び出してしまったものとわかり、客席は大爆笑。せっかくの大悲劇が、一転して喜劇的な結末となった。

客席でこの様子を見ていた清水先生はすっかりおかんむり。あたふたと会場をあとにされた。そして、この惨々な体験を、先生の著書(エッセイ)のなかに書かれているのを後年知って、再び冷や汗をかいた記憶がある。

「落語による“おとこはおとこ”」は、1966年7月11日のクローバークラブ演奏会のための委嘱作。

阪田寛夫(詩)大中恩(作曲)の名コンビは、数々の名作を残しているが、観音詣でをする船上の客と岸辺の民衆とのやりとりの面白さを描いた定番落語を男声合唱にしてもらった。

「白いクレオン」(寺山修司詩、服部公一作曲、1965年)は、まだ売り出し中の寺山さんに詩を頼み、親しい作曲家服部さんに作曲をもらった。

そのころから大きな問題となっていた交通戦争を題材にした。

マーラーの歌曲集「亡き子をしのぶ歌」のリュッケルトの詩を、参考までに、寺山さんに見せたら、それに似た状況が、この曲のなかで扱われていた。いまなお色あせることのないテーマであり、名曲だと思っている。

■同志社グリークラブ初演曲

曲 名	作曲者	作 詩	初演の指揮者	初演の場所
Festgesang an die Kunstler Op.68 「芸術の使徒へ捧ぐる祝祭歌」	Felix Mendelssohn Bariholdy	Shiller	三輪 雅夫	京都市公会堂
ドイツミサ	Franz P. Schubert	Johann P. Neuman	山田 基男	(特定できず)
12人の盗賊	ロシア民謡		寺本 和希	不明
Missa in G	L.Gabelt		寺本 和希	栄光館
雪と花火	多田武彦	北原 白秋	河原林昭良 河原林昭良	同志社栄光館 日本青年会館
The Testamennt of Freedom	Randall Thompson		Pierce A.Getz	同志社栄光館
我が歳月	大中 恩	坂田 寛夫	福永陽一郎	神戸国際文化会館 大阪フェスティバルホール
十の詩曲による 六つの男声合唱曲	ショスターコーピッチ 福永陽一郎編曲	安田 二郎	福永 陽一郎	京都会館第一ホール 東京上野文化会館
MESSA ALLA CAPELLA	渋谷 和彦	from ORDO MISSAE (ミサ通常文より)	福永 陽一郎	京都会館第一ホール
ぼくたちの挨拶	大中 恩	坂田 寛夫	広野 寛	朝日放送スタジオ
リヒャルト・シュトラウス歌曲集より 「愛の詩集」	リヒャルト・シュトラウス 福永陽一郎編曲		福永 陽一郎 細川 哲朗(P)	大阪フェスティバルホール 東京文化会館
夜の扉	福永 陽一郎	串田 孫一	広野 寛	京都会館第一ホール
南風の歌(はやのうた)	福永 陽一郎	沖縄民謡より	富岡 健 笠原 進(P)	京都会館第一ホール
Die Tageszeiten	Richard Strauss	Joseph Von Eichendorff	福永 陽一郎 伊吹 元子(P) 山本 優子(P) 山本 昭一(Horn)	大阪フェスティバルホール
花之伝言(はなのことづけ)	石井 敏作曲・編曲		富岡 健	ザ・シンフォニーホール
Miserere	G.ドニゼッティ		福永 陽一郎	大阪フェスティバルホール
Lob der Musik 金管アンサンブルと男声合唱の ための音楽への賛歌	Johannes H.E.Koch Siegfried Strohbach	Chr Weise	富岡 健	ザ・シンフォニーホール
Hiawatha's Wedding Feast	Samuel Coleridge- Taylor	Henry Wadsworth Longfellow	福永 陽一郎 久邇之宜(P)	ザ・シンフォニーホール
新川和江の三つの詩	石丸 寛	新川和江	石丸 寛	ザ・シンフォニーホール
祝典曲Gloria	池辺晋一郎		浅井 敬壹	寒梅館ハーディホール

■クローバークラブ初演曲

曲 名	作曲者	作 詩	初演の指揮者	初演の場所
男声合唱のための三つの日本民謡 *機織唄 *最上川船唄 *牛追い唄	清水 脩	新潟県民謡 埼玉県民謡 南部地方民謡		東京産経会館
山に祈る	清水 脩	清水 脩	日下部 吉彦	毎日ホール
白いクレオン	服部 公一	寺山修司	日下部 吉彦	毎日ホール
Ride the Chariot	黒人霊歌 W.H.Smith		中川 清	毎日ホール
落語による合唱組曲 "おとこはおとこ"	大中 恩	阪田 寛夫	日下部 吉彦	毎日ホール
水のいのち	高田三郎	高野喜久雄	河原林 昭良	東京文京公会堂

■同志社グリークラブ初演

年月日	演奏会の内容	注1
1925年(T14)11月28日	同志社イーヴ	
(1929-1930)	チャペルにおける讃美礼拝 又は、台湾演奏旅行	80年誌 p.36-37、50年誌 p.42 参照
1952年(S27)		ドン・コサック合唱団の持ち歌。
1953年(S28)		1920年作曲。男子学生のためのミサ曲。 アメリカカトリック大学(現在は無い)の 礼拝のために作曲された。
1957年(S32)6月16日	カリフォルニア大学グリークラブ演奏会	当時の現役からの委嘱作品
1957年(S32)6月23日	東西四大学合唱演奏会	
1958年(S33)6月21日	第7回東西四大学合唱演奏会	Getz氏は当時同志社女子大学 教授(客演指揮)ピアノ伴奏 有賀のゆり氏(女子大教授)
1964年(S39)6月13日	第13回東西四大学合唱演奏会	グリー創立60周年委嘱作品
1964年(S39)6月14日		
1965年(S40)6月13日	第3回 同関交歓演奏会	ショスターコービッチの合唱曲を福永
1965年(S40)6月19、20日	第14回東西四大学合唱演奏会	陽一郎氏が男声合唱に編曲。
1966年(S41)12月13日	96年定期演奏会	
1966(S41)11月21日	66年度芸術祭参加作品	
1967年(S42)6月18日	第4回 同関交歓演奏会	
1967年6月24、25日	第16回東西四大学合唱演奏会	
1967年(S42)11月24日	定期演奏会	福永先生が広野氏のために 初めて作曲にトライした。(広野談)
1973年(S48)12月10日	定期演奏会	福永先生が富岡健氏のために作曲
1980年(S55)6月22日	第29回東西四大学合唱演奏会	
1983年(S58)12月17日	第79回定期演奏会	作曲者自身が男声合唱曲に編曲 男声版の初演。のちに改訂
1985年(S60)6月5日	第11回 同関交歓演奏会	
1985年(S60)12月20日	第81回定期演奏会	金管アンサンブルと男声合唱のための音楽への 讃歌」として二人の作曲家の曲
1987年(S62)12月19日	第83回定期演奏会	
1994年(H6).12月20日	90年定期演奏会	
2004年(H16)10月10日	100周年記念式典	100周年記念式典委嘱曲

■クローバークラブ初演

年月日	演奏会の内容	注1
1958年7月6日	クローバークラブ東京演奏会	
1960年6月27日	第5回記念演奏会	ダークダックスがカルテットで歌っていたが、クローバークラブの ために多人数用に移調・再編され演奏した。
1965年7月5日	クローバー定期演奏会	服部公一氏がクローバーのために作曲
1966年7月11日	クローバー定期演奏会	楽譜の裏に「エール大学グリークラブ、 ディレクターF.ヒース教授がクローバーへ送るとサイン
1966年7月11日	クローバー定期演奏会	大中恩氏がクローバーのために作曲
1972年4月10日	クローバークラブ第10回 東京演奏会	クローバーが編曲依頼。混声合唱から男声合唱への初演

同志社グリークラブのあゆみ

同志社グリークラブ史

世相史 同志社史

1985年(昭和60年)

- 2月16日 第80回卒業生のためのフェアウェルコンサート
(学生会館ホール)
- 3月20日・21日 同志社大学卒業式参列(栄光館)
- 3月22日～27日 春季合宿(小豆島・ホテル海南荘)
- 3月29日 85年度ミスユニバース全国大会出演
(大阪 ザ・シンフォニーホール)
- 4月 5日・6日 同志社大学入学式参列(栄光館)
- 4月30日 洛中ロータリーレセプション(京都ホテル)
- 5月 2日 「11PM」出演(大阪 よみうりテレビ)
- 5月 3日 関西六大学合唱連盟運動会
- 5月 4日 対面式(京都教会)
- 5月12日 ライオンズクラブ(京都国際会館)
- 5月26日 第22回京都合唱祭(京都会館第1ホール)
- 6月 5日 第11回同志社グリークラブ・
関西学院グリークラブ交歓演奏会
(大阪フェスティバルホール)
- 6月 8日・9日 第34回東西四大学合唱演奏会
(東京厚生年金会館大ホール)
(東京文化会館大ホール)
- 7月29日 広島県立賀茂北高等学校校歌レコーディング
(同志社女子大学同窓会館)
- 7月30日～8月2日 演奏旅行
- 7月30日 広島演奏会(広島郵便貯金会館ホール)
- 7月31日 大分演奏会(大分県立芸術会館ホール)
- 8月 1日 佐賀演奏会(佐賀県立美術館ホール)
- 8月 2日 同志社グリークラブ・九州大学コールアカデミー
Joint ConCort(福岡・電気ホール)
- 8月27日～9月1日 夏季合宿(長野・志賀一井ホテル)
- 9月12日 奈良県立耳成高校文化祭出演(奈良・耳成高校)
- 9月20日 京都織物商組合年次総会レセプション
(京都グランドホテル)
- 9月23日 宝酒造社名変更披露会出演(国立京都国際会館)
- 9月26日 姫路玉姫殿オープニングセレモニー出演(姫路・玉姫殿)
- 9月28日 W・ダルマン先生パイプ・オルガン演奏会賛助出演
(同志社大学神学館チャペル)
- 10月14日 金峯山寺蔵王堂落慶法要参加(吉野・金峯山寺)
- 10月20日 同志社中学高校同窓会出演(同志社中学)
- 11月 3日 第12回関西六大学合唱演奏会
(大阪フェスティバルホール)
- 11月 9日 アジア障害者リハビリテーションシンポジウム
(京都社会福祉会館)
- 11月24日 新島会館落成式・同志社大学リユニオン(新島会館)
- 11月30日 テレビ大阪青春讃歌コンサート出演
(森ノ宮ビロティーホール)
- 12月20日 第81回定期演奏会(大阪ザ・シンフォニーホール)
- 12月22日 デイナーショー出演(大阪・ロイヤルホテル)
- 12月24日 第21回全同志社メサイア演奏会(京都会館第1ホール)

1985年(昭和60年)

- 3月 科学万博 つくば85 青函トンネル
が着工以来21年目に貫通
 - 3月11日 ソ連、ゴルバチョフ書記長就任
 - 4月 日本電信電話公社が民営化(NTT)
日本専売公社も民営化
 - 5月 男女雇用機会均等法
 - 8月 日航ジャンボ機墜落事故
 - 9月22日 先進5カ国蔵相会議がプラザ合意
 - 9月 夏目雅子が白血病で死去。(27歳)
 - 10月 阪神タイガース優勝
-
- 1月 9日 大学および女子大学の田辺校地教育
研究施設建設工事起工式。
 - 4月 1日 松山義則、総長に就任。
 - 6月 1日 新島旧邸、京都市有形文化財に指定。
 - 10月28日 新島会館献堂式。

同志社グリークラブ史

世相史 同志社史

1986年(昭和61年)

- グリークラブ顧問が遠藤彰先生から渋谷昭彦先生に代わる
- 1月10日 ヨーロッパ演奏旅行向け練習開始
- 1月25日 冬期定期総会(技術系役員交代)
- 2月15日 第81回卒業生のための
フェアウェルコンサート(学生会館ホール)
- 2月19日 同志社グリークラブ1986年欧州演奏旅行結団式
- 2月20日 欧州演奏旅行出発(大阪空港)
- 3月13日 1986年欧州演奏旅行 解団式、帰国(大阪空港)
- 3月20～21日 同志社大学卒業式参列
- 3月24～29日 春合宿(加太国民休暇村 研修センター)
- 4月 5日 同志社大学入学式参列
- 4月 6日 1986年欧州演奏旅行 帰国報告会(京大楽友会館)
- 4月 8～14日 1986年度新勧活動
- 4月19日 同志社グリークラブ創立82周年年度対面式
(京都教会)
- 4月25日 テレビ大阪出演(守口エナジーホール)
- 5月 3日 関西六大学合唱連盟運動会(大阪城公園)
- 5月25日 第23回京都合唱祭(京都教会)
- 6月21日 第35回東西四大学合唱演奏会
(大阪フェスティバルホール)
- 6月28日 夏期定期総会(マネージメント系役員交代)
- 7月 6日 同志社グリークラブOB会創立10周年記念演奏会
(京都シルクホール)
- 7月17日 祇園祭山鉦巡行参加
- 8月 3日 同志社・上智大学グリークラブ
ジョイントコンサート(名古屋市民会館中ホール)
- 8月30日～9月4日 夏合宿
(飯山 信濃平グリーンシャトー宮沢)
- 9月13日 福永陽一郎祝還暦記念コンサート
「陽ちゃんといっしょ」(東京厚生年金会館大ホール)
- 11月 2日 第13回関西六大学合唱演奏会
(大阪フェスティバルホール)
- 12月20日 第82回同志社グリークラブ定期演奏会
(ザ・シンフォニーホール)
- 12月24日 第22回全同志社メサイヤ演奏会(京都会館第1ホール)

1987年(昭和62年)

- 2月10日 日本生命奥様パーティー“ロシア料理の夕べ”
出演(京都センチュリーホテル)
- 2月14日 第82回卒業生のための
フェアウェルコンサート(学生会館ホール)
- 3月13日～16日 演奏旅行
- 3月14日 大分県日田郡大山町演奏会(大山町農協ホール)
- 3月15日 日田演奏会(日田市民会館ホール)
- 3月16日 日田高校音楽鑑賞会(日田高校体育館)

1986年(昭和61年)

- 1月22日 スペースシャトル爆発事故
- 2月26日 フィリピン革命
- 4月15日 米、リビア爆撃
- 4月26日 ソ連チェルノブイリ原発事故
- 7月 富士写真フィルムが使い捨てカメラ「写ルンです」を発表
- 11月 大島三原山噴火
マイク・タイソン20歳4ヶ月で史上最年少の世界ヘビー級チャンピオンになる
-
- 1月31日 田辺校地建物第1期工事竣工。
＜大学＞副業館、ラーネット記念図書館、
頌真館、香柏館、宗教センター、実験実
習室棟、門衛所、知真館(1・2・3号館)、
厚生館保健センター、田辺別館、食堂
購買棟、多目的ホール、デイヴィス記念館、
体育地区、プール、磐上館
＜女子大＞知徳館、頌啓館、恵真館、
草苑館
- 2月28日 大学田辺校地に「良心碑」建立。
大学田辺校地の下記建物について第
2期工事竣工。
体育系ボックス棟、体育ハウス、真誠館、
体育グラウンドおよびコート
- 4月 1日 大学・女子大学田辺校地開校。
国鉄同志社前駅開業。
- 4月 5日 大学は田辺校地で入学式。
12日から授業開始。
- 5月15日 大学新町校地の知徳館を部室に改造
し「新町北別館」と改称。
- 10月31日 大学田辺校地体育施設(課外体育練
習場)の建設工事が完了。
- 11月23日 創立111周年記念礼拝。
- 12月 1日 近鉄興戸駅改修工事が完了。
この日から利用開始。

1987年(昭和62年)

- 4月 1日 国鉄民営化
- 5月 ソ連でゴルバチョフのベレスト
ロイカが始まる
- 7月 石原裕次郎が死去(52歳)
- 7月11日 国連世界人口白書が世界総人口
50億人突破と発表

同志社グリークラブのあゆみ

同志社グリークラブ史

- 3月18日 滋賀県土山小学校竣工記念式典
(土山小学校体育館)
- 3月20・21日 同志社大学卒業式参列(栄光館)
- 3月22日～27日 春合宿(ハチ高原)
- 4月 6日 同志社大学入学式参列(デイヴィス記念館)
- 4月18日 対面式(京都教会)
- 4月30日 京都学生マンドリン連盟合同演奏会賛助出演
(京都会館第一ホール)
- 5月 3日 関西六大学合唱連盟運動会(大阪城公園)
- 5月 9日 『土曜コンサート』出演(円山野外音楽堂)
- 5月31日 京都府合唱祭(京都会館第一ホール)
- 6月 2日 『フレッシュ9時半キタロー』出演(朝日放送)
- 6月 4日 関西テレビ『すばらしきキャンパス』録画(御所)
- 6月14日 第12回同志社・関西学院グリークラブ
交歓演奏会(フェスティバルホール)
- 6月20日 第36回東西四大学合唱演奏会
(サントリーホール)
- 7月 1日 全日空ホテルパーティー出演
- 7月 5日 第24回同志社・立教大学グリークラブ
交歓演奏会(八幡市文化センター大ホール)
- 7月26日～8月1日 演奏旅行
- 7月26日 福山市民会館大ホール
- 7月30日 出雲市(武志山荘)
- 8月 1日 福井フェニックスプラザ小ホール
- 8月30日 ミスユニバース近畿地区大会&
ABCトワイライトコンサート出演(天王寺博覧会場)
- 9月 8日～13日 夏合宿(志賀高原ホテルサンパレー)
- 9月26日 京都グランドホテルパーティー出演
- 9月27日 福永陽一郎先生指導25周年記念パーティー
(宝ヶ池プリンスホテル)
- 10月 8日 宝ヶ池国際会議場パーティー出演
- 10月18日 同志社創立111周年記念募金式典
(ホテルサンフラワー京都)
- 10月24日 故住谷悦治元総長追悼礼拝参列(栄光館)
- 10月25日 大阪女子学園短期大学学園祭出演
- 10月27日 宇治市立広野中学校文化祭出演
- 11月 2日 めぐみ幼稚園創立35周年記念式典出演(門真市)
- 11月 3日 第14回関西六大学合唱演奏会
(フェスティバルホール)
- 11月 7日 『心のふれあいコンサート』出演(向日市民会館)
- 11月26日 グリークラブEVE祭コンサート(同志社大学会館ホール)
- 12月 5日 奈良市立二名中学校音楽鑑賞会出演
(奈良市民文化会館大ホール)
- 12月19日 第83回同志社グリークラブ定期演奏会
(ザ・シンフォニーホール)
- 12月24日 第23回全同志社メサイア演奏会(京都会館第一ホール)
- 12月26日 西北ロータリークラブクリスマス家族会出演
(京都センチュリーホテル)

世相史 同志社史

- 10月12日 アメリカ・マサチューセッツ工科大
の利根川進教授がノーベル医学生
理学賞を受賞
- 10月19日 ニューヨーク株式市場で株価
が大暴落(ブラック・マンデー)
- 11月 第74代竹下 登首相
- 12月 7日 INF全廃条約
-
- 1月16日 新島襄墓碑(再建)除幕式。
- 6月27日 理事会は、今出川校地周辺の元上立
売書庫、上立売館、元就職部建物、室
町部室の売却を決定。

同志社グリークラブ史

1988年(昭和63年)

- 1月21日 神戸学院女子短期大学音楽科定期演奏会賛助出演
(神戸文化ホール)
- 2月13日 第83回卒業生のためのフェアウェルコンサート
(大学会館ホール)
- 3月20日・21日 同志社大学卒業式参列(栄光館)
- 5月 3日 関西六大学合唱連盟運動会(大阪城公園)
- 5月29日 京都合唱祭(京都会館第1ホール)
- 6月19日 第37回東西四大学合唱演奏会(フェスティバルホール)
- 7月17日 祇園祭山鉦巡行参加
- 7月28日 テビュカンティリナ合唱団(スウェーデン)との
ジョイントコンサート(京都府立勤労会館)
- 7月30日～8月2日 演奏旅行(四国、高松～宇和島)
- 7月30日 高松演奏会
- 7月31日 讃岐丸船上コンサート
- 8月 1日 番城小学校音楽鑑賞会
- 8月 2日 宇和島演奏会
- 9月26日 マーラー「千人の交響曲」
(大阪フェスティバルホール)
- 11月 3日 第15回関西六大学合唱演奏会
(フェスティバルホール)
- 12月17日 新島記念第九演奏会(京都会館第1ホール)
- 12月20日 第84回定期演奏会(ザ・シンフォニーホール)
- 12月24日 第24回全同志社メサイア演奏会
(京都会館第1ホール)

1989年(昭和64年・平成元年)

- 2月18日 第84回卒業生のための
フェアウェルコンサート(大学会館ホール)
- 2月20日～3月13日 第3回ヨーロッパ演奏旅行
(スイス・ドイツ・ギリシャ・フランス)
- 3月20日・21日 同志社大学卒業式 参列(栄光館)
- 3月26日～3月30日 春季合宿(ハチ高原)
- 4月 5日 同志社大学入学式 参列
(京田辺校地デイヴィス記念館)
- 4月15日 同志社グリークラブ新入生対面式
(今出川校地神学館チャペル)
- 5月 3日 関西六大学合唱連盟運動会
- 5月28日 京都府合唱祭 出演(京都会館第一ホール)
- 6月15日 第13回同関交歓演奏会(フェスティバルホール)
- 6月24日 第38回東西四大学合唱演奏会(東京文化会館)
- 7月28日 福島演奏旅行(平市民会館大ホール)
- 9月 夏季合宿(北志賀)
- 9月 全同志社メサイア演奏会結団式
(学生会館ホール)
- 11月 3日 第16回関西六大学合唱演奏会
(フェスティバルホール)

世相史 同志社史

1988年(昭和63年)

- 3月 「東京ドーム」が完成
青函トンネル開通
 - 4月 坂本龍一、アカデミー賞オリジナル
作曲賞を「ラストエンペラー」で受
賞。瀬戸大橋開通
アフガニスタンとソ連が和平合意文
書に調印
 - 10月 ベトナムの二重胎児ベトナムちゃん、ドク
ちゃんの分離手術がベトナムで行わ
れ無事終了
24回大会 ソウルオリンピック
 - 11月 リクルート事件
-
- 3月24日 大学登山隊は、カント峰初登頂に成功。
 - 4月 7日 国際中学校開校式。
 - 6月30日 京都市営地下鉄が竹田駅まで開通し
近鉄と相互乗り入れ。
 - 9月20日 新島記念講堂(礼拝堂)献堂式。
 - 10月 2日 大学は、田辺校地にて「オープンキャン
パス」(大学進学相談会)を開催(以降、
毎年開催)。
 - 10月17日 大学は、田辺校地にて「大学講演会・
映画祭」を5週間開催(以降、毎年開催)。

1989年(昭和64年・平成元年)

- 1月 7日 昭和天皇崩御
 - 2月 漫画家・手塚治虫死去(60歳)
 - 4月 1日 消費税3%導入
 - 5月 女優・和泉雅子が日本女性初の
北極点到達
 - 6月 2日 第75代 宇野宗佑首相
 - 6月 4日 中国、天安門事件
美空ひばり死去(52歳)
 - 7月 NTTがダイヤルQ2サービス開始
 - 8月10日 第76代～77代海部俊樹首相
 - 11月 9日 東西ドイツが統一、
ベルリンの壁撤去
 - 12月 2日 冷戦終結宣言
東欧民主化
-
- 9月 3日 工学部岳稜会の学生1名が、北アルプ
スで事故死。

同志社グリークラブのあゆみ

同志社グリークラブ史

世相史

同志社史

- 11月 5日 同志社アニヴァーサリーコンサート
(大谷ホール)
- 12月16日 第85回同志社グリークラブ定期演奏会
(ザ・シンフォニーホール)
- 12月24日 第25回全同志社メサイア演奏会
(京都会館第1ホール)
- 12月26日 炎の第九(京都会館)

1990年(平成2年)

- 2月10日 福永陽一郎氏逝去
- 2月17日 第85回卒業生のための
フェアウェルコンサート(学生会館)
- 3月20日・21日 同志社大学卒業式参列(栄光館)
- 3月26日～31日 春合宿(ハチ北高原)
- 4月 5日 同志社大学入学式参列
- 4月17日 関西フィルハーモニー管弦楽団特別演奏会
「メサイア」出演(シンフォニーホール)
- 5月26日 京都合唱際(京都会館第一ホール)
- 6月24日 第39回東西四大学合唱演奏会
(フェスティバルホール)
- 7月30日～8月5日 夏季演奏旅行
(田川・長崎・佐賀・福岡)
- 9月 夏合宿(志賀高原)
- 11月 3日 第17回関西六大学合唱演奏会
(フェスティバルホール)
- 11月26日 大阪フィルハーモニー交響楽団
第252回定期演奏会出演
(フェスティバルホール)
- 12月18日 第86回定期演奏会
(ザ・シンフォニーホール)
- 12月24日 第26回全同志社メサイア演奏会
(京都会館第一ホール)

1991年(平成3年)

- 2月10日 福永陽一郎先生 追悼演奏会「陽ちゃんと一緒に」
(東京芸術劇場)
- 3月20日・21日 同志社大学卒業式に参列(栄光館)
- 3月23日～28日 春合宿(奈良県吉野山八木屋翠山荘)
- 4月 1日 同志社大学入学式に参列(田辺キャンパス)
- 5月 3日 六連運動会(大阪城公園)
- 5月20日 「おはよう朝日です」に出演(ABC放送)
- 5月28日～29日 小林研一郎 練習
- 6月 2日 京都合唱祭 デュオパのミサより「グロリア」(京都会館)
- 6月12日～14日 小林研一郎 練習
- 6月16日 第40回記念東西四大学合唱演奏会 大阪公演
(フェスティバルホール)

1990年(平成2年)

- 3月13日 ソ連、ゴルバチョフを初代大統領に選出
- 5月 藤山寛美が肝硬変で死去(60歳)
- 8月 2日 イラクがクウェート侵攻
- 10月 3日 統一ドイツ誕生
- 11月 長崎県雲仙普賢岳が200年ぶりに大噴火
- 12月 TBSの特派員、秋山豊寛記者が日本人初の宇宙飛行士としてソ連のバイコヌール基地から宇宙へバブル景気

- 1月21日 新島永眠100周年記念礼拝。
- 1月23日 新島襄永眠100周年記念早天祈祷会、碑前祭および講演会(神奈川県大磯)、新島襄胸像除幕式。
- 9月30日 礼拝堂(チャペル)保存修理工事完了
- 12月18日 大学学生健康保険組合創立35周年記念式典。

1991年(平成3年)

- 1月16日 湾岸戦争勃発
- 2月27日 湾岸戦争終結
- 3月 新宿に新東京都庁舎完成
- 4月 牛肉・オレンジ自由化
自衛隊掃海艇派遣
- 5月 横綱千代の富士が引退
- 6月 雲仙普賢岳で火砕流発生
- 6月17日 南ア、アパルトヘイト廃止
- 7月31日 米ソが戦略兵器削減条約(START)に調印
- 8月 本田技研工業の創業者・本田宗一郎死去(84歳)

同志社グリークラブ史

- 6月18日 同志社中学の合唱コンクールに模範演奏で出演
(勤労年金会館)
- 6月22日 第40回記念東西四大学合唱演奏会 東京公演
(東京文化会館)
- 7月 2日 AERA 27号に早稲田グリークラブと共に掲載
- 7月17日 祇園祭太子山 山鉦巡行
- 7月31日 演奏旅行 金沢演奏会(金沢市文化ホール)
- 9月 7日～12日 夏合宿(志賀高原)畑中良輔 練習
- 10月23日 クリストファー・ホグウッド指揮 エンシェント・ミュージック
管弦楽団「皇帝テイトの慈悲」出演(いずみホール)
- 11月 3日 第18回関西六大学合唱演奏会
(フェスティバルホール)
- 12月18日 第87回定期演奏会(ザ・シンフォニーホール)
- 12月25日 第27回 全同志社メサイア演奏会(京都会館)
(12月31日にKBS放送にて放映)

1992年(平成4年)

- 2月15日 第87回卒団生のための
フェアウェルコンサート(会館ホール)
- 2月19日～3月10日 ヨーロッパ演奏旅行
- 3月15日～20日 春合宿
- 3月20日・21日 同志社大学卒業式参列
- 5月 3日 関西六大学合唱連盟運動会(大阪城公園)
- 5月31日 京都府合唱祭参加
- 6月28日 東西四大学合唱演奏会(フェスティバルホール)
- 7月17日 祇園祭山鉦巡行参加
- 7月25日 高松特別演奏会(夏期演奏旅行)
(香川県県民ホール)
- 9月 6日～12日 夏合宿
- 10月 9日 大久保昭男先生御指導30周年と銘打って
記念インタビュー
- 10月18日 片桐哲先生昇天10周年記念礼拝・演奏会
(栄光館ファウラーチャペル)
- 11月 1日 第19回関西六大学合唱演奏会
(フェスティバルホール)
- 12月19日 第88回定期演奏会(ザ・シンフォニーホール)
- 12月25日 第28回全同志社メサイア演奏会
(京都会館第一ホール)

1993年(平成5年)

- 2月13日 第88回卒業生のための
フェアウェルコンサート(学生会館)
- 3月13日～18日 春合宿(ハチ北高原)
- 4月 2日～ 7日 新歓・オリエンテーション
- 4月24日 対面式・新歓コンパ
- 6月 6日 京都合唱祭(京都会館)

世相史 同志社史

- 11月 5日 第78代 宮澤 喜一首相
- 12月25日 ソ連崩壊
- 1月25日 ハリス理化学学校創設100周年記念講演会。
- 1月31日 大学評議会は、92年度以降の入試に関し以下のことを決定。
試験日の固定と試験会場の増設(名古屋、岡山)。地方試験を京都試験場と同日に同一問題で実施。
- 3月14日 国際中学第1回卒業式。
- 6月22日 「新島襄先生生誕150周年記念講演会」を岡山市で開催。以降、93年2月8日まで、日本各地で開催。
- 7月 1日 文部省は大学設置基準を改正し施行(いわゆる大綱化)。

1992年(平成4年)

- 2月 7日 ECが欧州連合創設条約
(マーストリヒト条約)に調印
- 4月 米、ロサンゼルス暴動
- 4月 尾崎豊が死去(26歳)
- 6月 3日 地球サミット
- 6月16日 PKO協力法成立
- 7月 第25回大会 バルセロナオリンピック
- 8月 小説家・松本清張が死去(82歳)
- 8月 佐川急便事件
- 9月 宇宙飛行士・毛利衛さんが
宇宙に出発
ユーゴ内戦(-95)
- 9月17日 カンボジアPKO派遣
- 3月 1日 大学は、卒業生向け広報誌
Wild Rover(年2回)を創刊。
- 7月 2日 新島田邸ならびに付属家屋保存修理
工事竣工式。
- 10月15日 大学評議会ならびに臨時理事会は、
学費改訂を決定。
- 10月22日 「新島先生寄港の地記念碑」除幕式
(青森県下北郡風間浦村下風呂)。

1993年(平成5年)

- 1月 北海道・釧路沖で震度6の大地震
- 5月 プロサッカー・Jリーグ開幕
- 6月 作曲家・猪俣公章が死去(55歳)
- 7月 北海道南西沖を震源とするM7.8の
大地震で奥尻島に大津波

同志社グリークラブのあゆみ

同志社グリークラブ史

- 6月18日 第14回同関交歓演奏会(フェスティバルホール)
- 6月26日 第42回東西四大学合唱演奏会
(昭和女子大学人見記念講堂)
- 7月17日 祇園祭(太子山の引き手として参加)
- 7月23日～29日 夏期演奏旅行(函館市・風間浦村・むつ市)
- 8月14日 ハーバードグリークラブ京都公演賛助出演(京都会館)
- 9月 2日～ 7日 夏合宿(志賀高原)
- 9月15日～22日 新島襄生誕150年記念
新島メモリアルツアー参加
(ワシントンD.C.・ラットランド・アーモスト大学・ボストン・フィリップスアカデミー・プリマス・ニューヨーク等訪問)
- 11月 3日 第20回関西六大学合唱演奏会(フェスティバルホール)
- 12月13日 第89回定期演奏会(ザ・シンフォニーホール)
- 12月24日 第29回全同志社メサイア演奏会(京都会館)

1994年(平成6年)

- 1月7日・18日 総会 学館会議室
- 2月12日 第89回卒業生のための
フェアウェルコンサート(学生会館)
- 3月 卒業式参列、演奏(栄光館)
- 3月下旬 春合宿 和邇浜ユースホテル
- 4月 1日～ 7日 入学式参列、演奏及び新歓オリエンテーション
(田辺校地)
- 5月 3日 六連運動会 (大阪城公園運動場)
- 5月29日 京都合唱祭 (京都会館第一ホール)
- 6月26日 第43回東西四大学合唱演奏会(フェスティバルホール)
- 7月17日 祇園祭にて太子山の曳き手として参加
- 7月28日～8月1日 夏期演奏旅行 (日田、直方、宇部)
- 9月 7日～12日 夏合宿 (志賀高原)

世相史 同志社史

- 7月18日 55年体制崩壊
- 8月 9日 第79代 細川 護熙首相
- 9月13日 パレスチナ暫定自治協定
カンボジア内戦終結
- 10月 ロシア最高会議ビル砲撃
インドで大地震
- 12月15日 ウルグアイ・ラウンド
田中角栄元首相が死去(75歳)
逸見政孝死去(48歳)
-
- 1月30日 新島会館別館献堂式。
- 2月12日 新島襄生誕150周年記念講演会を開催(京都、東京)。
- 2月14日 新島襄生誕150周年記念礼拝。
- 3月 3日 風間浦村中学生が、同志社(大学、中学校)見学のため初来校。
- 4月 1日 大学の学術情報センター
新目録検索システム(DOORS)が稼動。
- 7月12日 京都府下44大学加盟の大学センター
設立推進会議(「コンソーシアム京都」の前身)が発足し、同志社大学長が代表となる。
- 8月22日 大学体育会系山岳部員1名が
十津川村鉾尖岳山系で事故死。
- 9月 同志社中学学園祭に
風間浦村中学生が参加(以降毎年)
- 9月19日 フィリップス・アカデミーに贈呈した
良心碑の除幕式。
- 11月27日 野本真也理事、理事長に就任。
- 12月 9日 フィリップス・アカデミーから良心碑の返礼として風見鶏(同校ピアノホール屋上のもののレプリカ)が届く(94年2月4日国際中高で除幕式)。

1994年(平成6年)

- 1月29日 政治改革法成立
リレハンメル冬季オリンピック
- 4月 中華航空機が名古屋空港で
着陸に失敗
- 4月28日 第80代 羽田 孜 首相
- 5月 9日 南アフリカ共和国、ネルソン・マンデラ大統領選出
- 5月 F1のアイルトン・セナ死去(34歳)
- 6月27日 松本サリン事件
- 6月30日 第81代村山富市首相
- 7月 日本人初の女性宇宙飛行士・向井千秋さん宇宙へ
- 7月8日 北朝鮮の金日成主席死去(82歳)

同志社グリークラブ史

- 11月 3日 第21回関西六大学合唱演奏会(フェスティバルホール)
 11月28日 創立90周年記念演奏会(シルクホール)
 12月20日 第90回定期演奏会(ザ・シンフォニーホール)
 12月24日 第30回全同志社メサイア演奏会(京都会館第一ホール)

世相史 同志社史

- 9月 関西国際空港が開港
 10月 北海道東方沖を震源とするM8.1の地震が発生
 10月 大江健三郎、ノーベル文学賞受賞

- 1月11日 大学学生部は、生協と下宿斡旋業務について申し合わせを交わす。13日から田辺・今出川両校地で業務開始
 2月21日 「資金運用問題」で臨時理事会が開催され、金銭信託(ファンドトラスト)で1月31日現在6億3千万円の元本割れが判明したとの資金運用委員会報告。
 3月12日 大学田辺校地で理化学館他11棟、紫苑館、恵道館竣工式。
 4月 1日 大学工学部(7学科体制)、工学研究科、理工学研究所が田辺校地に全面移転統合する。
 京都・大学センター設立推進会議による単位互換制度が発足。大学商学部および女子大学(はじめての男子聴講生受け入れ)が科目を提供。
 4月 7日 大学育真館増改築工事竣工。
 翌日から第2部体育授業開始。

1995年(平成7年)

- 2月10日 第90回卒業生のためのフェアウェルコンサート(学生会館)
 2月14日～3月7日 第5回欧州演奏旅行(イギリス・フランス・ドイツ・スイス・オーストリア)
 3月20日・21日 1994年度卒業式列席(栄光館)
 4月 1日 1995年度入学式列席(ディヴィス記念館)
 4月 8日 追悼礼拝(同志社礼拝堂)
 4月15日 新入生対面式(神学館礼拝堂)
 4月23日 グリーンユースコンサート(京都会館第1ホール)
 5月14日 六連運動会(雨天中止)
 6月 4日 京都合唱祭(京都会館第1ホール)
 6月17日 第44回東西四連(昭和女子大学人見記念講堂)
 6月25日 第15回同窓交歓演奏会(フェスティバルホール)
 6月30日 ロータリークラブ会合出席(檀原ロイヤルホテル)
 7月17日 祇園祭山鉾巡行参加
 7月29日 奈良校友会に出席(奈良ロイヤルホテル)
 8月 4日・5日 御坊演奏会(御坊市民文化会館)
 8月24日 六大学対抗ソフトボール大会
 9月 1日 宝酒造創立記念式典(京都ホテル)
 9月 4日～ 9日 夏合宿(ハチ高原)
 9月16日 アメリカ研究所入学式出席(有終館)
 10月22日 木津第二中学校創立10周年記念式典出席
 10月27日 戦没者追悼会(府立体育館)

1995年(平成7年)

- 1月17日 阪神・淡路大震災M7.2
 3月20日 地下鉄サリン事件
 4月 東京・大阪で無所属知事誕生
 7月 PHS発売
 11月 ウィンドウズ95発売
 12月 8日 高速増殖炉「もんじゅ」から液体ナトリウム漏れ
 12月14日 オウム真理教に破防法適用を決定
 1月17日 阪神・淡路大震災発生。以降、大学および諸学校は入学試験、学年末試験に柔軟に対応。また、被災学生・生徒には緊急貸与金制度や学費減免などの特別措置を実施。なお、教職員被災者に対する緊急措置も実施。
 1月30日 大学博遠館の大学院施設への改修工事が完了。ハリス理化学館2階にNeesima Room開設。
 9月30日 大学の田辺・今出川研究室ならびに事務室を結ぶ学内LANネットワークを構築(以降、諸学校でも構築)。

同志社グリークラブのあゆみ

同志社グリークラブ史

- 11月 3日 第22回関西六連(フェスティバルホール)
- 11月20日 広島女子文化短大音楽科20周年記念演奏会出演
(広島市国際会議場フェニックスホール)
- 11月21日 三次演奏会(三次市民会館)
- 11月25日 政法会卒業式(栄光館)
- 12月21日 第91回定期演奏会(ザ・シンフォニーホール)
- 12月24日 第31回全同志社メサイア(京都コンサートホール)
- 12月29日 佐渡裕指揮第九出演(ザ・シンフォニーホール)

世相史 同志社史

- 10月 1日 大学ホームページ開設(以降、諸学校でも開設)。
- 11月25日 法学部は70年3月学園紛争で中止となった卒業式を挙げる。

1996年(平成8年)

- 2月17日 第91回卒業生のための
フェウエルコンサート(学生会館)
- 3月15日・16日 春合宿(滋賀県に浜)
- 3月20日・21日 同志社大学卒業式参列(栄光館)
- 4月 5日 同志社大学入学式参列(デイヴィス記念館)
- 4月 1日～ 7日 新歓・オリエンテーション(田辺校地)
- 5月 3日 六連運動会(服部緑地公園)
- 6月 京都府合唱祭(京都府会第一ホール)
- 6月20日 イェール大学グリークラブとジョイントコンサート(栄光館)
- 6月30日 第45回東西四大学合唱演奏会
(フェスティバルホール)
- 7月17日 祇園祭・太子山巡行参加
- 8月 3日～ 5日 夏季演奏旅行
(群馬県安中市・安中市文化会館)
- 9月 2日～ 7日 夏合宿(信濃平・シャトー宮沢)
- 11月 3日 第23回関西六大学合唱演奏会
(フェスティバルホール)
- 11月16日 同志社大学特別学位贈呈式参列(同志社礼拝堂)
- 12月17日 第92回定期演奏会
(ザ・シンフォニーホール)
- 12月24日 第32回全同志社メサイア演奏会(京都コンサートホール)

1996年(平成8年)

- 1月 芸術家・岡本太郎、急性心不全
で死去(84歳)
- 1月11日 第82代～83代橋本龍太郎首相
- 2月 作家・司馬遼太郎が死去(72歳)
- 4月 1日 東京三菱銀行発足
- 6月 住専処理法
- 7月12日 英チャールズ皇太子とダイアナ妃、
離婚
- 7月19日 第26回大会アトランタオリンピック
- 8月 俳優・渥美清死去(68歳)
- 9月 3日 米がイラクを制裁攻撃
- 9月27日 アフガニスタン、タリバンが
首都カブールを制圧
- 9月 漫画家・藤子F不二雄死去(62歳)
薬害エイズ問題
- 12月17日 ベルーの日本大使館人質事件
.....
- 4月18日 大学就職部は、インターネット利用室を
開設。
- 4月22日 商学部交流センター
「樹徳会館」が竣工。
- 7月24日 大学は、早稲田大学と学生交流協定を
締結。
- 11月16日 大学は、戦争で中退した朝鮮・台湾籍
の元留学生9名に「特別学士(同志社
大学)」「(特別学位)」を授与し、卒業生
と認定。
- 12月 5日 今出川校地「宗教センター」の
建物名称を「待辰館」に変更。

1997年(平成9年)

- 2月 第92回卒業生のためのフェウエルコンサート
(学生会館)
- 3月20日・21日 同志社大学卒業式参列(栄光館)
- 3月 春合宿(大津ユースホステル)
- 4月 5日 同志社大学入学式参列(デイヴィス記念館)

1997年(平成9年)

- 2月23日 英国でクローン羊誕生
- 4月 1日 消費税5%導入
- 4月22日 ベルーの日本大使館人質事件解決
- 6月 勝新太郎が下咽頭がんで死去(65歳)
- 6月 神戸小学生殺人事件。犯人は中学生
- 7月 1日 香港が中国に返還

同志社グリークラブ史

- 4月 1日～ 7日 新歓・オリエンテーション(田辺校地)
新入生対面式(神学館チャペル)
5月30日 京都府合唱祭(京都会館第一ホール)
6月22日 第46回東西四大学合唱演奏会
(大阪フェスティバルホール)
7月 8日 第16回同関交歓演奏会(いずみホール)
7月17日 祇園祭・太子山巡行参加
8月 2日 同志社グリークラブ高松演奏会
9月 夏合宿(ハチ高原)
11月 3日 第24回関西六大学合唱演奏会
(フェスティバルホール)
12月20日 第93回定期演奏会(ザ・シンフォニーホール)
24日 第33回全同志社メサイア演奏会
(京都コンサートホール)

世相史 同志社史

- 8月31日 イギリスのダイアナ元皇太子妃
が交通事故で死去(36歳)
9月 北野武監督の「HANA-BI」が第54
回ベネチア国際映画祭でグランプリ
(金獅子賞)を獲得
11月 米スペースシャトル、コロンビアが
土井 隆雄さんら6人を乗せて打ち
上げに成功
11月 山一証券が自主廃業
12月 「ポケットモンスター」を見た子供
達がけいれんやひきつけを起こす

- 2月28日 大学待辰館改修工事竣工。
3月17日 大学明徳館ラウンジおよび
弘風館内購買施設竣工。
4月 1日 田辺町は、市制を施行して「京田辺市」
となる。
大学文学部、法学部、経済学部、商学
部は昼夜開講制を実施。大学・女子
大学との単位互換制度開始。
6月 7日 幼稚園創立100周年記念講演会。
8月25日 理事長は、総長(元理事長)と財務部
長に対して、資金問題に関する損害
賠償請求訴訟を京都地方裁判所に
提起。
10月12日 京都市営地下鉄が
竹田から京都国際会館まで開通。

1998年(平成10年)

- 2月13日 第93回卒業生のためのフェアウェルコンサート
(学生会館)
2月17日～3月10日 アメリカ横断演奏旅行
3月20日・21日 同志社大学卒業式参列(栄光館)
3月23日～25日 春合宿(大津ユース)
4月 1日～ 7日 入学式参列・新歓・オリエンテーション(田辺校地)
4月18日 アメリカ演奏旅行帰国報告演奏会(栄光館)
5月 5日 六連運動会(服部緑地公園)
5月30日 京都府合唱祭(京都会館第一ホール)
6月28日 第47回東西四大学合唱演奏会(フェスティバルホール)
8月 8日～10日 東京静岡演奏旅行
東京(調布グリーンホール)
静岡(AOIホール)
9月 2日～ 4日 鳥取演奏旅行(梨花ホール・鳥取市民会館)
9月18日・19日 和歌山開智高校学園祭出演
11月 3日 第25回関西六大学合唱演奏会(フェスティバルホール)
12月14日 第94回同志社グリークラブ定期演奏会
(ザ・シンフォニーホール)
12月24日 第34回全同志社メサイア演奏会(京都コンサートホール)

1998年(平成10年)

- 2月 7日 長野冬期オリンピック開催
4月 5日 明石海峡大橋開通
5月21日 インドネシア、スハルト大統領
辞任
7月30日 第84代小渕恵三首相
7月 和歌山毒物混入カレー事件
8月31日 北朝鮮が弾道ミサイルを発射
9月 6日 映画監督・黒沢明死去(88歳)
9月28日 米大リーグ、マグワイア、
70号本塁打
10月30日 向井千秋さん、スペースシャトルで
2度目の宇宙へ
12月16日 米英軍イラク空爆
3月20日 文学部4年生・商学部4年生の学生2
名パーティが鹿島槍ヶ岳で行方不明
(4月27日遺体発見)。
4月 1日 大学は、セメスター制を実施。

同志社グリークラブのあゆみ

同志社グリークラブ史

世相史 同志社史

1999年(平成11年)

- グリークラブ顧問が渋谷昭彦先生から岸基史先生に代わる
- 2月20日 第94回卒業生のためのフェアウェルコンサート(栄光館)
- 3月 8日～13日 春合宿(大津ユース)
- 3月20日～21日 卒業式参列(栄光館)
- 4月 1日～ 7日 入学式参列・新歓活動(田辺キャンパス)
- 4月17日 対面式(同志社大学神学館礼拝堂)
- 5月 3日 関西六大学対抗運動会
(豊中市立庄内温水プールグラウンド)
- 5月29日 大阪城南ロータリークラブ式典出演(都ホテル大阪)
- 5月30日 京都合唱祭(京都会館)
- 6月19日 第17回同関交歓演奏会(新大阪メルパルクホール)
- 6月27日 第48回東西四大学合唱演奏会
(昭和女子大学人見記念講堂)
- 7月17日 祇園祭山鉦巡行(太子山)参加
- 8月 3日～ 5日 青森演奏旅行(風間浦村)
(北通り総合文化センターウイング)
- 8月23日 関西六大学対抗ソフトボール大会(淀川河川敷)
- 9月 5日～10日 夏合宿(長野県信濃平)
- 9月24日 新大阪ワシントンプラザホテルディナーショー
(新大阪ワシントンプラザホテル)
- 9月25日 春学期卒業式・学位授与式参列
(同志社中学校礼拝堂)
- 10月 1日 秋学期入学式(同志社大学神学館礼拝堂)
- 10月 2日 全同志社メサイア演奏会結団式
(同志社大学学生会館ホール)
- 10月12日 大阪府堺市立三原台中学校文化鑑賞会出演
(大阪府堺市立三原台中学校)
- 10月24日 三重・奥伊勢演奏会(大台中学校)
- 10月29日 ABC放送「ナイトinナイト」出演(N.G.K.)
- 11月 3日 第26回関西六大学合唱演奏会
(フェスティバルホール)
- 11月 9日 本山先生を囲む会(赤垣屋)
- 11月23日 第51回茨木市市民音楽会出演
- 11月28日 同志社創立124周年記念礼拝参列(栄光館)
- 12月11日 滋賀・甲西町立図書館開館10周年記念
ライブラリー・コンサート出演(滋賀県甲西町立図書館)
- 12月17日 第95回同志社グリークラブ定期演奏会(いずみホール)
- 12月24日 第35回全同志社メサイア演奏会(京都コンサートホール)

- 4月 5日 香里中高創立50周年記念の
山水記念碑除幕式。
- 5月17日 大学今出川校地の日曜日(10時～17時)
入構を自由にする。
- 9月30日 大学田辺別館増改築および多目的ホ
ール改修工事竣工式。
- 10月 4日 大学今出川図書館の
日曜日(10時～17時)開館を実施。

1999年(平成11年)

- 1月 1日 ユーロ始動、
欧州11カ国に単一通貨導入
(1EURO=132円80銭)
- 3月24日 NATOユーゴスラビアを空爆
- 4月 1日 男女機会均等法制定
- 4月 沖縄尚学高校、沖縄県勢として
初めて甲子園優勝
- 5月 5日 しまなみ海道開通
- 6月 1日 ペット型ロボット「AIBO」発売
- 9月30日 台湾でM7.6の地震
- 10月15日 「国境なき医師団」ノーベル
平和賞受賞
- 11月 7日 サッカー日本代表、
シドニー五輪出場を決める
- 12月 2日 マカオ、ポルトガルから中国へ返還
-
- 3月18日 大学学生健康保険組合理事会が、
2000年3月31日付けで
解散することを決定。
- 4月 1日 大学留学生別科第1回入学式。
- 7月 4日 大学ラーネット記念図書館の
日曜開館開始。
- 10月 1日 大学は休講情報を
携帯電話(iモード)で公開。

同志社グリークラブ史

世相史 同志社史

2000年(平成12年)

- 2月11日 You'll never walk alone
福永陽一郎メモリアルコンサート
(京都産業会館シルクホール)
- 2月19日 第95回卒団生のためのフェアウェルコンサート
(学生会館)
- 3月 5日～13日 春合宿(大津ユース)
- 3月18日 同志社女子大学卒業式レセプション出演
(宝ヶ池プリンスホテル)
- 3月20日・21日 同志社大学卒業式参列(栄光館)
- 3月28日 城陽市北部コミュニティセンター開館20周年記念
「春の宵ふれあいコンサート」出演
(城陽市北部コミュニティセンター)
- 4月 1日・ 3日 同志社大学・大学院入学式参列
(同志社大学デイヴィス記念館・栄光館)
- 4月 3日～ 8日 新勤活動(同志社大学田辺キャンパス)
- 4月15日 対面式(同志社大学神学館礼拝堂)
- 4月30日 関西六大学対抗運動会
(豊中市立庄内温水プールグラウンド)
- 5月 7日 新勤イベント(京都地区) 友愛の丘
- 5月10日 ABC放送「ナイトinナイト」収録出演
(なんばグランド花月)
- 5月16日 池田ライオンズクラブCN40周年記念式典参列
(阪急インターナショナルホテル)
- 6月 4日 京都合唱祭(京都会館)
- 7月 2日 第49回東西四大学合唱演奏会
(ザ・シンフォニーホール)
- 7月17日 祇園祭山鉦巡行(太子山)参加
- 7月22日 同志社大学アメリカン・フットボール部
創部60周年記念式典参列(新島会館)
- 8月 3日 同志社グリークラブサマーコンサート
(同志社中学校礼拝堂)
- 8月 6日 同志社校友会岡崎支部パーティ出演
(岡崎ニューグランドホテル)
- 8月23日 関西六大学対抗ソフトボール大会(淀川河川敷)
- 8月24日 藤田浩康先生「おお友よ」収録(タウンハウススタジオ)
- 9月 1日～ 6日 夏合宿(ハチ北高原)
- 9月10日・11日 山口演奏旅行(宇部市) 渡辺翁記念会館
- 9月30日 同志社大学春学期卒業式参列
(同志社大学神学館礼拝堂)
- 10月 2日 同志社大学秋学期入学式参列
(同志社大学神学館礼拝堂)
- 10月 6日 同志社スポーツユニオン会長北村光男氏勲五等雙
鋼光旭日章受賞祝賀会出席
(大阪リーガロイヤルホテル)
- 10月 7日 全同志社メサイア演奏会結団式
(同志社大学新町練習場)

2000年(平成12年)

- 1月 1日 コンピュータ2000年問題
- 2月 6日 太田房江大阪府知事誕生
(女性初の知事)
- 3月 4日 プレステーション2発売
- 3月31日 北海道有珠山噴火
- 4月 5日 小渕首相の緊急入院による退陣で、
森喜朗氏首相就任(第85代)
- 6月10日 韓国の金大中大統領、
北朝鮮を訪問
- 6月30日 雪印乳業の加工乳で食中毒
- 7月 8日 三宅島雄山が噴火
- 7月19日 2000円札発行
- 8月 1日 新500円硬貨発行
- 9月 1日 三宅島全島避難
- 9月15日 第27回シドニー五輪開幕
- 11月11日 アルプスでケーブルカー火災事故
-
- 2月29日 大学扶桑館改修(各学部演習室など
を設置)工事竣工。
- 7月18日 女子大学は、ジェームズ館と栄光館を
国の有形文化財として登録。
- 9月29日 同志社びわこリトリートセンター竣工式。
- 10月 1日 大学は学内建物内の禁煙を実施(両
校地とも)。
- 11月 1日 びわこリトリートセンター利用開始。
同志社創立125周年記念ホームカミ
ングデー&ウィーク(3日まで)。
- 11月 3日 大学は大学紛争のため卒業式が中止
された70年、72年、75年3月の卒業生
を対象に卒業式を挙行。
- 11月11日 同志社創立125周年記念シンポジウム
(東京国際フォーラム)
- 11月25日 同志社創立125周年記念シンポジウム
(京都国際会館)
- 11月26日 同志社創立125周年記念礼拝
(栄光館)
- 11月29日 同志社創立125周年記念式
(礼拝堂)
- 12月 3日 今出川校地西門近くのヒマラヤ杉に
クリスマス用電飾点灯(以降、毎年継続)。

同志社グリークラブのあゆみ

同志社グリークラブ史

世相史 同志社史

- 10月14日 125周年記念同志社校友会愛知支部懇親会出演
(名古屋観光ホテル)
- 11月 3日 第27回関西六大学合唱演奏会(フェスティバルホール)
- 11月 6日 同志社大学学位授与式参列
(同志社大学神学館礼拝堂)
- 11月18日 同志社創立125周年記念合唱演奏会
(京都コンサートホール)
- 11月28日 同志社EVE参加(同志社大学今出川キャンパス)
- 12月 9日 神戸女学院創立125周年記念メサイア演奏会出演
(神戸国際会館)
- 12月16日 第96回同志社グリークラブ定期演奏会
(京都コンサートホール)
- 12月24日 第36回全同志社メサイア演奏会(京都コンサートホール)

2001年(平成13年)

- 1月21日 奈良県下市町立阿知賀小学校親子文化鑑賞会出席
(奈良県下市町立阿知賀小学校)
- 2月24日 第96回卒団生のためのフェアウェルコンサート
(同志社礼拝堂)
- 3月 5日～10日 春合宿(和邇浜青年会館)
- 3月16日 探偵ナイトスクープ収録(近江八幡市内)
- 3月17日 滋賀文化短期大学10周年記念式典参列
(滋賀文化短期大学)
- 3月20日・21日 卒業式参列(同志社女子大学栄光館)
- 4月 2日 入学式参列(同志社大学デヴィス記念館)
- 4月 3日～ 7日 新入生勧誘活動期間
(同志社大学田辺キャンパス)
- 4月21日 対面式(同志社大学神学館礼拝堂)
- 4月29日 関西六大学対抗運動会(猪名川運動場)
- 5月16日 埼玉県春日部市立豊春中学校修学旅行見学演奏会
(同志社礼拝堂)
- 6月 3日 第38回京都合唱祭出場(京都会館)
- 7月 1日 第50回東西四大学合唱演奏会
(昭和女子大学人見記念講堂)
- 7月 4日 京都ブライトンホテルリレー音楽祭出場
(京都ブライトンホテル)
- 7月14日 サマーコンサート(同志社大学学生会館ホール)
- 8月 4日・ 5日 国内演奏旅行(愛知県明治村・京都平安教会)
- 8月16日～21日 夏合宿(ハチ北高原)
- 9月17日～21日 アメリカ演奏旅行
- 10月13日 全同志社メサイア結団式(同志社大学学生会館ホール)
- 11月 3日 第28回関西六大学合唱演奏会(フェスティバルホール)
- 11月10日 森本芳雄先生召天50周年追悼記念礼拝
(同志社栄光館)
同志社香里中学・高校50周年記念式典参列
(IMPホール)

2001年(平成13年)

- 1月 1日 二十一世紀が幕を開ける。
 - 1月20日 ジョージ・ブッシュが大統領に就任。
 - 2月10日 米原潜の緊急浮上により、
えひめ丸が沈没
 - 4月26日 第86代 小泉純一郎首相就任
 - 7月10日 千葉の酪農場から日本初の
狂牛病が確認
 - 9月11日 ハイジャックされた旅客機による
米国での同時多発テロ発生
 - 10月 7日 米国英国がアフガニスタン国内で
報復空爆テロ開始
 - 11月20日 マリナーズのイチローが
アメリカンリーグのMVPと新人賞
の同時獲得
 - 12月 1日 皇太子夫妻に女児誕生。
お名前は「愛子さま」
 - 12月22日 海上保安庁の巡視船が北朝鮮の
工作船らしき不審船を射撃し、撃沈
-
- 3月30日 大学「香知館(知能情報センター)」
竣工式。
 - 4月 文学研究科教育学専攻に博士課程
(後期課程)を開設。

同志社グリークラブ史

世相史 同志社史

- 11月11日 奈良県下市町立下市中学校依頼演奏会
(奈良県下市町立下市中学校)
12月15日 第97回同志社グリークラブ定期演奏会
(京都コンサートホール)
12月24日 第37回全同志社メサイア演奏会(京都コンサートホール)

2002年(平成14年)

- 2月16日 第97回卒業生のためのフェア ウェルコンサート
(学生会館)
3月 4日～ 8日 春季合宿(和邇浜千鳥荘)
3月20日・21日 同志社大学卒業式 参列(栄光館)
4月 1日 同志社大学入学式 参列
(京田辺校地デイヴィス記念館)
4月20日 同志社グリークラブOB会主催「春の集い」参加
(新島会館)
4月27日 同志社グリークラブ新入生対面式
(今出川校地神学館チャペル)
4月28日 関西六大学合唱連盟運動会(猪名川運動場)
5月28日 MBS系「?マジっすか!」出演
6月 2日 第38回京都府合唱祭出演(京都会館第一ホール)
6月30日 第51回東西四大学合唱演奏会
(ザ・シンフォニーホール)
8月 3日 京都大学グリークラブ・北海道大学合唱団・
同志社グリークラブジョイントコンサート「初雁来」
(文化パルク城陽)
9月 5日～ 9日 夏季合宿(鉢高原ヒュッテやまなみ)
9月21日 同志社グリークラブ・クローバークラブジョイントコンサート
(いずみホール)
9月28日 全同志社メサイア演奏会結団式(学生会館ホール)
10月 1日 京都商工会議所記念式典出演(京都国際会館)
10月12日 城陽市立北城陽中学校合唱演奏会 招待演奏
(文化パルク城陽)
10月27日 第29回関西六大学合唱演奏会
(大阪厚生年金会館 大ホール)
11月 4日 第4回バックスフェスタ出演
(伊丹市立文化会館いたみホール)
11月28日 同志社EVE 出演
12月 7日 第98回同志社グリークラブ定期演奏会
(京都コンサートホール)
12月24日 第38回全同志社メサイア演奏会(京都コンサートホール)

2003年(平成15年)

- 2月 1日 滋賀銀行記念式典出演(琵琶湖ホール小ホール)
2月15日 第98回卒団生のためのフェアウェルコンサート
(京都文化博物館別館ホール)
3月 3日～ 8日 春合宿(マキノパークホテル)

2002年(平成14年)

- 1月 新種コンピューターウイルス
被害多発
1月30日 田中真紀子外務大臣が更迭
2月 ソルトレーク冬期オリンピック
開幕
2月17日 「千と千尋の神隠し」がベルリン映
画祭で金熊賞。日本での興行収入
は300億を超え、歴代1位に。
4月 1日 ベイオフが普通と当座以外解禁
5月31日 日韓共催のサッカー、ワールドカッ
プが開催
9月 1日 長野県議会の不信任案可決により
辞職した田中康夫が、知事選で再
び圧勝
10月 8日 小柴昌俊のノーベル物理学賞受賞・
田中耕一のノーベル化学賞受賞が
発表
10月15日 北朝鮮による拉致被害者5人が帰国。
10月23日 モスクワ文化宮殿劇場をチェチェ
ン武装グループが占拠
12月 3日 多摩川などに姿を現し人気者
「タマちゃん」が02年の「日本新語・
流行語大賞」

2003年(平成15年)

- 3月頃から 新型肺炎のSARSが中国広東省・
香港あたりで発生し、世界に拡散
3月20日 米国と英国が対イラク戦争を開始。
4月9日制圧

同志社グリークラブのあゆみ 2003⇒2004

同志社グリークラブ史

- 3月20日～22日 同志社大学卒業式参列
- 4月27日 関西六大学合唱連盟運動会(大阪・万博記念公園)
- 5月12日 埼玉県春日部市立豊春中学校との合唱交流会
(同志社礼拝堂)
- 6月 4日 アーモスト大学グリークラブ、女声合唱団来日
同志社グリークラブとのジョイントコンサート開催
(同志社女子大学栄光館)
- 6月29日 東西四大学合唱演奏会(東京文化会館)
- 7月13日 サマーコンサート(呉竹文化センター)
- 7月17日 祇園祭山鉾巡業参加
- 8月25日～30日 夏合宿(ヒュッテやまなみ)
- 9月 6日・7日 同志社グリークラブ・クローバークラブ
合同高松演奏旅行(アクトホール)
- 9月11日 奈良県明日香村「万葉の明日香路に月を観る会」出演
(あすか風舞台)
- 10月 3日 枚方第一中学校文化祭出演
- 10月10日 水口町立城山中学校合唱交流会出演
(水口町立碧水ホール)
- 10月25日 同志社立命館ジョイントコンサート(大谷ホール)
- 11月16日 ロータリークラブ第2650地区03～04年度地区大会
セレモニー出演(デイビス記念館)
- 12月 7日 第99回定期演奏会(京都コンサートホール大ホール)
- 12月 9日 ABCテレビ「ホップステップジャンプ」収録
- 12月24日 第39回全同志社メサイア演奏会
(京都コンサートホール大ホール)

世相史 同志社史

- 3月23日 第75回米国アカデミー賞の長編アニメ部門で『千と千尋の神隠し』が受賞
 - 8月頃から ウィンドウズのウィルス「MSブラスト」や「ソービグF」が全世界に蔓延
 - 8月25日 住基ネットがスタート。
 - 9月 6日 『座頭市』の北野武が第60回ヴェネツィア国際映画祭で金獅子賞(監督賞)を受賞
 - 9月15日 阪神タイガースが18年ぶりに優勝
 - 12月 1日 テレビの地上波でのデジタル放送がスタート
-
- 4月 文学研究科産業関係学専攻修士課程を開設。
 - 9月 同志社ローマ記念館、情報メディア館開設(京田辺校地)。

2004年(平成16年)

- 2月14日 第99回卒団生のためのフェアウェルコンサート
- 3月 5日～ 9日 春合宿
- 3月20日～22日 卒業式参列(同志社栄光館)
- 4月 1日～ 3日 入学式参列(同志社大学デイヴィス記念館)
- 4月17日 対面式
- 5月23日 100周年記念フォーラム(ハーディホール)
- 5月30日 京都合唱祭出場
- 6月27日 第53回東西四大学合唱演奏会(NHK大阪ホール)
- 7月10日 Summer Music Fair(ハーディホール)
- 7月17日 祇園祭山鉾巡業参加
- 8月16日～21日 夏合宿
- 9月 6日～18日 海外演奏旅行(アメリカ)
- 10月10日 同志社グリークラブ 百周年記念式典
- 11月 3日 バッカスフェスタに参加
- 12月 1日 神戸女学院メサイア
- 12月12日 第100回定期演奏会(京都コンサートホール大ホール)
第40回全同志社メサイア演奏会
(京都コンサートホール大ホール)

2004年(平成16年)

- 2月 3日 自衛隊イラク復興支援に出発
 - 2月 9日 自衛隊イラク派遣を国会承認、補正予算も成立
 - 2月29日 船井郡丹波町の浅田農産船井農場において高病原性鳥インフルエンザ(H5N1型)の感染が確認
 - 4月 8日 テロ組織が日本人3人拘束
…自衛隊撤退要求。15日無事解放
 - 5月28日 イラクで日本人記者2人襲撃される
 - 6月 1日 佐世保の小学校で6年生が同級生をカッターナイフで殺害
 - 6月28日 イラク主権移譲。
自衛隊、多国籍軍に参加
 - 8月13日～29日 アテネオリンピック
-
- 4月 司法研究科開設。ビジネス研究科開設。
政策学部政策学科開設。
寒梅館竣工(室町キャンパス)。
新町校地に淡水館竣工。
京田辺校地に光喜館竣工。

同志社グリークラブ 歴代学生指揮者氏名・現役メンバーリスト

■同志社グリークラブ 歴代学生指揮者氏名

54代	神谷伸行	1985年1月～1986年1月
55代	中村 洋	1986年1月～1987年1月
56代	武内和朋	1987年1月～1988年1月
57代	大島直哉	1988年1月～1989年1月
58代	伊東恵司	1989年1月～1990年1月
59代	竹内 正	1990年1月～1991年1月
60代	永島健一	1991年1月～1992年1月
61代	村上哲夫	1992年1月～1993年1月
62代	福田研二	1993年1月～1994年1月
63代	長谷川宏志	1994年1月～1995年1月

64代	上野大介	1995年1月～1996年1月
65代	坂田善弘	1996年1月～1997年1月
66代	小林香太	1997年1月～1998年1月
67代	石井隆昭	1998年1月～1999年1月
68代	五十嵐嘉紀	1999年1月～2000年1月
69代	白石法之	2000年1月～2001年1月
70代	福田一登	2001年1月～2002年1月
71代	坊向敏和	2002年1月～2003年1月
72代	西川潤哉	2003年1月～2004年1月
73代	岩田有正	2004年1月～

(1～53代は80年史参照)

同志社グリークラブ 現役メンバーリスト

■TOP TENOR

4回生	穴田淳一郎	法・旭川東
	東 留以	文・同志社
	林 武史	商・高松西
	久保田貴雄	法・修道
	松田 康孝	文・藤枝東
	松岡 元氣	神・近大付属東広島
3回生	小林 崇諭	文・宇都宮
2回生	三木 雄介	商・東住吉
	永柳 衡	商・京都成章
	吉田 秀樹	文・星光学院
1回生	松本 和也	工・宇和島東
	嶋田 裕一	神・智井学園和歌山
	杉田 康和	神・北陸
	種田 成昭	経・上宮太子

■SECOND TENOR

4回生	岩田 有正	文・大手前高松
	永井 博貴	法・春日丘
	瀬戸川滋彰	工・広大附属
	米倉 宏将	商・久留米商業
3回生	村瀬 賢大	法・津
	吉岡 和哉	商・関西大倉
2回生	秦 和宏	経・大成
	上本 泰寛	経・崇徳
1回生	片山 昇幸	法・龍野
	松山 高士	商・京都成章
	田中 健之	法・八頭

■BARITONE

4回生	藤谷 真	文・姫路西
	喜來 一徳	法・関大一
	野池 佑磨	法・名古屋市立向陽
3回生	川面 浩行	文・星陵
	森脇 和人	法・郡山
	佐藤 和利	経・市川
2回生	元吉 圭太	工・春日丘
	園田 雅樹	工・高岡
1回生	石田 大士	文・春日丘
	若木 太郎	文・鳥取西
	山中 彰	経・智井学園和歌山
	芳村 誠	法・岐傍

■BASS

4回生	段 和真	経・東海大学附属仰星
	栗田 一晃	商・春日丘
	徳山 彰一	工・西大学園
	吉田 高志	工・滝
3回生	西川 潤	商・近大付属和歌山
2回生	金谷 章文	法・帯広三条
	中尾 正充	経・四日市
1回生	根津 仁詩	神・夢野台
	正川 勲	経・洛南
	富田 晋司	文・天王寺

※平成16(2004)年度

同志社グリークラブ100周年協賛者リスト 2004年8月31日現在

卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名
S.12	藤井 清	S.30	中島 完治	S.34	森田 秀夫	S.36	河野 賢太郎	S.40	林 泰夫
S.17	遠藤 彰	S.30	河上 文久	S.34	脇地 駿	S.36	鈴木 章司	S.40	大熊 政次
S.18	前窪 一雄	S.30	大橋 寛治	S.34	尾崎 公昭	S.36	見崎 秀行	S.40	天田 祐
S.20	八木 政三	S.31	平野 稔	S.34	大友 慶介	S.37	河村 時孝	S.40	白瀬 晋生
S.20	黒田 巖之	S.31	野村 忠	S.34	阪井 健二	S.37	林田 良信	S.40	足立 能成
S.21	沖口 優	S.31	野岡 明	S.34	藤原 正巳	S.37	花谷 豊	S.40	西井 正彦
S.24	北村 幸輝雄	S.31	越智 常雄	S.34	芳崎 榮治	S.37	土居 康雄	S.40	山田 至孝
S.24	豊田 俊一	S.31	今藤 勇	S.34	中西 勝美	S.37	石川 顕男	S.40	西部 克己
S.24	長島 俊司	S.31	大橋 慶彦	S.34	高瀬 一之	S.37	三宅 健司	S.40	中川 清
S.24	西村 隆三	S.31	原 忠和	S.34	村橋 輝正	S.37	大山 望	S.40	磯部 俊英
S.25	山中 和三郎	S.31	橋 守	S.34	新矢 起大	S.37	辰巳 孝吉	S.40	畑 恵郎
S.25	織田 幹雄	S.31	中路 明	S.34	畑 通雄	S.37	田中 惺	S.40	寛 正彦
S.25	小松 昭	S.31	佐々木 正義	S.34	山岡 義明	S.37	浅井 敬壹	S.40	松原 毅
S.26	堀永 嘉彦	S.31	堀 哲雄	S.34	村中 裕	S.37	川本 葵	S.40	楠本 英雄 (奥様)
S.26	富永 光雄	S.31	満谷 昭彦	S.34	岩垣 寛治	S.37	藤岡 一以	S.41	木下 利彦
S.26	真下 喜二郎	S.31	園井 健雄	S.34	山田 武彦	S.37	前川 朋生	S.41	小室 泰司
S.26	永井 義男	S.31	佐渡 秀昭	S.34	米田 治夫	S.37	大川 昌彦	S.41	森田 恒孝
S.27	都木 直文	S.31	佐々木 幹朗	S.34	柳瀬 一輝	S.37	祖父江 重剛	S.41	小川 徹
S.27	高橋 登	S.31	池田 武三郎	S.34	坪井 高国	S.38	林田 慎也	S.41	吉田 晋
S.27	石井 美浩	S.31	朝倉 盛之	S.34	松本 尚平	S.38	真野 光長	S.41	山口 剛男
S.27	中井 正和	S.31	渡辺 謙之助	S.34	浅田 隆	S.38	氷室 学	S.41	小亀 豊
S.27	土肥 通夫	S.31	菅野 弘	S.34	高森 雅己	S.38	山内 康次	S.41	高柳 繁夫
S.27	藤戸 武	S.32	湯浦 章	S.35	塩路 良一	S.38	森本 久光	S.41	満部 昭征
S.27	今西 政弘	S.32	足立 栄	S.35	大谷 九二男	S.38	幸田 長明	S.41	村西 耕爾
S.27	西岡 行雄	S.32	三上 貞夫	S.35	加藤 英夫	S.38	大藤 卓英	S.41	須田 禎治
S.27	日下部 吉彦	S.32	梶井 丈治	S.35	長谷川 邦男	S.38	二澤 進	S.41	上田 正治
S.27	武井 怜治	S.32	山元 弘	S.35	西垣 喜光	S.39	牧田 勝久	S.41	北村 徹男
S.28	正木 康雄	S.32	大島 昌夫	S.35	田中 忠男	S.39	溝口 久夫	S.41	北山 良
S.28	山田 孝彦	S.32	山崎 途夫	S.35	楠 貴至	S.39	井阪 紘	S.41	秋田 洋二
S.28	齊藤 勲	S.32	奥村 清彦	S.35	竹之内 壽三	S.39	山中 信興	S.41	中山 健三
S.28	上山 隆久	S.32	森 泰一	S.35	吉岡 浩	S.39	西川 紀行	S.41	大原 康弘
S.28	戸所 義雄	S.32	船木 良保	S.35	砂原 和彌	S.39	後藤 健夫	S.41	木村 忠文
S.28	福島 茂二	S.32	寒河江 正	S.35	田坂 陽治	S.39	松本 慎一	S.41	中野 皓夫
S.28	下山 茂	S.32	犬井 晃	S.35	森本 英樹	S.39	日和 通夫	S.41	影田 武道
S.28	卒業50周年の 集い	S.32	小野寺 昭爾	S.35	石井 正一郎	S.39	鈴木 謙介	S.41	亀 英夫
S.28	妹尾 光郎	S.32	高木 勝元	S.36	寸田 達	S.39	畑中 宣彦	S.41	藤田 昌男
S.28	森川 禎一	S.33	飯山 一栄	S.36	山田 英二	S.39	岩木 六馬	S.41	吉田 圭一郎
S.29	吉田 晴樹	S.33	今村 親示	S.36	田村 量基	S.39	中西 薫	S.41	滝沢 裕人
S.29	鈴木 健三	S.33	大野 光彦	S.36	川添 正	S.39	田中 省一	S.41	小早川 徳宏
S.29	黒坂 洋平	S.33	小川 鈔	S.36	竹田 守孝	S.39	坂下 義紀	S.41	丸山 創作
S.29	二橋 英雄	S.33	川島 仁	S.36	中村 豊太郎	S.39	藤原 浩二	S.41	山本 忠義
S.29	寺本 和市	S.33	楠原 通弘	S.36	森本 潔	S.40	竹上 一郎	S.41	波部 光宏
S.29	野村 秀治	S.33	久雨 紀	S.36	横田 義	S.40	堀部 勝也	S.42	池田 研一
S.29	吉川 悟一郎	S.33	砂本 順三	S.36	下津 啓誠	S.40	川北 純二	S.42	石黒 武
S.29	吉田 庄之介	S.33	多田 雅彦	S.36	天野 守信	S.40	山口 達夫	S.42	今井 清隆
S.29	朝倉 盛正	S.33	辻 義彦	S.36	朝比 久雄	S.40	小宮山 紀夫	S.42	岩谷 誠之
S.30	門田 耕一	S.33	廣瀬 洋	S.36	渡辺 弘道	S.40	内藤 秀樹	S.42	植松 康男
S.30	赤井 和夫	S.33	福島 義二	S.36	山田 昌彦	S.40	土生 邦彦	S.42	鹿毛 民雄
S.30	福島 圭司	S.33	細井 直樹	S.36	稲垣 孝治	S.40	渋谷 庸一	S.42	鹿野 勝
S.30	堀 昌弘	S.33	南迫 卓一	S.36	磯野 文明	S.40	伊達 宣	S.42	河南 克彦
S.30	山縣 達雄	S.33	村上 恵一	S.36	増井 浩	S.40	清水 昭彦	S.42	菊地 洋一
S.30	小池 基信	S.33	森田 雄一	S.36	村田 由高	S.40	岸本 修一	S.42	栗山 昭男
		S.33	山梨 典彦	S.36	阿部 望	S.40	安中 幹夫		

同志社グリークラブ100周年協賛者リスト

卒 年	氏 名	卒 年	氏 名	卒 年	氏 名	卒 年	氏 名	卒 年	氏 名
S.42	児玉 元彦	S.45	金澤 良二	S.51	田野 耕樹	S.56	小野田 武	H.6	八尋 秋彦
S.42	近藤 恭司	S.45	東 英達	S.51	薄井 篤	S.56	奥田 茂弘	H.6	市之瀬 崇
S.42	澤井 浩一	S.45	金田 稔	S.51	村上 一夫	S.57	芦田 直幸	H.6	森下 貴夫
S.42	椎村 尚平	S.46	京谷 史郎	S.51	山内 規生	S.57	筒井 隆文	H.6	鹿島 啓
S.42	科野 輝蔵	S.46	植村 久元	S.51	村上 利行	S.58	田中 哲夫	H.6	福田 研二
S.42	澁谷 和彦	S.46	高田 英生	S.51	小林 郁夫	S.58	前田 洋孝	H.6	近藤 博和
S.42	白井 孝	S.46	松野 正信	S.51	伏村 淳二	S.58	池田 英生	H.6	伊藤 豪史郎
S.42	館 和道	S.46	澤田 信一	S.51	坂下 順一郎	S.58	高井 啓行	H.6	三原 卓
S.42	出口 正昭	S.46	浜田 陽三		(豊子)	S.59	鎌山 琢磨	H.6	辻 健三郎
S.42	外村 俊夫	S.46	小石 伊久男	S.51	井上 誠	S.59	松栄 良太	H.6	朝岡 智昭
S.42	西村 肇	S.46	平松 実留	S.51	河村 淳	S.59	長谷川 恵一	H.6	産賀 伸一
S.42	藤井 英明	S.46	柴田 正次郎	S.51	高田 正	S.59	諸江 修	H.7	白川 行宏
S.42	三木 武彦	S.46	大西 秀孝	S.52	山本 英司	S.60	中小路 智一	H.7	土井 邦康
S.42	八尾 章	S.46	春成 博	S.52	有本 圭希	S.60	河村 一良	H.7	人見 幸朋
S.42	山根 麗	S.46	岡山 滋	S.52	高谷 博次	S.60	森 知史	H.7	吉武 晃
S.42	湯浅 康平	S.47	高橋 博	S.52	八束 基義	S.61	斎藤 斎	H.7	小林 武弘
S.42	吉田 孝昭	S.47	石井 康揮	S.52	小林 茂	S.61	久保 行央	H.7	川島 信規
S.42	同期会	S.47	竹本 三千雄	S.52	岡田 正美	S.61	植田 禎一	H.7	荒川 剛
	〈二分休符の会〉	S.47	相川 義直	S.52	井口 仁	S.62	松本 裕士	H.8	富田 尚
S.43	山根 廣	S.47	目 秀雄	S.52	山下 裕司	S.62	杉山 慎一	H.8	福榮 貴史
S.43	深木 善治郎	S.47	片岡 功	S.53	神吉 正三	S.62	中村 洋	H.8	園田 誠
S.43	遠藤 好俊	S.47	木戸 敏博	S.53	金森 久宙	S.62	高梨 純	H.8	宇都 康之
S.43	神谷 洋司	S.47	鹿毛 格男	S.53	仲達 喜有	S.62	山口 明彦	H.8	上野 大介
S.43	中根 敏雄	S.47	前田 憲一	S.53	稲熊 裕之	S.63	梅田 隆司	H.8	梶原 亮
S.43	久野 春雄	S.47	世良 正則	S.53	二瓶 敏宏	S.63	佐伯 盛一	H.9	関 安記臣
S.43	碓谷 賢一	S.47	岸山 信雄	S.53	恩田 洋	S.63	中西 健	H.9	中谷 統久
S.43	廣野 寛	S.47	田窪 徹	S.53	松本 潤一郎	H.1	安池 倫成	H.9	坂田 義弘
S.43	川上 貴裕	S.48	木村 雄二郎	S.53	森島 敏夫	H.1	田中 祐之	H.9	水野 武司
S.43	高橋 皓	S.48	緒方 盛久	S.53	池田 雅次	H.1	雨宮 信	H.9	安池 尚志
S.43	熊谷 信治	S.48	永田 裕	S.54	福澤 敬	H.2	栗田 陽一	H.9	山元 進
S.43	中島 曉	S.48	鳩 秀成	S.54	植上 雅人	H.2	廣島 映一	H.9	御堂 甚昌
S.43	太田 睦夫	S.48	板倉 正信	S.55	梶浦 義人	H.3	竹内 正	H.10	小林 香太
S.43	鈴木 悦義	S.48	木村 行夫	S.55	西野 章彦	H.3	松田 仁	H.10	入江 隆生
S.43	林 浩一	S.48	島橋 宗久	S.55	千代沢 修一	H.3	黒沼 貴博	H.12	阪本 大輔
S.43	村岡 健二	S.48	幸田 幹雄	S.55	中野 宏	H.3	竹内 敏	H.12	弓山 達也
S.43	魚谷 庄司	S.48	平井 雅則	S.55	松田 俊之	H.3	鹿野 博志	H.13	白石 法之
S.43	坂上 剛	S.48	横尾 修	S.55	音羽 正利	H.3	瀧口 浩一	H.13	澤田 定一良
S.44	吉本 孝夫	S.48	吉田 重春	S.55	西川 芳秀	H.3	大亀 歩	H.13	本田 詢
S.44	坂東 憲治	S.48	中辻 隆	S.56	改正 将夫	H.3	宮崎 雄一郎	H.13	赤沢 昌樹
S.44	松本 公郎	S.49	橋本 晴海	S.56	出水 淑郎	H.3	岩田 正之		
S.44	檜垣 康治	S.49	萩原 潤三	S.56	岡崎 康高	H.3	内田 敏文		大井 玲子
S.44	小瀬 昉	S.49	金子 悦文	S.56	落合 均	H.3	小貫 岩夫		(片桐先生ご長女)
S.44	雨森 伸朗	S.49	中村 徹夫	S.56	大下 信雄	H.3	田村 昌宏		河北 幸子
S.44	田中 昌博	S.49	富岡 健	S.56	多々 清爾	H.3	川口 晃司		(片桐先生ご次女)
S.44	桑山 博	S.50	大崎 保則	S.56	今村 幸彦	H.4	松井 良太郎		上坂 寿人
S.44	築山 直史	S.50	新井 克次	S.56	紀伊 基雄	H.4	山田 学		多田 武彦
S.44	浜本 博	S.50	松村 俊明	S.56	増田 佳昭	H.4	岸岡 昭一		匿名(二名)
S.44	藤田 和久	S.50	平瀬 芳雄	S.56	黒木 義朗	H.4	吉野 暢人		フォー バイ フォー
S.44	坂下 知司	S.50	小糸 徹	S.56	福田 規秀	H.5	鎌見 太郎		ワイルド・ローバーズ
S.44	上野 成一	S.50	今藤 恵証	S.56	常盤井 志伸	H.5	林 克己		
S.45	村上 文隆	S.50	池田 周一	S.56	坂本 務	H.6	山田 憲成		
S.45	福島 稔	S.50	林 修	S.56	渡辺 修	H.6	谷本 啓		
S.45	福岡 美彦	S.50	石川 和雄	S.56	池尻 隆弘	H.6	浅海 誠		

同志社グリークラブ100周年協賛者リスト(追加名簿)

卒年	氏 名	卒年	氏 名	卒年	氏 名	卒年	氏 名
S. 22	森 義文	S. 51	小林 克良	S. 55	山下 秀幸	H. 3	日笠 喜元
S. 27	斉藤 泓	S. 53	荒川 匠平	S. 59	溝端 利文	H. 4	朝日 健次
S. 29	岡本 博行	S. 53	松本 悌次	S. 60	河村 一良	H. 5	田中 佳之
S. 34	市島 章三	S. 54	大林 健	S. 61	尾池 智治	H. 5	中野 泰秀
S. 35	林 幸道	S. 54	栗川 佳彦	S. 61	加藤 栄嗣	H. 5	松尾 敏之
S. 38	田村 康浩	S. 54	左 崙 俊彦	S. 61	藤 浩和	H. 14	島本 英年
S. 38	長原 利行	S. 54	廣瀬 健	S. 62	奥野 和敏	H. 15	水谷 智一
S. 41	石井 信平	S. 54	藤井 俊之	S. 63	井上 裕文	H. 16	蓮池 章弘
S. 43	荒井 直	S. 54	矢ヶ崎 一之	S. 63	武内 和朋	H. 16	宮川 歩
S. 43	柳原 高志	S. 54	山田 浩二	H. 1	高瀬 毅	現役顧問	岸 基史
S. 45	三好 照孝						

2005年4月30日作成

永眠者リスト

※最右列は、昭和12年卒以前物故OB（卒年度不明：順不同）「80年誌」より抜粋

卒年	ご芳名	卒年	ご芳名	卒年	ご芳名	卒年	ご芳名	卒年	ご芳名	ご芳名*
M42	渡辺守成	T12	中村三郎	S5	波木居齊二	S13	小野徳仁	S32	日野重一郎	内海孝夫
M43	伊藤勝義	T12	原 忠明	S5	西八条俊彦	S13	古澤基生	S33	河原林昭良	岡橋 祐
M43	堀内 清	T12	水谷 央	S5	長谷川常次郎	S14	高橋才登	S33	田中 滋	川中忠治
M44	海老沢 亮	T12	富本武則	S5	藤井義久	S15	大河内弘介	S34	岡本一輝	井上美恵
T2	岩村清四郎	T13	岩井常夫	S5	星野三雄	S15	小寺昌良	S34	加藤 格	河原五郎
T2	片桐 哲	T13	岩城吉三郎	S5	松本 淳	S15	松本寛二	S34	康 東秀	山本完二
T4	川端忠治郎	T13	江崎泰三	S5	安田尚熙	S15	柳原一男	S34	田中昭次	鈴木深蔵
T4	浜田 格	T13	江馬文夫	S5	松井 進	S15	吉田希夫	S34	浜田勝三	宇野貞二郎
T5	清水久男	T13	桂 直樹	S6	植村五良	S15	脇田悦三	S34	広田富雄	藤田幾三
T5	露無文雄	T13	中田知之	S6	北村恵三	S16	押鶴丈夫	S34	若狭富士雄	金松史郎
T5	錦織貞夫	T13	増田省三	S6	酒井美智男	S16	岸田耕一	S35	岡田修一郎	福田嘉樹
T5	蜂谷為之	T13	三上竜三	S6	下郷亮造	S16	錦織 均	S35	加藤 基	田島光三
T5	美濃部 肇	T13	山口隆俊	S6	徳本繁弥	S16	野原泰生	S35	杉山佳弘	岡橋 裕
T5	柳島彦作	T13	山中金三郎	S6	西村保正	S17	天野 正	S35	牧野充兵	後藤正三郎
T6	東 義雄	T13	横見正男	S6	山崎喜三郎	S17	荒牧正二	S35	妙田 章	江口常雄
T6	川島良一	T13	蓬田徳治	S6	渡辺 晋	S17	大村 洋	S36	佐伯隆一	番野五良
T6	田中左右吉	T14	新井信光	S6	田中兼賢	S17	沖口秀夫	S36	中川 正	岩内日出男
T6	平賀徳造	T14	池田準左右	S7	荒井 清	S17	小武内忠夫	S36	野村忠三	古賀千代松
T6	三宅 譲	T14	中江 温	S7	海老沢宣道	S17	中澤伸治	S36	山下泰司	渡辺充生
T6	横浜礼吉	T15	生田定一	S7	神 康生	S17	花谷守雄	S36	奥本 仁	北村藤三郎
T6	井上星人	T15	小林直吉	S7	西郷辰三郎	S17	渡邊英一	S36	天野守信	陳 清忠
T7	今井新太郎	T15	鈴鹿秋夫	S7	八島武夫	S18	赤坂輝久	S38	湯浅一郎	奥村竜三
T7	上出雅孝	T15	鈴木重敏	S7	山田基男	S19	野口秀雄	S38	吉田謙之助	伊藤新太郎
T7	上野義一	T15	滝 久雄	S7	吉田一雄	S20	山下萬里	S39	山口正矩	伊藤 栄
T7	内田栄一	T15	津下統一郎	S7	多賀谷重信	S21	鎌谷幸一	S40	楠本英雄	副田壬一
T7	笠谷保太郎	S2	秋間勝二	S7	吉田利光	S21	野澤盛次	S41	里田喜浩	牧野 操
T7	片桐 弘	S2	家倉悌二郎	S8	岡田耕治	S21	本多保隆	S42	木村正夫	久保田正一
T7	小島 応	S2	大石郁之助	S8	神松国良	S22	松原保正	S43	井本昌男	富田勇吉
T7	橋 静雄	S2	坂根扶美輔	S8	野本数男	S23	池田秀隆	S44	千頭英雄	矢野豊一
T7	陳 溪川	S2	坂本喜多男	S8	吉村 清	S23	岩室 清	S44	矢頭宣男	小野義夫
T7	露口四郎	S2	直木潤一	S9	井保吉太郎	S23	宮原禮三	S51	坂下順一郎	仁村健三
T7	浜田光雄	S2	中村 貢	S9	今栄武次郎	S24	斎藤尚志	H7	松田 寅	
T7	原 忠雄	S2	増井毅一	S9	大石保明	S24	山本尚一		以上227名	
T7	平田 甫	S2	美浦三郎	S9	大橋文雄	S25	高松 山			
T7	安田 一	S2	山田健三	S9	宅 孝二	S26	中嶋正昭			
T7	山下 匠	S3	岡崎 祐	S9	山田 弘	S27	神谷 武			
T8	橋 威	S3	三谷裕二	S9	吉田孝夫	S27	藤戸 武			
T8	橋南 孟	S3	森本芳雄	S10	伊吹英次郎	S27	松本勝男			
T9	家垣鹿之助	S3	山川幸世	S10	生島嘉一郎	S27	真砂久哉			
T9	大中寅二	S3	油谷 榮	S10	大野義臣	S27	村上 一馬			
T9	塩田達二	S4	今藤 繁	S10	木村繁一	S27	山口克己			
T9	田島光三	S4	太田為造	S10	笹森 修	S28	矢是栄士			
T10	喜多一二郎	S4	日下部憲治	S10	島本裕二	S29	猪田江平			
T10	伊達 能	S4	藤井正蔵	S10	中村信一	S29	宇野 稔			
T10	鳥居 健	S5	阿部 勝	S10	灰谷一夫	S29	小山欣一			
T10	宮川弥太郎	S5	伊藤昌義	S10	藤田重寛	S31	大森文夫			
T10	山口泰弘	S5	宇田俊雄	S10	本阿彌政一	S31	小田泰弘			
T10	湯浅永年	S5	宇野勇次	S10	宮本光男	S31	下岡祥造			
T11	有賀鉄太郎	S5	大丸武一	S11	鎌谷 巖	S31	戸田 寛			
T11	魚木忠一	S5	千葉 温	S11	峯旗光彦	S31	森 盛顕			

創立100周年記念実行委員会組織図

実行委員長 木下 利彦 (S41)

プロジェクト推進管理室

チーフ 芦田 直幸 (S57)

赤井 和夫 (S30)

堀部 勝也 (S40)

森島 敏夫 (S53)

会計担当 山田 英二 (S36)

募金担当 平井 雅則 (S48)

事務局 栗山 昭男 (S42)

現役支援プロジェクト

リーダー 佐藤 健司 (H 2)

リーダー代行 鐵見 太郎 (H 5)

技術支援担当 伊東 恵司 (H 2)

運営設備担当 安池 倫成 (H 1)

演奏会担当 澤田 定一良 (H13)

会計担当(兼) 鐵見 太郎 (H 5)

イベント関係プロジェクト

リーダー 高橋 博 (S47)

式典担当 伏村 淳二 (S51)

松本 潤一郎 (S53)

R.Cフェスティバル担当 山下 裕司 (S52)

レセプション担当 桑山 博 (S44)

岡田 哲 (S52)

シンポジウム担当 小石 伊久男 (S46)

広報担当 溝端 利文 (S59)

会計担当 高梨 純 (S62)

資料関係プロジェクト

リーダー 小室 泰司 (S41)

デジタル資料担当 藤田 和久 (S44)

浜本 博 (S44)

坂東 憲治 (S44)

記念誌担当 池田 周一 (S50)

小林 克良 (S51)

常盤井 志伸 (S56)

佐伯 盛一 (S63)

川口 晃司 (H 3)

村上 伊左夫 (H14)

藤谷 真 (4回生)

Episodo 100 担当 新井 克次 (S50)

矢ヶ崎 一之 (S54)

千代沢 修一 (S55)

西村 肇 (S42)

会計担当(兼) 佐伯 盛一 (S63)

「記念すべき100周年の節目にあたり、単に記録を残すためにではなく次の100年を構築していくための糧となるべき知識と誇りと勇気を感じられる記念誌になれば…」との想いでスタートした記念誌編集チームでした。どれほどの想いを後年に伝えることが出来るものとする事ができたか、いささか心もとなく感じ、また反省することしきりです。

グリークラブの記念誌は、これまで30年、50年、60年、80年と制作されてきましたが、30、50、60年誌は当時の学生の手によって制作され、80年誌はOBの手により、そして今回の100周年誌は現役とOBによるオールグリークラブの手で制作されました。現役・OBが共に集まり編集会議を重ねること実に25回を数えました。

編集作業を進める中で「やっぱりグリークラブの一員であってよかった」と感じる場面を多々体験することができました。ある日、大学事務所を訪問しグリークラブのOBであることを告げると、瞬時に部屋の空気がピリッと引き締め、職員の方々の背筋がスクッと伸びたのを感じました。そして懇切丁寧な対応を頂いたことは言うまでもありません。

グリークラブの100年は、我々を包む多くの関係者のみなさんの温かい善意と良識によって支えられてきたものであったことを改めて感じる日々でした。

グリークラブ100年の歴史の中で、OB会はその約1/4の28年の歴史です。組織としてのOB会が成熟していかなければならない時期に来ていると感じます。

グリークラブ創立以来、故片桐哲先生をはじめとする多くのOBと関係者の力がその時々グリークラブを支えてきましたが、個人の資質や力量に頼ることなく組織の力でオールグリークラブを支えて行こうと決意し28年前にOB会が設立されたことを思い起こします。この100周年記念事業をすべてのOB・現役が何らかの形で関わり、次の100年に思いをめぐらす機会となることを祈念します。

次回発行される記念誌は、何年後となるでしょう。次回には、OB会会則第4条(事業)1項に掲げられている故片桐哲先生の夢でもあった「グリー会館の建設または設置のための事業」の実現を記事にする事ができるよう、さらに夢を追い続けて行きたいと思います。

最後に、資料提供など編集委員の度重なる要請に快くご協力頂きました各学年理事をはじめ多くのOB諸兄、そして大学、各関係団体、各位に深く感謝申し上げます。

平成16年(2004年)10月31日
100周年記念誌編集委員会一同